２０１４年度　点検評価改善報告書

［教育研究活動報告］

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

大　　学

保健福祉学部

看　護　学　科

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　伊藤直子	職名　　教授	学位　　学士（社会学）（佛教大学　1996 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学　地域看護	公衆衛生看護　介護保険　介護支援専門員

研　究　課　題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 介護保険における介護支援専門員のマネジメント機能及び介護保険制度について考察する。

担　当　授　業　科　目
公衆衛生看護学概論（前期）必修　16/22 コマ 疫学演習（後期）選択　15/15 健康危機管理論（後期）必修　8/8 広域看護活動論実習（通年） 看護学特論（後期）4/15 在宅看護学（前期）1/15 看護総合演習（通年）15/15 看護総合実習（通年） 地域母子保健（前期）（助産別科）8/15

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】 「公衆衛生看護学概論」では、基礎概念である公衆衛生の理論を前提に、地域で生活する人々の健康を支援していく看護活動として、活動の歴史をふまえ、公衆衛生看護活動の機能・役割について解説する。本科目は、看護師教育課程および保健師教育課程の必修科目であるため、看護の基盤として、さらに保健師を目指す学生の動機づけとなるよう講義およびグループワークを取り入れた演習を組み合わせて進めた。 　2013年度授業評価を受けての改善点として、『学生が関心を持てる授業展開』『課題の提出方法の検討』を行った。「学生が関心を持てる授業展開」においては、学生自身が生活者として意識し、公衆衛生が国の施策の中でどのように実現しているのか、時事題材を交えながら教材化を図った。その中での、公衆衛生看護が社会に期待される役割および課題を多くの事象を交えながら講義を行った。結果、「自分なりの目標を達成した」「この授業は将来役立ちそうだ」「理解しやすい」「実務的なもの」等の項目が2013年度より上がっている。『課題の提出方法の検討』については、課題は昨年度と同様の回数にし、課題テーマを検討したが、毎回の講義における予習復習の達成感の変化は見られなかった。毎時の課題についての検討が必要と考える。
授業科目名【　疫学演習　】 「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。 疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。 2013 年度の授業評価より、科目として一定の成果を納めたと考えられ、さらに、教材事例の検討を進めた。 2014 年度では、教材事例を新人保健師が地区を担当し、業務を実施するにあたって遭遇していく過程を想定した事例として、ブラッシュアップした。数的処理を苦手とする学生に対し、保健師として問題解決していく充

実感を味わえるような工夫をおこなった。結果、「自分なりの目標を達成した」「この授業は将来役立ちそうだ」「応用的なもの」「実務的なもの」等の項目が 2013 年度より上がっている。

授業科目名【　健康危機管理論　】
「健康危機管論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。
教材については、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げ、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントからも健康危機に対する関心の高さが窺える授業となった。2014 年度授業評価では、「この授業は将来役立ちそうだ」のポイントが高い授業となった。

授業科目名【　広域看護活動論実習　】
「広域看護活動論実習」では、行政中心の実習 3 週間と在宅関連実習 3 週間とし、学内で事象を想起し、公衆衛生看護過程および在宅看護過程の意味づけを行う時間を設け展開した。加えて、行政実習直後に国家試験の状況設定問題を解き、アセスメント能力を定着させる時間を設けた。結果、保健師国家試験における状況は、2014 年度は、全員必修の受験最終年度として、１００％合格の結果を得た。

授業科目名【　看護総合演習　】【　看護総合実習　】
「看護総合演習」「看護総合実習」は 4 年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域において、地域包括ケア体制のあり方を踏まえ、福祉施設における看護が社会に求められる課題と展望について、選択した学生の成果を上げるために学習支援を行った。実習施設である「とばた」の全面的協力により、授業評価においても、学生の満足度や達成感が高い実習となっている。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996 年 4 月～1997 年 3 月） 訪問看護委員会委員長 （1997 年 4 月～1998 年 3 月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997 年 4 月～2004 年 3 月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001 年 4 月～2006 年 3 月） 介護保険関連委員会委員長 （2004 年 4 月～2006 年 3 月） 第 46 回日本看護学会－看護管理―学術集会抄録選考委員（2014 年 3 月～2014 年 9 月）	1977 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979 年 4 月～現在に至る
日本地域看護学会		1999 年 4 月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000 年 9 月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本病院管理学会		2002 年 9 月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003 年 8 月～現在に至る
日本看護教育学会		2003 年 2 月～現在に至る

日本健康教育学会 日本看護研究学会 日本看護科学学会 日本臨床救急医学会		2005年6月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2011年8月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） K市における二次予防事業の評価　事業実施後５年間の時間解析からの考察	共著	2014年10月	第73回日本公衆衛生学会総会（宇都宮市）	①K市の基本チェックリストに基づく二次予防事業において要支援･要介護状態の予防に対する長期的な効果について評価することを目的に分析を行った。 結果､集中的なトレーニングを主とした二次予防事業では､筋力増強等の短期的な効果が認められたとしても､そのことが長期的な効果としての要介護状態の予防には影響を及ぼさない可能性が示唆された。 ②共同者名　佐藤優、伊藤直子、鹿毛美香 ③日本公衆衛生雑誌第61巻第10号（ｐ456）
K市における二次予防事業の評価　要介護認定後の生命予後との関連	共著	2014年10月	第73回日本公衆衛生学会総会抄録集	①介護支援地域支援事業における二次予防事業の目的は､要介護状態を予防することであるため､要介護認定率との関連についての報告はある。しかし、要介護認定後の生命予後との関連に関する報告は少ない。本分析は、二次予防事業の参加と要介護認定後の生命予後との関連を検証することを目的とした。 結果､２変量の解析では事業参加による影響は見られず､多変量解析においても二次予防事業参加者と不参加者のハザード比に有意な関連は確認されなかった。 ②共同者名　鹿毛美香、佐藤優、伊藤直子

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③日本公衆衛生雑誌第61巻第10号（p457）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事	2013年7月～現在に至る
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005年4月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007年4月～現在に至る
北九州市認知症初期集中支援チームモデル実施検討会議	委員	2013年11月～2015年3月
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013年4月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推	構成員	2014年2月～現在に至る

進にかかる意見交換会 北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013年4月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学校法人西南女学院　評議員　　2005年4月～現在に至る 西南女学院大学　教務部長　　2013年4月～現在に至る ・教務委員会　委員長 ・教務人間科学小委員会　委員 ・教職課程委員会　委員 ・教員免許状更新講習会　委員 ・大学点検評価改善会議FD部門　部門長 ・教育の質保証プロジェクト会議　代表 西南女学院大学認定看護師教育課程　教員会　　2013年4月～現在に至る

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　工藤 二郎	職名　教授	学位　医学博士　九大　1985 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
医学　内科学　倫理学 看護学	消化器疾患、血液疾患　肝疾患　集団検診　病院倫理 看護教育

研　究　課　題
内科的疾患、ことに消化器疾患、肝臓疾患、血液疾患についての臨床的研究 消化管の集団検診についての研究と助言 主として病院内で起こる倫理的な問題についての考察 看護教育に役立てるための看護のアイデンティティーの研究

担　当　授　業　科　目	
疾病学各論 Ⅰ	２単位必修
医学総論（福祉学科）	４単位必修
疾病学総論	２単位必修
医療と倫理	１単位選択

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【疾病学各論（消化器）】 国家試験に診断画像が出題されるようになったため、画像の説明を増やし試験に出題した。 経験症例や発表症例を入れながら講義をした。 教科書にまだ記載されていない最近の臨床的進歩についても説明した。 出席は一人ずつ名前を呼んで取り、顔を合わせるように心がけた。 期末試験はすべてオリジナル問題を作成した。 期末試験には多肢選択問題だけでなく語彙記入問題や概念記述問題を出題した。
授業科目名【医学総論】 連想が働くように画像や実例を出す工夫をした。 授業内容をダイジェストしたパワーポイントのプリントと医学用語の整理プリントを配布した。 出席は一人ずつ名前を呼んで取り、顔を合わせるように心がけた。 週２コマずつの授業であるため、ついてこれるようできるだけ易しく解説した。
授業科目名【疾病学総論】 学生は医学用語を初めて学習するため、きるだけ平易な説明をした。 教科書の進行度合を説明し、予習を促した。 キーワードを毎回チェックし、書写を促した パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように、画像を多く紹介した。

授業科目名【医療と倫理】
医療と関係する倫理的諸問題を講義した。
毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し配点した。結果をフィードバックした。
縦長い教室（３３１）で、後部に座る学生には私語があった。注意が必要だった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本消化器病学会会員	九州地区評議員　専門医	1976 年 4 月
日本内科学会会員	認定内科医	1978 年 11 月
日本血液学会会員	専門医、指導医	1979 年 4 月
日本消化器内視鏡学会九州支部会員		1981 年 4 月
日本癌学会会員		1987 年 9 月
日本感染症学会会員		1988 年 1 月
日本肝臓学会会員		1988 年 12 月
日本消化器内視鏡学会会員		1989 年 3 月
日本看護科学学会		2008 年６月
日本臨床救急医学会		2011 年６月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） （運営等に関するもの） 保健福祉学部の 2014 年春の国家試験合格率について	単	2014 年６月	西南女学院月報 巻頭言	看護、福祉、栄養学科の国家試験合格率、ことに、保健師と助産師の100%、栄養学科が３年連続の90%超となったことについて 工藤二郎　p2
好（よ）さの発見と志と継続について	単	2014 年５月	キリスト教センター便り	本学新入生への助言を述べた。 工藤二郎　p2
2013 年度の研究所の成果と展望	単	2014 年６月	保健福祉学研究所 2013 報告書	2013 年度の研究成果や講演について 工藤二郎　１頁
助産別科学生の日本バプテスト病院での実習	単	2014 年 12 月	西南女学院月報 巻頭言	本学助産科学生のバプテスト病院での初めての実習について 工藤二郎　p2

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

福岡市胃集検読影委員会	委員	1989 年 4 月より
福岡県胃集検読影委員会	委員	1989 年 4 月より
九州労災病院倫理委員会	会員	2003 年４月より
同　臨床研修委員	委員	2004 年４月より
同　薬剤治験審査委員会	委員	2000 年４月より、
社会福祉法人福音会	評議員	2009 年６月より
浜の町病院遺伝子解析研究倫理審査委員会	委員	2011 年２月より 現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
副学長、保健福祉学部長、保健福祉学研究所長、大学評議会評議員、運営会議委員、入学試験会議委員、大学倫理審査委員長、学院運営協議会委員、学院評議員、学院理事、大学の将来計画プロジェクトのプロジェクトマネジャー、DP÷CP 検討会議長、西南女学院後援会顧問、西南女学院維持会幹事

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　目野　郁子	職名　　教授	学位　　博士（医学）　　（九州大学 1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
病原微生物学　　免疫学	微生物　　感染症　感染対策　　予防接種　　抗体

研　究　課　題
・ 成人の百日咳感染予防を目的に、20 歳以上の成人を対象に接種した DTaP ワクチンの免疫学的有効性について検討する。接種群の抗体価推移を経過年数毎に調査しその推移を観察する縦断的研究を行なう。 ・ 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。

担　当　授　業　科　目
感染と免疫（前期）（看護） 生活と環境（前期）（看護） 生活と環境（前期）（福祉） 生活と環境（前期）（栄養） 生物と生命科学（前期）（英語） 生物と生命科学（前期）（観光文化） 生物と生命科学（後期）（看護） 生物と生命科学（後期）（福祉） 微生物学（後期）（福祉）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【感染と免疫：看護】 ・ 例年、最初の授業でシラバスを配布し、この科目のカリキュラム上の位置づけを明確に示しているがあわせてパワーポイントを用いわかりやすく説明した。 ・ 講義には必ず感染症に関するトピックス、最新の情報を盛り込んだ。 ・ 講義内容や実習が医療現場にどのようにつながっているかを想起できるよう説明した。 ・ 学生の学習理解を把握するため、講義の合間に質問の時間をとった。質問に対する個人の反応にくわえ、挙手による反応で全体の学生の状況を把握するようにした。 ・ 昨年度の学生の要望に応え、配布プリントがある場合は、全員に配布されていることを確認し講義を開始した。
授業科目名【生活と環境：看護・福祉・栄養】 ・ 例年、最初の授業でシラバスを配布し、一般教養科目として科目のカリキュラム上の位置づけを明確に示しているが、あわせてパワーポイントを用いわかりやすく説明した。 ・ 学生に興味関心をもたせるために講義から学んだ環境問題を常に身近な環境問題につなぐよう指導した。 ・ レポート作成は、テーマに対し事前にグループディスカッションを取り入れ、他者の意見や考えをきいた上で、自身の意見をレポートにまとめることができるようにした。 ・ レポート提出については、評価項目を示した。 ・ 教科書を使わず講義で使用するパワーポイントを資料として配布しているため、復習する際に不十分と思われる場合がある。講義の途中で重要な点は、資料に書き込みを促すなど細かな指示をだす必要がある。

授業科目名【生物と生命科学：英語・観光文化】

- 毎年、悩みながら講義を行なっている。人文学部２学科合同の講義であり、受講生も 1～4 年と学年がばらばらである。まずは、いかに興味関心をもたせるかが課題となる。
- 最初の授業でシラバスを配布し、一般教養科目としてのカリキュラム上の位置づけをパワーポイントを用いわかりやすく説明した。
- 今年度は、学生の学習姿勢（講義の反応）を見ながら、質問など行ない、興味関心を示した内容を優先し授業を行なうことにした。そのため学生に説明をしたうえで、シラバスで提示した講義の順番を途中で変更した。
- レポートのテーマも学生が興味関心をもった講義内容にそって出し、提出日まで充分な日にちをとることで学生の負担を軽減した。あわせ評価項目を示した。

授業科目名【生物と生命科学：看護】

- 例年、最初の授業でシラバスを配布し、この講義のカリキュラム上の位置づけを明確に示しているがあわせてパワーポイントを用いわかりやすく説明した。
- この科目は一般教養科目の位置づけではあるが、とくに人間の生物学に特化した内容で講義を行なうことで、学生達が専門基礎科目の形態機能学や疾病学に連携させることができるようにした。
- また、上記科目を連携させることで解決できるような看護師国家試験レベルの問題を作成し、学生にはその解説をレポートとして提出させた。レポートにはコメントをつけ各自に返却、正答率の悪い問題は全体に向け解説をした。
- 学生の学習理解度をはかるため、講義の途中に必ず質問の時間を設けた。質問に対する個人の反応、挙手による反応を観察し、不足している内容については繰り返し説明した。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- 昨年度から、生物学の基礎から始め、難しくても将来役立つと思われる内容（疾病関係）を含め講義をしている。学生による評価から概ね良い反応が得られたため今年度もこの講義スタイルで授業を行なった。
- 最初の授業でシラバスを配布し、一般教養科目としてのカリキュラム上の位置づけをパワーポイントを用い説明した。
- レポートテーマに対し提出前に行なうグループディスカッションでは、学生の情報や意見の共有をはかるとともに教員として積極的に介入、質問・疑問を受ける場を設けた。また、レポートについての評価項目を示した。

授業科目名【微生物学：福祉】

- 養護教諭を目指す学生にとり必須の科目である。最初の授業でシラバスを配布し、この件も含め科目のカリキュラム上の位置づけをパワーポイントを用いわかりやすく説明した。
- 例年、将来に向けた目標が明確なためか、概して学生の講義に対するモチベーションは高い。そのためできるだけ将来の職種につなぐことを意識した講義内容を取り入れた。
- 教職・医療・福祉施設などの現場で問題となる感染症などについては、事例をだし詳しく説明した。
- かなりの量の講義内容のため、講義のスピードが早くなった箇所もある。学生の要望もあり、次年度は講義途中で一旦、時間をとり教科書・ノートに記載もれがないことを確認し講義をすすめたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会		1987 年 4 月～現在に至る
日本感染症学会		1996 年 4 月～現在に至る
日本小児保健協会		2000 年 4 月～現在に至る
日本環境感染学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本母性衛生学会		2013 年 1 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・ 認定看護師教育課程「集中ケア」の学生を対象に、「安全管理」の領域において「感染の機構」と「感染管理」について講義・実習を行なう。		2014年8月 20、22 日
・遠賀・中間地区保育協会の保育士及び保育所職員100名を対象に「感染症からこどもを守る・保育士を守る・地域を守る」というテーマで講演を行なう。		2015年2月10日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・ 入試部長　2010 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 学生募集委員会 委員長　2010 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部研究所研究員　2003 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部、人文学部、短期大学部（生活創造学科）および助産別科の各 1 年生を対象に、学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生に接種勧奨を行なう。　2011 年～現在に到る　2014 年は 6 月～12 月　7 回実施 ・ 保健福祉学部福祉学科 2 年生を対象に実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。2014 年 12 月 3 日 講義 1 回 ・ 看護学科 4 年生を対象に国家試験対策を行なう　2014 年 5 月～6 月　講義 6 回

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　小田 日出子	職名　　教 授	学位　修士（法律学）（九州国際大学 1998 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
基礎看護学，基礎看護技術 初年次教育	下肢温熱刺激法 能動性，主体的学修，クリティカルシンキング

研　　究　　課　　題
安全・安楽な下肢温熱刺激法（足浴）を探求する準実験研究 基礎護技術&看護基礎教育（ラテックスアレルギー）に関する研究 初年次教育－看護学生の主体性育成－に係る研究

担　　当　　授　　業　　科　　目	
前期科目	後期科目
基礎学習ゼミⅠ（1 年前期） 看護技術論（→早期看護実習のみ）（1 年前期） 看護過程論（2 年前期） 診療関連技術論（2 年前期） 基礎看護学実習Ⅱ（2 年前期） 看護総合実習（4 年前期）	基礎学習ゼミⅡ（1 年後期） 生活援助技術論（1 年後期） ヘルスアセスメント（1 年後期） 基礎看護学実習Ⅰ（1 年後期） 看護総合演習（4 年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　看護技術論（→早期看護実習のみ担当）　】

1. 入学後間もない 7 月上旬に“Early exposure”として看護技術論に位置づけられた早期看護実習（2 日間）について，助教 1 名とともに，JCHO 九州病院で実習を行う 1 年生 45 名を担当した.
2. 当該実習の目的は，実際の医療現場に身を置くことで，病院という場の理解，“Shadowing”による看護師業務・役割の理解，さらには病院が患者のためにあることの理解など，看護学生としての自覚や学習意欲の向上を図ることにある．1 年生にとっては初めての体験であり，例年，精神的緊張から体調不良を訴える学生も少なくない．科目責任者（梶原講師）による全体オリエンテーションの後，施設別オリエンテーションの段階では，学生が実習に肯定的なイメージを持てるように，また，実習への楽しみや意欲を引き出せるように，学生の興味・関心に繋げることを意識しながら，できるだけわかりやすく具体的な説明を心がけた．その後，実習グループメンバーによる課題学習を取り入れ，学生の主体的学修にむけた準備を進めるとともに，学習成果に対しては，助教とともに丁寧に助言・指導を行った.

授業評価アンケートの記述より，学生は「学校で学ぶことのできない現場の雰囲気を体感できた」ことで，「看護師になりたいという強い意志」を確認するとともに，「看護を学ぶことへの興味がさらに深まった」，「病院実習に行った際に授業で学んだことがたくさん活かされていて，もっと学びたいと思ったし，看護への関心も深まった」，「看護学生としての心得を学びました」など，「書ききれない」ほど，“Early exposure”としての早期看護実習の意義・目的を受け止めていたようである.

授業科目名【　看護過程論　】

1. 2年次前期，学生101名(再履修者2名含む)を対象に，講義・グループ学習を組み合わせて授業を展開した．
2. 看護学科独自のSNS（kaname.net）を活用し，毎回の学習目標，授業内容及び授業進行を提示して授業の具体的なイメージ化を図るとともに，講義とグループ学習を効果的に組み合わせ，学生の主体的学修を促した．
3. 講義はグループ学習の進捗と連動させ，ワークでの学習到達目標と照らしながら，適時，実施した．
4. 講義には視聴覚教材（パワーポイント，VTR等）を活用した．講義資料をはじめ，使用する教材は全て事前にkaname.netにupし，授業中の資料配布は一切行わず，学生個々の責任で授業準備を整えるようにした．
5. 毎回の講義終了後，学生とのコミュニケーションを図る目的で，メッセージカードの提出を求め，カードへの応答も積極的に行った．メッセージカードは次回講義時に返却し，クラス全体に周知すべき質問・意見・要望は，授業開始時にクラス全体に返した．
6. グループ学習への支援は，基礎看護学領域の教員全員で分担した．一人の教員が学生7～8名のグループを2グループずつ担当し，チューター役割を果たした．学習支援体制の充実を図るため，随時，教員間の情報交換を行い，指導の標準化を図った．
7. 学生個々の関心を引き出せるよう，また，積極的なグループ学習が展開できるように，意図的にグループ間のディスカッションの機会を設け，意見交換を促した．グループ間で相互に刺激し合うことにより，学習へのモチベーションが高まり，最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループ学習ができた．
8. 記録について，グループ学習の振り返りシートに観点別評価を取り入れ，学生が自身の学習活動を客観視するとともに，目標達成状況を具体的に確認できるようにした．学生は，物珍しさも手伝って，初めは熱心に取り組んでいた．しかし，何回か振り返りシート記載，担当教員の助言，助言を受けての見直しを繰り返すなかで，惰性的に取り組む学生の傾向や思考の深化は期待できないことが明らかとなり，次年度に向けては，さらなる工夫と改善が必要と考えている．
9. グループ間での学習成果の共有を目的に，各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレーイングで発表している．各グループ，それぞれ熱心かつ積極的に取り組み，発表内容は創意工夫のある，また，科学的根拠に基づく興味深いものであった．

授業評価アンケートの結果より，学生は「自分なりの目標を達成した」また「この授業は将来役立ちそうだ」と評価していた．上記取り組みに対しても「きびしい」が「ねらいは明確に示されている」「(授業の進め方)学生に任されている部分が多い」としており，学生の主体的学修を促そうとのねらいは，概ね達成できたと考える．一方，「kaname.netの更新をもっと早く」との要望があった．この点は，次年度の改善につなげたい．

筆記試験のクラス平均は74.1点（最高88点,最低53点）で，昨年度より0.6ポイント上昇していた．最終評価は，筆記(50%)，個人学習(20%)，学習成果発表（10%)，記録及び学習貢献度(20%)で行ったが，総合評価のクラス平均は74.8点（最高89点,最低57点)，成績の内訳は，秀 0名，優 28名，良 53名，可 17名で，101名中99名が履修を修了した．再試験該当の3名に対しては，筆記による再試験を実施した．いずれも60点未満で不合格となり，その後，1名は退学（進路変更)，残り2名は再履修となった．

授業科目名【　生活援助技術論　】

1. 1年次後期，学生99名を対象に生活援助技術のうちの「清潔」単元を担当し，講義・演習合せて10コマ（20時間）の授業を企画・実施した．
2. 授業は，講義，教員によるデモンストレーション，技術演習の一連の流れで構成・展開した．
3. 学生の基本看護技術習得のための支援策として，授業中に行う教員デモンストレーションの他，自作看護技術手順書に基づく看護学科 SNS（Kaname.net）への教材提示を積極的に進め，学生にもその活用を奨励し，技術習得のための自主学修の強化を図った．
4. 「清潔」援助技術の演習は，総じて使用物品の数量の多さ，演習の場と時間確保の難しさ，さらには演習前日からの相当大掛かりな準備の必要と当日演習後の片付けの大変さを伴う．加えて，1 つの技術項目を100名全員で演習すること自体が難しいため，ここで取り上げる4つの技術項目を，100人の演習が可能な「寝衣交換」,「洗髪」と50名ずつ2クラスに分けて行わざるを得ない「全身清拭」,「足浴」に分けたうえで，同時期開講の「ヘルスアセスメント」と授業時間の調整を図りながら，2日間連続で2技術項目（全身清拭／足浴）を表裏で交互に演習する方法をとった．そうすることで，上述した課題解決及び関係者の負担軽減を図るとともに，学生全体の技術習得度をより高められるようにした．

5. 生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験及び再試験に，評価者として参加した．規定の「技術評価表」に則り，担当学生の技術到達度を評価した．評価後は全体調整会議に加わり，評価の妥当性・公平性を担保した．合格者は 59(79)/99(101)名，合格率 59.6(78.2)％，不合格者 40 名のうち再試験合格者 26(19)名，再試験不合格者 14(3)名と，( )内に示した前年度数と比較して，全体的に技術到達度は低かった．

授業評価アンケートの結果より，学生は当該科目について，「自分なりの目標を達成した」と感じていた．特に，「この授業は将来役立ちそうだ」の評価は非常に高かった．「ねらいが明確に示されている」ことや，「細かい説明が多い」中で，看護実践に不可欠の「実務的なもの」として，「身近なもの」としての生活援助技術の習得に，満足を得ていたのかもしれない．ただ，限られた時間の中で，数多くの看護技術を習得せねばならない状況は，学生にとっては「きびしい」くもある．「清潔」援助技術の演習を通して，学生は「患者がどうしたら安楽になるかを考えながら演習を行うことができた」,「私が思っている以上に,患者には多くの負担がかかる」,「看護師としての技術はもちろん，患者さんの恥じらいの気持ちを考える」,「援助の大切さ，大変さ」,「簡単そうに見える作業も実際やってみると難しい，練習が大切だと改めて思った」「看護師としての技術をもっともっと患者さんの気持ちになって考えながら磨いていきたいと改めて思った」,「看護する側と患者側の気持ちがわかった」,「「患者さんの個別性についてたくさん考えた」,「(自分を)全身清拭したのはとても良い経験だった」,「患者さんの立場に立って考えることができた」など，教科書だけではわからない「看護の技術のむずかしさ」や身に着けるには練習が必要ということ，また，相手の身になって考えることの大切さなど，多くの気づきと学びを得ていた．

筆記試験については，担当した清潔単元の問題（全体の 4 割分を作成・出題した.最終的に，筆記(60%)，実技(25%)，レポート及び学習貢献度(15%)で総合評価したが，最終評価のクラス平均（SD）は 72（10.91）点（最高 91 点,最低 42 点），成績の内訳は，秀 1 名，優 27 名，良 37 名，可 34 名で，99 名全員が履修を修了した．

授業科目名【　ヘルスアセスメント　】

1. 1 年次後期，学生 101 名(再履修者 2 名含む)を対象に，スクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）から，消化器系（腹部），呼吸･循環系，感覚･神経系，筋・骨格系（運動）のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得及びアセスメント技術の向上を目標に，授業は，講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで構成・展開した．
2. 昨年度より「感覚・神経系のアセスメント技術」を授業に加えたが，今年度はその内容をさらに精選し，「情報の受容と処理」に関わる感覚・神経系，更には出力側である運動器に繋がる基本的なフィジカルアセスメントの考え方を教示したうえで，意識レベル評価，瞳孔の観察など，比較的使用する機会の多いフィジカルイグザムに的を絞り，演習を行った．
3. 上記のとおり，1 単位 30 時間(2 コマ 8 回)に納めるには，かなりボリュームのある内容となっている．加えて，スクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）は実技試験を実施するため，学生にとっては，かなりハードな科目と言える．
4. 独自の看護技術手順書，教員によるデモンストレーション，授業や自主学習時の i-Pad 活用は，これまで同様，学生の看護技術習得を支援する手段として積極的に活用した．
5. 技術演習は基礎看護学領域の助教･助手を中心に，毎回 2～4 名の学習支援者を配し，学生個々の技術習得に向けたきめ細かな指導を心がけた．学生 101 名の技術習得を確実なものとするには限界もあり，学生個別の手当てが十分には行き届かないことへのジレンマもある．しかし，2014 年度生の真摯に学ぶ姿勢と優れた集中力に助けられ，昨年度同様，全般的にスムーズな授業運営となった．
6. 例年に倣い，実技試験によりスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）の技術習熟度を確認した．科目責任者として，当該実技試験の企画・準備・運営に当たった．
7. 実技試験の結果，受験者 101 名中本試合格者 75 名，不合格者 24 名，合格者は全体の 74.3%で，2013 年度 83.8%には及ばなかったものの，7 割以上の学生は，バイタルサイン測定技術を習得できた．本試不合格者 24 名については，後日，同一課題による再試験を実施，24 名中 21 名を合格，3 名(昨年度 2 名)を再び不合格とした．不合格者 3 名については，臨地実習に不可欠のバイタルサイン測定技術を確実なものとするために，再度，科目責任者による個別指導を実施し，臨地実習に備えた．結果として，2015 年 3 月基礎看護学実習Ⅰでは，いずれの学生も患者のバイタルサイン測定を支障なく行うことができた．

授業評価アンケートの結果より，学生は「身近なもの」「実務的なもの」として，「この授業は将来役立ちそうだ」と感じ，「しっかり技術を身につけたい」，「もっと技術を磨いて将来のために頑張りたい」と意欲的であった．「ねらいは明確に示されている」ことで「自分なりの目標を達成した」とも評価していた．学習の進め方は「学生に任されている部分が多い」が，「看護をする上で実際にどのようにすれば患者さんのためになるかを考えながらできた」，「どのように工夫すればよいかなど発見できたことが多かった」，「音の違いなどで体の異常がわかった」など，新たな発見，多くの気づきや学びを得ていたようである．また，実技試験を経験したことで，「患者さんへの対応・声掛けを自分が患者の立場になって考えながら行うことができた」，「バイタルサインの実技において，根拠をもって行動することがいかに大切かを知ることができた」など，「アセスメントの必要性と重要性」が確認でき，「コミュニケーションの大切さ，考えて行動すること，基礎の技術」の必要を再認識していた．「形態機能学との関連性」や「身体の音を聴診器で聴いて確認すると，とてもわかりやすく，他の強化でも内容がはいいていきやすかった」，「看護の技術として基本的なものばかりであったが，初めて本格的な看護についての科目であったので，今後の学習意欲がわいた」など，人体への興味・関心を増すとともに，学習意欲の向上にもつながっていたようである．

筆記試験のクラス平均は69.8点（最高94点，最低44点）で，昨年度を4ポイント下回った．最終評価は，筆記(60%)，実技(25%)，レポート及び学習貢献度(15%)で行ったが，総合評価のクラス平均は69.9点（最高94点,最低44点），成績の内訳は，秀1名，優4名，良61名，可24名，不可11名で，再試験該当の11名に対しては，筆記による再試験を実施した．再試験合格者9名，不合格者2名で，不合格の2名は，次年度再履修となり，再主的に最終的に101名中99名が履修を修了した．

授業科目名【　基礎学習ゼミⅠ　】

1. 1年次前期，学生100名を対象に，看護学科新入学者への初年次教育として，①自己理解・他者理解の促進，②アカデミックスキル習得，③ 学習習慣・生活スタイルの確立，④課題解決力の強化，⑤主体的学習者としての基礎的態度の育成を「学生が達成すべき目標」に掲げ，1単位（15時間）の授業を行った．
2. 学生100名を教員10名がそれぞれ10名ずつ担当するゼミナール形式をとった．
3. 授業は講義とグループ学習を，適時，取り入れながら，アクティブラーニング及びポートフォリオの作成を組み合わせた教育プログラムとして企画・実施した．なお，2014年度初年次教育として，基礎学習ゼミⅠのプログラム開発には，基礎学習ゼミ担当教員10名のうち，基礎学習ゼミⅠを主で担当する教員3名とともに，ポートフォリオ文字記載量の変化に見る主体性の向上を焦点に，研究的に取り組んだ．
4. 目標①に対して，授業1回目にリズム室でのコミュニケーション・ゲームを取り入れ，クラスメートや教員との関係づくりを促進する機会とした．
5. 目標③，⑤に対して，授業2回目に4年生との交流会を設け，先輩の語りとして，大学での学び方，講義の聴き方，ノートのとり方，自宅生と一人暮らしのそれぞれの日々の生活，勉強とアルバイトの両立など，大学での学び方や学生生活の在り方について，具体的に紹介した．4年生の実際の在り様を紹介することで，新入学者に大学での学習・生活両面への理解を深めてもらう機会とした．
6. 目標②，④，⑤に対して，外部講師による授業（授業3回目；図書館の利用法と文献検索法，授業4回目；情報リテラシー，情報倫理）を実施した後，授業 4～7回には，「女子大生と性」をテーマに課題追求型レポートの作成を課し，講義（レポートの書き方，助産別科生による女性の身体に関する性教育）及びグループ学習の組み合わせによるアクティブラーニングを展開した．授業 8 回目は授業全体の振り返り時間として，学生間のグループディスカッションにより，学生が自らの目標達成状況を確認するとともに，今後の課題を明らかにする機会とした．

授業評価アンケートの結果より，学生は当該科目を，「自分なりの目標を達成した」，「この授業は将来役立ちそうだ」と評価していた．「ねらいが明確に示されている」ことや，「細かい説明が多い」中で，大学で学ぶための「基礎的なもの」，「身近なもの」と捉えていた．しかし，アカデミックスキルの習得に向けて課題とした複数回のレポート作成や期限内での提出は，「きびしい」とも受け止められていた．また，自由記載には60件近くの記述が残されており，「最初の交流会みたいなのはいらないと思ったけど，あれがないとグループの話し合いもうまくいかなかったと思うので，良いと感じた」，「わからない本を探せるようになった」，「レポートの書き方や講義の聴き方．大学で必要なことを学んだ」，「話の聴き方一つで．頭に入ってくる内容が変わることがわかった」，「大学で学ぶ上で大切なことを学び，いろいろなことに興味が持てた」，「ディスカッションをし

て客観的に考えを述べることができるようになった」，「第8回に行ったレポートについてのディスカッションが自分の身になったとすごく感じた．だから，ディスカッションの回数を増やしてほしい」等，多く記載されていた．

最終的に，授業参加度(40%)，ポートフォリオ(30%)，レポート及び学習貢献度(30%)で総合評価したが，最終評価のクラス平均87.2点（最高98点,最低75点)，成績の内訳は，秀36名，優 62名，良 2名，可 0名で，100名全員が履修を修了した．

授業科目名【　基礎学習ゼミⅡ　】

1. 1年次後期，学生101名(再履修者1名含む)を対象に，前期Ⅰに続き，初年次教育としての授業を展開した．
2. 基礎学習ゼミⅡは，基礎学習ゼミⅠ の学びを受けて、更なる①アカデミックスキルの習熟，②主体的学習者としての態度の向上，③課題解決型学習(ディベート・マッチ)の実施，④フレームワーク（PDCAサイクル）に基づく学習活動の展開を「学生が達成すべき目標」に掲げ，1単位（15時間）の授業を行った． なお，2014 年度初年次教育としての「基礎学習ゼミⅡ」のプログラム開発には，基礎学習ゼミ担当教員 10名のうち，「基礎学習ゼミⅡ」主で担当する教員3名とともに，クリティカルシンキング志向性を焦点に，研究的に取り組んだ．
3. 前期同様，教員10名が10～11名の学生を担当，各班で学生は5名ずつ肯定派と否定派に分かれ，「がん告知の是非」か「出生前診断の是非」を問う 2 つのテーマのいずれかを選択して，それぞれ立論・質疑・反論・総括の準備を進め，最終日にディベート・マッチを実施した．
4. 授業はディベートに関する講義とディベート準備のためのグループ学習を組み合わせながら，前期同様，アクティブラーニング及びポートフォリオによる振り返りを促すプログラムとして企画・実施した．
5. 目標①，②，③に対して，討議法としてのディベートを取り入れた．これにより，学生個々の論理的思考・批判的思考・コミュニケーション能力（文章表現・口頭発表）を強化しようと考えた．同じく，ディベート・マッチに向けてのグループ学習を進める過程で，論理的思考・批判的思考の育成，他者との協力，連携・協働して課題解決を図ることの必要性と重要性について，学生が体験的に学ぶ機会にしようと考えた．
6. 目標④に対して，フレームワークとしてのPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを循環させることにより，効果的な仕事の進め方に気づかせたいと考えた．
7. 目標②，③に対して，授業最終回，担当教員参加の下で，2 組 5 グループに分かれてのディベート・マッチを実施した．

授業評価アンケートの結果より，基礎学習ゼミⅠと比較し，「この授業は将来役立ちそうだ」とは評価していなかった．理由としては，「理論的なもの」，「身近でないもの」と捉えたからではないかと考える．しかし，その取り組みは「一つのことをとても調べた」，（予習・復習）も「よくしていた」．「知らないことをたくさん・詳しく知れた」，「自分の考えを相手に伝えることで相手の感じ方を知ることができ，相手の立場に立って物事を考えられるようになったと思い，積極性も身についたと思った」，「ディベートを通し，根拠のある資料を用いたり，文を構成することで，相手を説得できることがわかった」，「ただ感情的に話すだけでは相手に伝わらないということ．相手の心を動かすには，それなりの知識・データ・トーク力が必要」と気づき，「チームワークの大切さ，調べ学習の正確さ」，「データを使って根拠を述べる大切さ」「協力」が学べ，「ディベート頑張りました」とする学生がいる一方，「グループ内でもやる気や積極性に温度差があってとてもやりにくかった」と「グループワークの難しさを指摘する声や,「ただでさえ課題が多いのにディベートの準備に時間をとられて大変だった」，「テーマが難しすぎ」，「学生の意見も聞いてほしい」等の意見もあり，次年度に課題を残した．

最終的には，グループ学習・授業参加度(60%)，ポートフォリオ(30%)，学習貢献度(10%)をもって総合評価とした．最終評価のクラス平均81.1点（最高92点,最低68点)，成績の内訳は，秀4名，優 66名，良29名，可2名で，101名全員が履修を修了した．

授業科目名【　看護総合演習　】

1. 看護総合演習は「飯野ゼミ」と合同とし，初回オリエンテーション及び最終成果発表の時間を共有した．
2. 大学４年間の集大成と位置づける看護総合実習として，本ゼミでは，「看護管理」について，地域医療機能推進機構（JCHO）九州病院における看護ケア提供体制や看護マネジメントの実際として，看護部の諸活動を通して体験的に学ぶ機会を提供している．具体的内容は，医療安全（統括リスクマネージャーの役割・機能），感染管理，皮膚・排泄ケア，緩和ケア認定看護師の諸活動，総合案内での外来看護管理者の役割・機能及び地域医療支援部における退院調整看護師の活動などである．看護総合演習では，当該実習に向けた準備の一切，即ち，①事前学習，②実習内容の検討，③目的・目標の検討・決定，④実習記録（様式）の検討，⑤実習評価表の作成など，毎週１回 90～120 分のゼミナールの中で検討していった．
3. ゼミは，4 年生に期待する能力として，課題解決力，計画力，チームワーク，リーダーシップ，コミュニケーション力，実行力，主張力，働きかけ力などの向上を目的に，学生の主体的学習活動を基本とした．
4. 学生には，看護総合実習の計画立案・実施・評価に至る一連の過程を自分たちの企画として組み立てることを課題として伝え，全て自分達で整えることを前提に学習を進めるよう指示した．学生は，①事前の調べ学習から，上記②～⑤，さらに看護部及び実習指導者との事前打ち合わせに至るまで，主体的に取り組み，教員はあくまでファシリテーターとしての役割に徹した．グループ学習を繰り返しながら，学生は凡そ半年かけて「自分達がしたい実習」を組み立て，実践した．
5. 看護総合実習終了後の 11 月上旬，飯野ゼミ（産業医科大学病院グループ）との合同報告会を開催した．学生間の学習の共有化を図るとともに，社会人基礎力（情報発信力，傾聴力，プレゼン力等）強化の機会とした．発表後のグループ間の意見交換は積極的で，相互によい刺激を得ていた．

授業評価アンケートの結果より，総体的な総合看護演習の評価は，（学習の勧め方）は「学生に任されている部分が多い」，「予習・復習をよくした」，「応用的なもの」，「この授業は将来役立ちそうだ」が高かった．記述では，「他者の意見を聴き，客観的な視点を持つことの大切さ」，「第三者が読んでわかるような文章として，自身が説明できるまで理解できるかの確認をすることの重要性」，「実習の目標など，学生が主体的に取り組め，自分なりの目標を達成することができた」と述べられていた．担当学生 6 名の実習評価は，平均 82 点（最高 88 点，最低 76 点），その内訳は優４名，良２名で，実習目標は概ね達成できたと考える．また，教員が意図した看護系大学卒業者に期待される基礎的能力（自律性，積極性，状況判断力，行動力，協調性など）の育成・向上についても，演習や実習の折々に，学生の行動の変化に気づく機会が多くあり，当初のねらいに近づくことはできたように思う．

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		1998 年 7 月～現在に至る
日本看護科学学会		1998 年 12 月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999 年 4 月～現在に至る
日本看護診断学会		1999 年 6 月～現在に至る
日本看護技術学会		2007 年 12 月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009 年 6 月～現在に至る
日本がん看護学会		2009 年 12 月～現在に至る
日本看護管理学会		2012 年 10 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特記事項なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 1.看護師の対応について手術を経験した変形性股関節症患者が認識するプロセス	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要	①変形性股関節症患者が入院中の看護師の対応に関して，どのような認識を抱いているかについて明らかにすることを目的に，手術経験を持つ変形性股関節症の女性患者22名を対象に，グループによる半構成的面接を実施し，面接結果について，M-GTAを用いて質的帰納的に研究を行った. ②共同発表者　梶原江美，岩本テルヨ，小野聡子，小田日出子末光順子、飯野英親、田中愛子 ③西南女学院大学紀要vol19, 2015（p15～25）
2.国内外におけるラテックスアレルギー予防に関する研究の動向	共著	2014年7月	第 44 回日本看護学会論文集 看護総合（日本看護協会）	①医療従事者や学生へのラテックスアレルギー予防に関する国内外の研究の現状について，共通のキーワードをもとに文献データベース（Pub Med，医学中央雑誌）を用いて検索し，過去10年間のLA予防に関する研究論文を抽出し，その研究方法と内容を整理して研究の動向を確認したので，その結果を報告した. ②共同発表者名　梶原江美，飯野英親，小野聡子，本田輝子，末光順子，岩本テルヨ，小田日出子，浅野嘉延 ③第44回日本看護学会論文集（看護総合）　P.286-289
3.医療従事者の国家試験過去問題と文献に関するラテックスアレルギーの出現内容の分析	共著	2014年7月	第 44 回日本看護学会論文集 看護総合（日本看護協会）	①医療職の資格試験におけるLAの位置づけを明らかにすることを目的として，助産師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士の国家試験過去問題におけるラテックスアレルギーに関する出題の頻度と内容を整理し，看護師，医師，歯科医師のそれと併せて分析を行い，その結果を報告した．LAに関する文献数は比較

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				的多いが，医療従事者の国家試験には反映されていないことが推察された. ②共同発表者名　本田輝子，梶原江美，飯野英親，小野聡子，末光順子，岩本テルヨ，小田日出子，浅野嘉延 ③第44回(平成25年度)日本看護学会論文集（看護総合）P.291-293
(その他) 1.Caring Ability Inventory 日本語版の完成と信頼性・妥当性の検証	共著	2014年7月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2014 報告書	①看護の中心概念であるケアリング能力の獲得について，Nkongho o.Nが開発したCaring Ability inventory(CAI)のわが国での教育的活用の可能性を探るべく，日本語版尺度の作成とその使用について検討し，予備調査を実施後，日本語版尺度の表面妥当性を検討し，質問項目を見直した結果について，日本語版尺度としての信頼性・妥当性を検討・報告した. ②共同研究者名　小野聡子，飯野英親，梶原江美，末光順子，本田輝子，小田日出子，岩本テルヨ ③西南女学院大学保健福祉学部付属研究所 2014報告書 P.8-9
2.基礎看護学実習における実習環境の実態	共著	2014年7月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2014 報告書	①基礎看護学実習を受け入れている病院の実習環境の実態を明らかにする目的で，福岡・山口県内の200床以上を有する202病院の看護部教育担当責任者を対象に，自作の無記名自記式質問紙調査を実施し，得られた結果を記述統計的に分析し，実習に関わる物質的環境，実習指導者の実態，教員配置と病院の希望配置，病院規模別の実習謝金等について，得られた結果を報告した. ②共同研究者名　本田輝子，梶原江美，飯野英親，小田日出

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				子，小野聡子，末光順子，岩本テルヨ ③西南女学院大学保健福祉学部付属研究所 2014報告書 P. 10-11
（翻訳） 特記事項なし				
（学会発表） 1. 看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を起こした看護学生の経過と課題	共	2014.8	日本看護学会（ヘルスプロモーション）学術集会 （於熊本県立劇場）	①ラテックス製手袋にてアレルギー症状を起こした事例の経過報告より，臨地実習での教員と臨地指導者間の情報共有の必要と重要性が示唆された. ②共同発表者名　末光順子，梶原江美，飯野英親，岩本テルヨ，小田日出子，本田輝子，浅野嘉延 ③第45回日本看護学会抄録集ヘルスアセスメント，p105
				著書　0（内訳　単　0，共　0） 学術論文　3　（内訳　単　0，共　3） 翻訳　0　（内訳　単　0，共　0） 学会発表　1　（内訳　単　0，共　1） その他　2(内訳　単　0，共　2)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

1. 看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○本田輝子 小野聡子 飯野英親 梶原江美 小田日出子 岩本テルヨ 末光順子	129,900 円
2. Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○小野聡子 飯野英親 梶原江美 末光順子 本田輝子 小田日出子 岩本テルヨ	197,000 円
3. SNS を統合した e ラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○大塚和良 東玲子 伊藤直子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 村山由起子 清村紀子 梶原江美 高橋甲枝 相野さとこ 小野聡子 末光順子 本田輝子	1,605,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特記事項なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・日本看護協会/福岡県看護協会 ・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル	会員 「ファーストレベル」講師	2005 年 4 月～現在に至る 2014 年 6 月 14 日「看護管理概説－討議法」オリエンテーション(1 時間) 2014 年 6 月 28 日「看護管理概説－討議法」講義(3 時間)

		2014年7月26日「看護専門職論－看護関連法規」講義(6時間) 2014年8月9日「看護サービス提供論－論理的思考による問題解決」講義(6時間)
・西南女学院大学認定看護師教育課程	「集中ケア」講師	2014年6月7日「看護管理－医療安全管理」講義(3時間)
・西南女学院大学認定看護師教育課程	「集中ケア」入試委員会委員	2014年4月1日～2015年3月31日(構成員：保健福祉学部看護学科教員2名のうちの1人として)
・北九州市国民健康保険運営協議会	委員（委嘱期間：2013年9月1日～2017年8月31日）	2011年9月1日～現在に至る
・北九州市国民健康保険運営協議会	副会長（2012年2月～現在に至る）	2012年2月15日～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

【大学委員会】

- 2014.4.1～2015.3.31　看護学科入試委員

　大学委員会のうち「入試委員会」に属し，看護学科入試委員として，2015 年度入学試験の準備・実施・入試判定に係る諸業務，及びオープンキャンパスでの入試相談，その他，入学試験問題作成等に当たった．2015年度看護学科入学生は100名、90名定員を充足した．

- 2014.4.1～2015.3.31　FD研修会企画委員（責任者）

　2012年度に引き続き，大学点検評価改善会議の下部組織であるFD部門会議に属し，FD研修会企画委員として，その中心的役割を果たした．FD研修会の企画に当たっては，2013年度の実績を基に，今年度，年3回のFD研修会を企画，大学・大学短期大学部の全教員を対象に，参加型学習を軸に，研修会を運営した．1年間を通して，2013年度より賛同校となった九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク（Q-Links）；田中岳先生（九大）と宮浦崇先生（九工大）の多大なるご支援・ご協力のもと，2014年度FD研修会のメインテーマを“評価を変えれば教室は変わる！！”として，第1回は“*Trial！*ルーブリック評価”(2014.8.27)，第2回は“実践！ルーブリック評価”(2014.12.18)，そして第3回は“2015年度担当授業科目のSyllabusを作ろう！”(2015.2.24) を目標に，FD研修会を開催した．第1回は「講義＋ワールドカフェ」，第2回と第3回は「ワークショップ形式」とし，参加者が自由かつ主体的に活動できるよう配慮した．いずれの回も盛会で，第3回については自由参加としたにもかかわらず70名を超える教員の参加があり，活気あるFD研修会となった．事後のアンケート結果からも，参加者の満足度の高さや参加意識の変化が窺え，2008年スタートの本学FD活動を2012年度より担当してきた企画委員5名の一人として，ボトムアップに作り上げてきたFD研修会としての一定の成果を得ることができたと考えている．

【学科役割】

- 大学入試委員会，FD研修会企画委員，認定教育(ファーストレベル／集中ケア)関連役割，また，2014年度より看護学科初年次教育としての新入学生対象科目：「基礎学習ゼミⅠ」(前期)と「基礎学習ゼミⅡ」(後期)の科目責任者，さらに2年生アドバイザー担当責任者を担うこととなり，昨年度からの学科役割：看護師国家試験対策委員は免除された．
- 北九州ソレイユホール（2000人収容）で，西南中・高生，本学学生，教職員及び一般市民を対象に開催された「看護・福祉20周年記念講演会 乙武洋匡教育講演会」(201.7.5) の受付・会場責任者として，看護学科スタッフ（助教）とともに，特に高齢者や車椅子利用等，身体に障害のある方の安全面には細心の注意を払いながら，事前準備・当日の観客誘導・案内，事後始末等の務めを果たした．

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　浅野嘉延	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学 1989 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、高齢者福祉学	看護学生教育、教育指導マニュアル、福祉用具開発

研　究　課　題
看護学生に対する疾病学と疫学保健統計の有効な教育法の確立を研究課題としている。これまで、複数の病院から収集した患者サンプル（検査データなど）を利用して実践的な教材を作成し、４冊のテキストを出版した。今年度は、全国の看護教育機関における教育レベルの向上を図るため、疾病学の教育指導マニュアルの作成に向けた研究を開始した（平成 27 年度科学研究費より助成）。 また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」を舞台に、現場のニーズに基づく福祉用具の開発を西日本工業大学と連携して行っている。このなかで、車椅子用フットプレートカバーは商品化に向けた準備が進行中である。

担　当　授　業　科　目
疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科） 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科） 看護のための臨床検査（前期）（看護学科） 保健統計学（後期）（看護学科） 疫学（後期）（看護学科） 人間生活論（前期）（生活創造学科） 総合人間学概論（前期）（保健福祉学部、人文学部）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】 自著の教科書「看護のための臨床病態学」を使用して系統的な解説を行うだけでなく、臨床経験をもとに症例を提示したり、レントゲン写真や心電図の実物を見せたり、DVD 教材を使用するなど、疾患を多方面から総合的に理解できるように工夫した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。
授業科目名【看護のための臨床検査】 疾病学各論Ⅰ＆Ⅱと連携させて進行し、疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。また、心電図検査と検尿検査の演習を行い、全員が実際に検査を行った。後半の授業では、グループ毎にひとりの患者の検査データを渡して、検査データから患者の病態を推測するグループワークを行った。
授業科目名【保健統計学】【疫学】 学生にとって馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂版）」を使用して基礎から分かりやすく解説した。DVD 教材なども使用した。計算問題などを繰り返し解かせた。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。

授業科目名【人間生活論】 病院での臨床経験をもとに、喫煙の健康被害、性感染症や妊娠中絶の現況などを解説し、命の大切さや女性として自分の体を守る重要性を説いた。
授業科目名【総合人間学概論】 感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成を共通のテーマとし、オムニバス形式の授業をコーディネートした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員（2006年9月～現在） 九州支部運営委員（2006年4月～現在）	1983年6月～現在
日本血液学科	代議員（1998年4月～現在） 九州支部評議員（2011年4月～現在）	1985年6月～現在
日本癌学会		1986年6月～現在
日本看護科学学会		2008年12月～現在
日本看護学教育学会		2008年12月～現在
アメリカ内科学会		1998年12月～現在

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. 看護のための臨床検査	単著	2015年	南山堂、東京	看護学生に必要な臨床検査の知識を実際の患者サンプルなどを使用して解説（全198頁）
（報告） 1. 高齢者施設の現場ニーズに基づいた福祉用具の共同開発	共著	2015年	西南女学院大学紀要 19：1-6，2015	①福祉用具の共同開発の途中経過を報告 ②浅野嘉延、林田正雄、鮫島浩昭、中島浩二
2. お菓子の家 ～ジンジャーブレッドハウスの歴史と生活創造学科生による創作～	共著	2015年	西南女学院大学紀要 19：141-147，2015	①お菓子の家の歴史と学生の創作を報告 ②木村久江、加来卯子、谷崎太、浅野嘉延
3. 高齢者福祉の現場ニーズに基づいた福祉用具の共同開発	共著	2015年	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2014 報告書	①福祉用具の共同開発の途中経過を報告 ②浅野嘉延、中島浩二

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（その他の出版物） 1. 夢のような一年間 ～研修医時代の思い出～	単著	2014年	西南の杜 第 8 号: 7-15, 2014	学生、教職員に向けたエッセイ
2. 「マロリーホール」へようこそ	単著	2014年	西南女学院キリスト教センター便り 81: 6, 2014	マロリーホールの紹介
3. 感恩奉仕の精神が息づいた講演会	単著	2014年	西南女学院キリスト教センター便り 83:5, 2014	乙武洋匡さん講演会の紹介
（講演会など） 1. 高齢者施設の現場ニーズに基づいた福祉用具の共同開発	発表者	2014年	第 13 回高知ふくし機器展（2014.6. 高知）	①福祉用具開発の途中経過を発表 ②浅野嘉延、林田正雄、鮫島浩昭、中島浩二

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1. 高齢者施設の現場ニーズに基づいた福祉用具の共同開発	平成26年度 西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○浅野嘉延、中島浩二	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
社会福祉法人　福音会	産業医	2007 年 4 月～現在
北九州いのちの電話	評議員	2009 年 2 月～現在
大原病院	評議員	2009 年 4 月～現在
神理幼稚園	評議員	2010 年 4 月～現在
門司メディカルセンター	地域医療支援病院運営委員	2012 年 7 月～現在
文部科学省大学間連携教育共同推進事業 地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成プロジェクト	外部評価委員	2013 年 7 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
宗教委員会　委員　2008 年 10 月～現在 情報システム管理運用委員会　委員　2010 年 4 月～現在 西南女学院　評議員　2011 年 4 月～現在 西南の杜　編集委員　2011 年 4 月～現在 キリスト教センター運営委員　2012 年 4 月～現在 外部資金導入プロジェクトメンバー　2013 年 8 月～現在 保健福祉学部創立 20 周年記念講演会準備担当　2014 年 2 月～2014 年 7 月 動物実験委員会　委員　2014 年 4 月～現在 看護学科カリキュラム評価委員　2015 年 2 月～現在 西南女学院大学　チャペルアワーで奨励（2014 年 10 月） 西南女学院中学校・高等学校　全体礼拝で奨励（2014 年 10 月）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　飯野英親	職名　教授	学位　修士（経済学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
遺伝看護，小児看護，看護管理	先天異常，染色体異常，奇形症候群，心理過程，トータルケア，イメージ分析，臨床遺伝，ラテックスアレルギー，キャリア発達，キャリアアンカー

研　究　課　題
１．低頻度染色体異常児を養育する両親の心理過程 発生が低頻度な染色体異常児を養育する両親（主に母親）の心理過程を前方視的に分析し，疾患の特徴や病期による心理反応の特徴を分析する． ２．看護学生におけるラテックスによるアレルギー反応の予防策の検討 ３．プラダーウィリー症候群をもつ人に対するトランジション・ケアプログラムの開発

担　当　授　業　科　目
診療関連技術論（前期）（看護学科） 看護技術論（前期）（看護学科） 生活援助技術論（後期）（看護学科） ヘルスアセスメント（後期）（看護学科） 看護過程論（前期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科） 看護基礎マネジメント論（後期）（看護学科） 看護管理論（後期）（看護学科） 看護総合演習（通年）（看護学科） 看護総合実習（前期）（看護学科） 看護学特論２コマ（後期）（看護学科） 疾病治療各論５コマ（前期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【看護基礎マネジメント論】 本講義では，知識体系として初学者に理解しやすい看護管理の教科書と，私自身が看護系雑誌に執筆した原稿を主な教材として用いた．２年次に講義するため，今後の臨地実習や自身の就職活動で役立つ，病院組織の運用・管理の概要を解説した．例えば，病院法人格の違いや所轄・管轄の違い，看護サービスの診療報酬上の経済的対価の内容，看護体制と看護師配置，組織図で読み解く組織の権限と機能などである．初学者が病院管理の概念を理解するのに，いくつかの実例と図表を提示したことで効果があったと判断した．
授業科目名【看護総合演習・実習】 看護総合演習・実習では，急性期総合病院の看護部におけるトップマネジメントの意識・考え方を学ぶことに主眼をおいて教育した．そのため，数回とくに，地域診療連携，患者相談事業，医療安全，感染制御など，チーム医療現場への臨地実習をとおして病院全体，病院と地域施設（社会資源）との関連について考え，患者の近い将来をアセスメントできるように，カンファレンスなどで知識やアセスメントの視点について学生に確認した．本実習を通して，実習先の特定機能病院にゼミ生の２名の就職が決定した．

授業科目名【診療関連技術論】 一次救命処置(Basic Life Support: BLS)技術の習得を目指し，病院から非常勤講師の看護師 5 名の協力を得て行った．その演習では，バイスタンダーとして AED の使用と胸骨圧迫が正しく使えるように練習できている．2012 年からは，附属研究所の研究助成を受けたラテックス・アレルギー調査の研究成果を取り入れて，ラテックスフリー手袋をハイリスクな学生に積極的に学生に使用した．現在の医療現場で利用される「医療安全」を意識したディスポ製品を使い，静脈注射・静脈採血などの注射関連看護技術や無菌操作技術が習得できるように行った．
授業科目名【看護学特論】 遺伝看護分野でも，とくに，小児遺伝性疾患児と家族への看護について講義した．教材はオリジナルのレジュメを準備し，臨床の内容は講義担当者の遺伝診療部・小児遺伝外来での臨床経験をもとに解説した．この科目は選択科目，オムニバス形式で運用されたが，授業後のコメントでは「もっと多くの人に聞いて欲しい」，「必須科目にしたらキャリアアップの選択幅が広がる科目」「新しい魅力を感じた」といった，近い将来のキャリア開発につながる科目として意識されていた．

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本遺伝看護学会 他　11 の国内学術学会に所属 2 つの海外の学術学会に所属	学術雑誌　査読委員（2014 年度） 学術集会応募演題査読員（2014 年度） 学会誌編集委員（2014.10～現在）	平成 12 年 6 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（査読のある学術論文） 1）国内外におけるラテックスアレルギー予防に関する文献的検討 **【査読有】**	共著	平成 26 年 3 月	第 44 回日本看護学会論文集～看護総合～ P. 286～289	①ラテックスアレルギーの予防に関する論文に関して、 文献データベース（pub med と医学中央雑誌）を用いて過去 10 年間分を文献検討した。Pub Med では、会議録を除いて、「latex allergy」、「prevention」、「“health care workers” or “nurse” or “student”」をキーワードとして抽出された 79 件を分析対象とした。79 件の内、調査研究論文 37 件、総説 26 件、短報やガイドラインを含む LA の解説をした文献が 16 件で、年代別では、2004 年が 15 文献と最多で、2007 年以降は 5 件前後で推移していた.また、国別にみると、調査研究を国別にみると、米国

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				-9 件、英国とドイツが各 6 件、イタリア 5 件の順だった。調査方法としては、質問紙調査以外に SPT や Age 検査を併せて実施していた報告があった。また、国内論文は、医中誌の原著論文のカテゴリーで、「ラテックスアレルギー」、「予防」、「医療従事者 or 看護師 or 学生」をキーワードに 15 件の論文が抽出された。予防に関連した報告は少なく、医療従事者の LA に対する認識や症例報告が多く報告されていた.海外では各国で症例報告や実態調査等が報告され、対策が講じられているが、日本における LA 予防の対策は課題が残されていると考える。 ②共著者名：梶原江美，飯野英親，小野聡子，本田輝子，末光順子，岩本テルヨ，小田日出子，浅野嘉延 ③本人担当部分：共同研究者として、分析と考察部分を検討した
2）医療従事者の国家試験過去問題におけるラテックスアレルギーの出現頻度と文献検討 **【査読有】**	共著	平成 26 年 3 月	第 44 回日本看護学会論文集～看護総合～ P. 286～289	看護師・医師・歯科医師以外でラテックス手袋を使用する機会がある、助産師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士の国家試験問題を分析し、LA の国内文献数と併せて検討した。結果、ラテックス手袋を使用する機会のある助産師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士の過去問題における出題はなく、医療職に必要な知識として国家試験問題に反映されにくいことが分かった。また、LA に関する文献数は過去 20 年間で 988 件と多いものの、そのほとんどは患者に関係するものと思われ、医療職との組合わせで検出される文献は 1～54 件と少なかった。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②共著者：本田輝子、梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ、小田日出子、浅野嘉延 ③本人担当部分：共同研究者として、分析と考察部分を検討した
3）看護師の対応について変形性股関節症患者の認識のプロセス **【査読有】**	共著	平成 27 年 2 月	西南女学院大学紀要 Vol.19，P.15～25	①手術経験をもつ変形性股関節症患者 22 名を対象に入院中に受けた看護師の対応に対する認識について、半構成的面接を行い、修正版グランデッドセオリーを用いて質的分析を行った。結果、患者は、入院を契機に【ケアされる存在になる】と認識し、看護師の対応によって、【あなたでよかった】【組織を優先して私に関わっている】【ケアをする人とは思えない】という３つの主要な認識に至ることが示唆され、特に【組織を優先して私に関わっている】【ケアをする人とは思えない】という認識は、「自分でなんとかするしかない」という安全が確保されない状況での患者の行動につながる危険性があることが明らかとなった。 ②共著者：梶原江美、岩本テルヨ、小野聡子、小田日出子、末光順子、飯野英親、田中愛子 ③本人担当部分：結果と考察の妥当性の検討。
（その他の報告） 1）ラテックスによるアナフィラキシー反応を予防するためのスクリーニング方法の確立 －2013 年度の結果－	共著	平成 26 年 7 月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2013 年度報告書，p.2－3	①看護学科１年生の看護技術演習を通して，学生のラテックスアレルギーを予防するために質問紙と手袋使用テストを利用して，アレルギーハイリスク者のスクリーニングを実施した結果を報告した．その結果，パッチテストよりも手袋使用テストの方が学内で行うスク

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				リーニング手法として適していることを報告した. ②飯野英親，梶原江美，末光順子，本田輝子，小野聡子，岩本テルヨ，小田日出子，浅野嘉延 ③原稿執筆
2) Caring Ability Inventory 日本語版の作成と表面妥当性の検証	共著	平成 26 年 7 月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2013 年度報告書，p.4－5	①Caring Ability Inventory（CAI）の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した．CAI は、1990 年に米国の看護師を対象に Nkongho によって開発され、37 項目から成る．信頼性・妥当性は得られており、「知ること」、「勇気」、「忍耐」というケアリングの要素を測定できるものである．有効回答は 384 部で、回転前の 3 因子の因子寄与率は 31.5%だった．尺度全体のα係数は、0.801、各下位尺度は、「知ること」0.789、「勇気」0.716、「忍耐」0.182 で、「知ること」、「忍耐」については、原版の 3 下位尺度が混在していた．本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った. ②小野聡子，飯野英親，梶原江美，末光順子，本田輝子，小田日出子，岩本テルヨ ③計画，結果と考察の検討
3) 遺伝医療に携わる看護師が抱く遺伝医療用語に対するイメージ分析	共著	平成 26 年 7 月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2013 年度報告書，p.12－13	①遺伝医療に携わる看護師が抱く遺伝医療用語に対するイメージ分析を行った．対象者は女性 53 名(100%)、職種は看護師 34 名(64.2%)、助産師 19 名(35.8%)であった．また、遺伝診療部門での経験がある者が 22 名(41.5%)、その他の部門で遺伝診療に携わった者が 31 名(58.5%)であった．有意差を認めた 18 形容詞対と非医療者の調査で抽出された用語のイメージ構成要素間で比較した結

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				果、第１因子【運命】を構成する形容詞対５項目すべてが該当し、第２因子【可逆性】では４項目のうち２項目が該当した. 医療者にとって『染色体』という用語は、【運命的】【可逆性】ではなく、「介入できる」というイメージであることが明らかとなった. ②松下智美，飯野英親，大塚和良，樋口由貴子，原山裕子，時吉佐和子 ③計画，結果と考察の検討
4）家族看護の鍵となる新たな視点：遺伝看護	共著	平成 26 年 10 月	家族看護学研究,p.96	①日本家族看護学会の第 21 回学術集会シンポジウムを通して，遺伝性疾患の病気，Genetic Condition の理解に始まり，「家族」というユニットに対して看護介入（家族アプローチ）することの重要性，とくに親が自身の人生に対する意味づけを行い，親になることの意味づけについて支援することの大切さについて確認できたことを報告した. ②飯野英親，山内泰子 ③後抄録の作成
（学会発表） 1）Measuring Caring Ability of Nursing Students: A pilot study,	共著	平成 26 年 5 月	35th International for Human Caring Conference, p.19 , Kyoto International Conference Center	①Caring Ability Inventory 日本語版を作成し、看護学生を対象にパイロットスタディを実施した．表面妥当性について検討した結果、尺度の開発に向けて質問項目の見直しが必要となった. ②Ono S, Iino H, Kajiwara E , Honda T, Suemitsu J, Oda H, Iwamoto T ③結果と考察の検討，ポスターの指導

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2)Relationship Between the Risk Factor of Latex Allergies and Rubber Products in Daily Use By the Japanese Nursing Students	共著	平成 26 年 5 月	Honor Society of Nursing, Proceeding of Sigma Theta Tau International 24th International Nursing Research Conferences, p. 157, Hong Kong	①看護学生のラテックスアレルギーのスクリーニングの一つとして、アトピー性皮膚炎が挙げられることが示唆された。 ②共同発表者：Kajiwara E, Iino H, Honda T, Ono S, Suemitsu J, Iwamoto T, Oda H, Asano Y ③結果と考察の検討，ポスターの指導
3) 看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を起こした看護学生の経過と課題	共著	平成 26 年 8 月	第 45 回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会抄録集，p. 105，熊本県立劇場	①ラテックス製手袋にてアレルギー症状を起こした事例の経過報告より、実習での教員と臨地指導者との情報共有の重要性が示唆された。 ②共著者名　末光順子、梶原江美、飯野英親、岩本テルヨ、小田日出子、本田輝子、浅野嘉延 ③結果と考察の検討，ポスターの指導
4) 看護技術教育におけるｅラーニング教材開発の内製化に関する課題と解決策の検討	共著	平成 26 年 8 月	第 24 回日本看護学教育学学会講演集，p. 167，幕張メッセ国際会議場	①内製化により、制作コストを抑えた文字、写真の静的コンテンツと動画コンテンツ両方のメリットを生かした教材の開発が可能となった。 ②共著者名　大塚和良，末光順子，本田輝子，小野聡子，梶原江美，飯野英親 ③考察の検討，ポスターの指導
5) ダウン症者のQOL研究についての分析	単著	平成 26 年 10 月	第 13 回日本遺伝看護学会学術大会プログラム抄録集（日本遺伝看護学会誌，13(1)），p. 36，琉球大学医学部	①ダウン症者のQOLに関する研究の現況を文献検討から明らかにした．国内ではこのテーマに関する文献は，年間およそ0－2件で推移していた．一方，国外では2011年だけは12件と突出しているが，およそ年間4－8件で推移していた．研究デザインは，実験研究26件(38%)，非実験研究43件(62%)だった．実験研究の内訳は，実験研究5件，準実験研究3件，前実験研究18件だった．非実験研究の内訳は，調査研究19件，症例研究

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				19件，評価研究1件，その他4件だった．
6) 遺伝医療に携わる看護師と非医療従事者が抱く「染色体」に対するイメージ	共著	平成26年10月	第13回日本遺伝看護学会学術大会プログラム抄録集（日本遺伝看護学会誌，13(1)），p.39，琉球大学医学部	①遺伝医療に携わる看護師（以下，医療者）と非医療従事者（以下，非医療者）の遺伝医療用語に抱くイメージを比較した．医療者，非医療者間でt検定を行ったところ、18形容詞対で有意差を認めた．有意差があった「必然の ― 偶然の」「不思議な ― 不思議ではない」「幸福な ― 不幸な」「受け入れられる ― 受け入れられない」「責任のある ― 責任のない」「幸運な ― 不運な」という形容詞対では“運命”を連想した．イメージの乖離の要因として，医療者の年齢・専門教育・臨床経験が用語のイメージに影響を与えていることが推測された． ②共著者名：松下智美，飯野英親，大塚和良，樋口由貴子，原山裕子，時吉佐和子 ③考察の検討，ポスターの指導
7) 海外の基礎看護テキスト（英語版）におけるラテックスアレルギーの記載内容	共著	平成26年12月	第34回日本看護科学学会学術集会講演集，p.595，名古屋国際会議場	①海外の基礎看護テキストに記載されたラテックスアレルギー（LA）の内容を確認し、学生へのLA予防教育への示唆を得た．図書の選定は、CiNii Booksを用いて、2008～2013年6月出版の「Fundamental of Nursing」と「Basic Nursing」をキーワードに各々抽出した17冊中、Indexにlatexの記載がある14冊である．LAの要因や感作率、症状、対応等は半数以上のテキストで記載されており、看護基礎教育の初期段階でこれらを盛り込んだ予防教育を行うことが望ましいことが分かった． ②共著者名：梶原江美，飯野英親，岩本テルヨ

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③考察の検討，ポスターの指導 教育研究業績　総数　(2015.3. 現在) 著書　9　(内訳　単　0，共　9) 学術論文　163(内訳　単18，共 145) 翻訳　4　(内訳　単　0，共　4) その他（雑報）　52 学会発表 191(内訳　単　1，共 190)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
稀少染色体異常児を養育する母親の QOL 研究に関する基礎的検討（平成 27 年 3 月まで）	西南女学院大学附属研究所	○飯野英親，原山裕子，武田康男	213,780 円
看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○本田輝子，小野聡子，飯野英親，梶原江美，小田日出子，岩本テルヨ，末光順子	129,900 円
Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○小野聡子，飯野英親，梶原江美，末光順子，本田輝子，小田日出子，岩本テルヨ	197,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・文部科学省高等教育局医学教育課GP「課題解決型高度医療人材養成プログラム」	書面審査委員 （ペーパーレフリー）	2014年6月～2015年3月
・日本遺伝看護学会誌への投稿論文の査読	査読員	2014年
・雑誌「小児看護」へるす出版	査読責任者	2005年～現在に至る
・九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野　博士後期課程（科目名：健康支援ケアシステム論Ⅱ）	非常勤講師	2012年～現在に至る
・山口県立大学看護栄養学部 （科目名「小児看護学」の集中講義）	非常勤講師	2009年～現在に至る
・福岡県新人看護職員研修推進協議会	委員（看護系大学）	2014年10月～2015年3月
・第21回日本家族看護学会学術集会でのシンポジウム3「家族看護の新たな視点：遺伝看護」	座長	2014年8月10日
・山口県下関市民病院　運営外部評価委員会	委員	2012年7月～現在に至る
・福岡県看護協会　認定看護管理者教育運営委員会　委員	委員	2012年6月～2014年7月まで
・第46回（平成27年）日本看護学会看護管理　学会準備委員会	委員	2014年5月～2015年9月
・第46回（平成27年）日本看護学会看護管理　抄録選考委員会	委員長	2014年5月～2015年9月
・山口県看護協会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル　「レポートの書き方・まとめ方・文献検討」	講師	2005年～2014年12月まで
・福岡県看護協会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル「看護に生かす情報管理」	講師	2014年～現在に至る
・山口県立大学　認定看護師教育課程（感染看護）非常勤講師　「レポートの書き方・まとめ方」	非常勤講師	2014年8月1日～2015年2月28日 3時間講義×1回
・山口県テニス協会　医科学委員会	委員	1997年～現在に至る
・九州・山口プラダー・ウィリー症候群親の会	世話人	2009年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・保健福祉学部看護学科　人事委員　　平成21年4月～平成25年3月まで
・西南女学院大学・大学短期大学部　人事委員長　　平成25年4月～平成25年3月まで
・保健福祉学部看護学科　実習コーディネーター　　平成24年4月～現在に至る
・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベル教育委員会委員，セカンドレベル教育委員会委員　平成21年4月1日～現在に至る
・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベルの講師（3コマ）　平成21年～現在に至る

・西南女学院大学認定看護管理者研修セカンドレベルの講師（６コマ）　平成 21 年～現在に至る
・日本看護協会　認定看護師教育「集中ケア」（西南女学院大学保健福祉学部）での「看護管理」（２コマ）と「リーダーシップ」の講義（５コマ）　平成 22 年～現在に至る
・教員免許状更新講習会（西南女学院大学保健福祉学部）での講義（２コマ）　平成 22 年～現在に至る
・オープンキャンパスでの模擬授業（2014 年 7 月 19 日）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　岩本　テルヨ	職名　　教授	学位　修士((看護学)、北里大学 1995) 博士((医学)、山口大学、2004)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護、終末期ケア	看護専門職性、看護の本質、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護、終末期ケア

研　究　課　題
看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査 SNS を統合した e ラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析 Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
看護学概論	2		
看護理論	1		
看護倫理	1		
生活援助技術論	3		
ヘルスアセスメント	1		
看護技術論	1		
診療関連技術論	1		
看護過程論	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2		
看護総合演習	2		
看護総合実習	1		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【看護学概論】 初めて看護を学ぶ 1 年生にとって、広く浅く看護学の内容を学ぶ概論は、とらえどころのない科目として受けれとられることが多くある。そのため多くの内容を広い範囲で学ばせたいという今までの方向を修正し、内容を少なくし復習となる質問をしながら進めるようにした。また、学生にとって講義を聞くだけではなく、指定されたテーマの本を読んでの患者の心理に関するレポート作成は、本を自ら選択してまとめることで、理解を深める点で有効であった。さらに、「看護覚え書」は看護について学生に考えさせる教材として有効である考えレポートを課している。
授業科目名【看護倫理】 既に多くの学生が 1 年次後期に「医療と倫理」を履修していることを踏まえ、授業の初めに医療に関わらず今までに起きた身近な事例を紹介し、どう判断し解決するかを考えさせた。指名して学生に発表させながら、他の意見に耳を傾けさせ倫理に対する関心を引き出すようにした。倫理的判断に必要な倫理原則などを理解させ、視聴覚教材 DVD の事例を視聴し、意見交換させた。そのうえで自分の考えをレポートにまとめさせた。意見交換の時間をもっととることができるよう講義の内容を精選したい。

授業科目名【看護理論】 　実習を経験していない１年生に看護理論をわかりやすく理解させるために、１理論家１コマとし、講義のまとめとして視聴覚教材 DVD を活用した。また、臨床の現場でどのように看護理論を活用しているかを示すことが理解を促進すると考え、実践との関わりも考えさせるようにした。しかし、まとめとして活用している視聴覚教材 DVD が難しい説明をしている部分もあり、視聴覚教材 DVD の活用についてはさらに検討していきたい。
授業科目名【看護総合演習】 　学生の意欲を高めるために、看護技術論の授業やオープンキャンパスにおいて、看護技術を教えたりすることも取り入れつつ、自分たちの看護技術について振り返らせる機会を設けた。また、看護綜合実習の実習計画立案に向けて個別指導を行うようにした。看護総合実習のレポート作成及び成果発表会を開き、意見交換させ、成果を共有するとともに、自分自身の実習の振り返りをさせた。
授業科目名【看護総合実習】 　保助看学校指定規則によるこの科目の目標が卒業後のリアリティショックを緩和することにもあることを考慮し、病棟には学生は 1~2 名とし、複数の患者を受け持ち、看護師の勤務時間帯と同じ実習時間としている。学生の主体性を前面にだし、病院との調整も学生自身で行なわせるようにし、それを支援するために教員として臨床と連携を取り、環境を整えた。実習の評価基準も学生それぞれ考えさせ、それに基づいて評価を行わせるようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	評議員（2012~2016）査読委員（2012~2016）	1993～現在に至る
日本看護科学学会		1993～現在に至る
日本死の臨床研究会		1997～現在に至る
日本生命倫理学会		1998～現在に至る
日本公衆衛生学会	評議員（2005-2008）	1999～現在に至る
日本医学哲学・倫理学会		2000～現在に至る
日本看護学教育学会	評議員（2012~2016）、専任査読委員（2015-2018） 第 25 回学術集会査読委員（2015 年 2 月）	2002～現在に至る
STTI		2008～現在に至る
日本看護倫理学会	評議員（2015-2018）	2008～現在に至る
日本看護技術学会		2012~現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1.看護師の対応について手術を経験した変形性股関節症患者が認識す	共　著	2015.3	西南女学院大学紀要 VOL19	①　変形性股関節症患者が看護師の対応についてどのような認識を抱いているかを明らかにする目的で手術経験を持

２０14年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
るプロセス 【報告　査読有】				つ変形性股関節症患者22名を対象に半構成的面接を実施し、M-GTAを用いて質的帰納的に分析した。その結果、看護師の対応によって3つのカテゴリが抽出され、看護師の対応如何によって安全を脅かす認識につながる可能性があることが示唆された。 ②　共同研究者：梶原江美，岩本テルヨ、小野聡子、小田日出子、末光順子、飯野英親、田中愛子 ③西南女学院大学紀要Vol19 P15-25
2.集中ケアで働く看護師の患者・家族への対応に関する思い	共著	2014.4.17	日本看護学会論文集（看護管理）	①集中ケアで働く看護師が患者・家族への対応に関して何が大切で何がよくないと思っているのか明らかにする目的で、集中ケアで働く看護師13名に半構成的面接を行い、質的に分析した。その結果、17のカテゴリーが抽出された。集中ケアの場が非日常的な環境であるからこそ、看護師としての基本的姿勢を強く意識し、又その専門性を踏まえて、患者家族に対応するようにしていた。 ②共同研究者：小野聡子、岩本テルヨ、梶原江美、小田日出子、末光順子、飯野英親、田中愛子 ③第43回日本看護学会論文集看護管理2013.p.199-202
（翻訳） なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1.Measuring Caring Ability of Nursing Students：A pilot study	共著	2014.5.24-25	第35回国際ヒューマンケアリング学会（京都国際会議場）	①Caring Ability Inventory（CAI）日本語版の表面的妥当性を検証する目的で、90人の看護学生に質問紙調査を行った（有効回答率87.7%）。データは質的に分析した。その結果2項目に天井効果が見られたが、8項目には無反応で、項目の意味するところがよくわからないう意見であった。CAIの日本語版の項目は日本の看護学生には難しく、さらに見直しする必要があることが示唆された。 ②Satoko Ono、Hidechika Iino Emi Kajiwara、 Teruko Honda、Junko Suemitsu、Hideko Oda、 Teruyo Iwamoto、 ③35th International Association for Human Caring Conference プログラム集p.41
2.Relationship Between the Risk Factor of Latex Allergies and Rubber Products in Daily Use By the Japanese Nursing Students 【Poster】	共著	2014.6.24-28	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing International 25th Nursing Research Congress（Hong Kong）	①　看護学生572名に対して質問紙調査を実施し、日常生活におけるゴム製品へのアレルギーとLA（latex allergies）リスク要因とされるLA関連の食品、手術経験、アレルギーの家族歴、ラッテックス手袋着用時の違和感との関連を明らかにした。有効回答率は、95.5%（N＝546）で全員女性(平均年齢19.1±1.5)だった。分析対象者の内、27人（4.9%）は、ゴム製品に対するアレルギーを持っていた。アレルギー疾患の罹患率は56%であった。そのうちアトピー性皮膚炎と接触性皮膚炎を持つ者はそれぞれ14.5%、14.7%であった。今回の結果から、LAスクリーニングの一つの基準にアトピー性皮膚炎を加える必要性が示唆された。 ②　Emi Kajiwara、 Hidechika Iino、 Satoko Ono、 Junko Suemitsu、 Teruko Honda、Teruyo Iwamoto、 Hideko Oda、 Yoshinobu Asano ③　25th International nursing research congress(p.96)　2014.Poster Session 2　157
3.看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を	共著	2014.8.28-29	第45回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会（於熊本市）	①看護技術演習中にラテックス（LA）手袋を装着してアレルギー症状を起こした学生2事例について、その後の症状出現と

２０14年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
起こした看護学生の経過と課題「【示説】				予防行動、LAに対する心理を分析した。 ②共同研究者：末光順子、梶原江美、飯野英親、小野聡子、本田輝子、岩本テルヨ、小田日出子、浅野嘉延 ③第45回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会抄録集、p. 105
4. 海外の基礎看護学テキスト（英語版）におけるラテックスアレルギーの記載内容 【示説】	共　著	2014.11.29-30	日本看護科学学会学術集会講演集34回（名古屋市）	①海外の基礎看護テキストに記載されたLAの内容を確認し、学生へのLA教育への示唆を得る目的でCiNii Books を用いて検索した。抽出した図書14冊を対象に記載内容を見たところ,「ラテックス及びLAの基本的知識」「「LAの現状」「提言の紹介」「予防を含む安全対策」に整理された。 ②　共同研究者：梶原江美、飯野英親、岩本テルヨ ③　第34回日本看護科学学会学術集会抄録集　P. 595
				教育研究業績　総数（2015.3現在） 著書　5　（内訳　単　0　共　5　） 学術論文57（内訳　単12　共45　） 翻訳　1　（内訳　単　0　共　1　） 学会発表 84（内訳　単　6　共77）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学付属研究所	○本田輝子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 梶原江美 小野聡子 末光順子	129,900 円
SNS を統合した e ラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学共同研究費	○大塚和良 東玲子 伊藤直子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 村山由起子 清村紀子 梶原江美 小野聡子 末光順子 本田輝子	1、605、000
Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証	西南女学院大学付属研究所	○小野聡子 飯野英親 梶原江美 末光順子 本田輝子 小田日出子 岩本テルヨ	197,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

・山口県立大学看護研修センター感染管理認定看護師教育課程(看護実践と倫理)	講師	2014年9月2日~11日
・JCHO九州病院看護師研修（看護理論）	講師	2014年8月22日
・JCHO九州病院看護師研修（看護倫理）	講師	2014年12月5日・17日
・西南女学院大学認定看護師（集中ケア）教育課程（看護理論）	兼任	2014年6月18・19日
・西南女学院大学認定看護師（集中ケア）教育課程（看護倫理）	兼任	2014年6月10・12日
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル（看護専門職論）	兼任	2014年7月12、21日
・ 日本看護学教育学会第 25 回学術集会発表抄録査読	査読委員	2015年2月
・ 日本看護研究学会学術集会発表抄録査読	査読委員	2015年2月
・日本看護学教育学会第 24 回学術集会	座長	2014年8月
・日本高等教育評価機構	大学機関別認証評価の評価員	2014年4月~2017年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
2014年度　看護学科長 入試委員 認定看護師（集中ケア）教育課程責任者 認定看護管理者教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル）責任者

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　布花原　明子	職名　准教授	学位　看護学（修士）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	住民組織活動 公衆衛生看護学教育・学習方法

研　究　課　題
住民主体の地域保健福祉活動に関する研究 地域母子保健に関する子育て支援ニーズに関する研究

担　当　授　業　科　目
基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 保健福祉行政論 公衆衛生看護技術論 地区活動論 看護総合演習 広域看護活動論実習Ⅰ 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 基礎学習ゼミⅠでは，教員チームリーダーとして，初年次教育にアクティブラーニングと学修ポートフォリオを導入した授業計画を立案し，新入生の学修スキルの修得とともに，主体的な学修態度の変容に重点をおいて実施した。その効果を情意領域（関心・意欲・態度）の観点から主観・客観評価を行い，一定の効果が検証され，また，今後の改善策への示唆が得られた。次年度の授業改善につなげることが課題である。 また，個々の学生の学修・生活支援として，個別相談を随時実施した。
授業科目名【保健福祉行政論】 当該科目のうち３回を担当した。健康政策等，法律や制度に苦手意識をもつ学生は少なくない。そのため，学生が，看護職の仕事にどのようにつながっているのかを理解できるよう，実際の保健師活動の場面を DVD で見せるなどして，保健福祉行政論と地域保健活動を結びつけられるよう工夫した。また，毎回，授業の最後に小テストを実施し，知識の確認を行った。
授業科目名【公衆衛生看護技術論】 保健師課程必修科目と看護師課程選択科目としての位置づけである。今年度はルーブリック評価を取り入れて，レポート課題を設定し，学生が提出したレポート評価のフィードバックを試みた。学生からの意見は，レポート作成する時点で評価項目が設定されており，また，返却時に不足部分等が具体的に理解できた，という反応がみられた（自由記載）。一方で，評価項目がわかりづらい部分もあったとの意見もみられたため，今後は，学生にわかりやすく，学生と教員が学びを共有できる評価項目に改善していくことが課題である。

授業科目名【地区活動論】 保健師課程必修科目である。地域を対象とした保健師活動は，生活経験の少ない学生にとっては漠然としたイメージで捉えられがちである。従って，保健師ジャーナル等から実際の保健師活動事例を多く用いて、学生小グループでの意見交換を多く取り入れ，その後に，教員からの説明を補いフィードバックするよう工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001 年 3 月～　〃
日本地域看護学会	〃	2001 年 4 月～　〃
日本看護教育学学会	〃	2003 年 4 月～　〃

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1.主任児童委員の乳児家庭全戸訪問事業に関するポジティブな経験の特徴と今後の事業課題	共著	2015.1.10 ～ 11	第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会（神戸）	①K 市乳児家庭全戸訪問事業を委託されている主任児童委員 259 名を対象に，彼らが訪問に関して得られたポジティブな経験の特徴を明らかにした。全国的に看護専門職のみを訪問者とする自治体が多い中で，地域子育て支援者として住民組織を登用することの意義を検討した。 ②布花原明子、佐藤優 日本公衆衛生看護学会学術集会

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2.乳児全戸訪問事業に携わる主任児童委員の今後の支援課題 - 事業効果に対する認識と活動状況との関連から -	共著	2015.1.10 ～11	第３回日本公衆衛生看護学会学術集会（神戸）	抄録集, p274 ①K市乳児家庭全戸訪問事業を委託されている主任児童委員259名を対象に, 事業に対する認識と活動状況との関連を明らかにした。その結果から, 本事業を担う住民組織に対する活動支援課題とともに環境整備にかかる課題の示唆を得た。 ②佐藤優, 布花原明子 日本公衆衛生看護学会学術集会抄録集, p273

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009 年 4 月～現在に至る
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2003 年 4 月～現在に至る
北九州市介護サービス第三者評価機	事業評価者	2009 年 4 月～現在に至る

関（社会法人　福岡県社会福祉士会） 認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1. 研究倫理審査委員会 1) 本学における研究倫理審査申請に関する審査を実施した。 2)「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に係る説明会に出席した。（2014 年 9 月 26 日） 2. 教育の質保証部門委員 1) DP・CP 検討会に於いて、カリキュラムツリー作成過程の説明を行った。教育の体系化に向けて現行カリキュラムの検証を行うための共通認識をはかり、カリキュラムツリーの具体的な作成過程を示して，各学科で作業が着手できるよう努めた。 2) 各学科において、カリキュラムツリーを作成する過程で導き出された問題と、その改善策について意見を集約し、内容をとり纏めて教務委員会に報告した。 3. 国家試験対策委員 2014 年度は，看護師保健師統合カリキュラム最終年度であり、看護学科学生全員が保健師国家試験を受験する最終回であった。習熟度別に補講対策を強化した結果、合格率 100%を達成した。 4. 高大連携授業 西南女学院高等学校生を対象にテーマ「傾聴の技術」の授業を実施した。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　村　山　由　起　子	職名　　准教授	学位　修士（法学）（九州国際大学　　2002 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
法哲学、急性期成人看護学、看護教育	周手術期看護、自己決定権、看護診断

研　究　課　題
急性期看護、特に周手術期看護の探求と看護実践能力の育成、急性期看護における看護診断の特徴と有用性、急性期看護における技術演習が臨地実習に及ぼす効果の検証、周手術期看護における患者の自己決定権の認容度

担　当　授　業　科　目	
成人急性期看護方法論	基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ
看護総合演習	看護総合実習
成人・老年看護学演習	成人急性期看護学実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　成人急性期看護方法論　】

成人急性期看護方法論を２年生 107 名を対象に 15 回にわたって担当した。急性期と周手術期の概論を中心に教授した結果、急性期の概念と急性期の特徴的な理論を学生に理解させることができた。そのうえで、呼吸器・消化器・循環器・脳神経・性生殖器系の周手術期看護を教授した。看護を理解させるために、形態・機能、病態を振り返らせ、看護実践の根拠を明確にさせた。系統別の看護の領域が広範なため、どの単元もパワーポイントを作成し、視覚に訴える授業展開を試みた。また、配布プリント等の資料を充実させるとともに、わかりにくいところは実物等を利用して工夫した。特に、消化器・循環器ついては、急性期にある対象とその家族に対して、看護の視点を明確にさせるため、事例を用いてアセスメント、看護診断を抽出させ思考・判断を強化した結果、看護過程展開の能力を高めることができた。さらに、自己学習に発展できるように課題レポートの内容を吟味した結果、学生全員が課題に誠実に取り組み提出できた。

授業科目名【成人急性期看護学実習　】

成人急性期看護学実習は３年生の後期から４年生の６月まで、３週間に渡り、1～2 人の患者を受持ち、看護過程の展開を中心とした実習である。今年度より、病棟実習に加えて、ICU、手術室においても実習するようになり、生命の危機的状況とその後の回復過程の理解を深めることができた。急性期実習は、周手術期の看護を実践していくため、展開が早く、技術の実践力を問われる。そのため、単位認定者として、助教および助手の指導、学生の個別指導を重点的に実施した。学生に対する心身両面のサポートと共に、知識及び技術面での指導を強化した結果、実習病院より高評価を得ることができた。個別指導、定期的な面接、病棟指導者・管理者との打ち合わせなど、できるだけ詳細に、かつ具体的に展開した結果、周手術期看護の理解につながった。また、急性期の講義を担当しており、実習指導を行うことで、講義の見直しや改善にも繋げることができた。

授業科目名【成人・老年看護学演習　】

今年度、看護過程の展開の演習では、急性期、特に周手術期の事例展開の責任者として、胃がんの事例について、講義を行った。事例のオリエンテーション、フォーカスアセスメント、看護問題の明確化・問題リスト、看護目標の設定と計画立案について、パワーポイントと配布資料を基に、分かりやすい講義になるように工夫

した。
　その結果、各グループのグループワークがスムースに展開され、リーダーシップやメンバーシップの役割習得にも効果がみられた。事例については、内容の再検討、記録の改善を図り、学生が臨地においても活用できる記録用紙を作成した。看護技術の演習では、手術直後の観察とドレーン管理が、主たる担当のため、具体的な計画を立案し、学生に対して講義、演習を実施した。DVD や実演を取り入れて工夫したことから、学生が実習場面を想起でき、技術の実践力向上につながった。特に、臨地における実習を想定していることから、成人急性期看護学実習に効果的に繋げることができた。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ　】
　基礎学習ゼミⅠ（前期）の企画・運営を担当した。新入生が大学に入って、主体的に学習できるように、8回の授業内容を作成した。1 年生のオリエンテーション、特に学習支援について、ゼミ活動がスムースにいくようにゼミ交流会の開催、上級生による大学での学び方・暮らし方のコツや上級生との交流会、レポート作成時に必要な図書館の蔵書検索・文献リストの記載について、レポートの作成の基本の習得、メディアと情報倫理について等を企画し、実施した。その結果、主体的に学ぶための基礎的スキル（聞く、読む、書く、話す、考える）を鍛錬・強化することができた。また、10 名の 1 年生をゼミとして受持ち、直接的な指導も実施した。毎回授業終了時に、学生にポートフォリオシート及び振り返りシートを記載させ、点検・評価を行ったことで、学生の課題の明確化に繋げることができた。
　基礎学習ゼミⅡ（後期）では、ディベートを通して、基礎ゼミⅠの主体的な学習をより進めることができた。2 題の論題を設け、定義づけ、メリット・デメリット・類似性の整理、論題の分析、立論・反論の準備、ディベート討論会の開催などをゼミの学生に指導した。その結果、調べ学習による知識の習得、グループディスカッションを通して自己の考えの伝達、傾聴する姿勢など、基礎的スキルをさらに深めることができた。

授業科目名【看護総合演習　】
　学生 6 名を受け持ち、毎週、急性期に関する文献学習を実施し、国家試験を視野に入れて、グループで定期的に学習する習慣を習得させた。また、定期的な面接・学習指導を行い、国家試験問題集や高正答率の問題を活用して、口頭試問や試験を実施した。その結果、模擬試験のゼミ毎の結果で上位に入ることができ、1 名は看護学科の学長賞を頂いた。6 名全員、積極的に学習する姿勢を修得することができて、全員看護師国家試験及び保健師国家試験に合格できた。さらに、看護総合実習が円滑に取り組めるように、事前学習や課題を充実させ、実習に連動できるように指導した。

授業科目名【看護総合実習　】
　看護総合実習は、9 月に 1 週間、JCHO 九州病院の急性期病棟、ICU、手術室で 6 名の学生が実施した。成人急性期の看護総合実習は、学生が看護チームの一員として、主体的に自らの役割と機能を発揮することを目的としているため、実習がスムースにできるように、臨床と学生間のコーディネートを行った。
その結果、各実習場所の特徴や患者の特徴、急性期の看護を学ぶことができ、臨床の師長・指導者から日々看護実践力が高まったとの評価を得ることができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護診断学会	監事	1994 年 4 月～現在に至る
日本 POS 医療学会		1994 年 4 月～現在に至る
九州地区理論研究会		1996 年 4 月～2015 年 3 月
日本生命倫理学会		2006 年 4 月～現在に至る
日本歴史学会		2007 年 12 月～現在に至る
日本笑い学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2008 年 10 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 症状別看護過程 アセスメント・看護計画がわかる！	共著	2014年12月 第1版第1刷 発行	（株）照林社	「口渇・脱水」の症状が起こるメカニズム、病態・ケア関連図、観察ポイントとアセスメントの根拠、看護計画の立案、看護ケアについて P.75 ～P.88 までを担当した。
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） テキストマイニングによる NANDA - I 看護診断「急性疼痛」の看護記録の分析	共著	2014年8月	第15回日本医療情報学会看護学術大会	医療現場におけるICT技術の導入により、電子カルテは多くの施設で使用されている。看護実践は看護記録として日々蓄積されるが、看護の質の向上のためには、看護記録の監査が必要である。NANDA - I看護診断「急性疼痛」の看護記録の可視化を行い、語彙間の特徴的な関係を明らかにすることで、看護計画の観察（O-Plan）の記録の実態を把握することができた。今後は、記録上から、ケア介入の実態が亜白できるように記録の改善を検討する必要がある。 共同発表者：○大塚和良 村山由起子、高橋甲枝 東玲子、穴井こずえ 坂本弘子 教育研究業績　総数（2015年3月31日現在） 著書　8（内訳　単　0　共　8） 学術論文　5（内訳　単　0　共　5） 翻訳　0（内訳　単　0　共　0） 学会発表　18（内訳　単 0　共　18） その他　7

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
1. 福岡県看護協会（皮膚・排泄ケア）認定看護師教育課程	講師	2014年6月6日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1．実習コーディネーター　2014年4月～2015年3月 臨地実習年間計画全般の企画・運営、実習要項の作成・配布、実習病院及び他の実習校への対応・調整、各学年の実習に関するオリエンテーションの実施等を担当した。 2. 4年生ゼミ担当 ゼミ担当の4年生に対して看護総合実習・演習が効果的に実践できるように、週に1回の定期的な学習指導・面接等を実施した結果、看護師・保健師国家試験に合格し、学生の目標を達成することができた。 3. 2年生ゼミ担当 2年生を10名受持ち、学習指導・生活指導を重点的に実施しタ結果、10名全員3年生に進級できた。 4. 図書委員 2014年度は図書館の購読雑誌の見直しの年であり、看護学科の和洋雑誌について評定結果を整理した。また、新規購読雑誌希望について調査し充実を図った。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　新木　眞理子	職名　准教授	学位　博士（医学）（山口大学　2011年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学	祖父母的ジェネラティヴィティ　エリクソン 解釈学的現象学　ハイデガー 要介護高齢者

研　究　課　題
「要介護高齢者の祖父母的ジェネラティヴィティ発達を促すケアの開発」 介護施設の要介護高齢者の語りを聴き、解釈することを通して、要介護高齢者の気遣いの世界を明らかにし、祖父母的ジェネラティヴィティの根底にあるものを探求している。老年期の発達を、数値化して検証するのではなく、ハイデガーの解釈学的現象学を基盤とした、質的帰納的研究という手法で研究に取り組んでいる。 「軽度認知症患者の自我発達を促す介入」 上記の研究成果に基づき、対象を認知症軽症の患者として、介入による自我発達の可能性を探求していく。 これは今後の研究課題であり、まだ研究準備の段階である。

担　当　授　業　科　目
成人･老年看護学概論（前期） 老年看護方法論（後期） 老年看護学実習Ⅰ（後期） 老年看護学実習Ⅱ（後期） 看護総合演習・実習（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人･老年看護学概論】 加齢による身体的変化については、形態機能学等の復習をして臨むと理解が深まるため、事前に資料配布を行ない、予習をして講義を受けてもらうことを目的として小テストを行ない、結果的に効果的な学習ができたと考える。高齢社会の統計的現状について、国民衛生の動向の関連ある箇所を具体的に示し、質問を交えながら、読み取り方が学べるように工夫を行なった。
授業科目名【老年看護方法論】 昨年と同様に、既習の疾病論や成人看護学の知識を活用して、老年看護に必要な知識について主体的に学習していくことをめざして、グループワーク及び講義形式の発表を行なった。今年は、学生が発表した内容を再確認しながら解説を行なったことで、各々の知識の要点が理解し易かったようである。
授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】 老年看護学の実習では、生活機能を中心とした全体像をつかむことが最重要課題となるため、「全体像」の学生自己評価をめざしてルーブリック評価表を作成して、今年度より活用した。学生が全体像を仕上げたら、ルーブリックで自己評価をさせた上で教員に提出させた。断片的な知識を並べたままでなかなか関連づけられた全体像として完成した学生は少なかったが、情報の根拠付けという点では意識が高まったと考える。
授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】 新カリキュラムに新たに加わったこの科目で、学生は、「特別養護老人ホーム」、「グループホーム」、「ケアハウス」のいずれかで１週間実習を経験した。学生各々がすべての施設を体験するわけではないため、体験内容を共有し、施設介護･看護で現在抱えている課題について学生同士議論し合い、問いをもつことを主眼とした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護科学学会 日本老年看護学会 日本老年医学会 日本心理臨床学会 日本看護学教育学会		1995年～現在に至る 2000年～現在に至る 2010年～現在に至る 2001年～現在に至る 2001年～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 要介護高齢者の「気遣い」に着目した介入研究の可能性を探る	共	2014.11	日本看護科学学会 (於　名古屋国際会議場)	①介護施設の利用者への面談による語りを、ハイデガーの解釈学的現象学を基盤とした捉え方で解釈した結果を紹介し、「気遣い」に着目した介入の可能性について検討を試みた。 ②共同発表者名　神谷英二、東玲子、吉原悦子、丸山泰子
				教育研究業績　総数（2015.8現在） 著書　１（単０、共１） 学術論文　９（単６、共３） 学会発表　１６（単２、共１４）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
要介護高齢者の祖父母的ジェネラティビティ発達を促すケアの開発(H.24～26年度)	文部科学省 基盤研究C	○新木眞理子 東　玲子	１，５６０，０００

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
１．北九州がんを語る会 ２．認定看護師研修 ３．語りと看護実践の会	世話人 講師	2003 年～ 2011 年 8 月～ 2013 年 11 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　　２０１４年4月１日～２０１５年3月３１日 看護学科国試対策委員　２０１４年4月１日～２０１５年3月３１日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　石井 美紀代	職名　　准教授	学位　修士（看護学）大分医科大学　2001 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅看護、家族介護

研　究　課　題
「在宅」の定義が変化しつつある昨今、地域で療養者を支援する看護職に求められるニーズと、展開されている在宅ケアについて研究する。

担　当　授　業　科　目
基礎学習ゼミⅠ（看護学科１年　前期） 基礎学習ゼミⅡ（看護学科１年　後期） 保健医療福祉行政論（看護学科２年　前期） 対象別保健指導論（看護学科２年　後期） 在宅看護学（看護学科３年　前期） 在宅看護学演習（看護学科３年　前期） 在宅看護学実習（看護学科３・４年　通年） 旧カリ：広域看護活動論Ⅳ（看護学科３年　前期） 旧カリ：広域看護活動論演習（看護学科３年　前期） 旧カリ：広域看護活動論実習（看護学科３・４年　通年） 旧カリ：看護総合演習（看護学科４年　後期） 旧カリ：看護総合実習（看護学科４年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 本授業は、初年次教育として 10 名の専任教員で学生を 10 人ずつ担当している。 基礎学習ゼミⅠと基礎学習ゼミⅡは連動して展開され、「読む・書く・聞く・話す・考える」を学ぶ基本的リテラシーとともに、学生の論理的思考を深めることを目標に置いた。 今回、私は基礎学習ゼミⅡの企画を担当し、論理的思考を深める方法として「ディベート」を活用した。授業では、担当教員の指導を統一ため単元ごとの運用・進行表を作成した。また、講義形式とゼミ形式を組み合わせて学生が主体的に学習する仕掛けをしていった。この授業での成果は「クリティカルシンキング志向性尺度」を用いて振り返り、学会で発表した。 基礎学習ゼミは、授業だけでなくアドバイザー役割もある。成績不振者の個別指導に加え、精神的に不安定な学生の見守りもあった。これらの学生については、看護学科教員で連携して、統一した目標と指導内容で接していった。
授業科目名【保健医療福祉行政論】 看護学科の学生は法律について苦手意識をもっている学生が多い。そのため、「覚える」と「考える」のメリハリをつけ、学生の反応を見ながら講義を進めた。また、本講義は 3 人の教員で担当するため、事前に講義の項目、内容についての打ち合わせを十分に行い、連続した授業展開ができるようにした。 講義資料は、重要な部分を学生が書き込むように空けて作成した。また、毎回、最後に、講義内容に関連した国家試験問題を出題し、解答、解説した。さらに、毎回、出席カードに授業の評価を書いてもらい、質問が

書かれていた場合は、次の講義で答えた。しかし、学生が主体的に学習するように習慣づけられなかったことが反省点である。

授業科目名【対象別保健指導論】

本講義は、保健師課程の学生しか履修していなかった。前年度の反省として、2 年生前期は疾病治療各論と同時進行であり、保健指導の授業では学生は疾病の知識不足からイメージしにくいことがあった。それを補うため、事前学習のﾜｰｸｼｰﾄを配布した。

公衆衛生看護活動は対象が広く、技術が見えにくいことから学生にはイメージがわきにくい。そのため、教科書とオリジナルの授業プリントで活動の目的、特徴を解説し、さらに、保健師ジャーナル等の雑誌を活用し、公衆衛生看護活動で先駆的な活動例を紹介した。保健師専門雑誌を読むのが初めてで最初は戸惑っていたが、ポイントを説明しながら読ませることで、理論がどのように実践されているかの理解に役立った。しかし、地域のマイノリティーがもつ生活の不自由さを語っても学生にはイメージしにくく、教材の選択に課題が残った。

授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

在宅看護学・在宅看護学演習は同時進行であるため、3 つのねらいを設定し、時間割を組み換えてねらい毎に講義 → 関連した演習で展開した。

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。そのため、在宅看護学の講義では、実習中に実習施設と療養者家族にお願いして DVD や写真を撮り、それらを媒体にした。また、毎回、ミニ演習を作成して思考させ、学生が書いた内容を一部引用して、次の講義を展開した。教科書の言葉でなく学生の表現を使ったことで、講義の導入がスムーズだった。

在宅看護学演習では、ディベートを活用した。ネットで資料を得る学生が多かったが、福祉制度や社会問題の背景を考えることに有効であった。ケアプラン・看護過程の展開は授業時間外を使うことが前提であったが、同時に開講されている科目の課題と重なり学生の一部が作業を遅れたため、グループディスカッションが出来なかった。時期や課題量を配慮する必要があった。

授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が１対１で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、実習のねらい、学生の学びの段階、療養者の状況について、指導看護師と事前に打ち合わせをしてすすめている。

本実習はカリキュラム変更で単位数が１単位増え、指導態勢が助手・助教１人から３人になったため、実習施設に教員が出向いて指導できるようになった。そのため、これまでの実習目標に「実習地域のケアシステムを理解する」ことを加え、最終カンファレンスで学生が学びを資料化し、説明する形態をとった。個別の看護を理解できた頃から、指導教員は特定集団→ケアシステムの理解に力を注ぐが、ケアシステムまで理解できた学生は少数であった。

一方で、私を含め４人の教員が学生の指導を担当するため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や自己研鑽の機会につながった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		１９９７年６月～（現在に至る）
日本地域看護学会		１９９７年 10 月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		１９９８年４月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		１９９８年４月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		１９９９年４月～（現在に至る）
日本学校保健学会		１９９９年４月～（現在に至る）
日本老年看護学会		１９９９年８月～（現在に至る）
日本看護研究学会		２００１年 11 月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		２００４年８月～（現在に至る）

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） ①認知症対応型共同生活介護（GH）入居者における排便ケアに関する考察	共	2014年5月	第18回認知症ケア学会学術集会 （於：東京）	①GH入居者でスタッフが排便コントロールで困難ととらえている人を対象に、排便ケアを行った。認知症や身体の状況から基本的な生活を整える援助を継続して行うことが難しい状況ではあったが、その中で排便状況のわずかな変化が見られた。このことから、ケアを継続することの難しさと継続の重要性が示唆された。 ②吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代 原等子 ③日本認知症ケア学会誌13巻1号 p. 166
②認知症高齢者グループホーム職員における排便ケア介入前後の実践状況の変化	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 （於：名古屋）	①GH職員の排便を促すケアの実践状況と、職員のケアや意識の変化を明らかにした。 ②吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代、原等子 ③日本看護科学学会学j つ集会講演集34回　p556

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市介護認定審査会 日本私立看護系大学協会 （公）社会福祉振興・試験センター	委員 事業委員 第 27 回介護福祉士国家試験実地試験委員	２００７年4月～２０１５年3月 ２０１４年9月～２０１５年3月 ２０１５年2月～２０１５年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 教務委員 教育の質プロジェクト（評価部門） 〔学科役割〕 １、２年生アドバイザー

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　前田　由紀子	職名　　准教授	学位　博士（教育学）（福岡大学　2010 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、共感性、倫理、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア

研　究　課　題
精神科看護における倫理に関する研究 精神科看護における共感性獲得に関する研究 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

担　当　授　業　科　目
精神看護学概論（後期）（看護学科） 精神看護方法論（後期）（看護学科） 精神看護学演習（前期）（看護学科） 精神看護学実習（後期）（看護学科） 看護研究の基礎（前期）（看護学科） 看護総合演習（通年）（看護学科） 看護総合実習（後期）（看護学科） 看護教育論（後期）（看護学科） 看護研究演習（通年）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【精神看護学概論】 心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。講義形式だけではなく、学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」というテーマでグループワークの取り組みを行った。ここではライフサイクルにおける心の発達と健康及び精神保健活動と看護の役割について理解することを目的とし、すべてのグループにプレゼンテーションを実施した。その後、「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに大いに関心が深まったという感想が多く聞かれた。
授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら，精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。しかし、マイナスのイメージのみが、先行することもしばしばあるため、精神疾患を持つ人の健康な面や、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示した。精神疾患を持つ人に対する先入観が完全に払しょくされることはないが、出席カードに記入されている内容から見て、精神科看護に興味を持つ学生は増えていると感じる。国家試験に頻出している箇所については、問題例を示しながら、看護のポイントについて解説しているが、理解の徹底を図るために繰り返し強調することが必要だと感じる。

授業科目名【精神看護学演習】

これまでの実習における学生指導を振り返り、記録用紙の改善に取り組んだ。精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に看護過程の記録用紙を改編し、その記録用紙を実際に使って演習を進めた。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個別性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。パソコンでの作成を希望する学生もいるが、コピペ防止とノート作成の工夫をさせたいと考えている。

授業科目名【精神看護学実習】

実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与えた。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実に努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。実習では、精神に障がいを持つ患者とのかかわりの時間を十分取れるように計画し、患者との関わりから自己理解、他者理解ができるよう支援した。加えて毎日のカンファレンスやプロセスレコード、テーマレポートの記録物から学生の理解度をみながら適宜個別指導を行った。意欲的な学生には学生主催のレクリエーションを実施させ、さらに精神科看護に理解を図った。帰校日にロールプレイを取り入れることで、自らのコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション技法の向上を促した。PSW の講義やデイケア実習を取り入れ、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めさせた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題にし、解説をしている。

授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】

6 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。精神看護領域では、精神障がい者の訪問看護と就労支援を中心に展開するが、4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援に関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマでレポートを作成し、研究的思考が反映されるように支援した。実習では、主体的な実習が展開できるように、実習計画をグループで考えさせ、施設との交渉も学生のできる範囲で進めさせた。社会人としてマナーが身につけられるように支援した。グループダイナミクスが十分に発揮できるように支援することが課題と考える。

授業科目名【看護研究の基礎】

3 年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるなど、学生が研究に興味を持てるように授業改善をする必要がある。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984 年 4 月～現在に至る
日本看護福祉学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） レジリエンスと問題解決に向けた行動特性との関連－看護大学生のインタビューからの比較検討	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要19	①看護大学生のレジリエンス尺度高得点者と低得点者のインタビューから、問題解決行動の特性に関して質的に検討した。レジリエンス高得点群はソーシャルサポートを活用しているが、低得点群では問題を一人で抱えて解決できず自己肯定感が低くなっていることが明らかとなった。 ②共著者：松尾綾、前田由紀子、 ③P.27-36、担当部分：データ分析、考察の検討
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
看護実践能力促進のためのキャリアプラニングに必要な教育の検証	文部科学省科学研究費補助金	○立石和子、前田由紀子、谷岸悦子	2,210,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）
（2）　個人研究

研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　容)	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡県立八幡中央高等学校 ・山口県立豊浦高等学校	・模擬授業講師 ・模擬授業講師	・2014 年 5 月 20 日 ・2014 年 10 月 22 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　(役職、委員、学生支援など)
〔大学委員会〕 学生募集委員会 2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 入試説明会（熊本地区)、高校訪問、模擬授業、進路ガイダンス等に参加し募集活動を行う。 西南女学院大学保健福祉学部看護学科オープンキャンパス　2014 年 7 月～9 月　3 回にわたり企画・運営を実施する。　看護学科紹介のパンフレットをオープンキャンパス前に作成し、学生募集に活用した。 〔学科役割〕 学生募集委員　2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 看護学科独自の企画としてオープンキャンパス前に、在校生による出身高校訪問を実施した。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　高橋　甲枝	職名　　講師	学位　修士（看護学）（佐賀大学　2004年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 運動器疾患を持つ患者の看護 家族看護 基礎研究	・　看護技術教育 ・　運動器患者の実情 ・　家族の負担 ・　三角筋筋肉注射の安全性 ・　足浴の生体に及ぼす影響と効果

研　究　課　題

- 2008年～2013年にかけて、大分大学の主任研究者清村教授とともに筋肉内注射の部位の検討を行うために解剖体での検討を行った。さらに2013年度はMRI検査を行い解剖体での結果を検証した。2014年度はMRI検査と解剖体との関係について学会発表を行い、座長推薦演題として論文投稿依頼が来たため、2015年度は投稿準備を行う。
- 2010年度「研究所研究費」を取得し、電子カルテの「看護診断」について、某急性期病院の看護部との共同研究にて学会発表を行った。その結果をもとに2012年度～2013年度に共同研究費を取得し、調査を行った。質問紙調査の実施および学会発表と論文にまとめる。
- 2011年度～2012年度「研究所研究費」を取得し、急性期演習変更・急性期技術演習の教材研究を行い、2013年度論文にまとめた。2014年度はこれまでの教育効果を検討するために、実習における技術の到達度を調査し学会発表と論文としてまとめた。2015年度からルーブリック評価での検討を行う。
  2012年度、足浴の基礎的研究を行い、2013年度学会発表を行ったので、2015年度は論文としてまとめ、投稿を行う。今後は、基礎研究で得られた効果について、運動器疾患患者のしびれ等に対する足浴の検討を行っていく。
- 2014年度より運動器疾患の患者の研究に取りかかり、2015年度に運動器疾患の患者の実態を明らかにするために調査を行う予定である。

担　当　授　業　科　目

リハビリテーション看護学（前期）
成人・老年看護学演習（前期）
成人・老年看護学実習（後期）
看護総合演習（前期）
看護総合実習（後期）
国際看護論（後期）
看護学（栄養学科）（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【リハビリテーション看護学】前期

リハビリテーション看護学は、新カリキュラムとなり科目立てされた科目で、3年次開講科目である。2年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。

学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。さらに3年次前期は看護過程など他の課題が多いことを考え、課題を減らし講義内で説明を入れることで展開が早いことを事前に伝えた。この科目は理学療法士や摂食・嚥下看護認定看護師の外部講師を招いて科目立てを行っている。協働する専門職に触れる機会としている。

学生の評価として、講義進度が速いという意見がある一方で、リハビリテーションについて良くわかった、患者の介助をするとき、改めて体力が必要だと思ったと演習を通して感じた学生もおり、肯定的な意見も聞かれた。外部講師の内容と重なるところがあるため、内容を精選して重なりを少なくすることで時間のゆとりを確保したいと考える。

授業科目名【成人・老年看護学演習】（前期）

成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、慢性期事例（肝硬変）、急性期事例（胃がん）の 2 例を展開した。今年度は看護過程演習の講義・演習の担当となり演習計画を立案し、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。しかし、学生評価において先生により方向性が異なるという指摘があった。今後とも密に教員間の調整を行う必要がある。看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の 5 項目からなる。ドレーン管理（J-VAC）と手術後の観察演習を担当した。手術後の観察演習は、シミュレーション演習を取り入れ実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4 年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。

授業科目名【成人・老年看護学実習】（後期）

成人・老年看護学実習は従来の 2 週間実習に ICU および手術室見学実習を導入し 3 週間実習とした。
病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。ICU および手術見学実習では、事前課題の提示を求め、実習目標を明確にできるように指導を行い、実際の見学が既習の知識と繋がるように指導を行った。

授業科目名【看護総合演習】前期

看護総合演習では、急性期・回復期 6 名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を行った。また、実習に必要な基本的な技術（清潔の援助、点滴管理）や循環器病棟や救急部で必要な技術（観察、心電図）の技術演習を行い、実習に備えた。また、実習後は自分たちの目的にそって論文形式でレポート作成の指導を行った。

さらに、演習を通して、国家試験の学習支援と就職活動の相談・指導を行った。

授業科目名【看護総合実習】後期

看護総合実習では、実習施設 2 か所で実習を行った。自分の課題を明確にし、実習部署を決定して実習を行った。学生は事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができた。
学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができた。

授業科目名【国際看護論】（後期）

国際看護論は 2 年後期、選択科目で 69 名が受講した。3 名の外部講師から開発途上国の現状や紛争地域の看護などを学んだ。日頃より海外に興味関心を持ち、講義内容にも関心を持って学習して欲しいため、課題を提示した。学生は全員、課題に取り組み講義を受けることができていた。学生は国や文化や貧困により様々な問題があることに気づくことができていた。最終レポートは途上国について既習のアセスメントガイドを用いて考察し、看護について述べることができていた。学生の反応は、「女性の問題について学習できた」や「日本と世界の健康問題についてもっと深く知りたいと思った」などの意見が聞かれ、視野の広がりと学習意欲に繋がっていた。

授業科目名【看護学（栄養学科）】（後期）

看護学は栄養学科 3 年生、選択科目で 6 名が受講した。4 名の教員が担当し、発達課題、健康段階にそって講義展開を行った。学生の事前準備としては、課題提示を行い講義に臨むようすることで講義内容の理解と関心に繋がるようにした。

15 回中 6 回担当し、看護概論や栄養学科に関連する疾病（胃がん事例など）を持つ患者の看護の視点を講義し、管理栄養士あるいは栄養士との共通点や違いを説明し、協働のあり方について説明を加えた。評価はルーブリック評価を導入して、レポート評価を行なった。学生は協働する看護師の役割について考えを述べること

ができていた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術学会		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会		2015 年 2 月～(現在に至る)

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 『手術直後の観察技術演習』に iPad 教材を導入した教育効果	共	2015.3	西南女学院大学紀要 Vol.19	① 成人看護学急性期演習における『手術直後の観察園技術演習』の動画撮影および iPad 用コンテンツを開発し、演習前の事前学習に iPad 教材視聴を取り入れた効果について検討した。 ② 共著者名：髙橋甲枝、相野さとこ、村山由起子、大塚和良、東玲子 ③ p7-14
（翻訳）				
（学会発表） テキストマイニングによるNANDA-I看護診断「急性疼痛」の看護記録の分析	共	2014.8	第 15 回日本医療情報学会（於　岩手）	① NANDA-I看護診断「急性疼痛」の経過記録の可視化を行い、語彙間の特徴的な関係を明らかにすることを目的にした。結果、観察の結果が記録されていた。 ② 共同発表者　大塚和良、村山由起子、髙橋甲枝、東玲

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				子、穴井こずえ、坂本弘子 ③ 第15回　日本医療情報学会看護学術大会論文集　p 65-68.

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
高校にて模擬授業 （早鞆高校衛生看護科の学生を対象に手術直後の看護の模擬授業とkaname-netの紹介を行った。）		2014.12.15

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会:2014.4.1～2016.3.31 職員研修委員会:2014.4.1～2015.3.31 卓球部顧問:2014.4.1～2015.3.31

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　梶原江美	職名　　講師	学位　　修士（看護学　2003年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学 看護教育学	看護基礎教育 看護技術 ラテックスアレルギー コミュニケーション

研　究　課　題
看護基礎教育におけるラテックスアレルギーを回避する予防システムの構築 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究

担　当　授　業　科　目
看護技術論（前期） 生活援助技術論（後期） ヘルスアセスメント（後期） 看護理論（後期） 診療関連技術論（前期） 看護過程論（前期） 基礎看護学実習Ⅰ（前期） 基礎看護学実習Ⅱ（後期） 看護のための臨床検査（前期） 総合看護演習（前期） 総合看護実習（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護技術論　】 　看護技術論は、「看護技術における安全と安楽」「コミュニケーション」「記録・報告」「環境」「早期看護実習」からなる。そのため、早期看護実習で看護師の役割が充実して学べるよう、看護技術の前提になるものとして、「環境」の単元を設けて、講義以外に療養空間の体験や測定器具を使った環境アセスメント、ベッドメーキングやシーツ交換の演習を取り入れている。また、基礎看護学実習Ⅰでの学びを充実させるため、「コミュニケーション」の単元でプロセスレコードを取り入れた。入学直後の開講科目であることと、実習が含まれているため、学生をできるだけ早く覚えるようにし、些細な不安や相談にも応じるように努めている。
授業科目名【　生活援助技術論　】 生活援助技術論は、日常生活援助技術を学習する科目である。学生自身が自らの日常生活行動に振り返り、援助を考え実践する力を養うこと、学内演習を通して、看護師として患者に向き合う基盤を作ることを念頭に学生に接している。そのために、技術演習指導として携わる他の教員とともに、各演習で事前打合せを行い、学生のレディネス、技術指導の要点とその優先度を確認して臨んでいる。また、演習終了後は、次回演習に向けての学生の把握と次年度の演習に向けての反省会を３０分程度で行っている。学生への技術支援としては、希望があれば、日程を調整して時間外に技術指導を行っている。また、学生自身が、教員の予定に左右されずに、積極的な学習を可能にする視聴覚教材も一通り作成し終え、今後は、効率的かつ効果的に学習ができるようサポートする予定である。

授業科目名【　ヘルスアセスメント　】
主にバイタルサイン測定の実技チェックを行い、正確な測定と測定に関する意味が理解・実施できているかの確認をし、必要に応じて助言・指導を行った。

授業科目名【　看護理論　】
　ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」をテキストに使用し、ヘンダーソンが唱えた看護独自の機能とヘンダーソンが 14 項目挙げている人間の基本的欲求について解説をした。ヘンダーソンの唱える 14 項目は、日常生活行動を軸に平易な言葉で組み立てられているので学生には親しみやすいという利点がある。「看護の基本となるもの」を事前に読んでくるようにして、講義では、解説のほかに、事例を用いたグループワークを用い意見を促した。

授業科目名【　診療関連技術論　】
吸引の実技チェックに関わり、基礎看護学領域のメンバーで事前打ち合わせや事後の反省会を設けながら学生の技術習得につなげていった。

授業科目名【　看護過程論　】
基礎看護活動論演習は、紙上患者を用いて看護過程を展開する演習である。教員一人当たり、２グループ１５名前後の学生を担当する。紙上患者のため、患者状況のイメージ化には、これまで同様 DVD（教員のロールプレイ）を活用した。また、事例展開して導き出した看護技術は、実際に学生が実施し、情報の整理からアセスメント、看護上の問題を明確化し、目標・計画立案までの思考の整理と実践・評価までをトータルに発表することで一連の看護過程のステップが踏めるように工夫している。特に個人学習を強化するアセスメントとグループでの取り組みでも学習効果が期待できる計画立案など、グループの学習達成状況を踏まえながら指導をしていった。

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】
　基礎看護学実習は、学生が初めて臨床で患者を受け持ち、自分とも向き合う中で患者の援助を考え、実践する。そのため、他の関連科目での授業の中でも実習と関連付けて話すことが多い。基礎看護学実習Ⅰでは、プロセスレコードを用いて自己の傾向に気づく課題をだすため、事前準備として、教員が模擬患者となりロールプレイによるプロセスレコードの演習を取り入れた。実習では、看護学生としての行動がとれるように助言・指導を行った。

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ】
　基礎看護学実習Ⅱでは、生活援助技術の提供を臨床で実践できるよう、看護過程のプロセスを経ながら須藤をしていった。特に少ない時間で記録を書く必要がある本実習では、次の日までの課題を明確にし、効率よく学習が進められるように臨床指導者とも連携して指導するよう努めた。

授業科目名【　看護のための臨床検査　】
　看護のための臨床検査は、2 年生前期に開講されている。担当教員からの依頼を受けて、①音叉や耳鏡を用いた聴力検査とアセスメント、②検眼鏡を用いた眼底の観察の演習を行った。音叉を使用しての聴力検査は、簡便で看護師が臨床で実施できる可能性が高いフィジカルイグザムとして、全員が演習を行い伝音声難聴と感音性難聴の違いについて解説した。耳鏡を用いた演習では、自分の耳に耳鏡を挿入して PC 上に映写することで通常医師が観察している鼓膜がどういうものかを観察したり、耳垢を観察したりすることで清潔の援助に結び付けるよう解説を行った。検眼鏡を用いた眼底観察は、普段は見ることのない眼底を除くことで、検査に携わり学習することの意欲を高めるように努めた。

授業科目名【　看護総合演習　】
　4 年生 6 名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行った。また、看護技術演習に参加することで、自らの看護技術力を強化する機会とした。

授業科目名【　看護総合実習】
　4 年生 6 名に対して、看護総合演習で各自が立案した計画に基づき、学生自身が臨床指導者と打ち合わせを行いながら、実習を行った。教員は、学生の自立を促しながら目的が達成できるよう助言及び指導をしていった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会会員		1996 年 4 月
日本看護研究学会会員		2000 年 9 月
日本看護科学学会会員		2003 年 3 月
日本老年看護学会会員		2003 年 3 月
日本公衆衛生学会会員		2003 年 3 月
日本在宅ケア学会会員		2003 年 3 月
日本看護診断学会会員		2003 年 5 月
日本看護学教育学学会会員		2005 年 4 月
日本健康支援学会会員		2005 年 4 月
日本看護技術学会会員		2010 年 4 月
日本看護倫理学会会員		2011 年 2 月
日本死の臨床研究会会員		2011 年 6 月
STTI 会員		2011 年 12 月
日本看護管理学会会員		2012 年 7 月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） フィジカルアセスメントの根拠がわかる！機能障害からみたからだのメカニズム	共著	2014 年 3 月	株式会社　医学書院	①　ヒトのからだを13の機能で捉えて正常な機能に関する知識を整理し、正常に機能しなくなった場合の代表的な疾患と病態、症状や徴候が出現するメカニズムを解説している。 ②　編集　清村紀子　工藤二郎 著者　宇野久光　大田明英　小野元　梶原江美　兼岡秀俊　木下裕光　清村紀子　内藤誠二　南里宏樹　濱﨑勲重 ③　担当部分　第9章 感覚機能とその破綻 （P252-281）総頁数412 ④　A5判
根拠と急変対応からみた　フィジカルアセスメント	共著	2014 年 3 月	株式会社　医学書院	①　ヒトのからだを13の機能で捉えて、その正常と異常を把握するためのフィジカルアセスメント技術について解説している。 ②　編集　清村紀子　工藤二郎 著者　飯野英親　生島壮一郎　伊藤直子　上野恵子　宇野久光　大田明英　岡田なぎさ　小田日出子　小野元　鹿毛美香　鹿嶋聡子　梶原江美　兼岡秀俊　清村紀子　工藤二郎 津倫子　末次典江　相野さとこ　高橋甲枝　田川辰也　滝沢美智子　田中克之　時吉佐和子　枥本しのぶ　濱﨑勲重　布花原明子　藤野智子　山田恵

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③ 担当部分　第２章 フィジカルアセスメントの基本技術　3.システムレビュー （P50-52）総頁数529 ④ A5判
プチナース BOOKS　症状別　看護過程展開ガイド	共著	2014年11月	株式会社　照林社	① 学生が実習で受け持つことが多い22症状について1.症状が起こるメカニズム，2.病態・ケア関連図,3.観察ポイントとアセスメントの根拠,4.看護計画の立案，5.看護ケアと一連の看護過程の思考に沿ってまとめてある。その内、「貧血」を担当し執筆した。 ② 編集　小田正枝 著者　窪田惠子　森田敏子　穴井めぐみ　青山和子　村山由起子　古川薫　尹玉鐘　井手裕子　藤田紋佳　濱田裕子　唐崎愛子　小田正枝　藤田稔子　小野正子　三橋睦子　下舞紀美代　山本真弓　宮川操　海田真治子　中島洋子　梶原江美 ③ 担当部分　貧血 (P309－324）総頁数　P325 ④ AB判
『プチナース』10 月号別冊付録「症状別関連図BOOK」の「貧血」	共著	2014年11月	株式会社　照林社	① 学生が実習で役立てるよう22症状についての病態 ・ケア関連図をまとめたものである。そのうち，「貧血」を担当した。 ② 編集　小田正枝 著者　窪田惠子　森田敏子　梶原江美　他 ③ 担当部分　貧血 (P32－33）総頁数　P34 ④ B5判
（学術論文） 1.看護師の対応について変形性股関節症患者の認識のプロセス	共著	2015年2月	西南女学院大学紀要 VOL19	① 手術経験をもつ変形性股関節症患者22名を対象に入院中に受けた看護師の対応に対する認識について、半構成的面接を行い、修正版グランデッドセオリーを用いて質的分析を行った。結果、患者は、入院を契機に【ケアされる存在になる】と認識し、看護師の対応によって、【あなたでよかった】【組織を優先して私に関わっている】【ケアをする人とは思えない】という３つの主要な認識に至ることが示唆され、特に【組織を優先して私に関わっている】【ケアをする人とは思えない】という認識は、「自分でなんとかするしかない」という安全が確保されない状況での患者の行動につながる危険性があることが明らかとなった。 ② 梶原江美，岩本テルヨ，小野聡子，小田日出子，末光順子，飯野英親，田中愛子

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③西南女学院大学紀要Vol19 P15-25
（報告書） 1. 平成26年度　学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業「研究セミナー」報告書	共	2015年1月	日本私立看護系大学協会	①　平成26年度日本私立看護系大学学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業の一環として開催された「研究セミナー」の報告書である。本研究セミナーは、研究助成事業の結果報告と成果発表、科研費獲得者による研究計画書の書き方とその工夫について、国際協同研究の進め方についての3部形式により構成された。研究者は、科研費獲得者の研究計画書の書き方とその工夫についての発表し、報告書にまとめた。 ③　平成26年度　学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業「研究セミナー」報告書「研究成果につながる方法を学び研究者の向上を目指して」P33～34
2. 看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	共	2015年3月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	①　看護学生の実習病院における臨地実習環境の実態を明らかにすることを目的に福岡・山口県内で基礎看護学実習を受け入れている病院を対象に質問紙調査を実施した。 ②　共同研究者：本田輝子，岩本テルヨ，小田日出子，飯野英親，梶原江美，小野聡子，末光順子 ③　2014年度保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告書
3. Caring Ability Inventory 日本語版の完成と信頼性・妥当性の検証	共	2015年3月	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	①　Caring Ability Inventory（以下、CAIとする）日本語版を作成し、信頼性・妥当性を検証した。 ②　共同研究者：小野聡子，飯野英親，梶原江美，末光順子，本田輝子，小田日出子，岩本テルヨ ③　2014年度保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告書
（学会発表） 1.Measuring Caring Ability of Nursing Students: A pilot study	共	2014年5月	35th International Association for Human Caring Conference （於：京都　京都国際会議場）	①　Caring Ability Inventory（以下、CAIとする）日本語版を原版の使用許諾を受けて作成し、原版を日本語に翻訳後、逆翻訳を行い、その表面妥当性を検証した。作成したCAI日本語版は、37つの質問項目で7段階尺度である。予備調査は、看護学生90名に実施した。 ②　Satoko Ono, Hidechika Iino, Emi Kajiwara, Teruko Honda, Junko Suemitsu, Hideko Oda Teruyo Iwamoto ③　35th International Association for Human Caring Conference　p41

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2.Relationship between the risk factor of latex allergies and rubber products in daily use by the Japanese nursing university students.	共	2014年7月	Sigma Theta Tau International's 25th International Nursing Research Congress (Homg Kong)	① 看護学生に実施した質問紙調査546名分を対象に、日常で使用するゴム製品（輪ゴム・ヘアゴム、風船、手袋）に対するアレルギー症状の有無と他の要因との関係性をχ二乗検定を用いて分析した。その結果、アトピー性皮膚炎の既往、接触性皮膚炎の既往、もし自分がラテックス手袋を装着したらアレルギーが出ると思うという自己予測について有意差が認められた。 ②Emi Kajiwara, Hidechika Iino, Satoko Ono, Junko Suemitsu, Teruko Honda, Teruyo Iwamoto, Hideko Oda, Yoshinobu Asano ③Sigma Theta Tau International's 25rd International Nursing Research Congress p96
3. 看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を起こした看護学生の経過と課題	共	2014年8月	第45回日本看護学会～ヘルスプロモーション～学術集会（於：熊本　熊本県立劇場）	① ラテックス製手袋装着後にアレルギー症状を起こした学生への対応について、2011年に事例報告を行った。その後、LAに関する学生達の状況や心理的側面について，面接を通して質的に分析した。 ② 末光順子・梶原江美・飯野英親・小野聡子・本田輝子・岩本テルヨ・小田日出子・浅野嘉延 ③ 第45回日本看護学会－ヘルスプロモーション－学術集会（於：熊本）P105
4. 看護技術教育におけるｅラーニング教材開発の内製化に関する課題と解決策の検討	共	2014年8月	日本看護学教育学会第24回学術集会（於　千葉　国際会議場）	① 内製化により、製作コストを抑えた写真の静的コンテンツと動画コンテンツの両者のメリットを生かした教材の開発が可能となった。 ② 共同発表者　大塚和良、末光順子、本田輝子、小野聡子、梶原江美、飯野英親 ③ 日本看護学教育学会第24回学術集会抄録集　P167
5.海外の基礎看護テキスト（英語版）におけるラテックスアレルギーの記載内容の分析	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会（於：名古屋　名古屋国際会議場）	① 海外の基礎看護テキストに記載されたラテックスアレルギー（以下、LA）の内容を確認し、学生へのLA予防教育への示唆を得た。図書の選定は、CiNii Booksを用いて、2008～2013年6月出版の「Fundamental of Nursing」と「Basic Nursing」をキーワードに各々抽出した17冊中、Indexにlatexの記載がある14冊である。LAの要因や感作率、症状、対応等は半数以上のテキストで記載されており、看護基礎教育の初期段階でこれらを盛り込んだ予防教育を行うことが望ましいことが分かった。 ② 共同研究者：梶原江美・飯野英親・岩本テルヨ ③ 第34回日本看護科学学会学術集会 P595

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 (2014.3.31 現在) 著書 5（内訳 単 0, 共 5） 学術論文　15（内訳 単 2, 共13 ） 翻訳 0（内訳 単 0, 共 0） 報告書及び雑報 13（内訳　単1　共　12） 学会発表　51　（内訳　単 1 共 50）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○本田輝子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 梶原江美 小野聡子 末光順子	129,900
Caring Ability Inventory 日本語版の完成と信頼性・妥当性の検証	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○小野聡子 飯野英親 梶原江美 末光順子 本田輝子 小田日出子 岩本テルヨ	197,000
SNS を統合した e ラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学共同研究費	○大塚和良 小田日出子 岩本テルヨ 飯野英親 清村紀子 梶原江美 小野聡子 本田輝子 末光順子 山下美由紀 清水孝宏	1,605,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

文部科学省　科学研究費補助金　若手研究(B) 「看護基礎教育におけるラテックスアレルギーを回避する予防システムの構築」	文部科学省科学研究費	2,200,000	若手研究B (2012～2014年度)

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
1. 平成26年度日本私立看護系協会学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業研究セミナー (「研究成果につながる方法を学び研究者の向上を目指して」というテーマで科研費の申請書を書くときの工夫について報告。)	講師	2014年9月20日
2. 第27回介護福祉士国家試験実地委員	実技試験監督	2014年2月28日、3月1日
3. 第46回日本看護学会－看護管理－学術集会	抄録選考委員	2015年3月～9月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　(役職、委員、学生支援など)
1．研究紀要委員　2014年4月1日～2015年3月31日 2．物品管理委員：2014年4月1日～2015年3月31日 3．学生募集に関する活動（出前講義）：2014年10月9日　県立小倉東高等学校

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　一　期　﨑　直　美	職名　講師	学位　修士（教育学）（熊本大学　2010 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
養護教育	学校保健、養護教諭、専門性、専門職

研　　究　　課　　題
養護教諭の専門性は、いまだ確立していないとされる。養護教諭が、専門職かという問いについても議論の余地が残るところである。また、養護教諭教育学会においても、専門性を追及している現状であるとされる。このように、養護教諭の専門性について、研究していくことは養護教諭養成に係わっていく上で必須である。2014 年度は、看護学科で養護教諭を志望する学生のキャリア形成につながるよう養護教諭の専門性に関する職務及び資質について分析した。今後も、養護教諭の専門性について考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
学校保健教育法と健康相談活動と養護実習と教育実習Ｉと教育実践研究（４年生）基礎学習ゼミＩと公衆衛生看護学概論（前期）（看護学科） 学校保健と養護概説と教職実践演習〈養護教諭〉と教職実践演習〈中・高〉と教育実践研究（3 年生）と基礎学習ゼミⅡと看護総合演習と看護総合実習（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【学校保健教育法】 学校における保健教育は、保健指導・保健学習に大別される。その２つの模擬授業を最後に実践できるように構成した。毎授業、保健教育のテーマの一部を実際に展開するよう学生に実践事例を提示した。学生は、事例を事前学習し、授業の一部を展開していった。内容は、学校保健で重要な実践で、授業の指導方法としては、ブレインストーミングやロールプレイ等を身につけることができるような事例を選択した。最後の模擬授業に向けて、授業外でも学習指導案や教材作成について個別支援を行った。また、各自が実施する模擬授業の題材選択においては、4 年次の養護実習につながるよう希望校種を選択するよう示唆した。
授業科目名【健康相談活動】 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に活かした健康相談の基礎・基本について学習できるように構成した。授業は、健康相談に必要な理論と知識・技術について講義と演習がメインである。養護教諭の健康相談は、救急処置場面を通して実践されることが多い。そのため、演習においては、救急処置の対応場面を設定し、ロールプレイを毎回の授業に取り入れた。学生は、事前に場面指導に必要な資料を準備し、展開を考え、ロールプレイを展開した。必要に応じて、4 年生に参加協力を依頼した。看護で学んだ知識をいかしながら実践力を高めていくよう支援した。
授業科目名【養護実習】 養護実習は、学生が初めて学校で養護教諭として実習を経験する。教育実践研究で実習オリエンテーション等は実施されるが、さらに実習に向けて心身共に準備を整え実習目標に到達できるように個別面談を実施している。また、実習前に希望する学生に、実習での授業準備に協力支援している。
授業科目名【教育実習Ｉ】 教育実習Ｉは、学生が初めて高等学校で看護教員としての実習を経験する。実習先は出身校ではないため、協力校については学生と相談し決定する。実習が充実し実習目標に到達できるように、事前に学生とともに実習協力校に訪問する。その後、教育実習で実施予定の授業については、教育実践研究の授業とリンクさせ実習準備を整えていくよう支援する。

授業科目名【教育実践研究】（前期） 4年生

4 年次の教育実習と養護実習の事前事後の指導を教職課程担当者で実践する。実習前、授業外、必要に応じて個別指導を実施した。実習後は、実習を振り返るだけでなく、学生同士が実習校での学びを共有するために実習発表会を設定した。発表会は、学生主体で進行していけるよう、授業外でプレゼンテーションの資料作成の支援等を行った。教職課程 4 年生として意識を高めていくためにも、看護の教職課程 3 年生に参加を促した。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】

初年次教育として、読み書きリテラシーの向上とレポート作成および学生同士の交流が深まるような内容で授業が構成されている。10 人の学生を 10 人の担当者で分担し、担当教員はアドバイザーとしての役割も担っている。授業での図書司書の講和や教職担当からの授業等がレポート作成につながるように工夫されている。ゼミメンバーでの授業の際は、レポート作成に向けて、具体的資料を提示し、授業外でも学生を支援した。

授業科目名【公衆衛生看護学概論】

公衆衛生看護学概論の中で 2 コマ学校保健について授業する。学校保健の概論が中心である。その他、いじめ不登校をはじめとする現代の子どもの課題と学校保健における養護教諭の役割についても解説する。学生が学ぶ意欲を喚起し、学校保健活動をイメージしやすくするために、学生自身の学校生活を想起して考えるようなワークシートを活用した。

授業科目名【学校保健】

学生の予習・復習を含め能動的学習が促進されるよう授業を展開した。学生に、事前学習＜①テキストの内容をまとめてくる、②その範囲の試験問題を作成する、③その自己学習から得られた知見・疑問を記入する＞の提出を求めた。学生同士で発表者を振り分け、担当を決めた。その担当学生が授業内で①を使用したり、パワーポイントを作成したりしてまとめた内容を発表する。学生の知見を深化させるために、毎回、③を使用しグループ討議を行った。事後学習を促進させるために小テストを実施した。また、学校保健でよく利用する文科省のホームページや学校保健に関するサイトからの電子書籍利用の方法等について授業で実際に紹介した。学生は、実際に必要な資料をダウンロードし、資料として活用した。教員は、グループ討議の中で学校保健の重要な点について解説し、学校での教職員の実際の働きなどについて具体的に説明した。

授業科目名【養護概説】

学生の予習・復習を含め能動的学習が促進されるよう授業を展開した。学生に、事前学習＜①テキストの内容をまとめてくる、②その自己学習から得られた知見・疑問を記入する＞の提出を求めた。毎回、学生の知見を深化させるために、②を使用しグループ討議を行った。学生同士で発表者を振り分け、担当を決めた。実践力を養うために、健康診断時の各検査をロールプレイし、児童生徒への保健指導を実践していった。また、実際に、学校で実施される環境衛生検査の照度測定や水質検査を学内で検査した。教員は、グループ討議の中で養護教諭の執務の常用な点を解説すると同時に、学校で実際に養護教諭の行う職務について具体的に説明した。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）

教職課程担当教員で協力して、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返り、教員としての課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う以外に主に担当する授業は 9 回である。その担当授業では、養護教諭としての職務実践だけでなく、資質能力についても学生自身が見つめ直す機会となるよう働きかけた。最初に養護教諭としての課題や課題解決のために、ブレインストーミングや討議をとり入れ、他者からの視点を含め客観性を高めるようにした。今から重要視される予防開発的な集団保健指導について、学生はグループ毎にまとめ、パワーポイントを使用したプレゼンテーションを行った。さらにその保健指導を実際に他グループの学生を児童生徒役として展開した。外部講師には、経験豊富な養護教諭を招き、養護教諭の執務の実際を通して学びを深める機会とした。

授業科目名【教職実践演習】（中・高）

教職課程担当教員で協力して、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返り、教員としての課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う以外に、主に担当する授業の 2 回は、学生がテーマに基づき模擬授業を展開する。そのため、学生が模擬授業を展開できるよう、事前に授業外に指導案や教材を検討するなど支援を行なった。また、授業の連続性が図れるよう、必要に応じて担当授業以外の授業にも参加した。

授業科目名【教育実践研究】（後期）３年生 ４年次の教育実習と養護実習の事前事後の指導を教職課程担当者で実践する。3 年後期の授業は、人権教育や本学卒業生の新任養護教諭の講話を取り入れた。また、学部と学科で、実習事前指導を実施し、実習に向けての意識を高め不安の軽減を図るように支援した。
授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】 基礎学習ゼミⅠをベースにこの授業は展開される。後期は、前期に培った読み書きリテラシーをいかし、論理的思考を高めていくことを重視し、ディベートに取り組んだ。また、授業だけでなく授業外の主体的活動を促進する授業構成になっている。一つのゼミが肯定派と否定派の２グループにわかれディベート発表会に向けて準備をすすめていく。授業内では、双方のグループの進行が遅れないように資料検索の支援等を実施していった。振り返りシートを使用し、学生と教員の相互で目標の達成状況を把握していった。授業以外でもメンバー全員が役割を遂行できるように声かけを行なった。
授業科目名【看護総合演習】 看護実践上の自己の課題を探求し、看護総合実習に向けての計画立案と成果をレポートする。学生は、看護の専門性を高めるために学校保健の養護実習を立案していく。保健指導の授業を中心に立案し、学生が主体的積極的に実習を実践するよう、事前に支援していく。また、課題を探求する姿勢・態度を養うように論文形式でレポートを作成する。そのまとめを、実習校の先生をお招きし発表会で発表する。さらなる課題を明確にし、自己研鑽を続けていくように働きかけた。
授業科目名【看護総合実習】 看護実習の集大成と位置づけられ、自ら企画した実習計画に基づいて、現場との調整も図りながら主体的に実習を展開する。学校保健の養護実習は、実習場との連携を図るだけでなく、その学校の実態と児童生徒を理解するように促す。養護教諭の職務の優先順位は１日の中でも変化する。そのため学生自身が PDCA サイクルを活用して実習に臨めるよう、目標設定や評価表の作成をはじめ日々の目標や課題を明らかにできるよう、実習準備を中心に支援していった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健研究学会 日本養護教諭教育学会 日本健康相談活動学会 日本教育保健学会		２００８年５月 ２００８年９月 ２００９年１月 ２０１３年３月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1　養護教諭としての職務及び資質と能力を可視化する試み~養護教諭志望看護大学生を対象として～	単	2015.3	第 12 回日本教育保健学会（於　）	①養護教諭志望看護学生が職務と資質能力について、自己理解を深めることを目的に、イメージマップというツールを使用し、マップとその自由記述から明らかにした。 ②発表者　一期﨑直美 ③第12回日本教育保健学会講演集（P74~P75）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
日本学校心理士会 日本教育カウンセラー協会 小学校における CPR 授業ボランティアへの参加協力	学校心理士第 61892 号 上級カウンセラー	２００３年１月～現在に至る ２００６年３月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会　委員　２０１２年４月１日～２０１５年３月３１日 教員免許更新講習プロジェクト　テキスト担当

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　吉原　悦子	職名　　助教	学位　修士（看護学）（大分大学　2007 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学	・認知症ケア ・認知症高齢者グループホーム ・排便ケア

研　究　課　題
・認知症高齢者グループホームにおける排便ケアについての検討

担　当　授　業　科　目
（前期） ・成人・老年看護過程演習 ・基礎学習ゼミⅠ ・看護技術論 ・基礎看護学実習Ⅱ （後期） ・基礎学習ゼミⅡ ・基礎看護学実習Ⅰ （通年） ・老年看護学実習Ⅰ ・老年看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人・老年看護過程演習】 ・2 年次の看護過程論を基盤とし、看護過程の演習を勧めていった。まず、患者像をイメージできるよう事例を読み取っていった。さらに初めて聞く専門用語もあるため、解説していった。演習は、個人習とグループ学習の繰り返しのため、個人で学習したことを出し合い、検討できるように個人の意見が出しやすいように声かけを行った。4 グループを重点的に指導したが、他の教員とも事前に打ち合わせを行い、進行度や学生が困難に感じていることを確認し、共通して指導ができるようにした。 ・ADL の援助では、特に排泄の援助を担当した。右片麻痺の患者さんの設定であったため、患者状況をイメージが可能となるように患者役となり学生に説明を行った。排泄援助は、実際に実習で実施する項目であり、移動を伴うため、麻痺側を保護し安全に援助ができるようにすること、また、羞恥心を伴うため適切な声掛けが行えるように指導を行った。
授業科目名【看護技術論】 ・ベッドメーキング：患者さんにとって気持ちの良いベッドを作ることを意識することやシーツの引っ張り方、「角」のつくり方などボディメカにクスも意識しながら、指導を行った。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】

・初めて臨地実習に臨む１年生が緊張や不安を少しでも軽減できるように積極的に声かけを行い、環境を整えていった。2 病棟を担当したため、臨床指導者ともコミュニケーションを密にはかり、実習を行った。受け持ちの患者様を通した対人関係の振り返り、看護者としての姿勢を考える機会とした。特に、カンファレンスや病棟内での態度・言葉使いを指導していった。患者さんとのコミュニケーションは言語だけではなく非言語的なものもあり、患者さんのメッセージを受け取ることの重要性を指導していった。疾患等の履修を行っていない中での実習なため、カルテの確認、専門用語の説明などをおこなった。また、臨床指導者に、学生から積極的に声掛けをおこなうよう指導をしていった。

・情報収集からニーズを導き出し、援助を行うまでの過程を実施するため、患者さんのニーズではなく、学生のできることに視点が、向いてしまうことがあり、誰が中心の援助なのかを適宜確認していった。実際のケア提供に向けて既習の知識・技術を振り返り、安全・安楽・自立の視点でケアが提供できるようにサポートしていった。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ】

・回復期の患者さんの特徴を踏まえ、意図的な情報収集と全体像が描けることを指導した。しかし、できないことばかりに捉われたり、サポートがあってできていることも自立と捉え、できるできないと２極化し、「程度」でとらえることが難しかった。実習全般を通して、学生が考えていることを表出できるように言語化しながら確認をしていった。

・障害によりコミュニケーション能力が低下した高齢者を受け持つことが多かったため、メッセージのやりとりができるか、学生と一緒に患者さんとコミュニケーションを図りながら、助言した。また、学生自身が病院のケアチームの一員であることを意識付けしていった。

・学生が受け持ち高齢者の持つ加齢や疾病後遺症の影響からくる身体状況により生活に及ぼす影響を考え、退院後の生活をイメージしながら、いま、どんな援助が必要かを検討し、実施できるように心がけた。

・施設実習では、3 部署の特徴をカンファレンスで共有し、それぞれの施設の特徴が理解できるように努めた。施設での生活支援に積極的に加わることができるように働きかけた。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

・入学して間もない学生のため、大学生活に関する悩みや不安などをゼミ生とともに共有し解決できるように働きかけた。また、学習や大学生活、進路について２年生や４年生との交流を行い、不安を解消するように努めた。

・基礎学習ゼミⅡは、ディベート発表に向けてディベートの経験がある学生を中心にグループ討議を行っていった。文献を調べていくときに、ネット上での情報に偏りがちであったため、一緒に図書館へ出向き、文献を検索していった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4～現在に至る
日本老年看護学会		2003.4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4～現在に至る
日本看護科学学会		2008.6～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） ①認知症対応型共同生活介護（GH）入居者における排便ケアに関する考察	共	2014年5月	第18回認知症ケア学会学術集会 （於：東京）	①GH入居者に対して排便ケアを行ったが、認知症や身体の状況から基本的な生活を整える援助を継続して行うことが難しい状況ではあった。その中で排便状況のわずかな変化が見られた。このことから、ケアを継続することの難しさと継続の重要性が示唆された。 ②吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代原等子 ③日本認知症ケア学会誌13巻1号p. 166
②認知症高齢者グループホーム職員における排便ケア介入前後の実践状況の変化	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 （於：名古屋）	①GH職員の排便を促すケアの実践状況の変化を明らかにした。 ②吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代、原等子 ③日本看護科学学会学j つ集会講演集34回　p556
③要介護高齢者の「気遣い」に着目した介入研究の可能性を探る　ハイデガーの解釈的現象学を基盤として ＊交流集会	共	2014年11月	第34回日本看護科学学会学術集会 （於：名古屋）	①介護施設における要介護高齢者の「語り」を継続的に聞くという解釈学的現象学を基盤とした研究とその成果について紹介し、要介護高齢者の気遣いの世界に着目した介入研究の可能性を探った。 ②新木真理子、神谷英二、東玲子、吉原悦子、丸山泰子 ③日本看護科学学会学術集会講演集34回　p467
				研究業績　総数 （2014. 3. 31現在） 著書：　1（内訳　単 0 共 1） 学術論文：6（内訳　単 0 共 6） 翻訳：　0（内訳　単 0 共 0） 学会発表：21（内訳　単 0 共21）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・2年生アドバイザー ・介護福祉介護福祉士国家試験　実技試験監督

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　鹿毛　美香	職名　　助教	学位　修士（医科学）（久留米大学 2008.3 月）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護学　産業保健学　労働衛生学　環境医学 公衆衛生学　公衆衛生看護学	労働衛生　ワークストレス　雇用不安　疲労蓄積 大学生の健康　現任教育　住民の健康　保健行動

研　究　課　題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する。 ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する。 ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する。

担　当　授　業　科　目
広域看護活動論演習、広域看護活動論実習Ⅰ、看護技術論、生活援助技術論、ヘルスアセスメント、 診療関連技術論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、基礎学習ゼミⅠ、基礎学習ゼミⅡ、感染と免疫、公衆衛生看護学概論、在宅看護学演習、在宅看護学実習、疫学演習、公衆衛生看護技術演習、地区活動論演習、

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　広域看護活動論演習　】 １．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 ２．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。 ３．保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。
授業科目名【　広域看護活動論実習Ⅰ　】 １．実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 ２．学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。 ３．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。 ４．抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。 ５．広域看護活動論の実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を広域看護活動論領域の教員・助教間で検討した。その結果、昨年度試みた実習スケジュールおよび行動目標表と実習記録用紙を継続活用した。 ６．講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【　看護技術論、生活援助技術論、ヘルスアセスメント、診療関連技術（演習）　】

1．演習では、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。
2．看護技術の習得の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた。また、実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】

1．実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2．実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。
3．患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように、看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた。
4．学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう、また臨床指導者と学習状況を共有しやすいようにワークシートとは別にペーパーに患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した。

授業科目名【　基礎学習ゼミⅠおよびⅡ　】

1．専門科目を学習する上でも重要な基礎学習の獲得に向けて、個人でのスキル獲得が困難な学生には、グループダイナミクスの活用、個別的な学習支援（面接含む）を交え行った。また、その際には発問内容やﾀｲﾐﾝｸﾞなどを考慮した。演習内容については、段階的にスキルを学習できるよう計画した。
2．基礎学習ゼミⅠでは、特に大学で学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）の強化とメディア・リテラシーの習熟を図ることに力点を置き、計画した。
3．基礎学習ゼミⅡでは、基礎学習ゼミⅠで獲得した基礎的スキルを基に客観的分析・論理的思考・批判的思考・プレゼンテーションスキルを高めていけるようディベートを試みた。

授業科目名【　感染と免疫（実習）　】

1．初学者であることを念頭に置き、学生自身の体験や実験内容と看護をつなげることを目的とし実施した。
2．教育の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに、その行為が感染予防の第一歩であることを意識づけた。

授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】

1．産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。
2．産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。例えば、校内の職場巡視を実施し、3 管理の視点で改善提案書を記録するなど。

授業科目名【　在宅看護学演習　】

1．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2．演習では、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。
3．在宅で行う看護技術の習得の際には、臨床におけるテクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに在宅であることを意識づけ、物品の工夫などについても思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。また、実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮しペーパーペイシェントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。

４．在宅で療養する家族を支える社会資源について、学生に理解させる方法として、ペーパーペイシェントを井堀校区の住民とし、井堀校区にある社会資源をマッピングすることを試みた。これを実践することで、言葉として社会資源を知るのではなく、在宅で療養する家族の生活の中に活用できる社会資源はあるのかという視点で学習を進めることが出来ると考えた。

授業科目名【　在宅看護学実習　】

１．病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
２．実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
３．学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
４．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
５．抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
６．実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護学領域の教員・助手間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。

授業科目名【　疫学演習　】

１．保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。
２．協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた。協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ２人→4 人と段階をつけた。
３．授業資料の１枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた。

授業科目名【　公衆衛生看護技術演習　】

１．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
２．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
３．家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヵ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。
４．母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
５．健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。

授業科目名【　地区活動論演習　】

１．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
２．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
３．保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【　その他　】
１．自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008 年 11 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会		2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本産業保健師会		2013 年 1 月～現在に至る
日本産業看護学会		2014 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） K 市における二次予防事業の評価（1）事業実施後 5 年間の時間解析からの考察	共著	2014.10	第 73 回日本公衆衛生学会(栃木)	① K 市における基本チェックリストに基づく二次予防事業（運動教室・口腔教室等）は、事業前後の効果測定により、事業の短期的な効果は確認されていたが、本来の二次予防事業の目的である、要支援・要介護状態の予防に対する影響については十分な検証はなされていなかった。以上の背景から、二次予防事業の長期的な効果について分析･評価した。 ② 佐藤優、伊藤直子、鹿毛美香 ③ 日本公衆衛生雑誌 vol.61 no.10 特別付録，p456
K 市における二次予防事業の評価（2）要介護認定後の生命予後との関連	共著	2014.10	第 73 回日本公衆衛生学会(栃木)	① 介護保険地域支援事業における二次予防事業と要介護認定率との関連についての報告はあるが、要介護認定後の生命予後との関連に関する報告は少な

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				い。そのため、二次予防事業への参加と要介護認定後の生命予後との関連を分析・検証した。 ② 鹿毛美香、佐藤優、伊藤直子 ③ 日本公衆衛生雑誌vol.61 no.10特別付録，p457

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006年4月～現在至る
（公社）福岡県看護協会 ・会長から次年に改選となる役員職名、推薦委員、職能委員及び日本看護協会の代議員等の改選数が明示されたのち、定款・細則の規定に基づき推薦委員会の所掌範囲で推薦する任務	推薦委員	2014年6月～2015年6月

を行う。日本看護協会通常総会代議員及び予備代議員の推薦選出は、看護協会の事業に参画するチャンスとして多数の応募が得られるよう会員へ情報提供に努める。 （一社）日本私立看護系大学協会 ・国際交流委員会として、グローバル社会のニーズに対応するための看護教育のあり方などの情報発信の企画から評価までを実施する。	国際交流委員会事務局担当 （教育、学術および文化の国際交流事業）	2014 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・生協理事

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　大塚　和良	職名　助教	学位　修士（医学）（佐賀大学　2008 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床看護学、看護情報学、教育工学	e ラーニング、教育効果測定、視聴覚教材 医療安全、医療ミス、インシデント・レポート

研　究　課　題
看護基礎教育過程におけるe ラーニングの教育効果に関する研究 医療電気機器の安全な使用に関する研究 電子カルテ情報の二次利用による看護の質評価に関する研究

担　当　授　業　科　目
成人慢性期看護方法論 成人・老年看護学演習 成人急性期看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人慢性期看護方法論】 腎・排泄機能に障害を持つ人の看護について、腎・排泄機能のメカニズム、CKD の概念、診断、治療、看護について講義を行った。また、末期腎不全の治療としての血液透析療法、腹膜透析療法、腎移植の概要と看護について講義を行った。
授業科目名【成人急性期看護学実習】 成人期あるいは高齢期にある人の身体的、心理・社会的特徴の理解を基盤として全体像を描き、対象の身体的・心理的・社会的特長を理解した上で、看護問題および目標を定め、根拠の明確な看護介入を行う基本的な看護過程を展開することができる様実習指導を行った。また、急性期、回復期における看護過程を展開し、個別性のある看護介入の実施が行えるよう指導を行った。臨床における看護の見学あるいは実践を通して「診療の補助」、「日常生活の援助」技術の実践能力を高められるよう実習指導を行った
授業科目名【成人・老年看護学演習】 さまざまな健康レベルにある成人期・老年期の対象者および家族の特性を、身体的、心理的および社会的側面から理解し、対象者および家族の健康の回復、生活再構築、自己管理や自立に向けた援助技術を安全・安楽をふまえて適切に実勢出来るように技術演習指導を行った。
授業科目名【基礎看護学実習 I】 コミュニケーションに主眼を置いた実習であったため、円滑なコミュニケーションがとれるよう指導した。1年次の学習内容を確認し、既習の知識に戻れるように指導を行った。 学生の率直な感想を重視し、看護への興味関心が深まるように関わった。

授業科目名【基礎看護学実習 II】 基礎看護学実習 I で学んだ援助的人間関係の形成をベースとして、既習の知識、技術を統合し、対象者の生活上のニーズを満たすための生活行動援助技術の計画・実施・評価がスムーズに行えるよう実習指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本集中治療医学会		2008 年 2 月～現在に至る
日本呼吸ケアリハビリテーション学会		2009 年 8 月～現在に至る
日本看護科学学会		2009 年 8 月～現在に至る
看護学教育学学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本医療マネジメント学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本看護技術学会		2012 年 7 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1）テキストマイニングによるNANDA-I看護診断「急性疼痛」の看護記録の分析	共著	2014.8	日本医療情報学会看護学術大会論文集,15th,65-68	急性期病院 A 病院において、2012 年 4 月～7 月に入院した患者の診療記録から NANDA-I 看護診断「急性疼痛」を診断された患者の看護計画と経過記録を抽出した。抽出した経過記録を量的言語解析し、単語出現頻度分析、共起語分析およびネットワーク分析を行った。テキストマイニングにより、「急性疼痛」の経過記録をネットワーク図として可視化した。 ○大塚和良、村山由起子、高橋甲枝、東怜子、穴井こずえ、坂本弘子
2)『手術直後の観察技術演習』に iPad 教材を導入した教育効果	共著	2015.3	西南女学院大学紀要 19 巻,7-14	成人看護学急性期演習における『手術直後の観察技術演習』の動画撮影および iPad 用コンテンツを開発し、演習前の事前学習に iPad 教材視聴を取り入れた。iPad 教材の学生評価と教材導入における演習の効果を

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				明らかにすることを目的とした。iPad 教材の評価は、説明文は分かりやすかったか、事前学習の役に立ったか、演習の役に立ったか、興味を持つことができたか、動画は分かりやすかったかの5つの視点のそれぞれの項目で 80%以上のものが非常に当てはまる・かなり当てはまると肯定的に評価した。しかし、事前課題に iPad 教材を導入した演習への効果は、iPad 教材が明らかな技術向上に繋がったという結果は得られなかった。 ○高橋甲枝,相野さとこ,村山由起子,大塚 和良,東 玲子
（翻訳）				
（学会発表） 1）看護技術教育における e ラーニング教材開発の内製化に関する課題と解決策の検討	共著	2014.7	日本看護学教育学会第 24 回学術集会	2012年度より, スマートフォンなどの携帯型端末からのアクセスも可能なeラーニング環境を構築して看護技術教育支援の方法を試みている. 内製化により製作コストを抑えたまま, 文字, 写真などの静的コンテンツと動画コンテンツの両方のメリットを活かし, 既存の講義資料を発展させた看護技術教育の支援教材の開発が可能となった. ○大塚和良, 末光順子, 本田輝子, 小野聡子, 梶原江美, 飯野英親
2）遺伝医療に携わる看護師と非医療従事者が抱く「染色体」に対するイメージ	共著	2014.9	日本遺伝看護学第 13 回学術大会	遺伝医療に携わる看護師（以下、医療者）と非医療従事者（以下、非医療者）の遺伝医療用語に抱くイメージを比較し、遺伝医療教育の基礎的資料を得ることを目的とした。ら医療者と非医療者間では“運命”や“感情”としての捉え方に乖離があると考える。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				イメージの乖離の要因として、医療者の年齢・専門教育・臨床経験が用語のイメージに影響を与えていることが推測される。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
SNSを統合したeラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	共同研究費（本学）	看護学科：○大塚和良、小田日出子、小野聡子、岩本テルヨ、本田輝子、飯野英親、末光順子、梶原江美、清村　紀子 認定看護師教育課程「集中ケア」：山下　美由紀、清水孝宏	1605000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

学生個人情報保護委員会　副委員長　2014 年 4 月～2015 年 3 月
認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」講師

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　塩田　昇	職名　助教	学位 修士（工学）（九州工業大学大学院 2008 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
認知神経科学 看護学（慢性期看護） 行動科学	新奇環境、ストレス、ストレス反応、セルフケア行動、心身症、うつ、不安、

研　究　課　題
セルフケア行動は身体の清潔だけでなくストレス対処行動の機能的意義を含んでいる。病気の影響でセルフケア機能が低下した場合、寄生虫、病原体からの感染率が増加し、外観の劣化が顕著に見られる。うつなどの感情障害では外観の劣化を伴う。しかし、セルフケア機能の低下がうつに影響を与えることについては不明である。研究課題として、第一に、実験動物でセルフケアとうつとの機能的関連（セルフケアとうつの相関）を明らかにする。弟二に、ヒトでセルフケア機能の程度と感情、気分の関連を明らかにする。第三に、ヒトで、セルフケアの具体（清潔セルフケア（手浴・足浴））の機能的意義を明らかにする。手浴・足浴実施による心理的な影響、身体的影響を考察する。

担　当　授　業　科　目	
診療関連技術論	(前期)(看護学科)
基礎学習ゼミⅠ	(前期)(看護学科)
基礎学習ゼミⅡ	(後期)(看護学科)
基礎看護学実習Ⅰ	(後期)(看護学科)
基礎看護学実習Ⅱ	(前期)(看護学科)
成人・老年看護学演習	(前期)(看護学科)
成人急性期看護学実習	(後期)(看護学科)
成人慢性期看護学実習	(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人・老年看護学演習】 学生が慢性期・急性期看護の看護過程を展開することができるよう、事例から読み取ることができる状況を関連づけてアセスメントできるよう、個人およびグループに関わった。看護診断、計画立案に関しても学生自身が考えていけるよう関わった。学生の個人の理解度、意欲、態度を考慮に入れ、教員間で意見交換し、常に指導方針を確認しながら関わるよう心がけた。
授業科目名【成人慢性期看護学実習】 臨地の指導者と連絡をとり指導の方向性を確認することに心掛けた。学生には人の意見を良く聴き、良く考えるよう働きかけた。学生の考えを聞き、学生の理解状況、意欲、態度の把握に努めた。学生が自ら考えることに重点を置き、学生とやり取りを重ね、現状の問題を確認し、看護をイメージできるよう関わった。
授業科目名【成人急性期看護学実習】 急性期では手術室実習と集中治療室実習が加わり、病棟での実習は２週間で看護過程を展開するため、病棟での技術、患者との関わりから多くを学ぶことができるよう指導者と調整を行った。学生が臨地で患者の病状、身体状況から、患者に必要な看護を考えることができるよう、情報の整理、学生の思考の整理などに時間を要した。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生が病棟で患者及び看護師と関われるように、学生の行動を観察して、必要時、助言や注意をした。学生の言葉遣い、態度、礼儀など基本的な指導を行った。学生が自分の行動を振り返り行動修正できることを念頭に助言することに心掛けた。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 看護過程を患者の看護を通して理解してもらう為に、得られた情報の活用、講義、演習で学んだことを想起させた。学生が自ら考えて、問題解決できるよう注意して発問した。学生が社会性を学ぶことができるよう、言葉遣い正しく丁寧にする、社会的規範を守るように行動するよう働きかけた。
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】 基礎学習ゼミⅠ担当であった。基礎学習ゼミⅠでは、企画がスムーズに実行できるよう、各教員への調整、物品（印刷物、備品）の準備を行った。初年次基礎教育を効果的に進めるために議論を尽くし学生が学ぶための仕掛けや工夫を随所に取り入れた。提出物（レポート）にはコメントを入れ学生が振り返ることができるようフィードバックするなどの取り組みを行った。
授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】 基礎学習ゼミⅡでは、主体的な学習を展開できるようにするため、学生の伝える力、事実に向き合う姿勢と自分で考えることの支援を行った。しかし、グループワークを通して、客観的な思考を伸ばす関わりが、学生の個々の能力等を考慮する、グループダイナミックスを伸ばす、など指導が難しかった。2014 年度を振り返り今年度関わって行きたい。
授業科目名【診療関連技術論】 注射の演習に加わった。演習の目的を果たすために、事前の打ち合わせでの合意事項を忠実に教育（学生との関わり）に反映さるよう努力した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会	なし	２００７年１１月～現在に至る。
西日本生理学会	なし	２００６年１２月～現在に至る。
日本看護技術学会	なし	２０１３年７月～現在に至る。
日本看護科学学会	なし	２０１２年９月～現在に至る。

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし	なし	なし	なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし	なし	なし	なし

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
第 54 回日本心身医学会九州地方会事務局 帆柱ヤングラガーズ	第 54 回日本心身医学会九州地方会事務局長 保護者会 副会長	2014 年 10 月～2015 年 1 月 2014 年 1 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
看護学科２年生アドバイザー　２０１４年４月１日～現在に至る 実習コーディネーター　２０１４年４月１日～８月頃 西南女学院大学保健福祉学部看護学科・福祉学科開学２０周年記念講演会 会場外受付係り

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　原山　裕子	職名　　助教	学位　修士（看護学） 日本赤十字九州国際看護大学大学院　2009 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
新生児看護　　小児看護　　遺伝看護	カンガルーケア　遺伝用語 プラダーウィリー症候群

研　　究　　課　　題
カンガルーケア研究においては、近年になり安全性についての議論が高まっており、その根拠や効果、方法論について考察する。 遺伝用語の研究においては、医療者・非医療者にとって、その用語がどのようにイメージされるか調査をふまえ考察する。 プラダーウィリー症候群研究においては、プラダーウィリー症候群児のケアと児と家族の QOL の向上につながるような養育の指針について考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
小児看護学実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学実習　】 看護学科３年生の学生に対し実習指導に関わった。学生の実習目標の到達状況に応じて、実習が効果的に行 よう臨床実習指導者とともに環境調整に努めた。小児看護の実習では、小児期の患児との関わりに困難さを感 生も多く、実際に患児やその家族との関わりを見せながら、学生が児の成長発達に合わせたコミュニケーショ れるように関わるようにした。また、受け持ち患児とその家族への理解を深め、健康問題を明確にし、看護展開 て援助を実施していく上で、既習の知識を活用できるよう、主体的に学習できるように努めた。学内で習得した を受け持ち患児に提供できるように支援した。NICU 見学実習では、事前に基本的な知識の確認を行った上で学 臨めるようにし、見学した看護場面について振り返りの場を持つよう努めた。実習中の学生のカンファレンスで 生が体験した看護場面をグループの学生同士で共有し、問題意識を持ち、自らの考えを発展できるよう、学習が 的に進められるように関わった。
授業科目名【　　】

授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護科学学会 日本小児看護学会 日本新生児看護学会 遺伝看護学会		2009年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2010年10月～現在に至る 2010年10月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（報告書） １．遺伝医療に携わる看護師の遺伝医療用語に対するイメージ分析	共著	2014年6月	平成25年度西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉研究所報告書	①非医療従事者が遺伝医療用語に抱く言葉のイメージを明らかにした。 ②共同発表者：松下智美、飯野英親、大塚和良、樋口由紀子、原山裕子、時吉佐和子 ③p.14-15
（学会発表） 1．遺伝医療に携わる看護師と非医療従事者が抱く「染色体」に対するイメージ	共著	2014年10月	日本遺伝看護学会　第13回学術大会 (於　沖縄県琉球大学)	①遺伝医療に携わる医療者と非医療者の遺伝医療用語に抱くイメージを比較した。 ②共同発表者名：松下智美、飯野英親、大塚和良、樋口由貴子、原

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
２．早産となった母児との関わりを通して学生が経験したこと	共著	2014年11月	第24回日本新生児看護学会学術集会（於　松山市）	山裕子、時吉佐和子 ③日本遺伝看護学会誌 13巻1号，P.39 ①早産となった母児との関わりをとおして、母性看護から小児看護への継続した看護プロセスに気づく学生の経験を明らかにした。 ②共同発表者名：白石佳子、原山裕子 ③日本新生児看護学会講演集24回，P.135
３．稀少染色体異常児を養育する母親のQOL研究に関する基礎的検討	共著	2015年3月	西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所報告会（於　西南女学院大学）	①ダウン症者のQOLに関する研究の現状を調査した。 ②共同発表者名：飯野英親、武田康男、原山裕子 ③平成26年度西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所報告書，P.6-7

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
稀少染色体異常児を養育する母親のQOL研究に関する基礎的検討	西南女学院大学共同研究 研究期間：2014年4月～2015年3月	飯野英親、（武田康男）、原山裕子	213,780

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
プラダーウィリー症候群児の養育に関する日本版ガイドラインの作成とその妥当性の検証	文部科学省科学研究費　若手B 研究課題番号：24792532	1,500,000	2012年4月～2017年3月

社会における活動等

団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　　間　　等
JSISH-ITC 日本医療教授システム学会国際トレーニングセンター　AHA kitakyushu	BLS インストラクター	

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　丸山　泰子	職名　　助教	学位　修士(保健看護学)　川崎医療福祉大学　2011 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア　高齢者の排便ケア 祖父母的ジェネラティヴィティ 介護保険施設看護職の専門性

研　　究　　課　　題
・グループホームにおける排便ケアに関する研究を通し、認知症高齢者の健康管理について探求する。 ・要介護高齢者を対象に、要介護高齢者の祖父母的ジェネラティヴィティの発達について探求する。 ・介護保険に関連する施設・事業所に従事する看護職の役割や専門性について探求する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
成人・老年看護学演習（前期） 生活援助技術論（後期） 基礎看護活動論実習Ⅰ（後期） 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ（後期） 看護学（栄養学科）オムニバス形式（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　生活援助技術論演習　】 排泄（導尿）演習：学生が正確な滅菌操作と安全な導尿援助技術を習得することを目標に指導を行った。その際、学生同士で援助を受ける患者の思いや羞恥心をイメージするよう問いかけをしながら、コミュニケーションを活かした技術実践となるように意識して指導を行った。また、技術指導のみでなく、患者の安全・安楽・の配慮、実習室での学生の実習姿勢等に対しても具体的説明と注意喚起を行った。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】 １年生にとっては、初めて患者様を受け持っての本格的な臨床実習である。患者さんとの円滑なコミュニケーション、良好な関係性の構築を目標に、まずはその関わりが患者の負担になっていないか注意しながら、学生への支援を行った。プロセスレコードの振り返りでは、自分の関わりが患者に与える影響や自分の傾向・課題に自ら気づいていけるよう問いかけ、学生の気づきをもとに、共に検討していく姿勢での指導を心がけた。また、看護者もしくは学生として求められる態度・姿勢について、学生自身が考え、気づくことができるように認識を確認しながら指導を進めるよう心がけた。
授業科目名【　成人・老年看護学演習　】 看護過程演習：看護過程の基本的プロセスは学習済みであるため、アセスメントの充実に重点を置き、ゴードンの各パターンでの分析の視点や考えていくべきことが理解できているか、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかを確認した。またアセスメントと看護計画・実践が連動することを理解して学習が進められることを意識して指導することを心がけた。グループワークが進む中で、特に学生個々の理解が伴っているか個人に目を向け、個人ワークの進行具合に応じた指導を行った。 看護技術演習：ＡＤＬ援助技術の中で嚥下障害のある患者への摂食援助に関する演習を担当した。病態の理解とアセスメント（根拠）を踏まえての援助実践になっているか、確認をしながら行った。また、精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているか学生が考えながら演習できるように配慮した。

授業科目名【　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ　】

老年看護学実習Ⅰ：

・回復期にある高齢者との関わりを通し、高齢者看護の指導にあたった。学生が疾患のみでなく、老年期にある対象者の生活に目を向け、生活機能を中心に患者の全体像を捉えることができるよう助言した。世代の違い、立場の違いから学生が患者の身体や精神面の問題に対し、気づいていない部分もある。学生が自ら気づけるように問いかけ、考えたことがアセスメントにつながるよう指導に心がけた。

・コミュニケーション能力の低下している高齢者も少なくない。その際は、学生と患者との関わりの振り返りや、その時の患者の思いを想起することを促すなどして、患者理解が深まり、患者との良好な関係性の形成につながるよう意識して関わった。

・チーム医療、協働について学生の理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスや医師からの臨床講義など学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。

老年看護学実習Ⅱ：

・介護施設で生活をする高齢者を担当し、担当する高齢者を、疾患治療を行う入院中の患者ではなく、生活者として理解すること、生活機能の維持改善に向けた支援を学ぶことを目標とした指導を行った。特に、高齢者と関わりながら高齢者の生活史をたどることで、施設という生活の場で、高齢者が日々どのような思いで生活しているのか、生活の中で大事にしているものは何なのかなどに関心を向け、捉えることができるよう、実践の振り返りを重視した。学生個々の高齢者観が育まれることを意識して関わった。

授業科目名【　看護学（栄養学科）オムニバス形式　】

「COPD の看護」、「認知症の看護」、「要介護高齢者の生活を支える看護」の講義を担当した。栄養学科の学生を対象に、対象者の抱える健康問題を解説し、それに対し看護職がどのような視点で対象者を看て、看護していくのか、わかりやすく伝えることを意識して講義した。看護専門分野に関する内容では、自己の現場経験をおりまぜながら解説し、具体的なイメージや理解につながるよう努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本在宅ケア学会		2008 年 7 月～
日本看護研究学会		2010 年 3 月～
日本老年看護学会		2010 年 5 月～
日本看護科学学会		2011 年 6 月～
日本看護学教育学会		2012 年 5 月～
日本認知症ケア学会		2012 年 5 月～

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） １．認知症対応型共同生活介護入所者における排便ケアに関する考察 （示説）	共	2014年 月 30 日～6月1日	第 15 回日本認知症ケア学会大会 （於：東京国際フォーラム）	①グループホーム入所中の便秘症状を有する認知症高齢者を対象に、スタッフと共に排便ケアを実施し、その成果の検討を行った。排便状態を整えるためにも、高齢者の基本的な生活を整えることが重要であることが示された。しかし、認知症の方を対象にそのケアの継続することは容易ではなく、職員のサポート体制の整備が必要であることが示唆された。 ②共同研究者　吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代、原等子 ③第15回日本認知症ケア学会大会抄録集（p166）
２．認知症高齢者グループホーム職員における排便ケア介入前後の実践状況の変化 （示説）	共	2014年 11月30日	第 34 回日本看護科学学会学術集会 （於：名古屋国際会議場）	①　認知症高齢者グループホームに入所する高齢者の排便状況の改善を目指し、職員への排便ケアに関する研修実施や職員とケアの見直しを行うなど、介入を行い、その後の職員の排便ケア実践状況の変化を明らかにし、その要因を検討した。 ②　共同研究者　吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代、原等子 ③　第34回日本看護科学学会学術集会講演集（p556）
３．要介護高齢者の「気遣い」に着目した介入研究の可能性を探る－ハイデガーの解釈学的現象学を基盤として－ （交流集会）	共	2014年 11月30日	第 34 回日本看護科学学会学術集会 （於：名古屋国際会議場）	①　要介護高齢者の語りを通して、高齢者自らがジェネラティヴィティに気づいて生活することは高齢者自身の生活を豊かにし、また、ケア提供者もそれに気づくことでケアの質の向上につなが

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				るのではないかという仮説を立て、その検証のため要介護高齢者との継続的面談を実施した。その模様を事例とし、交流集会参加者と意見交換を行い、要介護高齢者の気遣いの世界に着目した介入研究の可能性を検討した。 ②　共同研究者　新木眞理子、神谷英二、東玲子、吉原悦子、丸山泰子 ③　第34回日本看護科学学会学術集会講演集（p467）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・老いを支える北九州家族の会 ・日本家族看護学会 第21回学術集会	 協力委員	2011.5 ～現在に至る 2014年8月1日～8月10日 （学会開催：8／9、10）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・実習コーディネーター： 2014年4月1日 ～ 3月31日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　松尾　綾	職名　　助教	学位　　修士（看護学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学	精神看護、家族、レジリエンス、 メンタルヘルス、語り、共感性

研　究　課　題
精神看護学に関して、青年期のメンタルヘルスに関する研究を行っている。メンタルヘルスと家族との関連やストレスや危機的状況からどのように回復していくのかについて、当事者の語りなどから研究している。現在は、本学の看護学生のレジリエンスを測定するとともに、半構造的インタビューを行うことで、学生自身が感じているこれまでのレジリエンス形成要因の実態を把握することとレジリエンスと問題解決行動の関連を明らかにすることを目的とした研究を行っている。また、精神科においては倫理的葛藤場面が多く、学生時からの教育が重要と考えられ、学生の共感性と倫理感の関連の研究を行っている。

担　当　授　業　科　目
精神看護学概論、精神看護方法論、精神看護学演習、精神看護学実習 広域看護活動論Ⅴ、広域看護活動論演習、広域看護学実習（精神看護学） 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、 基礎学習ゼミⅠ、基礎学習ゼミⅡ、

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【広域看護活動論演習（精神看護）、精神看護学演習】 　これまでの学習内容をもとに、事例を用いて看護展開を行っている。実習で用いる看護理論を用いて患者のセルフケアをアセスメントさせるとともに、問題点ばかりを探すのではなく、エンパワーメントや患者のQOLを伸ばすようなケアを考えることができるように助言した。実習に向けて具体的な場面をイメージできるように臨床のエピソードを交えた。学生のグループワークにおいては、グループ内の討議が活発になるように声をかけ、疑問点が整理できるように努め、グループ間でのディスカッションを促した。また、精神疾患を抱える患者の理解を深めるため、精神力動論的な視点を用いて助言を行った。
授業科目名【広域看護活動論実習（精神看護）、精神看護学実習】 ・学生が患者とのコミュニケーションを大切にし、患者の疾患や問題だけに捉われずに一人の人間として捉え、理解していくことのできるように指導を行った。また精神科の歴史的な背景や、患者の家族、ソーシャルサポート、社会復帰への視点を持って患者自身と患者を取り巻く環境を踏まえて、患者の身に寄り添って考えることができるよう助言した。患者の日々のケアでは、患者の現在だけでなく、患者自身の希望や今後の方針等も踏まえた関わりができるように指導を行った。 ・プロセスレコードで書き起こした場面に基づいて、学生と共に患者とのコミュニケーションについての振り返りを行い、自己洞察を深め、今後の関わりにつなげていけるように具体的な指導を行うよう努めた。 ・日々のレポートを通して、学生が実習での患者との関わりから何を考えているのかを論理的に表現することができるような指導を行うように努めた。 ・カンファレンスにおいて、学生が自由に自身の考えを表現し、グループ間で活発なディスカッションができるような雰囲気づくりを行った。 ・学生と指導者、各専門職との橋渡しを行い、学生が興味を持っていることや実習中に希望をすることが可能

な限りスムーズに実現できるように努めた。
授業科目名【精神看護学概論】 　精神科の社会的な背景や歴史を踏まえて、現在の精神疾患を取り巻く環境や偏見などを考えることができるように学生の意見を取り入れながらおこなった。
授業科目名【精神看護方法論】 精神科で取り扱う疾患や症状に関する看護に関して、スライドや DVD などの視覚教材を用いて具体的にイメージしやすいように工夫を行った。特に患者や当事者、家族の思いに触れられるような教材を使用し、看護としてどのように関わっていくのかを考えるように促した。精神科看護においては、看護師自身の言動や感情を振り返ることが重要であり、患者へのよりよい看護につながっていくことを、臨床における具体的なエピソードを交えながら講義し、3 年時の実習との連続性を持てるように努めた。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 初学者であるため、実際の臨床現場の雰囲気を感じ、患者とのコミュニケーションを図れるように指導を行った。また、これまでの学習内容およびそれぞれの学生の学習状況に応じて、実際の受け持ち患者の状況を学習内容から理解できるような助言に努めた。臨床指導者とも連携を図り、患者の状況や学生に学習振興に応じた実習展開ができるように調整を行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅰで学んだコミュニケーションと関係性作りをベースとして、患者とのコミュニケーションを図ることができるように指導を行った。学生が患者とのコミュニケーションで得た情報をこれまでの学習内容と関連して考えることができるように、学生の学習状況を把握し、それぞれの学習内容から理解できるような助言に努めた。学生が主体的に看護実践を行えるような環境を整えるために、臨床指導者との連携を図った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本うつ病学会 日本精神科看護技術協会 日本看護科学学会 日本精神保健看護学会		2009 年 4 月～現在に至る 2009 年 6 月～現在に至る 2011 年 4 月～現在に至る 2011 年 7 月～現在に至る 2013 年 7 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） レジリエンスと問題解決に向けた行動特性との関連―看護大学生のインタビューからの比較検討―	共著	2015	西南女学院大学紀要 vol.19	①看護学生の語りからレジリエンス高得点群、低得点群における問題解決行動モデル検討した。レジリエンス高得点群 10 名、低得点群 9 名に分け、半構造的インタビューを行った結果、高得点群は、困難な問題に直面した際には解決へ積極的に

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				行動していた。周囲のサポートを意図的に利用して問題を解決することでサポートへのポジティブな認識を高め、将来への具体的でポジティブなイメージを持つことができていた。一方で低得点群は解決そのものへの諦めやサポートへの受動的な姿勢がみられ、問題を誰にも相談できずに自分で抱えこみ、その結果問題解決できない経験をしていた。 レジリエンス高得点群と比べて、レジリエンス低得点群では、自己肯定感を低め、問題解決へのあきらめやサポートをうまく利用できないことを繰り返していた。しかし、その中でもサポートを求めており、適切なサポートを行うことで、成功体験を重ねることが低得点群の自己肯定感を高める可能性があると考えられる。 ②共同研究者：松尾綾、前田由紀子 ③西南女学院大学紀要 vol.19 2015 (P27～36)
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
第27回介護福祉国家試験（実技試験）	実地試験委員	平成27年2月28日（土）～ 平成27年3月1日（日）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 2年生アドバイザー

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　松下　智美	職名　　助教	学位　　修士（保健学）（山口大学 2011 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学 ， 遺伝看護学	慢性期看護 ， 糖尿病教育・看護 ， 生活習慣病 ， 多因子遺伝 ， 遺伝医療用語

研　究　課　題
・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・遺伝医療用語に対するイメージ分析 ・2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究

担　当　授　業　科　目	
成人・老年看護学演習	(看護学科)
成人慢性期看護学実習	(看護学科)
感染と免疫	(看護学科)
看護技術論	(看護学科)
生活援助技術論	(看護学科)
基礎看護学実習Ⅰ	(看護学科)
基礎看護学実習Ⅱ	(看護学科)
看護学	(栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　成人・老年看護学演習　】 看護過程演習では、看護過程を対象にあわせて応用する力を身につけ、知識に基づいた根拠のある看護が展開できるよう、グループワークの指導に加えて毎回の個別指導を細やかに行い、思考過程をトレーニングするように努めた。 技術演習では、患者教育やケア提供の際に看護者として必要な知識は何かということや、配慮すべきポイントは何かを意識付けることを念頭に置いて指導を行った。
授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】 特に、①患者を的確にアセスメントするために必要な情報を思考すること、②現状分析のみでなく、今後起こり得ることを見通して看護上の問題点を明確にすること、③治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護が実践できるよう指導、サポートを行った。 また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように配慮した。
授業科目名【　感染と免疫　】 初回の実習であるため、身だしなみを整えることや、グループメンバーと協力しあえるよう指導した。また、手指・鼻腔・口腔の細菌観察を通して、細菌は身近に存在することやその特性を知ってもらい、医療現場における消毒・洗浄の必要性へと結び付けて考えられるように導いた。
授業科目名【　看護技術論　】 初学者であることを念頭に置き、看護者と患者の双方の視点から安全・安楽について着目し、看護師としてどのような配慮が必要か考えることができるように助言した。技術の面では、まだ十分に習得できていない部分は実際に手本を見せ、自己練習に結びつくように導いた。

授業科目名【　生活援助技術論　】 導尿の技術に関する無菌操作について、その根拠と手技の留意点が意識されるように指導した。また、患者役,看護師役などの経験をとおしての気づきをグループ間で共有できるように誘導した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】 看護学生として初めて受け持ち患者を担当するため、患者とのコミュニケーションがスムーズに取れるようサポートした。また、受け持ち患者、グループメンバー、臨床指導者、教員との関わりを通して、自己の傾向に気づき、看護学生に求められる態度や責任について考えられるように導いた。さらに、入院による環境の変化や、疾患および治療が日常生活行動にどのような影響を及ぼしているかを考え、患者が生活者であることに気づくことができるように導いた。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】 実習を通して、患者はそれぞれ、さまざまな人生観をもつ一人の生活者であることを感じ取れるよう関わり、個別性のある看護の必要性がわかるよう指導した。また、受け持ち患者への看護の方向性を言語化することができるよう指導した。日常生活援助の実践においては、安全・安楽・自立の視点をどのように取り入れるのか具体的に指導を行った。コミュニケーションにおいては、目的をもったコミュニケーションの方法を見出すことができるようにサポートした。
授業科目名【　看護学　】 主に慢性疾患（糖尿病、腎臓病、がん）に関する基本的病態・メカニズムと症状に照らし合わせながら看護を解説した。また、保健福祉医療チームにおける看護と栄養の専門職間の連携の必要性や具体的内容について説明することで、今後の栄養の専門職としての活動に結び付けられるように努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） １．遺伝医療に携わる看護師と非医療従事者が抱く「染色体」に対するイメージ	共	2014.10	日本遺伝看護学会第 13 回学術大会（於：琉球大学）	①遺伝医療に携わる看護師と非医療従事者の遺伝医療用語に抱くイメージを比較した。t検定で有意差があった形容詞対から医療者と非医療者間のイメージで乖離している部分を明らかにし，今後の遺伝医療教育の基礎的資料を得た。 ②共同発表者名：松下智美，飯野英親，大塚和良，樋口由貴子，原山裕子，時吉佐和子 ③日本遺伝看護学会第13回学術大会　講演集（P39）
２．2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の予防行動に及ぼす影響	共	2014.11	第 34 回日本看護科学学会学術集会（於：名古屋国際会議場）	①2型糖尿病の遺伝に関する知識や血縁者における糖尿病患者の存在の有無が予防行動に影響を与えているかについて分析した。抽出されたカテゴリから，糖尿病患者の予防行動に影響を与える要因を明らかにし，糖尿病の予防教育への示唆を得た。 ②共同発表者名：松下智美，辻野久美子 ③第34回日本看護科学学会学術集会　講演集（P633）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・第 27 回介護福祉士国家試験	実地試験委員	2015 年 2 月 28 日・3 月 1 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　佐藤　　優	職名　　助教	学位　　修士（公衆衛生学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
公衆衛生学・公衆衛生看護学	介護予防・事業のアウトカム評価 乳児家庭全戸訪問・子育て体制の整備・主任児童委員

研　　究　　課　　題
１．介護保険法における介護予防事業について、その事業のアウトカム評価を行い、事業の長期的な効果について考察する。 ２．乳児家庭全戸訪問事業に携わる主任児童委員が直面している問題について明らかにし、今後の支援課題について検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
広域看護活動論演習（3 年生：前期） 広域看護活動論実習（3 年：後期　～　4 年：前期） 公衆衛生看護学概論（2 年生：前期） 診療関連技術論（2 年生：前期） 看護研究の基礎（3 年生：前期） 在宅看護学演習（3 年生：前期） 在宅看護学実習（3 年生：後期） 基礎看護学実習Ⅰ（1 年生：後期） 基礎看護学実習Ⅱ（2 年生：前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　広域看護活動論演習　　】 人口静態・人口動態・死亡・出生といった、公衆衛生及び疫学、保健統計の基礎となる指標の理解ができるよう、4 名の少人数制で個々の理解に合わせて指導を行った。年齢調整死亡率については実際にエクセルを用い、計算を実施させることで年齢調整の手法について学べるよう取り組んだ。また、旧カリキュラムの学生であることから、グループワークにおいては学生間のコミュニケーション状況や理解に応じ、教員側から課題を与えるなどして対応した。
授業科目名【　　広域看護活動論実習　　】 主体性や思考力を育てるため、公衆衛生における考え方や視点に関する説明に努め、指示的な説明や解説は避けた。また、実習前の事前学習では、健康教育の準備も含めて、情報のアセスメント・解釈を支援するために、時間外での指導も取り入れた。なお実習中は、適宜、現場の保健師とのコミュニケーションを図り、学生の理解や学びの進捗を学生指導担当者と打ち合わせながら、適切なタイミングで学生への助言ができるように努めた。
授業科目名【　　公衆衛生学看護概論　　】 公衆衛生における保健師の役割について、イメージしやすくなるような具体例を用いて解説を行った。また、図や写真などを多用し、感覚的な理解が促進されるように配慮した。国際保健医療における、公衆衛生上の問題点を提示し、既存の看護職の概念に留まらないグローバルな健康課題への取り組みに興味・関心がいだけるように、具体的な事例や経験等を中心とした講義を展開した。

授業科目名【　　診療関連技術論　　】 臨床における基本的な考え方が身につくよう、またケアを受ける側の気持ちや印象に目を向けることができるように、適宜、質問を投げかけ、自己の行為に関して思考する機会を与えるように努めた。また、単回の補助であったため、事前に教科担当教員に学生の状況を確認し、これまでの経過を考慮しつつ演習にあたった。
授業科目名【　　看護研究の基礎　　】 学生の科学的な思考を支援することを目的として、学生らの思考にそって質問を投げかけるように努めた。グループでの作業が主であったため、グループ内の学生が全員参加しているかどうかに配慮しつつ、参加が薄い学生が発言できるよう、質問等を用い、学生の姿勢・思考が刺激されるよう努めた。
授業科目名【　　在宅看護学演習　　】 在宅看護における専門性や視点を育むために、学生の経験や知識を確認しながら指導を行った。保健医療福祉制度について苦手な学生が多かったため、必要に応じ内容を簡略化して伝えるなどの工夫を行ったが、実習に向けた姿勢を整える目的で、参考図書などを紹介した。
授業科目名【　　在宅看護学実習　　】 実習で体験した内容から、在宅看護における専門性や視点を実感できるように、学生の話（学びや感想）を聞くことに努めた。また、その経験を通してさらに考えるべきことなどの質問を投げかけ、自身の体験を基盤とした気づきができるよう指導した。
授業科目名【　　基礎看護学実習Ⅰ　　】 一年次に学んだ看護に関する知識を想起させることを念頭に置き、指導や助言に合わせて、質問や疑問を学生に投げかける方針で支援した。専門職としての基礎的な態度・姿勢を身に着けるため、一度だけでなく、繰り返し伝えるように努めた。また、臨床の看護師に積極的に報告・連絡・相談をするように学生を促した。
授業科目名【　　基礎看護学実習Ⅱ　　】 学生個人の特性を生かしつつ看護の基本的な視点や判断を学ぶため、一人ひとりの学力や個性・思考に沿った指導を行うよう努めた。また、リーダーシップを発揮できる学生や発言が苦手な学生など、個々の課題に応じて個人面接等を行い、学生の資質の向上を目指して、実習指導者と指導の方向性を確認しつつ実習を進めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会 日本国際保健医療学会 日本公衆衛生看護学会		平成 2008 年～現在 平成 2013 年～現在 平成 2014 年～現在

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） １．第73回日本公衆衛生学会総会		2014年11月5～7日	日本公衆衛生学会	
1）K市における二次予防事業の評価（1）～事業実施後5年間の時間解析からの考察～	共			1）北九州市の二次予防事業について、事業参加後の要介護認定状況を分析し、事業の効果について発表を行った。 共同発表者；佐藤優、伊藤直子 鹿毛美香
2）K市における二次予防事業の評価（2）～要介護認定後の生命予後との関連～	共			2）北九州市の二次予防事業について、事業参加後の要介護認定者について、その死亡状況を分析し、事業の効果について発表した。 共同発表者；鹿毛美香、伊藤直子 佐藤優
２.第3回日本公衆衛生看護学会		2015年1月10～11日	日本公衆衛生看護学会	
1）乳児全戸訪問事業に携わる主任児童委員の今後の支援課題～事業効果に対する認識と活動状況の関連から～	共			1）北九州市のこんにちわ赤ちゃん事業に従事する、主任児童委員の事業に対する認識について調査し、その結果について報告した。 共同発表者；布花原明子、佐藤優
2）主任児童委員の乳児全戸訪問事業に対するポジティブな経験の特徴と今後の事業課題	共			2）北九州市のこんにちわ赤ちゃん事業の訪問者である、主任児童委員が事業において経験したよかった体験について質的にまとめ報告した。 共同発表者；布花原明子、佐藤優

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
第 27 回介護福祉士国家試験（実技試験）	実地試験委員	2015 年 2 月 28 日～3 月 1 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．実習コーディネーター ２．開学２０周年記念『乙武洋匡さん講演会』会場準備委員 ３．日本私立看護系大学協会の幹事校におけるセミナー担当

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　水原　美地	職名　助手	学位　学士(福祉経営学)　日本福祉大学 2007 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
地域看護学	地域生活者，エンパワメント，ケアマネジメント，社会資源

研　　究　　課　　題
現代社会において、地域で生活する様々な人々の健康について現状を把握し、エンパワメントを志向したケアマネジメントの必要性と、求められる社会資源についての考察

担　　当　　授　　業　　科　　目
感染と免疫、　成人老年看護学演習、　診療関連技術論、　広域看護活動論実習、　在宅看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ、　基礎看護活動論実習（Ⅱ）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　感染と免疫　】 細菌の分離と消毒効果の演習の中で、薬液の濃度計算の指導や、手洗い等の実演と説明を行った。 入学して間もない学生たちであり、計算問題は、学生間をラウンドし理解度を確認する声掛けを頻繁に行い、疑問を表出しやすいよう努めた。理解の困難な学生には、マンツーマンで計算を一緒に行い理解を深めた。
授業科目名【　成人・老年看護学演習　】 血糖測定・インスリン注射と、術直後の観察の演習で関わった。学生は、動画や事前課題で事前学習が指示されており、そのため演習内容の理解はほぼ良好であった。事前学習をしていない学生は理解スピードが遅かったが、ひとつずつ手順と根拠を一緒に確認しながら演習を進めていった。
授業科目名【　診療関連技術論　】 呼吸を整える看護技術の演習で、上気道(鼻腔口腔)吸引の実技演習でかかわった。この実技は臨床で繁用され、かつ、身体侵襲の大きな技術であるため、演習の中では、患者の安全を守ることを第一に強調し、また院内感染に配慮した物品の取り扱いにも注意を促した。
授業科目名【　広域看護活動論実習　】 実習の事前調整では、16 か所の実習施設の特性と実習指導者の特徴、学生の特徴や住所などを勘案し、実習配置とグループ編成を行った。実習施設ごとの事前打ち合わせでは、受け持たせて頂く療養者のカルテ情報収集に加え、療養者宅に同行訪問させて頂き、私自身が療養者の理解を深めて実習に臨んだ。 実習期間中は、学内面接と指導者との学習状況の確認と指導内容の調整、実習カンファレンスに出席した。病棟とは異なり、長期にわたり慢性期の療養生活を送る療養者のニーズを導き出すことが困難な学生が多かったため、臨地指導者と連絡を密にはかるとともに、必要に応じて、実習施設に訪問しカルテを見ながら学生とディスカッションの上、訪問看護師とディスカッションが行えるよう働きかけ、思考を整理できるよう導いた。

授業科目名【　在宅看護学演習　】

新カリキュラム初めての演習であった。在宅看護過程の事例展開演習と、居宅サービス計画書を提示し月額利用料の計算する演習に加え、今年度は本学付近の井堀地区の社会資源を整理させ地域ケアシステムを図式化する演習が加わった。

看護過程と居宅サービス計画書の演習の事例を作成を担当したが、訪問看護実習で出会った実在の療養者をモデルとし、情報提供時には自宅の見取り図や、療養者の外観をイラストで示し、学生が在宅療養をイメージしやすいよう工夫した。

また社会資源の図式化の演習では、学生の苦手な社会資源の知識の基礎を学び、実習の際にマネジメントプランを考えるための基礎となるものであることを伝え、学習意欲を高めた。

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】

コミュニケーション実習ではあるが、その前提となるタイミングをつかむことを実習前半は大事にしてかかわった。患者のスケジュール、病棟スタッフの勤務時間等のスケジュール、学生メンバー間の実習チームとしてのスケジュール、臨床指導者・大学側指導者のスケジュールを頭に入れて行動計画を細かくあげるよう助言した。

学生と受け持ち患者との関係性を観察するとともに、学生不在時に受け持ち患者の学生に対する意向を確認し、臨床指導者との情報交換を総合的に判断し、必要時学生の行動修正を促した。

授業科目名【　基礎看護活動論実習（Ⅱ）　】

地域包括ケア病棟での実習であったため、学生たちは退院を控えた患者を受け持った。実習３日目までにアセスメントを仕上げることを繰り返し説明したため、学生はほぼ仕上げてきた。それによって落ち着いて患者のニーズや必要な看護援助を導き出し、記録として表現した上で技術の実施をすることができた。

看護技術の計画に関しては、演習や授業で学んだ基本的手順ではなく、患者の身体状況のみならず、個々で異なる退院後の生活環境に合わせたものとなるよう助言した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		2008年４月～現在に至る
日本社会福祉士会		2009年４月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2010年４月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2012年９月～現在に至る
日本看護技術学会		2013年４月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
福岡県社会福祉士会　災害支援部会 第 27 回介護福祉士国家試験（実技試験）	部会委員 実地試験委員	2013 年 8 月～現在に至る 2015 年 2 月 28 日、2015 年 3 月 1 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
◆4 年生対象の保健師国家試験対策に関する業務 保健師国家試験に向けての強化学習に関する支援を行った。受験者全員が合格した。 ◆物品管理委員 　看護学科全員が使用可能な物品の所在、数を明らかにし、活用しやすい場所に配置し、貸借の対応をした。年度末に、学科共通で使用している物品で施設課にて備品管理されているものうち、故障したものや長期間不使用となっている物品を取りまとめて廃棄し、整理した。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　本田　輝子	職名　　助手	学位　学士（看護学）（西南女学院大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護教育 がん看護	・技術演習の安全（アレルギー反応の予防） ・適応　・Mastery

研　究　課　題
・看護技術演習における学生の安全確保のための方法について探求する。 ・がん患者の適応を促進・阻害する要因を明らかにする。

担　当　授　業　科　目
・看護技術論 ・生活援助技術論 ・ヘルスアセスメント ・診療関連技術論 ・看護過程論 ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護のための臨床検査 ・看護形態機能学Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目【看護技術論】 この科目で担当した演習は、ベッドメイキングやシーツ交換など看護師の仕事と認識しにくい援助であったため、なぜ看護師が実施することが望ましいのかが伝わるように心掛けた。また、看護師として身だしなみ整えるということを繰り返し指導した。早期看護実習では学生の発見する力や気づく力が発揮できるように、学生が安心して実習に臨めるような声掛けや雰囲気づくりを心掛けた。
授業科目【生活援助技術論】 演習全般において実習室内の配置、使用物品の準備等、学生の演習環境を整えた。また、学生が患者像をイメージできるように説明しながら、各技術項目のポイントを押さえていった。デモンストレーションを実施するときは、学生に伝わりやすい方法を考え適宜改善していった。患者の立場に立った援助が考えられるように、患者体験からの学びを学生に意識づけできるよう関わった。
授業科目名【ヘルスアセスメント】 看護形態機能学で学習した知識と関連させながら技術の実施ができるように、学生の理解度を確認しながら技術指導を行った。すべての項目を統合して患者の全身をアセスメントすることを学生が理解できるよう心掛けた。
授業科目名【診療関連技術論】 演習にあたっては、実習室内の配置、使用物品の準備等、学生の学習環境を整えた。注射など侵襲を伴う看護技術演習については、患者の安全・安楽はもちろんのこと、看護師自身の安全も考慮した技術が習得できるよう指導をおこなった。

授業科目名【看護過程論】 　看護課程のプロセスを学生が理解できるように、毎回グループワークを開始する前に構成要素を振り返り、どのプロセスを実施するのかを確認した。看護過程の展開については、正常な身体機能が障害されるとどうなるかという視点で疾患が理解できるようにし、身体面のアセスメントにつなげた。心理面と社会面についても発達課題などの既習の知識を活用し患者を理解できるよう指導をした。また、学習が効果的に進むように、個人指導とグループワークを適宜選択しながら指導をおこなった。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 　学生がコミュニケーションを通して自己の傾向を振り返られるように、プロセスレコードの指導において、気づけている点、気づけていない点を確認しながら指導した。また、明らかになった自己の傾向を活かしながら、患者の日常生活上のニーズを把握することを目的としたコミュニケーションがとれるよう指導した。看護師としての姿勢や態度についても、患者の反応や病棟スタッフのご指導をふまえ実感として残るような指導を心掛けた。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 　初めて実際の患者で看護過程を展開するため、学生の気がかりから重点をおく領域をしぼり情報収集が効果的に行えるよう指導した。アセスメントの方法は看護過程演習を想起させ、生活者として患者を理解できるよう指導した。計画立案から実際の援助については、一般的な援助方法を立案する学生が多かったため、アセスメントを共に振り返りながら、実際に患者に援助を行う場面を想像し修正を加えていった。
授業科目名【看護のための臨床検査】 　心電図の演習では、限られた時間の中で、羞恥心に配慮して患者の準備を整えること、正確な位置に電極を装着できることに焦点を当てて指導した。また、心臓の機能の刺激伝導系の知識と結びつけることに留意した。
授業科目名【看護形態機能学Ⅱ】 　解剖実習見学においては、過度な緊張、気分不良等生じる学生がいるため、学生の表情や行動に注意して関わった。見学中は学生の学びが深まるよう発問した。骨学実習では、学生と共に見学し、学生が既習の知識をさらに深めることができるよう発問した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会 日本看護科学学会 日本看護技術学会 日本がん看護学会		2011.4～現在まで 2011.７～現在まで 2012.6～現在まで 2014.5～現在まで

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）　なし				
（学術論文）なし				
（翻訳）　なし				

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 1.看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を起こした看護学生の経過と課題	共	2014.8	日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会（於　熊本県立劇場）	①ラテックス製手袋にてアレルギー症状を起こした事例の経過報告より、実習での教員と臨地指導者との情報共有の重要性が示唆された。 ②共著者名　末光順子、梶原江美、飯野英親、岩本テルヨ、小田日出子、本田輝子、浅野嘉延 ③第45回日本看護学会論文集　ヘルスアセスメント（p105）
2.measuring Caring Ability of Nursing Students: A pilot study	共	2014.5	35th International Association for Human Caring Conference（於 京都国際会議場）	①Caring Ability Inventory日本語版を作成し、看護学生を対象にパイロットスタディを実施した。表面妥当性について検討した結果、尺度の開発に向けて質問項目の見直しが必要となった。 ②共同発表者　小野聡子、本田輝子、梶原江美、飯野英親、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ ③35th International Association for Human Caring Conference（p41）
3.Relationship Between the Risk Factor of Latex Allergies and Rubber Products in Daily Use By the Japanese Nursing Students	共	2014.7	25th International nursing research congress（於　香港）	①看護学生のラテックスアレルギーのスクリーニングの一つとして、アトピー性皮膚炎が挙げられることが示唆された。 ②共同発表者　梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ、浅野嘉延 ③25th International nursing research congress（p96）
4.看護技術教育におけるe ラーニング教材開発の内製化に関する課題と解決策の検討	共	2014.8	日本看護学教育学会第 24 回学術集会（於千葉　国際会議場）	①内製化により、制作コストを抑えた文字、写真の静的コンテンツと動画コンテンツ両方のメリットを生かした教材の開発が可能となった。 ②共同発表者　大塚和良、末光順子、本田輝子、小野聡子、梶原江美、飯野英親 ③第 24 回日本看護学教育学会　学術集会抄録集（p167） 教育研究業績　総数（2015.3現在） 学術論文　6（内訳　単0、共6） 学会発表　12（内訳　単0、共12）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○本田輝子 小野聡子 飯野英親 梶原江美 小田日出子 岩本テルヨ 末光順子	129,900 円
Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○小野聡子 飯野英親 梶原江美 末光順子 本田輝子 小田日出子 岩本テルヨ	197,000 円
SNS を統合したｅラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学共同研究費	○大塚和良 東玲子 伊藤直子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 村山由起子 清村紀子 梶原江美 高橋甲枝 相野さとこ 小野聡子 末光順子 本田輝子	1,605,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・2014 厚生部学校委員：幹事会への出席。 ・学生募集関連担当（ブログ等運営）：入学式や卒業式等のイベント、オープンキャンパスの紹介、学内演習に加えて、実習や卒業生の活躍を紹介。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　末光　順子	職名　　助手	学位　学士（比較文化学）（北九州市立大学） Bachelor of Comparative culture

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護教育	・視聴覚教材の活用 ・看護技術の習得方法 ・技術演習の安全（アレルギー反応の予防）

研　究　課　題
・看護学生が看護技術を習得するための有効な方法を検討する。 ・看護技術演習での学生の安全を確保するための方法について探求する。

担　当　授　業　科　目
・看護技術論 ・生活援助技術論 ・ヘルスアセスメント ・診療関連技術論 ・看護過程論 ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護のための臨床検査 ・看護形態機能学Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目【看護技術論】 1 年次ベッドメーキング等実習室での最初の演習科目である。分かるできるを実感し今後の学習へモチベーションに繋がるように、個々の学生に声掛けをして一緒に実施していった。初めての臨地である早期看護実習は学生にとって、大きな学びの機会であると同時に緊張感を強く持つ。巡視で学生の表情に気を配り声をかけて、学生が安心して実習に臨めるように配慮した。
授業科目【生活援助技術論】 円滑に演習が実施されるように必要物品の準備や AV 機器の調整等を行った。主に担当させて頂いた清潔（洗髪・足浴）の演習では、実習で行われる機会の多い洗髪台での洗髪や座位での足浴の演習を充実させた。また、これまでの kaname net の視聴覚教材に加え、学生の要望に応え陰部洗浄や口腔吸引等の動画を作成した。安全面への配慮として、初めてラテックス製手袋を使用するため、ラテックスアレルギーのハイリスク者を抽出し、該当学生にはラテックスフリー手袋の使用を指導した。
授業科目名【ヘルスアセスメント】 ヘルスアセスメント演習は、患者を観察し理解する上で重要となる演習である。演習で手順を追うだけにならないように、既習の看護形態機能学を想起させ、観察の意味を考える視点を持つように指導した。実技試験での自己練習では、根拠等を発問し考えながら行うように関わった。
授業科目名【診療関連技術論】 演習全般において必要物品の準備や AV 機器の調整等、学生の学習環境を整えた。安全面では、注射器や採血等の針を初めて使用するため、取扱いの注意点を具体的に指導した。主に担当させて頂いた酸素療法では、他の酸素ボンベや呼吸法の担当教員と指導内容を打ち合わせを、関連づけるように指導した。

授業科目名【看護過程論】 看護過程は、既習の知識や調べ学習を行い患者理解、看護問題、援助計画するプロセスで知識や思考の総合的な力が求められる。各学生の学習とメンバー間の意見交換により理解を深めていくが、学生の知識やモチベーションの差が大きく、グループワークの指導に苦慮した。テキストや資料の活用や思考過程を身に付けること、学習を継続する力を持つことを個々の学生に対して繰り返し指導した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 初めて患者を受持ち、患者との関わりを振り返る中で対象を理解することの重要性を学ぶ実習である。学生のプロセスレコード等の記録や面談を行い指導した。認知機能が低下した患者を「同じことを繰り返し話す」「どうせ分からない」と捉えていた学生に対して、共に患者と接し患者の言動の意味を考え、対象者を尊重することを考える機会とした。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 看護過程、患者ケアを実施する実習である。そのため、援助の機会が多い技術（陰部洗浄等）の視聴覚教材を作成、“kaname net”にアップして事前の技術練習に活用した。実習期間中は、学内での看護過程論の学びを生かし、個々の学生の進捗状況に応じた指導を行うように心がけた。また、臨地実習指導者との連携を図り、学生の進捗状況を確認し、患者理解に時間を要している学生に対して具体的な助言を頂き、患者理解とケアに結びつけた。
授業科目名【看護のための臨床検査】 心電図の演習で、正確に検査を実施すること、心臓の機能の刺激伝導系の知識と結びつけることに留意した。また、学生同士の実施の際に、胸部の露出を少なくし羞恥心への配慮を行った。
授業科目名【看護形態機能学Ⅱ】 解剖見学実習では、死者と接するということから、緊張が強い学生や恐怖心を抱く学生がいる。そのため、学生が気持ちを表出しやすいように声かけを行い、不安そうな言動がみられる学生に寄り添った。恐怖心を強く訴えた学生には無理強いをせず、学生の気持ちを聞きながら共に解剖見学を行った。その後、恐怖心が薄らぎ学生メンバーと共に見学できていた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護倫理学会 日本看護学教育学会 日本看護科学学会 日本看護技術学会		2011.2～現在に至る 2011.4～ 2011.７～ 2012.6～

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1.看護師の対応について手術を経験した変形性股関節症患者が認識するプロセス	共	2015.	西南女学院大学紀要	①変形性股関節症患者との面接より、看護師の対応を患者がどのように認識しているのかを明らかにした。 ②共同発表者　梶原江美、岩本テルヨ、小野聡子、小田日出子、末光順子、飯野英親、田中愛子 ③西南女学院大学紀要 vol. 19, 2015（p15～25）
（翻訳）なし				

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 1.看護技術演習中にラテックス製手袋を装着してアレルギー症状を起こした看護学生の経過と課題	共	2014.8	日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会（於　熊本県立劇場）	①ラテックス製手袋にてアレルギー症状を起こした事例の経過報告より、実習での教員と臨地指導者との情報共有の重要性が示唆された。 ②共著者名　末光順子、梶原江美、飯野英親、岩本テルヨ、小田日出子、本田輝子、浅野嘉延 ③第45回日本看護学会論文集　ヘルスアセスメント（p105）
2..measuring Caring Ability of Nursing Students: A pilot study	共	2014.5	35th International Association for Human Caring Conference（於 京都国際会議場）	①Caring Ability Inventory日本語版を作成し、看護学生を対象にパイロットスタディを実施した。表面妥当性について検討した結果、尺度の開発に向けて質問項目の見直しが必要となった。 ②共同発表者　小野聡子、本田輝子、梶原江美、飯野英親、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ ③35th International Association for Human Caring Conference（p41）
3.Relationship Between the Risk Factor of Latex Allergies and Rubber Products in Daily Use By the Japanese Nursing Students	共	2014.7	25th International nursing research congress（於　香港）	①看護学生のラテックスアレルギーのスクリーニングの一つとして、アトピー性皮膚炎が挙げられることが示唆された。 ②共同発表者　梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ、浅野嘉延 ③25th International nursing research congress（p96）
4.看護技術教育におけるe ラーニング教材開発の内製化に関する課題と解決策の検討	共	2014.8	日本看護学教育学会第 24 回学術集会（於千葉　国際会議場）	①内製化により、制作コストを抑えた文字、写真の静的コンテンツと動画コンテンツ両方のメリットを生かした教材の開発が可能となった。 ②共同発表者　大塚和良、末光順子、本田輝子、小野聡子、梶原江美、飯野英親 ③第24回日本看護学教育学会　学術集会抄録集（p167）
				教育研究業績　総数（2015.3現在） 学術論文　7（内訳　単０、共7） 学会発表　14（内訳　単０、共14）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
看護学生の臨地実習病院における教育環境の実態調査	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○本田輝子 小野聡子 飯野英親 梶原江美 小田日出子 岩本テルヨ 末光順子	129,900 円
Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○小野聡子 飯野英親 梶原江美 末光順子 本田輝子 小田日出子 岩本テルヨ	197,000 円
SNS を統合したｅラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学共同研究費	○大塚和良 東玲子 伊藤直子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 村山由起子 清村紀子 梶原江美 高橋甲枝 相野さとこ 小野聡子 末光順子 本田輝子	1,605,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
介護福祉士国家試験監督	実技試験監督	2014 年 2 月 28 日、3 月 1 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

・2014 教職員懇談会：懇談会への参加及び、出席の声かけを実施。
・物品管理委員：これまでの看護学科での物品管理係の役割である実習室・標本室の物品管理、看護学科所有物品（実習室・標本室以外）、演習・実習に関する物品の購入及び管理に加えて、借用物品の管理等の業務整理や明記を行った。
・学生募集関連担当（ブログ等運営）：入学式や卒業式等のイベント、オープンキャンパスの紹介、学内演習に加えて、実習や卒業生の活躍を紹介。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　樋口　由貴子	職名　　助手	学位　学士（西南女学院大学　2002 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障害児、家族支援

研　究　課　題
・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・ワクチンで予防可能な小児期感染症の感染予防対策について考察する。 ・発達障害児とその家族への支援について考察する。

担　当　授　業　科　目
小児看護学演習（前期）（看護学科） 小児看護学実習（後期）（看護学科） 母性看護学演習（前期）（看護学科） 診療関連技術論（前期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科） 生活援助技術論（後期）（看護学科） ヘルスアセスメント（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学演習　】 学生が実習で経験しやすい疾患と場面を事例として提供し、ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習をおこなった。事例検討では、図書の調べ方や本の利用方法について学生の疑問から説明し、実践した。患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開ができるように工夫した。また、患児だけでなく、児の家族にも焦点をあてた看護を常に発問し意識付けをおこなった。 実技演習では、根拠と工夫することの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助した。
授業科目名【　小児看護学実習　】 学生が形態機能や病理学など基本に戻り、そこから疾患の特徴、一般的な治療と児の一般的な発達を学習できるよう関わった。臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドに、まず一緒に行き、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、達成できるよう支援を求めた。臨床実習の中で、学生がもった「疑問」・「気付き」を一日の終わりに話し、そこから明日の看護に結びつける課題を見出せるよう援助した。報告・連絡・相談をおこない、グループとしての活動の重要性についても指導した。
授業科目名【　母性看護学演習　】 演習では、新生児の解剖生理学に基づき技術の根拠となる考え方とそれを実践する方法について説明し、学生が理解し実践できるよう援助した。

授業科目名【　診療関連技術論　】 　技術の根拠と工夫することの重要性について説明し、学生が根拠を考えながら実施できるように工夫した。また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージしやすいように援助した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】 　　臨床実習では、学生としての身なり・行動や、個人情報取り扱いの注意について指導した。 また、自分のしたい看護、できる看護をしようとするのではなく、患者さまを実際に見て、触れて感じたことから患者さまに必要な看護を導きだすよう指導した。 　また、カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。
授業科目名【　生活援助技術論　】 　技術の根拠と工夫することの重要性について説明し、学生が根拠を考えながら実施できるように工夫した。また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージしやすいように援助した。
授業科目名【　ヘルスアセスメント　】 　解剖生理学に基づき、患者を診る方法について指導した。 実際にあった臨床場面を例にだし、学生が実際の患者さんをイメージし、技術をおこなえるように指導した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		平成 14 年 4 月（現在に至る）
日本小児看護学会会員		平成 21 年 1 月（現在に至る）
日本小児保健協会会員		平成 21 年 4 月（現在に至る）
日本環境感染症学会会員		平成 22 年 10 月（現在に至る）
北九州医療保育士ネットワーク		平成 23 年 3 月（現在に至る）
日本母性衛生学会会員		平成 25 年 6 月（現在に至る）
日本看護科学学会会員		平成 25 年 6 月（現在に至る）

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1．保育園における感染症対策の検討－福岡県内の１保育園をモデルにした予防接種率向上への取り組み－	共	2014．7	2013 度西南女学院大学　附属保健福祉学研究所報告書	①福岡県内の１保育園の園児とその保護者を対象に予防接種と感染症の情報提供をおこない、予防接種率向上に向けた効果的な方策を検討した。 ②共同研究者名　樋口由貴子，目野郁子

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 遺伝医療に携わる看護師が抱く遺伝医療用語に対するイメージ分析	共	2014. 7	2013 度西南女学院大学　附属保健福祉学研究所報告書	③(p8 - 9) ①遺伝医療の現場に携わる看護師を対象に遺伝医療用語に対してのイメージを調査・分析をおこなった。 ②共同研究者名　松下智美, 大塚和良, 樋口由貴子, 原山裕子, 時吉佐和子 ③(p12 - 13)
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
「保育園感染症対策関する研究-Infection Control 保育士の育成-」と題し申請するが資金導入ならず。			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

研究活動の一環として、保育士など対象施設との共同によって、共同研究者（教授）の下実施 ①遠賀・中間地区保育協会会員 115 名を対象に 「感染症からこどもを守る・保育士を守る・地域を守る」講習会をおこなう		2015 年 2 月 10 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策委員（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日） ・保健福祉学部 1 年生および助産別科 1 年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 2011 年 6 月～現在に至る

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　財津　倫子	職名　助教	学位　修士（看護学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、看護学実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研　究　課　題
＜看護教育学＞ 看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。 ＜成人看護学＞ 入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担　当　授　業　科　目
診療関連技術論 リハビリテーション看護学 成人老年看護過程演習 生活援助技術論 基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ 成人急性期看護学実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　診療関連技術論（静脈血採血）　】 1. 教員によるデモンストレーション後、学生同士で実施する手技をチェックする。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。
授業科目名【　リハビリテーション看護学　】 ＜杖歩行＞ 1. 杖歩行を実施し学んでいる学生の杖の使用方法を確認し指導する。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。 ＜摂食・嚥下＞ 3. とろみ食を作成する過程をチェックし、実際に学生同士で食事介助を実践する。その実践方法を確認し、指導をおこなう。 4. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。
授業科目名【　成人老年看護過程演習　】 ＜看護過程＞ 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。

2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個々へ、できていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

＜看護技術：ドレーン管理＞
1. ドレーン管理の目的・方法・留意点の講義が実施された後、胸腔ドレナージの観察・管理の方法のデモンストレーが行われる。
2. 学生が実際に、胸腔ドレナージの観察・管理について実践し、できているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようした。
3. 演習終了後、知識確認テストを実施し、理解度の確認を行った。

授業科目名【　基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ　、成人急性期看護学実習　　】

1. 答えを教えるのではなく、学生が自分で考え行動できるよう見守ることを心がけた。
2. 説明を行う際は、具体的にイメージがつきやすいように、説明する。または、書物を用いるなど工夫し指導する。
3. 看護技術に関しては、まず教員が手本を見せた後、学生に実施させるように努めた。
4. 安全・安楽に関しての指導は患者の安全に関係するため、さりげなく指導することには努めたが、患者の前でも指導を行っていった。その他の指導に関しては、患者と学生の信頼関係にも関わるため、患者の前では避けている。
5. 記録物の添削については、学生が理解しやすいように記入するよう心がけた。またその添削に対する答えも返してもらうよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名） 日本看護科学学会	査読委員 2014 年度（1 年）	2004 年 12 月～現在に至る 2005 年 6 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント	共著	2014．3	医学書院	＜循環機能＞ ・フィジカルアセスメントの焦点と呼吸機能の概観 ・フィジカルイグザミネーション ・検査 ・アセスメントシート
（学術論文）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
3年生アドバイザー ・前任者より申し送りを受けた後、学生の相談を受けるなど対応する。 ・模試結果の配布 物品管理 ・廃棄物品の整理および廃棄の実施 ・倉庫の整理

福　祉　学　科

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　杉　原　好　則	職名　　教　授	学位　学士（教育心理学）（九州大学１９７２年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
福祉行政	介護保険、老人福祉、障害者福祉、児童福祉、いじめ問題、福祉サービス第三者評価、リスクマネージメント、生活保護

研　究　課　題
福岡県や北九州市における福祉行政を中心に検討を行い考察する。 北九州市における児童虐待事件の実際について検討し考察する。 北九州市において発生する障害者虐待について検討し考察する。 北九州市の障害支援区分制度について検討し考察する。 北九州市の生活保護行政について検討し考察する。 高齢者福祉施設の運営管理について検討し考察する。 北九州市保健福祉サービスについて検討し考察する。

担　当　授　業　科　目
福祉経営論（前期）、福祉行政と福祉企画（前期）、相談援助演習Ⅰ（後期）、相談援助演習Ⅱ（前期）、相談援助演習Ⅲ（後期）、相談援助演習Ⅳ（前期）、相談援助演習Ⅴ（後期）、 ヒューマンサービス基礎演習（前期）、相談援助実習指導Ⅰ（通年）、相談援助実習指導Ⅱ（通年）、相談援助実習（通年）、専門研究Ⅰ（通年）、専門研究Ⅱ（通年）、 社会福祉特講（集中講義）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　福祉経営論　】 テキストを用いて、社会福祉施設の運営管理がどのようなものであるかについて，高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の実例を挙げながら、講義を行った。 パワーポイントやＤＶＤを用いて、具体的に理解しやすいよう解説を行った。また、国家試験問題との関連について、その都度解説を行った。
授業科目名【　福祉行財政と福祉計画　】 テキストを用いて、福祉行財政の仕組みやその財源、関連機関や専門職がどのような仕組みで成り立っているかについて、講義を行った。また、今日の福祉行政がどのように計画的に実施されていつかについて、福祉計画の実例を挙げながら、できるだけ理解しやすいように解説を行った。 国家試験問題との関連についても、その都度解説を行った。
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 人と人との関係をよりよくするためのコミュニケーションのあり方について、様々な課題を解決することによって自ら体験的に学ぶよう工夫した。

授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 相談援助とは何かについて、グループで各種の問題について解決すべく取り組むように指導し、社会福祉士としてのレディネスを形成するよう勧めた。
授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】 児童虐待の事例を中心に、虐待された子供とその家族をどのように再構築していくかについて、テキストを用いてグループ学習を行った。ロールプレイやグループごとにディスカッションを行い、全員参加で課題に取り組むよう指導した。
授業科目名【　相談援助演習Ⅲ，Ⅳ　】 生活困窮者に対する福祉事務所の対応について、ＤＶＤを用いて実際の事例ごとに小グループで検討し、発表を行った。またクライエント役とケースワカー役をお互いに行うロールプレイを実施し、具体的に問題解決を図るための検討を行った。
授業科目名【　相談援助演習Ⅴ　】 地域におけるネットワーク構築のための戦略や技法について、八幡東区で行った高齢者福祉対策モデル事業を中心に検討し、解説を行った。また、他の専門職とのチームアプローチや、専門機関との連携について検討し、解説を行った。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】 ３年次に行う障害者福祉施設の実習準備のため、障害者福祉の歴史や各種障害者施設について解説し、自己紹介票や実習計画書の記入の仕方などの個別指導を行った。また、モティベーションを高めるため、障害者施設の見学実習を行った。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 実際に実習に臨むときの注意点の指導や、実習日誌や実習報告書の記入の仕方について具体的にわかりやすく指導を行った。また、実習先で学生が担当したケースについて発表を行い、全員でケースの問題点や解決策について検討を行い、理解を深めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州臨床心理学会	北九州地区会長（２０１３年３月まで）	１９７２年４月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 福岡県高齢者保健福祉計画（第７次）	共	平成２７年３月	福岡県保健医療介護部高齢者支援課	第７時福岡県高齢者保健福祉計画策定検討委員会委員長として、計画をまとめた。
（著書） 第４期北九州市障害福祉計画（平成２７年度～２９年度）、北九州市障害者計画（平成２７年度～２９年度）	共	平成２７年３月	北九州市保健福祉部障害福祉課	北九州市障害者施策推進協議会副会長として、障害福祉計画、障害者計画をまとめた。
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				
（講演） 老人保健福祉制度の概要・人権研修		平成２６年９月６日	北九州市立介護実習・普及センター	福祉用具専門相談員指定講習会において、老人保健福祉の制度の概要・人権研修について講演を行った。
（講演） 障害者福祉施設の在り方		平成２７年１月１０日	社会福祉法人北九州あゆみの会	あゆみの会の学術集会において障害者福祉施設な在り方について講演を行った。
（講演） 北九州市の福祉問題について		平成２６年１１月８日 平成２７年１月１７日	北九州市立生涯学習センター	生涯学習指導者育成セミナーにおいて、北九州市で発生する各種福祉問題（高齢者、障害者、児童等に関する諸問題）について講演

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
		１月２４日 ２月７日 ２月１４日		を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・北九州介護サービス評価委員会	委員	2004年6月～2013年3月まで
・（社福）北九州精神福祉事業協会	評議員	2001年4月～現在に至る （平成28年3月まで）
・北九州市社会福祉審議会	委員 児童福祉専門分科会　副分科会長	2001年4月～2012年10月まで
・（社福）北九州あゆみの会	理事・評議員	2002年3月～現在に至る （平成28年3月まで）
・北九州市障害者・児福祉施設等第三者評価委員会	委員長	2003年1月～現在に至る
・（社福）喜久茂会	理事	2003年6月～2011年3月まで
・北九州市障害者施策推進協議会	副委員長	2003年9月～現在に至る （平成27年9月まで）
・北九州市障害者施策推進基本計画フォローアップ委員会	委員長	2003年10月～現在に至る （平成27年3月まで）
・北部九州圏都市計画協議会　総合都市交通調査委員会政策検討部会	委員	2005年6月～2011年3月まで

・ＮＰＯ法人　障害者支援要会	理事	2005年9月～現在に至る （期限なし）
・（社福）福音会	理事・評議員	2005年10月～2011年3月まで
・福岡県社会福祉審議会	委員長 老人福祉専門部会長	2006年5月～現在に至る （平成29年6月まで）
・北九州市障害支援区分認定審査会	調整委員会　委員	2006年5月～現在に至る （期限なし）
・健康福祉北九州総合計画推進委員会	委員	2007年3月～現在に至る （期限なし）
・ＮＰＯ法人　生涯学習指導者育成ネットワーク指導者認定委員会	委員	2008年3月～現在に至る （期限なし）
・福岡県保護司選考委員会	委員	2009年5月～現在に至る （期限なし）
・北九州市障害者支援計画策定委員会	委員　「地域で自立して生活できる基盤整備部会」部会長	2011年5月～2012年3月まで
・福岡県幸福度に関する研究会	委員	2011年6月～現在に至る （期限なし）
・福岡県高齢者保健福祉計画策定検討委員会	委員長	2014年3月～2015年3月まで
・福岡県総合計画審議会	委員	2011年9月～2014年9月まで
・福岡県介護実習・普及センター事業等企画書選定委員会	委員	2014年5月～現在に至る （期限なし）
・（社福】北九州あゆみの会［虐待防止委員会］	委員	2013年4月～現在に至る （期限なし）
・（社福）北九州社会福祉協議会	評議員	2013年4月～現在に至る （平成29年3月まで）
・北九州介護給付費等の支給に関する審査委員会	委員	2013年4月～現在に至る （平成29年3月まで）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1　倫理審査委員会 大学における研究等について、倫理審査を行った。 2　国家試験対策 通年で週１回、希望する４年生に対して受験対策講座を開講し、社会保障，生活保護、高齢者福祉、障害者福祉等の学習指導を行った。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　柳 澤 伸 一	職名　　教授	学位　修士（文学）（東北大学　1975 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
南ドイツ（スイスを含む）中・近世史	神聖ローマ帝国　　スイス誓約同盟

研　究　課　題
スイスの神聖ローマ帝国からの独立過程を考察する。当面は、近世スイスにも、神聖ローマ帝国を支えるドイツ人の一員であるとの意識が根強く残存したことを検証する。

担　当　授　業　科　目
ジェンダー論（前・後期） 西洋の歴史と文化（前・後期） 基礎演習（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ジェンダー論　】 現在のジェンダー問題を、「国連婦人の 10 年」以降のフェミニズムの歴史の中で捉えられるようにした。 ジェンダー問題の日本的特質を、欧米との比較の中で捉えられるようにした。 最新の新聞記事（同性婚の容認、男女格差の国際ランキング、家族政策の国際的動向など）をできるだけ多く取り上げて、問題を身近に感じられるようにした。
授業科目名【　西洋の歴史と文化　】 ヨーロッパ世界が直面している現在の諸問題（一方に EU の拡大・深化、他方に地域主義の台頭）の歴史的根源をたどることにより、現在と過去とのつながりが感じられるようにした。 フランスとドイツを例に、中世の平和団体のあり方と近代の国家のあり方との深いつながりをたどることにより、歴史の長期的発展について考えられるようにした。
授業科目名【　基礎演習　】 6 人の教員によるオムニバス形式の授業の一環として、「歴史認識の共有可能性」をテーマにした。 比較の方法に習熟するため、日中韓三国の高校歴史教科書を題材に、比較を通じてそれぞれの教科書の特徴を考察させた。 口頭発表における効果的な発表資料の作り方を学ぶため、レジュメの作成に際して図表の活用を促した。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本西洋史学会 西洋史研究会 歴史学研究会 スイス史研究会	評議員（1997年11月～2007年11月）	1973年4月～現在に至る 1973年4月～現在に至る 1984年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（その他） １．再考　西南女学院校歌の思想	単	2015．3	西南の杜　第10号	西南女学院の校歌の思想を、女性史研究の新動向を踏まえて再考した。チャペルでの話をもとに原稿化したもの。 （P187～P195）
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
西南の杜	編集委員	2010年11月～2015年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
宗教委員会委員 水泳部顧問

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　谷川弘治	職名　　教授	学位　社会学修士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
小児医療フィールドにおける心理社会的支援 病弱特別支援教育　病弱児心理学　医療保育	小児慢性疾患　小児がん　白血病 心理社会的支援　自立支援　治癒的遊び　発達支援 セラピューティックアプローチ 病弱特別支援教育　病弱児心理学　医療保育 多職種研修　専門性の向上　スーパービジョン 連携　多職種協働

研　　究　　課　　題
小児医療における心理社会的支援専門職の専門性向上のシステム構築 小児医療フィールドにおける心理社会的支援の技術開発

担　　当　　授　　業　　科　　目
＜看護学科＞ 臨床心理学（2 年後期　選択 1 単位） ＜福祉学科＞ ヒューマンサービス基礎演習（1 年前期　必修 1 単位） 心理学研究法（3 年前期　選択 2 単位） 家族心理学演習（4 年前期　選択 2 単位） 発達臨床心理学（2 年後期　選択 2 単位） 福祉臨床心理演習Ⅰ（2 年後期　選択 2 単位） 保育の心理学Ⅰ（2 年後期　子ども家庭福祉コース必修 2 単位） 保育の心理学Ⅱ（3 年前期　子ども家庭福祉コース必修 1 単位） 保育実践演習（4 年通年　子ども家庭福祉コース必修 2 単位） 専門研究Ⅰ（3 年通年　必修 2 単位） 専門研究Ⅱ（4 年通年　必修 2 単位） 卒業論文（4 年通年　選択 4 単位）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【臨床心理学】看護学科 2 年後期選択 1 単位（8 コマ＋定期試験） ① 本年度の受講生は 51 名（昨年度 41 名）で，アウトカムは平均点 71 点であった。基本レベルの到達目標を達成した学生が多いが，さらに多くの学生をより高い水準に導く必要がある。2 年配当科目であることから，看護師に必要な心理支援学の基本を身につける必要がある。また，履修者が在籍者のほぼ半数であることから，履修した学生達によってそれ以外の学生への心理支援学の知識と技術の環流を図ることができればと考える。 ② 8 コマと短期間であるため，すべての基本資料は第 1 回目に配付している。しかし，パワーポイントとの整合性が取れていない箇所，資料への記入量が多すぎるため授業の流れが悪くなる箇所がある。この点は次年度に改善する。 ③ 臨床看護のフィールドにおける患者理解に焦点をあてながら論じていることもあり科目に対する関心や

学習意欲は高い。一方で，なじみのない概念，混乱しやすい概念として「リフレーミング」「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」などが特定できた。ここは学習に工夫を要する所として，次年度に引き継ぎたい。小論文をまとめることが苦手な学生もいるが，8コマの授業中では学習支援が困難である。事前課題を提示し，やり取りをして表現力を高めるといった学習支援を検討する。以上のいくつかは，受講生からも改善できるのではないかと積極的な意見を得ている。今後に活かしていきたい。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】福祉学科１年前期　必修１単位

① 担当教員グループで計画されているものを，各教員は許容範囲内でアレンジして実施している。

② 授業評価アンケートでの達成度はわりあい高いものである。また，例年，ここで新しい友人ができていくことも多い。以上から，本人達にとっては初めて経験する密度の濃い対人関係のリフレクションの時間となっていると思われる。

③ 私としては下記を重視してきた。

a. テーマの説明を丁寧に行う
b. 達成感がもてるようにする
c. できたことを評価する
d. 弱点は長所でもあることを指摘する（リフレーミング）
e. 「いまできないことがあっても良いが，卒業するまでには克服するように」と見通しを持たせる
f. 振り返りの時間を大切にする

④ さらに，昨年度の成果を活かして，１つのテーマ毎に下記の流れを作るようにした。主語は学生である。

Ｘ回目

a. アイスブレーキングに参加する
b. テーマの説明を聞く
c. エクササイズを実施する
d. 解説を聞く
e. まとめを作成する（リフレクション）

Ｘ＋１回目

f. まとめをもとに教員が作成した解説を聞くことで再度のリフレクション
g. 最終のまとめのレポートを作成し，提出する
h. 次のテーマに移行する（a.から進行する）

１つのテーマを１回で終わらせるよりも，まとめをもとにした解説を聞くことで視野を広げたり，深めることができるが，その辺りが深まらない学生もいる。

⑤ 学生のコミュニケーションスキルの評価をどのように行うかが課題である。ここは次年度に向けて，さらに検討を要する所である。

授業科目名【心理学研究法】福祉学科３年前期　選択２単位（認定心理士希望者のみ）

① 科学的な方法論を学習する機会は少ないため，できるだけ，身近な例をあげながら解説するようにしている。また，実際的な課題を提示して，学生の意見を求めたり，可能な範囲でデータ分析を実施しながら進めている。しかし，とくに実験法におけるランダムサンプリングと比較の論理，分散分析の考え方は，理解できるものの納得にいたらないためか満足度は低いようである。数学や論理的な思考方法は苦手意識をもちやすいため，このような種類の科目の存在は大切にしたい。

② 中間テストを実施して，振り返りの機会を提供するようにした。中間テストで正解率が低い問題は期末テストでは 100%できるようになっていた。これは，自分たちでテスト問題を作って学習するということができておらず，教員のテストに依存しているともいえるし，分かったことは確実に判断できるともいえる。

③ 今後の方向性としては，質的調査，量的調査，実験を中心においた内容構成から，福祉実践の効果測定に活かせる準実験，一事例実験，実践研究などに重点を移していくことも検討したい。

授業科目名【家族心理学演習】福祉学科４年前期　２単位　選択

担当科目の中では，学生のコミットメントがもっとも強い科目であり，発表者の発表内容，その後の議論などは，深いものとなっている。とくに，家族の発達過程と直面しがちな課題について最初に学ぶことから，家族支援を学び，最後に家族システム論による理論的な押さえをしていくこと形が分かりやすいようである。また，学生の状況を考慮し，１回の発表分担量を調整している。

次年度に向けては，ＤＰ，到達目標などを踏まえて，さらに内容を充実させる必要があると考えている。

授業科目名【臨床発達心理学】福祉学科２年後期　選択２単位

① ルーブリック評価を導入している。

② 履修者 27 名，うち子ども家庭福祉コースから６名の参加が得られた。

③ 成績をみると，平均点 71 点，80 点以上５名（19%），60 点未満２名（１名は定期試験を受験せず）であった。

定期試験結果から，論述は 68%の完成度であったが，知識理解や思考判断に関するところで，下記の点で正解率が低いことがわかった。

- ✧ 自立の多義性
- ✧ 老年期の発達課題や心理療法の進め方
- ✧ 臨床面接のルールとアクティングアウト
- ✧ ポストトラウマティックプレイセラピー
- ✧ 認知療法における中核信念の性質
- ✧ 行動分析

以上の点は，ハードルとなりがちなものであるが，すでに学んでいるべき課題も少なくない。

中間テストに加えて，レディネス確認テスト及び小テストを実施するなど対策を強化していきたい。

④ 前年度の分析の中で学生の印象として「身近でない」というものがあげられる。発達臨床という科目の性質上，現場や対象理解が前提であるため，科目の学年配当を下げるべきである。カリキュラム改定時には，この点の改善を進めたい。

授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅰ】福祉学科２年後期　選択２単位

① ソーシャルスキルトレーニングの実際と家族療法の考え方を，ロールプレイを通して学ぶものである。さらに，最後に理論的な整理も行っており，一定の形ができている。

プロシージャー：導入⇒ロールプレイ⇒理論学習（発表と討論）

② 概ね到達目標を達成できていると考えているが，昨年度ほど学生の達成度自己評価は高くなく，検討を要するところである。

授業科目名【保育の心理学Ⅰ】福祉学科子ども家庭福祉コース２年後期　必修２単位

① ルーブリック評価を導入している。

② 子ども家庭福祉コースであるが子どもと関わる機会が少ないことが背景にあるため，スタート段階で，準備性を確認するレポートの作成を求め，それを出発点におく。まずは，子どもらしさの既成概念を壊すこと，子どもと関わるときの価値志向性の多様性などを理解し，自分の考え方を相対化することからはじめている。これは，不安を醸成しているかもしれないが，自分で考える，根拠をもって考えるという姿勢を大切にしたいため，維持していきたいところである。その上で，個の発達について，関わりの発達について，できるだけ具体例を通して解説している。

③ 最終成績の平均は 64 点，再試対象者は４人に１人となり，昨年より悪く，ばらつきが大きい結果であった。

④ 昨年丁寧な説明をしなければならないところを析出したが，かならずしも適切な調整を図ることができていなかったことが反省点である。とくに論述に対する支援のあり方を検討したい。

⑤ また，テキストをあえて設定していないが，深めたり，見直したりしたいときの参考書を示したり，知識・理解を試す小テストを導入することが必要かもしれない。

授業科目名【保育の心理学Ⅱ】福祉学科子ども家庭福祉コース３年前期　必修１単位

① ルーブリック評価を導入している。

② 保育の心理学Ⅰをもとに，子どもの行動観察，子どもへの遊びの提供の実技，子育て支援の課題の発表を行ってきている。とくに遊びの提供については時間をかけて計画を策定しているが，なかなか子どもの気持ちを引き出せないで焦るなど，貴重な経験をしていた。多くの課題をこなす必要があるが，計画的な実施については，指導を強化していく必要があると思われた。

③ 行動観察の教材を増やしていくことが，将来的な教育の質保障に不可欠と思われた。

授業科目名【保育実践演習】福祉学科子ども家庭福祉コース４年通年　必修２単位

本年度より担当者に加わった。担当は下記の通りである。

①宿泊研修のために，飯ごうおよびダッチオーブンの使用法（調理法）などを習得する

②子育て支援の課題についての調査と発表の支援を行う

③医療保育に関する学習を支援する

本科目は本年度より全般に課題が多くなったこと，学生間の意欲と関与度のばらつきが大きくなったこと，集団活動スキルのばらつきがあったことなどから，集団活動へのストレスを感じたり，課題をこなすだけで深めようとしない，〆切りを守らないなど，学習支援上の課題が多く認められた。この点を改善するため，学生に求める課題を整理する，計画的に進められるようにオリエンテーションを工夫するなど，抜本的な見直しを行うこととした。

授業科目名【専門研究Ⅰ】福祉学科３年　必修２単位

① 発達に関する基礎知識の整理を行い，各自が立てたテーマに基づく発表を繰り返していった。
② また，養護教諭志望の学生のために中学校の見学を実施したり，ボランティア活動を重視した。
③ 欠席がちなゼミ生に対して自発的にさまざまなサポートが行われたが，かならずしも成果を上げられない場合があった。

授業科目名【専門研究Ⅱ】福祉学科４ン　必修２単位

① 卒論を書かない学生は一年間のまとめとしてレポート作成を行った。期限内の提出が出来なかった学生については，再試験を実施して，ゼミの基本テーマに対する知識理解と思考判断を評価の上，単位を認めることとした。今後，専門研究Ⅱにおいて求める到達目標を，より明確にすることが求められる。
② 次年度では，４年ゼミの出発に当たり，下記を明確に示した。

＜職業人として問われること＞

- 積極的，計画的に課題をこなしていく
- 協力すべきこと，助けるべきことを厭わない
- 労う
- ゼミの時間は必ず集まる

③ そのほか，国家試験対策など，進路の支援を進めていった。

授業科目名【卒業論文】　福祉学科４年　選択４単位

① 3 名が 2 グループに分かれて卒業論文を作成した。1 名は，緩和ケアにおける医療ソーシャルワークの役割についての文献研究を行った。2 名は，木を素材として主要部分に取り入れた玩具の伝承性を検証する調査研究を行った。いずれも学部生レベルとして，基本的な手続きを踏んで検討を進めていくことを重視し，それぞれに一定の結論を導くことが出来た。
② 複数で 1 課題を取り組む場合の公平性については指導を必要とする状況もみられた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本医療保育学会	（2009 年８月まで理事）	1997 年６月
全国病弱教育研究会	副会長	1992 年７月
日本特殊教育学会		1992 年２月
日本心理臨床学会		1992 年４月
日本小児保健協会		1995 年４月
日本造血細胞移植学会		1996 年 12 月
Child Life Counsil		1998 年８月
日本小児看護学会		1999 年４月
日本育療学会		2009 年 10 月
その他あり		

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集第２集：個別支援計画の立案と実施	単	2014年10月31日	谷川弘治	個別支援計画の立案と実施に関する研修を立案するために必要な，個別支援計画に関する理論と研修構築のためのノウハウを整理した。A4判，53ページ。
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集第３集：子どもの笑顔を引き出す多職種の連携と協働	単	2015年１月31日	谷川弘治	多職種の連携と協働に関する研修を立案するために必要な，連携と協働に関する理論と研修構築のためのノウハウを整理した。A4判，13ページ。
子ども療養支援　医療を受ける子どもの権利を守る	共	2014年6月1日	中山書店	田中恭子（編） 担当箇所「治癒的遊び」山地理恵，谷川弘治（１５３～１６３ページ） 子ども療養支援士のための知識と技術を整理した日本で初めての書籍である。谷川は山地理恵（ホスピタルプレイスペシャリスト）と共に，諸外国の議論を踏まえて治癒的遊びの理論と方法を整理した。 総ページ数288ページ
（学術論文） （講演録） 「病気とつきあいながら自分らしく生きる」を支える　－　慢性疾患・小児がんの子どもと学校・地域	単	2015年３月31日	京都女子大学大学院こころの相談室心理臨床研究　第７号 77-98	公開講座の記録
（翻訳） なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 教育講演Ⅱ-２ 医療保育の質の向上のために　教育者の立場から	単	2014年６月	第１８回日本医療保育学会	医療保育に関する過去5年ほどの研究動向を整理し，今求められている実践に関する研究課題を提起したほか，演者が続けてきた多職種合同ワークショップの成果や言葉研究の知見などを紹介し，医療保育の質をどう捉え，研修をどのように展開していくかについて議論した。
医療フィールドで働く保育士の言語表現に関する研究-インタビュー資料に基づく言語使用データベースの構築-」	共	2014年６月	第１８回日本医療保育学会	豊永絵里，谷川弘治 本学の卒業論文の成果として，医療保育士に行った言葉に関する調査の結果を整理し，報告した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
医療保育と病弱特別支援教育の支援（問題解決）の構築過程を規定する諸要因に関する研究	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○谷川弘治，文屋典子，豊永絵里；卒業生（山口悦子・西牧謙吾・猪狩恵美子・大重育美・金城ヤス子・吉川由紀子・甲斐恭子・永吉美智枝）	324,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
京都女子大学大学院心の相談室公開講座（「病気とつきあいながら自分らしく生きる」を支える　－　慢性疾患・小児がんの子どもと学校・地域）	講師	2014 年 7 月 5 日（京都女子大学）
平成 26 年度特別支援教育講座＜特別支援学校＞病弱身体虚弱教育における個に応じた指導支援（子どもの心に寄り添う自立活動）	講師	2014 年 7 月 29 日（高知県立高知江の口養護学校）
子ども療養支援士認定講習（治癒的遊び）	講師	2014 年 10 月（順天堂大学）
修猷館高校出前講座（「臨床の知」にアプローチする　医療フィールドを例に）	講師	2014 年 11 月 8 日（福岡県立修猷館高校）
平成 26 年度特別支援中核教員養成講座（特別支援学校教諭免許状取得コース）（病弱児の心理・生理・病理）	講師	2014 年 12 月 1 日（福岡県教育センター）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
ＦＤ部門委員（授業評価アンケート作成，データ分析など） 外部資金導入促進プロジェクト（チームリーダー） 入試委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　稲 木　光 晴	職名　　教授	学位　博士（体育科学）（筑波大学，1994 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
運動生理学	筋疲労，持久性パフォーマンス，持久性鍛錬者

研　　究　　課　　題
持久性鍛錬者の競技力向上に関する研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
健康科学（前期）（看護学科） 健康科学（前期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（看護学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（栄養学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（英語，観光学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（看護学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（栄養学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（英語，観光学科） 運動処方論（後期）（福祉学科） 保育の表現技術Ⅲ（前期）（福祉学科） 保育実践演習（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 母性の運動科学（前期）（助産別科） スポーツ科学実技（通年）（保育科、生活創造学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　健康科学　】 1. 生理学的メカニズムなど，理解に時間を要すると思われる事柄については，繰り返しモデルの提示を行った. 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。

授業科目名【健康科学実習Ⅰ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり，試合内容などについて意見交換したりすることによって，十分にコミュニケーションを図れるようにした。
授業科目名【健康科学実習Ⅱ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより，自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。
授業科目名【母性の運動科学】 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 日本運動生理学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999 年～） 評議員（1999 年～）	1988 年 4 月～現在に至る 1989 年 4 月～現在に至る 1993 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
咀嚼運動が脳精神機能に及ぼす影響	西南女学院大学	○八木康夫 稲木光晴 尾上均	330,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
人事委員 紀要委員 陸上部顧問 西南女学院大学生協・専務理事

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　山根　正夫	職名　　教授	学位　修士(教育学)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
発達障害児・者の援助方法 障害児保育 行動分析	発達障害・自閉症スペクトラム・知的障害・障害児保育・行動分析

研　　究　　課　　題
発達障害児・者の療育について行動分析学的視点から考察する

担　　当　　授　　業　　科　　目
子ども家庭福祉論(前期) 障害者福祉論(後期) 障害児保育(通年) 社会的養護(後期) 生命倫理(後期) 相談援助演習Ⅱ(前期) 相談援助演習Ⅲ(後期) 相談援助演習Ⅳ（前期） 相談援助演習Ⅴ(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習（通年) 保育実習指導Ⅱ・Ⅲ(通年) 保育実習Ⅱ・Ⅲ(通年) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【子ども家庭福祉論・障害者福祉論】 両教科とも、2年生必修科目であるがその実態については学生がイメージしにくい面がある。具体的にイメージし制度や援助法を学習するために、授業ではパワーポイントを使用し、DVD 等の視聴覚教材を併用し、レジメ資料を配布した。また法令等が頻繁に変更されるので最新の論文等も副教材として配布し解説した。レジメを配布すると大半の学生がペンを持たずに受講するため、記憶の保持や予復習の在り方について次年度はさらに工夫したい。
授業科目名【　障害児保育・社会的養護　】 障害児保育は通年２単位の演習系科目であるが、前後期共に講義が中心となったが、詳しく解説できた。社会的養護は今日的課題に論文等の資料を利用して解説した。

授業科目名【　演習・実習系科目】 演習系科目は、各時間の課題について学生の準備したプログラムに沿って授業を展開した。全体的に学生の参加度は向上している。 実習系科目は保育士養成のための実習であるが、授業は比較的順調に進行した。
授業科目名【専門研究Ⅰ・Ⅱ】 専門研究Ⅰは発達障害と行動分析を中心に学習を進め、行動分析の基礎的文献のレビューと、北九州市での障害児保育の初期の実践について検討した。専門研究Ⅱは、専門研究Ⅰに引き続いて、参加学生全体で就学前の社会情緒の発達に関連する英文の文献を翻訳し、チェックリストとしてプロダクツを残した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本特殊教育学会		昭和 51 年４月～
日本行動分析学会		昭和 61 年４月～
日本発達障害学会		
日本福祉学会		平成７年９月～
日本保育学会		平成 12 年 11 月～
臨床発達心理士（学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構　第 01179 号）		平成 17 年４月～ 平成 18 年４月～平成 27 年３月
福岡教育大学付属障害児治療教育センター研究部員		平成 22 年４月～

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 平成 26 年度発達障害シンポジューム 平成 26 年度社会福祉士養成校協会九州ブロック研修会シンポジューム		2015 年 1 月 2015 年 2 月		「発達障害者の育ちを支える支援とは」についてシンポジュームのコーディネートを担当した。 相談援助演習教育についてシンポジストとして話題提供した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州市児童福祉施設等第３者評価委員会委員 北九州市発達障害児（者）支援体制整備検討委員会委員 北九州市福祉事業団評議員 社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市社会福祉審議会委員 北九州市障害者施策推進協議会委員		平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 平成 24 年 2 月～平成 25 年 11 月 平成 23 年 11 月～平成 25 年 11 月 平成 24 年 4 月～平成 27 年 3 月 平成 24 年 11 月～平成 27 年 10 月 平成 25 年 10 月～27 年 9 月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

福祉学科長

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　岡　田　和　敏	職名　教　授	学位　修士（社会学）（佛教大学　1984 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研　究　課　題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の保健医療福祉制度に関する研究

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
地域福祉論　（2 年前・後期）	4		／
医療福祉論　（2 年前期）	2		／
相談援助演習　Ⅰ（1 年後期）	1		／
相談援助演習　Ⅱ（2 年前期）	1		／
相談援助演習　Ⅲ（2 年後期）		1	／
相談援助演習　Ⅳ（3 年前期）		1	／
相談援助演習　Ⅴ（3 年後期）		1	／
相談援助実習指導　Ⅰ（2 年前・後期）		2	／
相談援助実習指導　Ⅱ（3 年前・後期）		4	／
相談援助実習（3・4 年）		4	／
社会福祉特講　Ⅱ		2	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　地域福祉論　】

社会福祉の動向において「自立支援」「連携」「地域福祉」などが強く求められている時代であることを強調し、地域で暮らす人々の生活をいかに支援していくかについて指摘するとともに、新聞記事などの活用を図り、講義の内容が理解できるようにした。

授業科目名【　医療福祉論　】

身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しもに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。

授業科目名【　相談援助演習　1　】

社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてをロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅱ　】 　ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践についてを考えさせる形で学ばせた。
授業科目名【　相談援助演習　Ⅲ・Ⅳ　】 　問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。
授業科目名【　相談援助演習　Ⅴ　】 　地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。
授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅰ　】 　医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。
授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅱ　】 　他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。
授業科目名【　相談援助実習　】 学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。
授業科目名【　社会福祉特講　Ⅱ　】 本講義は、6名の教員によるオムニバス方式で、「保健医療施策の動向」を2コマ担当した。保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1990年10月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1985年4月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会		1998年6月～現在に至る
日本医療社会社会福祉協会		1998年4月～現在に至る
福岡県社会福祉士会	外部理事（2010年4月～現在に至る）	2010年4月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） （その他） 地域での支え合いについて	単	2014. 7. 8 9. 29 12. 2 10. 3 2015. 1. 5 16 2. 26	北九州市立年長者研修大学校「穴生学舎」	研修講師
施設内職員研修 「高齢者虐待」		2014. 9. 18 25	介護老人福祉施設 「戸畑大谷園」	研修講師
平成 26 年度　児童厚生員等資格取得研修 「個別援助活動」		2014. 11. 28	北九州市福祉事業団	研修講師 教育研究業績　総数（2015. 3. 31 現在） 著　書 0（内訳 単　共） 学術論文 0（内訳 単　共） 翻訳 0（内訳 単　共） 学会発表 0（内訳 単　共） その他 10（内訳 単 10　共）

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
社会福祉法人　北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2014年4月1日～2016年3月31日
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2013年12月1日～2015年11月30日
社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月～現在に至る
社会福祉法人　敬寿会	理事・評議員	2012年3月22日～2014.年3月21日
特定非営利法人　生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る
社会福祉法人　療養介護事業所「ひなた家」	理事・評議員	2014年7月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

① 学内においては、公開講座委員会に所属し委員長を担当している。今年度は、６０名の募集に対して５１名と定員は満たさなったものの昨年度より１０名の増加がみられた。大学、短期大学部の先生方には例年通り協力を頂き多彩な講義内容となり受講生には好評であった。学生の参加が多く受講生に大変喜ばれ、今年度は８講座で６９名の学生が参加した。講義のために事前の準備段階から積極的に参加し、教員のサポートをする学生もいて大変有難いことであった。また、社会見学については、安川電機ロボット工場の見学及び講義を受講し、先端技術の進歩と今後についてを学び充実した内容となった。受講生の評価も高かった。

② 学生支援においては、これまで通り介護職員初任者研修（ホームヘルパー２級）の資格を取得出来るよう外部事業所との調整と講義の担当を行っている。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　平田健太郎	職名　　教授	学位　博士（医学）　　（九州大学　1985 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
精神医学	精神疾患、ＱＯＬ，地域支援、学校保健

研　　究　　課　　題
精神障害と福祉

担　　当　　授　　業　　科　　目
・　精神医学（福祉学科、前期） ・　基礎演習（福祉学科、前期） ・　精神保健学（福祉学科、前期） ・　精神保健学（福祉学科、後期） ・　基礎演習（福祉学科、後期） ・　精神保健福祉援助演習Ⅰ ・　精神保健福祉援助実習Ⅰ ・　精神保健福祉援助実習Ⅱ ・　精神保健福祉援助演習Ⅱ ・　専門研究Ⅰ　３年 ・　専門研究Ⅱ　４年 ・　卒業論文　　４年 ・　母子の心理・社会学（助産別科、前期） ・　疾病治療各論Ⅱ（看護科、前期）：精神

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神医学：精神疾患とその治療　】 VTR の提示、症例提示、グループ討議と発表。 新聞や TV、インターネットなどのマスコミから、講義に関連したトピックを取り上げて興味を持たせるとともに、最新の情報を随時提供し、内容を深めた。
授業科目名【　精神保健学　】 VTR の提示、症例提示、グループ討議と発表、学生に評判の良い教員の講義方法を参考にした。 新聞や TV などのマスコミから講義に関連したトピックを取り上げ興味を持たせるとともに最新の情報を随時提示した。さらに、　グループ単位での席の指定と、移動、出席表を兼ねた「自己学習記録表」の使用。 毎回の授業終了後に書かれた質問と意見はほぼすべて取り上げ、次回講義の開始時に可能な限り解答した。

授業科目名【　基礎演習　】

・　17 名～18 名のグループ間の相互理解を図り、自由な発表と意見交換が出来るような雰囲気作りのため、第一回目はゲーム（他個紹介）を取り入れた。
・　大学生の自覚をもたせるため、高校と大学との違いについて全員から意見を求め、板書させて確認した。このときの司会も学生に担当させ、必要に応じてコメントを加えた。
・　この演習のテーマには、学生時代に注意すべき代表的な心身の疾患を用いて自主学習を中心に行なわせ、注意と自覚を高めた。
・　エボラ出血熱、ＭＥＲＳ、ネット依存症等の社会的に問題になっている疾患についても同様の学習を行った。
・　この演習を通して、DRUG 防止教育を今年度も実施した。
　４人（または５人）一組で担当した疾病テーマについて自主学習し、発表原稿を作成するとともに、抄録を提出。発表、質問にもそれぞれ各自がマイクを使用した討議を体験させた。必要に応じて知識の修正と追加を加えた。
・基礎演習終了後の学生たちの感想では、初めてのパワーポイントを用いた発表体験、共同での準備体験、質問体験等を通して、集中力が高まった、講義への興味と積極的参加の姿勢が身についてきた、と述べている。

授業科目名【　専門研究Ｉ】

・１年間かけてゼミの担当学生達に各自に精神障害関連のテーマ選択をさせ、卒業論文作成の準備を段階を追って進めた。その際、先輩たちが作成した卒業論文を例として作成方法の手ほどきを細かく指導した。資料検索の方法については、附属図書館の司書の方の協力を得て、学生たちと共にセミナーを受講して手助けをした。

授業科目名【専門研究Ⅱ、卒業研究】

・福祉学科内においては、卒業研究・専門研究Ⅱを論文形式での作成指導を行うことが少なくなった中、担当ゼミ生には各自に論文作成を指導してきた。
・今年度の卒業研究・専門研究Ⅱの各自のテーマは以下のとおりである。
　「アルコール依存症者の社会復帰」
　「現代の子供の食物アレルギー、アナフィラキシーショックについて」
　「インターネット依存症とネットいじめの現実及びその対策」

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神神経学会		1975 年～現在に至る
日本てんかん学会		1978 年～現在に至る
	評議員	1978 年～2013 年
日本てんかん学会九州支部会	世話人	2005 年～現在に至る
九州精神神経学会	評議員	1975 年～現在に至る
全国大学保健管理研究会	評議員	1998 年～現在に至る
全国大学メンタルヘルス研究会		1998 年～現在に至る
	評議員	1999 年～2008 年
全国大学フィジカルヘルス・フォーラム		1998 年～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域で生活する医療観察法対象者や障害のある刑務所出所者等に対しての再犯防止サポート体制の構築に関する取組 （2013年度～2015年度）	更生保護法人日本更生保護協会	○今村浩司 嶋村美由紀 平田健太郎	1,500.000 （2013年～2015年）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・北九州てんかん懇話会 （北九州地区においててんかん診療に携わる種々の職種の合同意見交換会）	世話人	1995 年～現在に至る
・九州山口てんかん外科研究会 （てんかん外科の一般社会への普及を図るための会）	世話人	1994 年～現在に至る 2011 年～現在に至る
・　精神保健福祉サポーター養成講座講師 「こころの病気について」	講師	2014 年 10 月 30 日 10：00～12：00

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・学生個人情報保護委員会委員 ・保健室・学生相談室支援　2008 年 4 月～現在に至る 心的ストレスや、精神疾患に悩む学生に定期的、継続的な修学支援を行ってきた。また、教員、家族からの相談に積極的に応じて医療機関への紹介や家族支援を行ってきた。臨床心理士、看護師とは毎週 1 回症例検討会を開き、情報交換するとともに学生相談利用の拡張を図ってきた。さらに、少子化を迎えて高水準の学生支援が求められる状況下に、近い将来の保健センター設立を目指した準備を開始した。その一環として、2008 年 11 月には保健福祉研究所主催の講演会で『学生と健康』のテーマで講演を行い、学内に設立の必要を訴えた。さらに、学長を通して大学当局に保健センター設立の提案を行った。その後も上記活動に積極的に取り組んで来た。この活動は、今後も細々とでも継続していく所存である。

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　古川敬康	職名　教授	学位　博士（哲学） （南部バプテスト神学大学 1994 年）

研究分野	研究内容のキーワード
メタファー論、説教のための解釈学と修辞学、喪失心理学	弁証法的メタファー、文学的解釈、悲嘆作業による意味論的癒し

研究課題
現代人が喪失心理学の示す悲嘆作業を経ての癒しを説教への傾聴により体験できるよう、何をどのように説教は語られることを求められているか。 具体的には、１）文学的解釈によって、メタファー的に表現されている聖書の喪失体験物語が提示する使信（福音）を明らかすること、２）使信が聴き手にとって癒しの出来事となるように、メタファーの活用法を修辞学的に明らかにすることである。

担当授業科目
キリスト教学Ⅰ（前期）（看護学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（福祉学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（看護学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（福祉学科） 宗教と人間（前期）（看護学科） 宗教と人間（前期）（英語学科） 宗教と人間（前期）（観光文化学科） 宗教と人間（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 卒業論文（通年）（福祉学科） キリスト教と生命倫理（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キリスト教学Ⅰ】 集中力向上のために祈りをもって始めた。昨年まで授業毎に配布したプリント内容が教科書となったことで、学生は予復習がし易くなった。進むに当たっては、学生のほとんどにキリスト教の背景がないため、理解が出来たかを質問し確認することを心掛けた。板書は、ノートに取り易いよう、黒板を左右半分に分けて行った。 授業内容にシラバスに従って進行し、建学の精神である「感恩奉仕」の精神の背景にあるキリスト教を学術的に現代の問題に絡めて説明し、その今日的意義を理解できるように工夫した。 学問的な「批判力」の大切さ、批判力の基準としての聖書の価値観を説明し、さらに、自己の存在意義を意味論から理解が深まるように具体的例を取り上げ、また、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。テストは、問題を予め提示し、学生が共同して全体の学び復習することができるように工夫した。
授業科目名【キリスト教学Ⅱ】 前期の学びを復習した上で、イエス・キリストの示す神の愛の理解、その愛に照らしての自己理解、及び、奉仕の精神の重要性を理解し深めることができるように工夫をした。 具体的には、イエス・キリストの説いた神の国、愛の教えと活動、その死と復活と昇天の物語を通して、それぞれの場面で、何が大切なこととされているかを、実生活と結びつけながら理解できるように工夫した。 キリスト教学Ⅰと同様に、理解が深まるように、具体的例を取り上げ、また、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。

テストは、問題を予め提示し、学生が全体の学びを共同して復習することができるようにした。

授業科目名【　宗教と人間　】

学生がキリスト教学で培われた「人間性」に関する批判力を、宗教を比較しながら、さらに身につけることができるよう、シラバスに従い、神道、仏教、キリスト教の比較を行い、生活に密着したテーマにそってそれぞれの宗教の特徴を再確認し理解を深める機会を多く持った。関連のビデオ鑑賞を取り入れ、宗教に関する知識を実生活と関連させて統合できるように工夫した。復習がし易いように、毎回、プリントを作成し、配布した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

学生が意味論に関する基礎的理解を修得することから始め、続いてＶ・フランクルの意味論を学び、その上で、喪失心理学、死生学、社会学における意味論に関する専門書を読むことができるように指導した。その過程で、テーマに関する研究書の見つけ方、読み方、まとめ方を指導した。特に卒業後に、養護教員として直面しそうな課題を想定して、それとの関連での問題意識をもって研究することを指導した。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】

専門研究Ⅰで学んだＶ・フランクルの意味論に関する基礎的理解を前提に、専門的知識の習得として、理解を深めるように出来るだけ多方面に亘るフランクル自身の著作を選択し多く読む工夫を指導した。フランクルの意味論を用いる様々な著者の文献を探し当て、特に現代の死生学、喪失心理学との関係でその意義を探る研究を進めた。

授業科目名【　卒業論文　】

フランクルの意味論に照らし、それぞれの学生が関心のある論文テーマを選択し学問的に検討し、問題を絞り、文献を整え、調べ、卒論構成を作成し、卒論を書き進め、最後に、「始めの問題提起」から「結びの結論」に至るまで、一貫したものを書くことができるように個人的な指導を重視した。その指導過程で、全員で「高齢者にとっての生きる意味」という論文を作成することになった。そこで、この論文テーマのもとで、フランクルの意味論に照らして問題となるサブテーマを選び、それぞれが研究し、さらに討議を通して統合できるように指導を行った。オリジナル性が生まれるように指導を工夫した。本文は、Ａ４で 54 頁のものとなり、発表に当たっては、卒論の狙いと起承転結を明確できるように、指導した。

授業科目名【キリスト教と生命倫理】

助産師を目指す学生の多くにとり、初めてのキリスト教であるので、前半はキリスト教の基礎的知識を扱い、その後で、キリスト教から見た生命の尊さ、生命の誕生、死の意味を扱った。続いて、優生学、不妊治療、人工授精、体外受精、中絶、母子家庭、ＤＶの夫婦関係、離婚などに関するキリスト教の物の見方を解説した。2 時間という短い授業であっても、助産師の直面する死産や五体不満足児のケアの課題なども取り上げるように努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
Academy of Homiletics		1991 年（平成 3 年）10 月
日本キリスト教文化学会	理事（1993 年 4 月～現在に至る）	1993 年（平成 5 年）4 月
日本キリスト教教育学会		1993 年（平成 5 年）10 月
日本基督教学会	幹事（2007 年 4 月～現在に至る）	1993 年（平成 5 年）10 月
日本キリスト教社会福祉学会		1994 年（平成 6 年）7 月
日本新約学会		1994 年（平成 6 年）9 月
関西新約聖書学会		2010 年（平成 22 年）6 月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） １．キリスト教概論ー新たなキリスト教の架け橋	単	2014.4	勁草書房	①　出版社の依頼によるキリスト教学の教科書である。推薦文は大貫隆（東京大学名誉教授）、副題は木村利人（生命倫理学者）による。内容は、文学批判的解釈により聖書の使信を意味論的に初学者の学生に理解しやすく、聖書の著者らに迫る方法で現代の諸問題とからめながら解説したものである。 ②　著者名　　古川敬康 ③　総頁数　P224　（本文P216） ④　20.8×14.8
（論評） １．山田耕太著『フィロンと新約聖書の修辞学』（新教出版、2012年）	単	2014.7	『新約学研究』第42号	①　日本新約学会の依頼により、解釈学、新約聖書学、修辞学の立場から論評した。内容は、本書の書簡理論などとも積極的に取組む姿勢による聖書学における修辞学的テキスト分析の分野への貢献と今後は修辞学の文脈である共同体の社会学的分析の必要性を指摘したものである。 ②　論評者名　古川敬康 ③　総頁数　　５頁。（P72－76） ④　20.8×14.8
（翻訳）				
（学会発表） １．パウロにおける主の晩餐の贖罪的理解から十字架の視点へ	単	2014.9	日本新約学会第54回学術大会（於　広島女学院大学）	①　カトリック、プロテスタントを問わず、主の晩餐の贖罪論的解釈が占めるげ中で、パウロの主の晩餐理解は十字架の視点から関係論的に捉えられていることを、論敵と会衆の分析、テキスト分析を行って、結論づけたものである。 ②　発表者　古川敬康 ③　『新約学研究』第43号2015年に要旨収録（P79－80）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人北九州ナオミ福祉会	理事	2004 年（平成 16 年）4 月 ～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
（本部関係） 理事、評議会委員、連絡協議会委員、運営協議会委員、 学院宗教主任、拡大宗教委員会議長、宗教主事会議長 キリスト教センター長、キリスト教教育研究会事務局長、ハンドベルクワイヤ顧問、 維持会常任幹事、職員研修懇談会職員研修委員会委員 寄付行為変更検討委員会委員 その他、職務上必要的に出席するもの： 幼稚園運営会議・卒園式、中高入学式・卒業式・入試判定会議、後援会役員会・総会、同窓会総会 （大学） 宗教主事、宗教委員会議長、運営会議構成員、非構成委員であるが職務上出席するもの：評議会、 点検評価改善会議構成員、 ＩＴＫイラストサークル顧問、映像制作愛好会顧問 （大学短期大学部） 宗教主事

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　杉谷修一	職名　　准教授	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、シンボル、うわさ

研　究　課　題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2) 子どもの遊びの構成要素としてのうわさや流言に関する研究。 (3)ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担　当　授　業　科　目
道徳教育の理論と実践（前期）（看護学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（福祉学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（栄養学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（英語学科） 社会調査の基礎（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（看護学科） 現代と教育（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（栄養学科） 現代と教育（前期）（英語学科） 現代と教育（前期）（観光文化学科） 教育原理（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（看護学科） 教育社会学（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（栄養学科） 教育社会学（後期）（英語学科） 社会学概論（後期）（福祉学科） 基礎演習（通年）（福祉学科） 教職実践演習（後期） 教育実習Ｉ 養護実習 教育実践研究（三期にわたる）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　道徳教育の理論と実践　】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に着けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。また、今年度途中より変更のあった学習指導要領についてフォローした。

授業科目名【　社会調査の基礎　】 国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などを工夫して理解を助けた。
授業科目名【　現代と教育　】 現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。
授業科目名【　教育社会学　】 子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。
授業科目名【　社会学概論　】 国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。
授業科目名【　基礎演習　】 少人数の集団学習であるため、その中でさらに小集団を構成し、4 回の演習を通じてディスカッションやワークショップを繰り返し、最終的に小集団単位の学習成果をまとめさせた。集団学習における主体性や発表や調べ学習の技法などに関し、具体的実践を通して学んでもらった。また、自己学習を進める上で必要となるデータベースの紹介等も行った。 共通部分の演習では、基礎的技能の大切さとそれを大学生活の中で育てるための具体的方法について説明した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会	紀要編集委員 2009 年 4 月～2011 年 3 月	1985 年 6 月～現在に至る
九州教育社会学会		1985 年 6 月～現在に至る
日本教育学会		1990 年 5 月～現在に至る
九州教育学会		1990 年 5 月～現在に至る
日本社会学会		1990 年 11 月～現在に至る
日本教育方法学会		1997 年 5 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 子どもの遊びにみられる身体動作と発話	単著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19	① 相互行為過程としての遊びを身体動作と発話の要素に注目して分析した結果、外部リソースの参照の参照や引用を通じて重層的な条件の元に相互行為が進行していることが明らかになった。 ② 著者名　杉谷修一 ③ P37～P46
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007.9～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員長　　２０１２年4月１日～２０１４年3月３１日 教職課程委員　２０１４年4月１日～現在に至る 教員免許更新講習プロジェクト（教育部門担当者）　２０１２年4月１日～現在に至る 教育の質保証プロジェクト（教育課程の体系化部門担当）２０１２年4月１日～現在に至る

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　木村　茂喜	職名　　准教授	学位　修士（法学）（九州大学　1997 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、社会的孤立

研　究　課　題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 社会的孤立の状態にある者に対する社会保障のあり方

担　当　授　業　科　目
法学概論(前期)(看護学科) 法学概論(前期)(福祉学科) 法学概論(前期)(栄養学科) 日本国憲法(前期) 社会保障論 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 基礎演習 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
授業科目名【法学概論】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。
授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、昨今の改憲論議の高まりを踏まえ、学生が今後改憲の是非について判断するための素材として、自由民主党が 2012 年に発表した憲法改正草案を毎回の講義内容に即して、私見を交えつつ紹介した。
授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を２回（前期末・後期末）行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜

粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。また、受講する学生に聴覚に障がいのある学生がいたため、レジュメと併せてパワーポイントのスライドをそのままプリントアウトしたものをノートテイカーに配布し、ノートテイカーの負担軽減と当該学生の講義内容の一助に努めた。
授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的イメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【司法福祉論】2009 年度から社会福祉士国家試験の試験科目として追加された「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、3 名の外部講師（保護観察官・保護司・元少年院長）に講義を依頼した。さらに更生保護制度の実態に関するビデオ鑑賞も行った。
授業科目名【基礎演習】「論理的思考力入門」と題して、論理的に考えることの必要性、論理的な文章の構造、批判的な読み方について、それぞれ学生の発言を積極的に促しながら解説を行った。最後に新聞の文章に対する反論を各自発表させ、学生の問題解決能力・批判的思考力の醸成を目指した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009 年 10 月～)	1995 年 12 月～現在に至る
日本労働法学会		1998 年 5 月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008 年 8 月～現在に至る
日本更生保護学会		2012 年 12 月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員（会計監査担当）（2013 年 4 月～2014 年 3 月）	1995 年 4 月～現在に至る
社会法判例研究会		1995 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） ドイツ児童および少年援助における子どもの権利保障―手続への参加を中心に―	単著	2015 年 3 月	西南女学院大学紀要 19 号	①わが国の児童福祉等においては、法律上児童は権利の主体としては位置づけられていないが、ドイツにおいては、児童および少年が参加する権利、相談する権利および助言を受ける権利が社会法典で保障され

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				ている。加えて、児童の福祉の危険の評価や、養育援助にかかる援助計画の作成手続においても、身上配慮権者と並んで児童および少年が参加する権利を有することが明確に規定されている。これは、児童の権利条約 12 条の規定を受けたもので、まさに児童および少年を権利の主体とする児童の権利条約の理念に沿う規定である。わが国も批准している権利条約の理念を明確に表すため、わが国においても法律の条文において、児童を権利主体として規定することも検討すべきである。 ②69～78 頁
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績　総数　(2015.3.31現在) 著　書　１１（内訳　単０，共１１） 学術論文　５（内訳　単５，共０） 判例評釈　９（内訳　単９，共０） 翻　訳　１（内訳　単０，共１） 学会発表　１（内訳　単１，共０）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
図書委員会　委員　2014 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日 フォークソング部　顧問

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　野井　未加	職名　准教授	学位　修士(教育学)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU　ハイリスク児　心的帰属　家族への援助　家族の心配事　極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助

研　究　課　題
・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその発達に関する研究」：ハイリスク児の母親のわが子に対する認知の変化と、それがわが子に対する行動の変容を促すのかについて検討する。 ・「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」：①育児支援活動の成果について、子どもの対象・人への関与行動の分析により検討した。また②母親の心配事の継時的変化について検討を行った。

担　当　授　業　科　目
ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 障害者心理学(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 心理学概論Ⅱ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】 発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティーの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。 学生は、本科目を応用的なもの/理論的なものと理解しており、一方で身近なものとして捉えているようであったが、これはこれまでの自らの発達過程を内省したことによると考えられる。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論であっても身近なもの)を図っていきたい。
授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】 児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。

授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】

第１回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどの様な影響を受けるのかについて解説することを通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】

ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。

授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】

心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。

学生の評価を見ると、理解が難しく、応用的で理論的なものと理解しており、実験という性質からは多少の乖離が見られたと考えられる。2013 年度には“理解が難しい”といった特徴は見られなかったため、これは履修者の特性(ex. 理系的な思考のへの慣れ等)にもよるものと考えられる。今後も学生一人一人の進捗状況を確認しながら展開していきたい。

授業科目名【心理学概論Ⅱ（後期)(福祉学科)】

福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための１つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅱでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説している。上記領域は、内容的には理論的要素の強い学問領域であるため、学生の数値的反応はある種想定の範囲内であったが、一方で身近なものとして本講義を理解しているようであった。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。

授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】

心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。学生は、理解が難しいと感じながらも本ゼミが将来役に立ちそうだと認識しているようであった。実際、ゼミへの参加態度においても、ディスカッションの内容から、主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようである。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理学会		1998 年 7 月～現在に至る
日本特殊教育学会		1998 年 9 月～現在に至る
発達心理学会		1998 年 2 月～現在に至る
西日本心理劇学会		2001 年 1 月～現在に至る
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会		1997 年 4 月～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員(2006 年 4 月～現在)	2006 年 4 月～現在に至る
日本心理学会		2008 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） Effects of Early Intervention Program for Prematurely Born Toddlers	単	2014年7月	28th International Congress of Applied Psychology (Paris, France)	①育児支援参加者の人・物への関与行動の分析を通して、社会性の発達に遅れの見られる極低出生体重児に対する育児支援プログラムの成果について検討した。事例Aは、育児支援開始時点(初期)では対象に没入し、他者に注意を向けることが少なかったが、中期に入ると他者への注視行動を増加させていった。こうしたAの変化により前・中期において共同的関わりが成立するようになったことで、介入後期における事例のシンボルの理解や初期の言語獲得を促進していったものと考えられる。本研究を通して、言語やコミュニケーションにリスクのある子ども自身の注意の対象を利用して、注意の共有を試みること、その際に援助者が身体・言葉・ジェスチャーを使って働きかけていくことが、彼らのコミュニケーションや言語の発達を促進することが示唆された。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　総数　(2015.8.20現在) 著　書　0(内訳　単0, 共0) 学術論文　0(内訳　単0, 共0) 翻　訳　0(内訳　単0, 共0) 学会発表　1(内訳　単1, 共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
極低出生体重児とその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究	本学共同研究費	○野井　未加、山根正夫、谷川　弘治、上村　眞生、小野正子、天本　理恵	1,142,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004年4月～現在に至る

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)
国際交流委員 福祉学科将来構想ワーキンググループ 福祉学科ニューズレター編集委員

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　吉田　あや子	職名　准教授	学位　修士（教育学）（1997年）福岡教育大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
養護教諭教育 学校健康相談 健康教育学	養護教諭の力量形成　　養護教諭養成 児童生徒の健康課題　　健康相談 保健指導の開発

研　究　課　題
（1）養護活動のFDに関する研究 （2）学校健康相談に関する研究 （3）効果的な保健室経営に関する研究

担　当　授　業　科　目
地域保健Ⅱ　（前期）（福祉学科） 養護実習　（通年）（福祉学科） 教育実践研究　（通年）（福祉学科） 事前事後の指導（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ　（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ　（通年）（福祉学科） 学校保健教育法（後期）（福祉学科） 学校保健Ⅱ　（後期）（福祉学科） 看護学　（後期）（福祉学科） 教職実践演習　（後期）（福祉・看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　学校保健Ⅱ　】 ○　板書を工夫し、知識や理論を理解しやすいように努めるとともに、授業後の学習カードとして本時のテーマ、キーワード、学んだこと等を記入することで知識の定着化を図り、理解ができていないところは、次の時間に説明を加えるようにした。 ○　学生のモチベーションを高くするために、学校現場の様子などの映像を用いて説明を行った。 ○　重要なところはワークシート学習を行った。まず、説明ののち学生自身が自分の情報や考えを記入し、その後グループで協議発表する方法をとった。（アクティブ・ラーニングAL） ○　教員採用試験も視野に入れて、多くの専門用語や理論を理解できるように解説した。さらに学生が納得して知識や理論を吸収できるように、できるだけ実践事例を多く提示するようにした。
授業科目名【　看護学　】 ○　看護学の総論では、基礎となるナイチンゲール、アンリー・デュナン等の功績と理論について、授業者自身の海外研修での調査映像をもとに分かりやすく解説を行った。その後、自己学習やインターネット等を活用した調べ学習、グループでのカンファレンスさらに発表等ができるように工夫した。（アクティブ・ラーニングAL） ○　各疾患については、学習効果を高めるために、ライフサイクルに応じた説明後に問題解決型学習方法等を指導し、課題を与えグループ発表の場を設けた。

○　学習カードには、毎時間、授業終了１０分前に、テーマ、キーワード、学んだことを記述してもらっているが、学生自身の振り返りになるとともに授業担当者も学生の学びの把握が出るので、ともに役に立ったと思われる。

○　学習カードから、多くの受講生が日々の授業に達成感、充実感をもつなか、グループ学習が苦手な学生の存在を知り、授業方法を修正しながら進めた。しかし、修正前の学習の方が楽しく、他の人の情報や意見を知ることができ学びやすかったのにとの意見が最後に多数出た。多様な学生が満足できる講義を行うのは容易ではないが努力していきたい。

授業科目名【　学校保健教育法　】

○　小学校・中学校・高等学校における実際の学習指導案をもとに学生に考えるポイントを提示し、学生の考察の後、更に具体的に説明を行うなど学生の考える力を育成するような学習活動を本年も行った。また、板書は本時の授業内容がまとめとして確認できるように工夫した。

○　学生の授業に対する意欲や理解が深まるように、実際の学校での保健指導の様子や手作り教材等を視覚的に紹介するようにした。その効果がみられ多くの学生が積極的になった。

○　学生の学びを高めるために模擬授業を行い、そのあとにカンファレンスを設定した。カンファレンスでは授業者役の自評と観察者役の意見交換を行い、学生がより良い授業に向けて学習できるように図った。（アクティブ・ラーニング AL）その結果、授業観察ワークシートにポイントを積極的に記入し、カンファレンスでも活発な意見を出して授業を自分のものとする態度がみられようになった。

授業科目名【　地域保健Ⅱ　】

○　受講生が予習復習に取り組めるように学習課題、内容を明確に提示するように努めた。

○　本授業は４年生前期に行うため、養護実習（3 週間）の時期と重なり 5 月上旬から６月下旬まで、全員揃わないが、実習期間中の学習課題を提示することで学びを深めることができるように工夫をした。

○　健康相談の基本理論や事例分析等の説明では、学生が理解しやすいように図やフローチャート等にするように努めた。また、実践事例として日常対応・頻回訪室者の対応・長期にかかわる事例等を提示し、プロセスに応じて考えをまとめることが出来るようにワークシートも活用するとともに、具体的に分析方法を説明するように工夫した。また小集団学習を適宜取り入れ、グループ討議やロールプレイ演習を行った。（アクティブ・ラーニング AL）

○　学生の理解度を高めるために、板書の工夫を行った。

授業科目名【　教育実践研究　】

○　３年後期から４年前期までの履修期間であるため、方法及び内容を工夫した。オリエンテーションのほか、実習の事前カンファレンス・事後カンファレンスをグループ別に実施した。

○　学生が養護実習先で児童生徒等の指導が十分にできるように定期的に「課題解決学習」を取り入れ実施した。徐々に学ぶ姿勢が養われているように思う。

○　人権学習については、2 コマを使い外部講師・教育委員会の専門の先生を招聘して教職課程合同で実施した。また、養護実習のための事前指導では、同日に卒業生による体験講話会を実施した。４年生にとても好評であった。当日の最後に、養護の専門科目担当者として実習目的・目標、実習内容、記録の仕方、個人情報保護について等の実習時の留意事項などを説明したところ、学生の真剣さが伝わってきた。

○　学生の実習前学習の学校保健指導案作成については、実習校の状況を踏まえた上で、授業展開等が十分にできるように個別・グループ学習を実践的に行った。

授業科目名【　養護実習　】

○　養護実習における現地指導では、実習校の管理職、担当の先生方と話し合いをしたうえで実習生の指導を行った。査定授業、指導案作成指導及び反省会・協議会等にもできるだけ参加するように努めた。
そのため、学生の実習状況の把握が十分にでき、その実習時期だけでなくその後も適切な指導等につながったように思う。

○　養護実習生用に作成した「養護実習の手引き」を使い、事前・事後において個別の相談やグループ指導に力を入れた。

授業科目名【　教職実践演習　（養護教諭）　】

○　本講は２年目であり、昨年の一部のコマは福祉・看護・栄養・英語学科合同で実施した。

○　養護教諭養成の分野で、初回とまとめと担当時間と合わせて１１コマ担当した。受講生は教育実習、養護実習を終えており、養護教諭の資質向上を目指して実習体験の振り返りを行い、広い視野で考察できるような教育方法と課題を取り入れた。

○　教育指導方法を各自が提案できるようにグループ学習を取り入れ、学生同士の学びあいを深めることができるようにした。

授業科目名【　専門研究Ⅰ・専門研究Ⅱ　】

○　研究の力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表･討議などの基本が学べるようにプロセスを重視した。

○　3・4年生のゼミ生には、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、北九州市小児口腔保健学会、学会教育セミナー等への参加機会を設けた。自主参加であるが、ミーティング等で次回も是非参加したいと感想・意見を述べていた。

○　長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を希望する学生には、学生の自主性を尊重しながら、対応についての指導・助言を行うよう努めた。

○　ゼミ生の専門研究意欲が高まるような工夫をしていきたい。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本思春期学会	社団法人日本家族計画協会（上級思春期保健指導士）（2005年～）	1994年４月～現在に至る
日本養護教諭教育学会	査読担当2007年 理事（2009年４月～現在に至る） 学会活動委員会委員（2009 年４月～現在に至る） 査読担当2009年度	1995年４月～現在に至る
日本学校保健学会	第４７回日本学校保健学会実行委員 (1999年５月～2000年11月)	1995年９月～現在に至る
九州学校保健学会	評議員（2013年８月～現在に至る	1995年　９月～現在に至る
日本健康教育学会		1997年４月～現在に至る
日本地域看護学会		1998年２月～現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事(1999年６月～2002年) 常任理事(2003年６月～現在に至る) 第23回北九州市小児口腔保健学会大会長（2014年10月）	1999年６月～現在に至る
日本幼少児健康教育学会	理事(2003年４月～2014年 常任理事（2014年～現在に至る） 健康教育セミナー委員（2006年～現在に至る） 第29回秋季学会北九州大会会長(2010年) 第 69 回幼少児健康教育セミナー実行委員長（2011年～2013年度） 第 73 回幼少児健康教育セミナー実行委員長（2012年度）	2003年３月～現在に至る

	第 76 回幼少児健康教育セミナー実行委員長（2013 年度） 第 81 回幼少児健康教育セミナー実行委員長（2014 年度）	
日本学校健康相談学会	査読担当 2005 年～2007 年	2004 年 12 月～現在に至る
日本歯科医療福祉学会		2007 年４月～現在に至る
日本外傷歯学会（JDTA）	理事(2013 年 7 月～2016 年）	2011 年７月～現在に至る
ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY（AADT）	As a director of the ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY（2013～2016）	2009 年９月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） １．養護教諭養成講座「学校における養護活動の展開」	共著	2014.4 改訂２版	㈱　ふくろう出版	①養護教諭を目指す学生が自主的に学ぶことを支援できるように、養護教諭の専門性の基本的な考え方や理論を示した。また、養護教諭が行う活動の展開について学生が理解しやすいように図表並びに実践例を多く取り上げ解説した。 ②　担当部分：第６章保健室経営　p.47～55 ③　編集代表：津島ひろ江　吉田あや子他 16 名 ④　Ａ４版　総頁数 271 頁

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
２．養護教諭の行う健康相談活動	共著	2014.4 第12版	㈱東山書房	①　概要：養護教諭教育学会共同研究班の「相談活動にかかわる養護教諭の力量形成に関する研究」に参加したメンバーで執筆した。研究成果をもとに、現在の学校現場の諸問題や動向を取り入れ、健康相談活動の理論および必要な事項を網羅した。実践事例から理論を導き出した。 ②分担部分：第２章２）健康相談活動の基礎と背景、問題理解、第５章健康相談活動における記録、１.記録の目的と意義、２.日常の養護活動における記録、３.相談活動における記録、４.事例検討のための記録、５.記録の保管とプライバシー保護、巻末資料疾病の定義と症状　ｐ．５４～５８，１３５～１４７，１７３～１７５ ③編著者名：大谷尚子、森田光子　共著者名：吉田あや子、井手元美奈子、大原榮子、塩田瑠美、竹田由美子 ④B5版　総頁数１７９頁
３．学校保健ハンドブック	共著	2014.8 第６次改訂	㈱ぎょうせい	①全国の多くの大学等で教職課程における科目「学校保健」のテキストとして使用されており、教職を目指す学生が学ぶべき内容を分かりやすく著わした。子ども達の健康実態や課題、関係する諸制度の改正など社会の変化に応じた改訂を行った。 ②担当部分　第１章第４節　学校保健の組織活動　P.17～21 ②　員養成系大学保健協議会編 ③　Ｂ５版　総頁数315頁
（学術論文）なし				
（翻訳）なし				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 1.　（特別講演） ‘Promotion of efforts to school health education in Japan - the role of　YO-GO Teacher -’	単	2014.09	2014 年度日中学術交流会 (於北京大学口腔医学院)	わが国における子どもの健康教育について、生活習慣病、アレルギー疾患など疾病構造の変化など子どもの健康課題の現状を踏まえ、保健室・養護教諭の役割及び学校保健安全法の改正など学校保健制度について考察したことを発表した。
２.（会長講演 ） 子どもの健康問題と学校保健の推進	単	2014.10	北九州市小児口腔保健学会（於西南女学院大学）	講演要旨 　家族形態や生活様式の変化とともに子どもの生活や遊びも変化し、子どもの体力低下をもたらし、子どもの成長発達に影響を及ぼしている。そのため、学校現場で、生活習慣病やアレルギー性疾患等の現代的健康課題への組織的に取り組む学校保健の推進、及び中核となる養護教諭の職務と養成段階の力量形成について述べた。
３.（講演） 幼少児健康教育セミナー 「子どもの成長発達過程を踏まえた安全について」	単	2015.02	日本幼少児健康教育学会第 81 回幼少児健康教育セミナー（於北九州市立ウェル戸畑）	子どもの安全については、成長発達過程を踏まえ、生活安全・交通安全・災害安全を考慮しなければならない。また、学校給食のアナフィラキシーショックの防止には、子どもの心身の状態を確実に教職員が理解しておくとともに、教職員の連携した対応などが重要である。
				教育研究業績 総数 （2015. 3. 31 現在） 著書　３(内訳:単0 共３) 学術論文（内訳:単 0共 0) 学会発表、座長、特別講演など ３(内訳:単３ 共) その他（内訳:単 共 ）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
養護教諭養成における倫理教育について	日本養護教諭養成大学協議会	○荒木田美香子、 津島ひろ江、 池添志乃、 吉田あや子、 鎌田尚子、 中村朋子、 中島敦子、 田村裕子、 亀崎路子、	100,000 円/年 2013～2015 年度

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本幼少児健康教育学会 第 81 回健康教育セミナー	理事 健康教育セミナー委員 実行委員長	2003 年４月～現在に至る 2006 年～現在に至る 2014 年～2015 年２月
北九州市小児口腔保健学会	常任理事	2003 年６月～現在に至る
日本外傷歯学会	理事	2013 年７月～現在に至る
ASIAN NTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY（AADT）	As a director of the ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY（AAADT）	2013～2016

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○　教職課程委員会委員 ○　安全衛生委員会委員 ○　福祉学科内養護教諭コース担当（リーダー） ・「教職カルテの」指導（１年生から４年生まで定期的に個別指導及び全体指導） ・教職採用試験対策、臨時採用等の就職対策指導を精力的に行った。 ・養護教諭志望の４年生を対象に実践力アップ講習を行った。学生の自主参加であった。 ・卒業生に対しても、教採試験対策や就職等の相談活動を行った。

○　１年生・２年生アドバイザーを担当し、学生の相談、指導を丁寧に行うよう努めた。

- 週に４回オフィスアワーを設定し、学生の質問・疑問に応えるよう努めた。
- 定期的に交流会を行い、交流を深めるよう努めた。
- 学生からのメールでの質問等にもこまめ対応し、意思の疎通を図るように努めた。
- 特に学生の自主性を尊重した指導を心がけた。

○教職（養護教諭）志望学生の相談と対応及び指導

・週に４回オフィスアワーは予約が原則であるが、空き時間に来室があれば学生優先の考えで対応を行ってきた。

○教員免許更新講習　養護教諭対象講座「子どもの健康問題と健康教育」においてコーディネーター及び講師を担当した。（2014 年８月実施）　　担当講座名「子どもの健康問題と養護活動の展開」

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　荒木　剛	職名　准教授	学位　修士（社会福祉学）（熊本学園大学 2002 年）

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研究課題
・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方について検討する。 ・社会福祉士養成教育における実習教育のあり方について検討する。

担当授業科目
社会福祉概説（1 年次通年）、基礎実習（1 年次通年）、高齢者福祉論（2 年次通年）、介護技術演習（2 年次前期）、相談援助実習指導Ⅰ（2 年次通年）、相談援助実習指導Ⅱ（3 年次通年）、相談援助実習（3 年次通年）、相談援助演習Ⅱ（2 年次前期）、相談援助演習Ⅲ（2 年次後期）、相談援助演習Ⅳ（3 年次前期）、相談援助演習Ⅴ（3 年次後期）、社会福祉特講Ⅱ（4 年次後期）、専門研究Ⅰ（3 年次通年）、専門研究Ⅱ（4 年次通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【社会福祉概説】 本科目は１年次開講の福祉基礎科目である。講義では教科書の内容に沿ったレジュメを作成し、内容の理解を助けた。また、新聞記事等を用いて福祉の話題や身近な問題を提示し、学生が社会福祉やソーシャルワーカーの仕事に関心を持てるよう工夫した。
授業科目名【基礎実習】 受講学生を３グループに分け、各教員による担当制とし、個別指導を強化した。実習前の講義では、対人援助職への理解や実習への動機を高める内容とした。また、自己学習の機会を設け、実習先について十分に理解させた。実習後の講義では、個別面接や実習報告会を行い、実習体験に基づく学びや気づきの深化を図った。
授業科目名【高齢者福祉論】 講義では教科書に沿ったレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、新聞記事等を活用し、高齢福祉に関わる最新の情報提供を行った。毎回の講義後にはコメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
授業科目名【介護技術演習】 本講義は主に外部講師２名が担当している。毎回の講義において外部講師と講義内容や必要物品等の調整を行い、講義が円滑に運営できるよう努めた。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 高齢者福祉領域及び地域福祉領域の実習指導を担当した。3 年次で履修する実習の準備学習として、実習領域や施設、利用者理解が深まるよう関連資料やビデオ等を活用した。また、12 月には実習施設への訪問を行い、実習内容のイメージ化を図った。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 高齢者福祉領域及び地域福祉領域の実習指導を担当した。実習前の講義では、実習関連書類の作成指導を通して学生の動機を高めた。また、実習後には、個別面談や実習報告書会を実施し、実習体験での学びや気づきを深めさせた。
授業科目名【相談援助実習】 実習先及び実習指導者との連絡調整に努め、実習の円滑な実施と指導内容の共有を行った。また、新規実習施設の開拓を行い、実習先の確保に努めた。実習期間中は巡回訪問を行い、学生への個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。
授業科目名【相談援助演習Ⅱ】 講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法や記録について教授した。 毎回の講義では必ず各人に発表の機会を与え、主体的な参加を促した。また、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験的な学びを提供できるよう努めた。
授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 高齢者福祉領域における事例を用いて、実践的な知識・技術を習得できるよう努めた。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を通して、学生同士でさまざまな視点から事例を検討できるよう工夫した。 ※相談援助Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは同じ教授内容。
授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】 本科目は 4 年次の開講科目であり、国家試験対策としての位置づけでもある。講義では高齢者福祉の内容を担当し、国家試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に教授した。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 ゼミ全体で研究テーマを設定した上で、各学生に個別課題を与えた。講義全般を通して、学生の自主性を引き出しながら、各自が主体的に課題に取り組めるよう努めた。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 本講義では、専門研究Ⅰでの学習課題をさらに深めることを目指した。また障害者施設においてボランティア活動を行い、これまで習得した知識や支援技術の応用を図った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本介護福祉学会 日本ケアマネジメント学会		1998 年 4 月～現在に至る 2002 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2008 年 1 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 相談援助実習における実習プログラムを巡る現状と課題－実習指導者へのグループインタビューを中心とした検討－（報告）	共	2015年3月	『西南女学院大学紀要』Vol.19	① 本学福祉学科の相談援助実習を実施した施設の実習指導者5名を対象にグループインタビューを行い、実習内容及び指導方法の現状と課題を明らかにした。 ② 共著者名：山本佳代子、通山久仁子、木村美穂子、小田寛子 ③ 担当部分：抽出不可 ④ P89～P96

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究（2011年度～2014年度）	文部科学省	○（鬼崎信好） （本郷秀和） （松岡佐智） （永田千鶴） （村山浩一郎） 荒木剛	4,940,000
相談援助実習における実習プログラムの開発に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○荒木剛 山本佳代子 通山久仁子 （木村美穂子） （小田寛子）	210,000
高齢者虐待の予兆察知における介護支援専門員の現状と課題－ソーシャルワークによる支援の方向性－（2014年度～2017年年度）	文部科学省	○（本郷秀和） （鬼崎信好） （永田千鶴） （畑香理） 荒木剛	4,680,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市社会福祉協議会 （権利擁護・市民後見センター運用委員会）	委員	2009 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 （福祉人材バンク事業運営委員会）	委員	2012 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人福音会	第三者委員	2009 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
キャンパスハラスメント防止・対策委員会（2014 年 4 月～現在に至る）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　上村　眞生	職名　　准教授	学位　博士（教育学）（広島大学 2012 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研　究　課　題
・保育士のメンタルヘルスについて、その構造及びケアについて考察する。 ・保育士間の関係が保育の質や保育所運営に果たす意味について考察する。 ・保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・幼児における食育活動の衛生面の課題克服と教育的意義の再検討を行う。

担　当　授　業　科　目
保育原理（前期） 保育内容　環境（前期） 保育内容　総論（前期） 保育課程論（前期） 保育の表現技術Ⅲ（前期） 保育内容　表現（後期） 保育の表現技術Ⅳ（後期） 保育者論（後期） 保育実習Ⅰ（3 年前期～4 年前期） 保育実習Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅰ(3 年前期～4 年前期) 保育実習指導Ⅱ(通年) 保育実践演習（通年） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。必然的に課題や学生自身による取り組みが多くなるため、授業評価アンケートからもその様子が窺えるが、同時に学生の目標達成、将来への展望にも繋がっていることが確認できた。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。一方で、授業評価アンケートからは、学生にこちらの意図が伝わっていなかったことが確認されたため、授業の進行方法も含めて見直したい。

授業科目名【保育内容総論】
保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、これまでの学習の総括と総合的且つ専門的な視点からの課題解決について、事例、例題を提示し、毎時間ディスカッションを行った。そのため、学生が授業に参加するに当たっての事前準備にある程度の時間が必要であることと、ディスカッションを基本として授業を進めるため学生間の関係性に起因する議論の方向性の偏りも若干見られた。この点を踏まえ、各回に全体討議とは別に個人個人の検討内容をレポートとして提出させ、各学生の検討内容を評価した。

授業科目名【保育課程論】
保育の計画に関して、長期・短期計画について解説した上で、「保育課程」の作成方法を指導した。保育課程作成にあたり必要となる乳幼児の発達、現代の保育における諸課題について、より認識しやすいよう各グループによる発表を基に、ディスカッション、解説を行い、実際に学生一人一人が保育課程を作成する試みを実施した。

授業科目名【保育の表現技術Ⅲ】
保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。

授業科目名【保育内容表現】
表現活動の意味や学生自身の表現を豊かにすることだけでなく、そのための方法論を学生自身が導くことができるよう、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。授業評価アンケートからは、「将来の有用感」や「自主性」についても意識化できていることが伺えた。

授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】
保育者として必要な造形表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の造形表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。授業評価アンケートからは概ね目標は達成できたと考えるが、一部「ただ楽しい」だけの活動と理解している様子も窺えるため、課題後の振り返りについて検討が必要であると考えている。

授業科目名【保育者論】
保育者としての考え方の基本について教授した。専門職としての倫理観、および保育者としての指針について解説した。保育原理同様、講義型の授業のため、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。昨年度からの反省により、事例提示を増やした結果、例年より理解が進んだことが窺えるため、今後もこの形を踏襲したいと考えている。

授業科目名【保育実践演習】
　保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4 年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの「課題が多すぎる」と捉えていることが分かった。この点については、教授内容の整理が必要であると考えている。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】
個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。

授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】
保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。

授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】 実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	２００５年６月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	２００６年７月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	２００７年８月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	２００９年５月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 保育士の蓄積的疲労６ －女性保育士の疲労状況－	共同	2014年6月	日本保育学会第67回大会（於　大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学）	国内の2地域で勤務する保育所保育士と施設保育士の内、女性保育士を対象として、その蓄積疲労について検討した。その結果、女性保育士の疲労特性については先行研究と類似するものの、自己実現や仕事のやりがいに関する因子は独自の傾向をもつことが明らかとなった。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
保育士のメンタルヘルスケアに関する研究	科学研究費 若手Ｂ	1,040,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・学生委員　委員　2014 年 4 月 1 日～現在に至る ・FD 部門会議　委員　2013 年 4 月 1 日～現在に至る ・情報システム管理運用委員会　2011 年 4 月 1 日～現在に至る ・PHOTO 部　顧問　2010 年 12 月 14 日～現在に至る

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　今村　浩司	職名　准教授	学位　修士（福祉社会）（福岡県立大学）

研究分野	研究内容のキーワード
精神保健福祉分野	ソーシャルワーク、臨床実践、精神保健福祉、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
精神障害者の地域生活支援に関しての研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関しての研究 精神保健福祉士の専門性向上に関しての研究 精神障害者の権利擁護に関しての研究 触法精神障害者の地域定着に関しての研究

担当授業科目

科目名	単位数		授業評価ポイント
	必修	選択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ		4	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ		4	
精神障害者地域生活支援論		2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		2	
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		4	
精神保健福祉援助演習Ⅰ		1	
精神保健福祉援助演習Ⅲ		1	
精神保健福祉援助実習Ⅰ		2	
精神保健福祉援助実習Ⅱ		2	
ヒューマンサービス基礎演習	1		
相談援助演習Ⅰ	1		
専門研究Ⅰ	2		
専門研究Ⅱ	2		
生活と福祉（短期大学部生活創造学科）		2	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】
精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ】
精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対してのリハビリテーション全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神科リハビリテーションの実際を視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【生活と福祉】 現代社会における生活全般の福祉に関する現状を詳細に解説し、その課題を整理した。「自分自身」というキーワードを与えて、自らの立場性をイメージさせて、その立場からどう考えるかということで理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 精神保健福祉士レーン 3 人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 上記同様 3 人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】 精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。また、4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 対人サービスを行う専門職養成のために、5 名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、チームワークの 3 つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 相談援助者の基本的理解である「受容」「傾聴」「共感」を中核に、クライエントに寄り添う重要性を習得させることに努力をした。小グループでの活動を中心に、できるだけきめ細かい関わりが行えるよう配慮した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。数か所の病院や施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告させた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001 年～現在）	1994 年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010 年 6 月～2012 年 6 月）	1996 年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013 年～現在）	1996 年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006 年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008 年～現在
日本精神保健福祉学会		2012 年～現在
日本更生保護学会		2013 年～現在

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書等） １．認定成年後見人ネットワーク「クローバー」ハンドブック（第６版）	共	2014 年５月	公益社団法人　日本精神保健福祉士協会	①　日本精神保健福祉士協会所属で認定成年後見人養成研修を受講し、「クローバー」に登録した方々への成年後見の実務的マニュアルの改訂第6版。精神保健福祉士と成年後見の関係性や、その重要性を述べている。 ②　編集　公益社団法人日本精神保健福祉士協会 ③　作成当時の作成担当委員会委員長として本誌作成の中核になり担当。共同研究であり本人担当部分抽出不可能。 総頁数・46頁 ④　Ａ４判
２．日本精神保健福祉士協会５０年史	共	2015 年１月	公益社団法人　日本精神保健福祉士協会	①　日本精神保健福祉士協会の50 周年記念史である。これまでの精神保健福祉士の専門職能団体としての活動の詳細や、これからの課題展望等々をまとめている。 ②　編集　日本精神保健福祉士協会 50 年史編集委員会 ③　第３章　第６節　それぞれの実践課題にかかわる精神保健福祉士　３）成年後見制度　pp202～204 を執筆。 総頁数　218 頁 ④　Ａ４判

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文等） １．平成 26 年度診療報酬改定について	単	2014 年 6 月	「精神保健福祉」VoL.45No.2 通巻 98 号	① 平成 26 年度に改定された診療報酬制度の精神科医療分野の解説と、精神保健福祉士との関連性をまとめ、今後の課題を提示した。 ② 発行　日本精神保健福祉士協会 ③ pp122～124
（翻訳） なし				
（学会発表等） １．精神保健福祉士の業務評価と配置に関する診療報酬制度を考える～10 年後の精神保健福祉士を見据えて～	共	2014 年 6 月	第 13 回日本精神保健福祉士学会学術集会（於　大宮ソニックシティ　埼玉県）	① 精神保健福祉士に対しての、診療報酬や配置促進等における評価について考察し、その報告を行った。（○今村浩司、木下了丞、平川央他）
２．小規模市町村における市民後見人育成の研修体制につていの研究～第一報～	共	2014 年 6 月	日本社会福祉学会九州部会第 55 回研究大会（於　鹿児島国際大学　7 号館）	① 市民後見人育成事業を実施している、先駆的市町村の実施状況を調査し、我が国の市民後見人育成の現状と課題を抽出するための経過をまとめた第一報。（○古野みはる、今村浩司）
３．精神保健福祉士による「精神科訪問看護・指導」の現状と課題～当院の取組みを通しての一考察～	共	2014 年 12 月	第 60 回九州精神医療学会（於　福岡国際会議場）	① 精神障害者の地域生活支援において重要な役割を果たす精神科訪問看護・指導について、精神保健福祉士の視点から、事例を通して課題と展望について一考した。（○有薗享平、和田洋臣、今村浩司他）
（報告書等） １．北九州市保健福祉オンブズパーソン事業運営状況報告書	共	2014 年 7 月	北九州市保健福祉局オンブズパーソン事務局（北九州市保健福祉局監査指導課）	① 北九州市における保健福祉に関するオンブズパーソン事業の概要説明や活動報告。 ② 発行　北九州市保健福祉局オンブズパーソン事務局（北九州市保健福祉局監査指導課）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
小規模市町村における市民後見人育成の研修体制についての研究 （2012 年度～2014 年度）	科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）	○（古野みはる） 今村浩司	2,340,000 （直接 1,800,000） （間接 540,000）
地域で生活する医療観察法対象者や障害のある刑務所出所者等に対しての再犯防止サポート体制の構築に関する取組 （2013 年度～2015 年度）	更生保護法人日本更生保護協会	○　今村浩司 嶋村美由紀 平田健太郎他	1,500,000 （2013 年度～2015 年度）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本精神保健福祉士協会	理事　（兼診療報酬・配置促進委員会委員長）	2001 年 4 月～ （2012 年 6 月～2014 年 6 月）
日本社会福祉士会	代議員	2010 年 6 月～2012 年 6 月
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001 年 4 月～
福岡県社会福祉士会	副会長	2008 年 2 月～2012 年 6 月
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012 年 7 月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002 年 9 月～
北九州地区社会福祉専門職５団体連絡協議会	代表世話人	2006 年 4 月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005 年 10 月～
北九州成年後見センター	理事	2006 年 3 月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005 年 4 月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001 年 4 月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005 年 7 月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012 年 4 月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005 年 4 月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006 年 4 月～
北九州市精神障害者社会適応訓練事業運営協議会	委員	2000 年 4 月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上	委員（地域包括支援部会兼	2006 年 4 月～

委員会	務)	
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008 年 7 月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013 年 4 月～
北九州市発達障害者支援センター連絡協議会	委員	2013 年 4 月～
福岡県精神医療審査会	委員	2014 年 4 月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）　精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014 年 6 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　委員 西南女学院大学精神保健福祉研究会　顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　納戸　美佐子	職名　　准教授	学位　博士（医療福祉学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉	認知症高齢者グループホーム・認知症高齢者

研　　究　　課　　題
・グループホームにおける認知症高齢者へのケアの効果評価に関する検討 ・認知症高齢者を対象としたボランティアの育成プログラムに関する検討

担　　当　　授　　業　　科　　目
相談援助の基盤と専門職（通年）（福祉学科） 相談援助の理論と方法Ⅰ（通年）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅱ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅲ（後期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅳ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅴ（後期）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科） 相談援助実習（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【相談援助の基盤と専門職】 本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、近年の福祉現場における課題について理解を深めることができるよう工夫した。また、重要な内容については、確認問題を実施することにより、自身が自分の学習状況を確認できるよう努めた。さらに、質問については、講義後の振り返りシートを活用し、した。 次年度の担当はない。
授業科目名【相談援助の理論と方法Ⅰ】 本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、相談援助について理解を深めることができるよう工夫した。また、講義内で課題を提示し、解決方法や対応方法について学生自身が考える時間を設定し、学生自らが考える時間を設定するよう工夫した。また、ビデオ教材を用いた学習では、要点をまとめた確認シートを作成し、受け身的な授業にならないよう工夫した。 授業評価において、進むペースが速いという意見が１件上がっていた。次年度は、学生の進捗状況を丁寧に確認し、理解が出来なかった学生に対しては、個別に対応することを口頭にて伝える。また、国家試験対策を考慮した確認問題を作成し、国家試験に向けた意識が高まるよう工夫する。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
　専門研究Ⅰでは、各学生が関心をもっている福祉課題について、調べ学習を行った。学生が調べた文献について、プレゼンテーションし、その内容について学生同士でディスカッションを行った。
　次年度は、福祉課題ついて文献を通して学ぶとともに、実際に、福祉サービスを利用している方と関わる機会を設定し、福祉サービス利用者に対する理解を深められるよう工夫する。

授業科目名【専門研究Ⅱ】
　専門研究Ⅱでは、各学生が興味のある課題を設定し、文献研究を行った。課題設定や研究方法について適宜助言を行った。また、グループ研究を行い、共同研究を行うことのメリットおよび共同研究を遂行するための課題について学ぶ機会をつくるようにした。
　次年度は、定期的に研究の進捗状況を発表し、学生の意欲が高まるような工夫をする。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】
　本演習では、参加型・体験型のプログラムを用いることにより、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされる基礎的能力を形成できるよう工夫した。
　次年度は、振り返りシートやレポート等を活用し、演習での学びを日常生活やボランティア活動で活かすことが出来るということを学生自身が気づけるようにする。

授業科目名【相談援助演習Ⅱ】
　本演習では、相談援助専門職に必要な相談援助の方法や支援の視点について、グループ討議、ロールプレイなどを用いて体験的に学ぶ。また、事例等を用いることにより、福祉課題や利用者の状況について理解できるよう工夫した。
　次年度は、振り返りシート等を活用し、学生の理解状況を把握し、学生がより主体的に学べるよう工夫する。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・相談援助演習Ⅳ・相談援助演習Ⅴ】
　本演習では、ロールプレイや高齢者に関する事例を用いることにより、相談援助専門職の役割や必要な基礎的な技術および知識等に関して、学生が体験的に学ぶことができるよう工夫した。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションについて継続的に学べるようにした。
　次年度は、振り返りシート等を活用し、学生の理解状況を把握し、学生がより主体的に学べるよう工夫する。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】
　本講義では、高齢者施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。調べ学習やグループワークを用いることにより、相談援助実習指導の意義・目的、高齢者に関する福祉的課題等について自ら考えることが出来るよう工夫した。
　次年度は、高齢者に関する課題についてディスカッションする機会を設定し、ひとつの課題について深く考えることが出来るよう工夫する。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】
　本講義では、高齢者施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。実習前の指導では、調べ学習を行い、実習施設について理解出来るようにした。また、実習後の指導では、個別面談を行い、学生の課題や達成した目標などについて学生自身が整理できるようにした。
　次年度は、実習前の指導として、利用者理解を深める課題や支援に必要な知識について整理出来るような課題を作成し、実施する。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会学会員		2000 年 5 月 ～現在に至る
日本老年行動科学会学会員		2000 年 6 月 ～現在に至る
日本行動分析学会学会員		2001 年 4 月 ～現在に至る
日本地域福祉学会学会員		2002 年 4 月 ～現在に至る
日本認知症ケア学会学会員		2002 年 7 月 ～現在に至る
日本福祉心理学会学会員		2004 年 10 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 福祉系職種が OT に期待すること	共著	2014年6月	作業療法ジャーナル, 48(6), 461-465.	もの忘れ外来における認知症高齢者への対応事例を取り上げ、家族支援における専門職の役割について述べた。 著者：納戸美佐子・中村貴志
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
グループホーム職員の就労継続のための支援体制に関する検討	西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所	141,500円	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
後援会学校委員　2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 就職委員会　　2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　嶋村　美由紀	職名　　講師	学位　修士（社会福祉学）日本社会事業大学大学院　1998 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神保健福祉領域	精神保健福祉士 ソーシャルワーク

研　究　課　題
精神科病院における精神保健福祉士（精神科ソーシャルワーカー）の役割について考察する。 また、精神障害者と家族との関係と精神保健福祉士の関わり（質の向上）について考察する。 当事者や家族へのアプローチ方法と、その支援について整理する。 障害者の障害受容について考察する。

担　当　授　業　科　目	
・精神保健福祉に関する制度とサービス	・精神障害者の生活支援システム
・精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	・相談援助演習Ⅰ
・精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ	・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	
・社会福祉概説（栄養学科）	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神障害者の生活支援システム　】 精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や制度、政策との結びつきを具体的に示し、ビデオ等も使いながら、興味がわくような講義内容になるよう努めた。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。
授業科目名【　精神保健福祉援助演習Ⅰ　】 精神保健福祉士国家資格受験資格取得のための演習であるため、精神科への理解やソーシャルワークの視点などを具体的に理解できるよう視覚教材を用いて、各自で考える力が備わるよう考察を促した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めて精神保健福祉援助実習への導入も行った。
授業科目名【　精神保健福祉援助演習Ⅱ　】 精神保健福祉士国家資格受験資格取得のための演習であるため、精神科への理解やソーシャルワークの視点などを各自で考える力が備わるよう調べたり、議論をしたり、ロールプレイをしたりしながら考察が深まるように促した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めて精神保健福祉援助実習への導入及びも行った。
授業科目名【　精神保健福祉に関する制度とサービス　】 精神科や精神障害者に関しての興味関心が広がるように努め、学生の将来について考えることができるよう情報提供を行った。１・２限連続の講義だったので、単調にならないように、視覚教材を用いたり、双方向のやりとりを行ったりしながら、学生が眠くならないように工夫した。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。

授業科目名【　精神保健福祉相談援助の基盤（専門）　】 精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や当事者の様子等を具体的に示し、ビデオ等も使いながら興味がわくような講義内容になるよう努めた。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。
授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 福祉の領域や、ソーシャルワーカーの役割・視点等について、具体的事例を提示した上で、学生各自が考えて調べたり、他のメンバーの意見を聞いたりする中で、各々の考え方や他者との関わり方などに気づき、また、再発見することができるように関わった。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習Ⅱ　】 精神保健福祉援助実習Ⅱに向けての実習指導を行った。障害福祉サービス事業所等社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。障害者福祉サービス事業所等地域の社会資源での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮し、事前指導（個別）を導入した。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　】 精神保健福祉援助実習Ⅰに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。精神科医療機関での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮し、事前指導（個別）を導入した。
授業科目名【　社会福祉概説　】 栄養学科の学生に向けての講義である為、社会福祉に興味関心がわくような、時事問題や、身近な内容を導入し、福祉への理解を促すことに努めた。講義の最後には、コメント票を配布し、理解度や質問等を書いてもらい、次回講義時にフィードバックを行った。ビデオを使って視覚的なアプローチも行い、学生の視野を広げるよう努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会 日本精神衛生会 日本精神保健福祉学会 特別ニーズ教育学会		1998年 2004年 2012年 2013年

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 新・精神保健福祉士養成講座４精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　第２版　第８章第１節	共	2015年２月	中央法規	第８章　相談援助活動のための面接技術 第１節　面接を効果的に行う方法　1.面接の種類　2.面接の原則

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（講座） 精神保健福祉サポーター養成講座		2014年11月	北九州市立精神保健福祉センター	「精神障がい者を地域で支える」

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
精神障害者等社会復帰促進モデル活動推進事業	更生保護法人日本更生保護協会	○今村浩司 平田健太郎 嶋村美由紀　他	１５０万円（3年）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

北九州市精神医療審査会	有識者委員	2004 年 4 月～現在
あかつき会（北九州精神障害者家族会）	評議委員	2005 年 10 月～現在
北九州市自殺対策連絡会議	委員	2010 年 11 月 1 日～現在
発達障害児・者家族等支援事業審査会	委員	2014 年 4 月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員 福祉学科キャンパスハラスメント相談員

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　文屋　典子	職名　　講師	学位　修士（社会学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ソーシャルワーク方法論	ソーシャルワーク、家族支援

研　究　課　題
ファミリーソーシャルワーク実践の枠組みと方法論

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅱ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習 相談援助演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅲ 保育の表現技術Ⅰ 保育の表現技術Ⅱ 保育実践演習 家庭支援論 保育相談支援 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　相談援助の理論と方法Ⅱ　　】 『総合的かつ包括的な相談援助』をキーワードに、現代社会の抱える課題に対応するソーシャルワークについて、実状に沿って理解することに重点を置いた。他の科目で学ぶ内容との関連づけ、ソーシャルワーク理論の構築と援助観の形成について歴史的観点や学問潮流からの影響なども踏まえて基盤理論を理解し、多様な理論モデルやアプローチの特徴と独自の視点を理解できるようになることに重点を置いた。また、毎回の授業で授業内容の要約の提出を学生に課し、理解が不十分な部分や誤りについては添削や補足説明を行うなどして修正を行い、授業内容や教授方法の見直しに役立てた。
授業科目名【　　相談援助実習指導Ⅱ　　】 実習前には個別指導を強化し、各自の実習課題を明確にした。前期実習を終えた後、後期実習に臨むまでの期間は前期実習の日誌やレポートを通して、実習での学びの振り返りと記録の記述方法についての指導に重点をおき、実習体験を講義で学ぶ理論や概念と結びつけて記述できるようになることについて、特に指導を強化した。

授業科目名【　　保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ　　】
学生の入学前までのピアノの習熟レベルに応じて、課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画をたてて授業に臨むよう指導した。習熟度の高い学生でも奏法に改善の必要性がある場合には、それぞれの課題の克服に応じた練習曲に取り組むことを通して、各学生の演奏の向上を目指した。
授業科目名【　　家庭支援論　　】
家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論を踏まえて家庭支援に求められる援助者の視点について実際的に理解できるよう、視聴覚教材や事例研究、グループディスカッションなどを多く用いた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～
日本小児保健学会		1997年5月～
日本特殊教育学会		1999年8月～
日本保育学会		2011年10月～

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
医療フィールドで働く教師の言語表現に関する研究	西南女学院大学保健福祉学研究所	○谷川弘治 文屋典子 （豊永絵里）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市地域福祉振興協会	理事	2011年8月～2015年3月31日
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議　地域包括支援分科会	構成員	2011年4月1日～2014年3月31日
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議　地域包括支援に関する会議	構成員	2014年4月1日～2015年3月31日
北九州市指定管理者の評価に関する検討会議	構成員	2014年7月～8月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員 教育予算配分委員 吹奏楽部顧問

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　金谷　めぐみ	職名：特別契約教員Ⅱ種	学位　修士（芸術学）（日本大学　2003年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教会音楽、歌唱法、幼児音楽教育	子ども、音楽教育、カストラート、聖歌隊

研　究　課　題
キリシタンの子どもたちの音楽教育および天正遣欧少年使節について文献的考察する。

担　当　授　業　科　目
保育の表現技術1（前期）（福祉学科） 保育の表現技術Ⅱ（後期）（福祉学科） 西洋の音楽と文化（前期）（人文学部　英語学科・観光文化学科） 西洋の音楽と文化（後期）（保健福祉学部　看護学科・福祉学科） 保育実践演習（通年）（福祉学科） 基礎演習（福祉学科） 音楽理論（前期）（保育科） 歌唱法（後期）（保育科） 保育総合演習（通年）（保育科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の表現技術１】 音楽理論では学生の理解を深めるため、教科書以外に練習問題を独自に作成し、弱点を補う工夫をした。また実技では人前で歌うことに慣れていない学生が多かったため、身体運動を伴った発声練習で呼吸法を習得し、歌詞を朗唱して声をスムーズに出す工夫をした。
授業科目名【保育の表現技術Ⅱ】 季節の歌を中心に弾き歌いのレパートリーを増やす工夫をした。ピアノ初心者で進度が遅いと思われる学生には、各自に合った目標曲を設定し、達成感とやる気を継続させるよう工夫した。また、弾き歌いの際、曲に合った表現ができるよう、歌詞の内容や和声を分析するなどの工夫をした。
授業科目名【西洋の音楽と文化】 西洋音楽文化の歴史的概観について、解説のみでなく、音源やパワーポイントの映像を用いて、聴覚と視覚からも理解できるよう工夫した。また、西洋文化の視野を広めるため、音楽と絵画を関連付けて解説した。さらに、西洋音楽と同時期の日本の音楽を解説し、グローバルな視点から西洋音楽文化について考えるよう工夫をした。授業への関心を高めるため、学生がリクエストした讃美歌の番号を、全員で歌うなどの工夫をした。
授業科目名【保育実践演習】 創作音楽劇のシナリオ書き、道具制作、練習を重ねて、質の高い発表を行うために、毎回授業の終わりに進行状況や課題を確認し、各グループで話し合う時間を設けた。また、表現することの楽しさを感じ、学生が自ら発想し、表現を実践できるように、シーンに合った演技や舞台の使い方および照明の使用を体験する工夫をした。

授業科目名【基礎演習】 　大学生としての基礎能力であるコミュニケーション能力、書く力、発表する能力を身につけるため、社会における音楽の役割についてグループで話し合い、学生自身が発表のテーマを決め、冊子を作成し、発表の場では、グループおよび、ひとりひとりが発表する工夫をした。
授業科目名【音楽理論】 　音楽理論では繰り返し解説することを心がけ、解説後に復習プリントを配布し、授業中に理解する工夫をした。また、定期試験の過去問題を配布し、十分な試験準備ができるよう配慮した。
授業科目名【歌唱法】 　教科書以外にプリントを配布し、季節の歌のレパートリーを増やす工夫をした。また、日本語の発音と歌唱法について解説し、歌詞の内容に合った表現で歌えるよう工夫した。合唱を通して仲間と歌う楽しさを体験する工夫をした。
授業科目名【保育総合表現】 　授業の最初に音楽・身体・言語・造形表現について各教員がワークショップを行い、総合的な表現について学ぶ工夫をした。私が担当した言語・音楽表現において、報道や演劇界で使用されている教材を使い、台詞の伝え方について解説し、実演するなどの工夫をした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本声楽発声学会 日本演奏連盟		2012 年 10 月～現在に至る 2013 年～現在に至る 2009 年 12 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） CD・解説書 「西南女学院ゆかりの讃美歌」	共著	2015 年３月	西南女学院理事会にて配布	①　西南女学院にゆかりのある讃美歌全 12 曲の解説冊子および CD を制作した。 ②　共著・監修　植田浩司 ③　(p. 1 ～p.20)
（学術論文） 総説「キリシタンの子どもたちの音楽教育」	共著	2015 年３月	西南女学院大学紀要 Vol.19.	①　16 世紀末に来航したイエズス会宣教師によるキリシタンの子どもの音楽教育と天正遣欧少年使節とカストラートとの関連について文献的考察を行った。 ②　共著者名　植田浩司 ③　（p.61～p.68 ）

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会奏楽		
苅田町四季の音楽会実行委員会	委員	2010年4月～現在に至る
国立音楽大学同調会福岡県北九州支部	役員	2011年4月～現在に至る
通所介護施設「和楽庵」音楽講師	講師	2011年4月～現在に至る
文化庁事業・福岡県立城井小学校 「子どものための芸術鑑賞」演奏	講師	2014年12月19日
読売交響楽団トップメンバーとの共演 （北九州ソレイユホールにて）	ソリスト	2015年1月25日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入学式の讃美指導 短期大学部および大学のチャペルにおける讃美指導 大学クリスマス礼拝の会衆讃美指揮、学生聖歌隊指導、独唱（2014 年 12 月 18 日） 西南女学院中学・高等学校讃美歌コンクール審査員（2014 年 6 月 3 日）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　山本　佳代子	職名　助教	学位　学士（体育学）福岡大学 1996 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育学	障害児・者　レクリエーション　あそび 余暇活動　放課後

研　究　課　題
北九州市における放課後等デイサービス事業所の実態調査 放課後等デイサービスを利用する保護者の意識調査

担　当　授　業　科　目
基礎実習 相談援助演習Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎実習】 教員３名で学生を分担し、少人数のグループで丁寧な個別指導ができるよう整えた。それぞれ行先も違い、実習も長期間になるため、一人ひとりの課題や達成度を把握し、個別面談を行い、実りの多い実習になるようさらに終了後も次の活動につながるよう指導した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 DVD の視聴や、先輩の体験またはアドバイスを聞く機会を設け、実習に対する具体的なイメージを抱けるよう配慮した。また実習先の領域に関する論文や資料に目を通し、グループで学習を深め、全体でそれらを共有できるように工夫した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 実習に関する書類作成等を個別指導し、それぞれが明確な課題を持って実習に臨むことができるよう指導した。実習中の巡回指導や実習後の振返りでは、それぞれの体験から学びや課題、疑問点などを聴く時間を設け、またそれらを全体でも共有することで、体験できなかったことも知識としてひとり一人が吸収できるよう配慮した。
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 少人数のグループであったため、毎回の振返りの時間に個別に意見を述べる機会を設け、自分の意見をわかりやすくまとめ、人に伝えるという時間を作った。毎回のグループワークでは、その都度メンバーを変え、さまざまなタイプの学生と意見交換ができるよう配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会 九州レジャー・レクリエーション学会		2004～ 2013～

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（その他） 障害のある子どもの放課後活動における制度化の展開	単著	Vol.19,2015	西南女学院大学紀要	①子どもの放課後に焦点をあて、どのように放課後問題が発生したのか、また、国や立場による捉え方の違いをまとめた。さらに障害のある子どもの放課後については、どのような制度がつくられてきたか、またどのような課題があるのかについて先行研究をまとめた。 ②（p79-88）
相談援助実習における実習プログラムを巡る現状と課題―実習指導者へのグループインタビューを中心とした検討―	共著	Vol.19,2015	西南女学院大学紀要	①相談援助実習における実習プログラムの現状把握と課題を整理することを目的とした。実習指導者５名を対象とし、事前アンケート調査及びグループインタビューを実施、その後得られたデータを分析した。 ②共著者名 荒木　剛　　通山　久仁子 木村　美穂子　小田　寛子 ③（p89-96）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特定非営利活動法人 日本障害者スポーツ指導者協議会 福岡支部	監査	2009.4～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○福祉学科の学生と共に、障害のある子どもを対象としたスポーツ・レクリエーション活動「チャレンジ」を開催し、子ども達の余暇活動支援を行っている。活動では、プログラムの企画・運営を学生と共に計画し、実践を通して学生がさまざまな力を身に付けることができるよう支援している。 ○聴覚障害学生支援：聴覚障害学生の講義中の情報保障の為、ノートテイカーの確保、スケジュール調整等を行っている。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　通山　久仁子	職名　　助教	学位　修士（人間関係学）（立教大学　2003 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
障害者家族福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動

研　　究　　課　　題
「発達障害のある人の親」が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性（「親当事者」性）を基盤にした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通した主体としての「親当事者」への変容過程について明らかにする。

担　　当　　授　　業　　科　　目			
科　　目　　名	単　位　数		授 業 評 価 ポ イ ン ト
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
相談援助実習指導Ⅰ		2	
相談援助実習指導Ⅱ		4	
相談援助演習Ⅰ		1	
基礎実習		2	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】 事前指導は実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークなどを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。個別対応の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3 年次の実習指導につなげられるよう心がけた。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。事後学習では、それぞれの体験のプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を多く設けるようにした。
授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。また振り返りの時間を必ず設定し、学生が学びを整理できる時間をつくるとともに、学生の目標の達成度を確認できる機会を設けた。また学生が自分の考えを適切に表現する練習の機会を増やすため、学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けたり、できるだけ双方向の対話型の授業になるように努めたりした。現在の福祉的課題・問題の理解については、ホームレス支援の現場を体験することで、理解を深められるような機会を設けた。
授業科目名【　基礎実習　】 実習施設に対して、基礎実習導入の趣旨、目的などの事前説明、また実習後の情報交換、および情報共有に努め、学生が希望する施設で円滑に実習が行えるよう、調整に努めた。また事後学習では、幅広い分野での福祉実践における体験を共有し、領域による差異とともに、共通する基盤について理解を深められるよう促した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生命倫理学会 日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2003年～現在に至る 2004年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 1. 障害のある人の「親当事者」による地域福祉活動の生成・展開過程―先駆的福祉NPOの「親当事者」団体モデルの検討から―	単著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19	本稿では、先駆的な取り組みを行っている福祉NPOの設立者1名へのインタビュー調査をもとに、団体の生成・展開過程を分析し、セルフヘルプグループの発展過程を検証、発展させ、福祉NPOの「親当事者」団体モデルの検討を行った。そして団体の持続可能性の要素について検討した。加えて当事者実践の意義についても検討した。 p.49-59
2. 発達障害のある人の「親当事者」が行うNPOの活動実態と抱える課題―「発達障害者支援のNPOの設立・展開過程と活動実態に関するアンケート調査」から―	単著	2015年3月	立教大学コミュニティ福祉学研究科紀要 Vol.13	本稿は、2014年3月に実施した「発達障害者支援のNPOの設立・展開過程と活動実態に関するアンケート調査」の結果をもとに「親当事者団体」を抽出し、専門職等からなる「その他の団体」との回答の比較を行った。また「親当事者団体」中、「発達障害のある人の親」のみで構成されている団体を「親単体型」、「発達障害のある人の親」とその他の専門職等から構成されている団体を「親協働型」とし、「親単体型」と「親協働型」との比較も行った。 この集計結果に基づいて、「親当事者団体」の活動実態を把握し、その特質と課題を分析した。そして最後に、これらの課題解決の方向性について論じた。 p.51-62

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
相談援助実習における実習プログラムを巡る現状と課題―実習指導者へのグループインタビューを中心とした検討―	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19	本稿では、本学の相談援助実習を行った高齢者福祉施設の実習指導者5名を対象として、事前アンケート調査及びグループインタビューを実施し、得られたデータを質的に分析した。このデータに基づき、相談援助実習における実習プログラムの現状を把握し、課題を整理した。 共著者名　荒木剛、山本佳代子、木村美穂子、小田寛子 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能 p.89-95

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
相談援助実習における実習プログラムの開発に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部付属研究所	○荒木　剛 山本　佳代子 通山　久仁子 （木村　千穂子） （小田　寛子）	210,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
「発達障害のある人の親」による地域福祉活動の生成・展開過程に関する研究	日本学術振興会	1,950,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人nest 北九州市障害程度区分認定審査会	理事 委員	2008年6月～現在に至る 2013年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
【社会福祉士国家試験対策講習会】 オリエンテーションでは、国家試験対策の年間計画や、受験に必要なテキスト・資料などを紹介し、本学の現状、先輩の声を提示して、学生の意欲を高めるようにした。これまで後期に実施していた一問一答の試験を今年度は前期から導入し、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくった。 【実習指導室・ボランティア相談室】 ボランティア相談室として、ボランティア活動を学生が円滑に行えるよう、ボランティア先との連絡調整、学生への情報提供に努めた。またボランティア活動を活性化するため、4 月のオリエンテーション時にボランティア入門の講座を 1 コマ設け、大学での支援体制、実際にボランティア活動をしている先輩や、ボランティアの受け入れ団体の講師を招き、ボランティア活動を具体的に紹介する機会を設けた。 【障害学生支援】 聴覚障害学生支援として、障害学生および支援学生のサポートを行った。導入前には支援学生を対象とした養成講座を 3 日間開催し、支援学生が活動にスムーズに入っていけるよう支援した。導入後は障害学生が主体的な学びの姿勢をつくっていけるよう助言し、支援学生に対してはノートテイクの方法や困難などの相談を受け、それらの情報を集約し、皆で共有できるよう情報提供を行った。

栄　養　学　科

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　八木　康夫	職名　　教授	学位　　博士(医学)　(産業医科大学 2003 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研　究　課　題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間（RT）を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次高機能に及ぼす効果についても検討している。

担　当　授　業　科　目
健康科学（栄養学科、１年前期） 健康科学実習Ⅰ（栄養学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（栄養学科、１年後期） 運動生理学（栄養学科、4 年前期） 健康体力評価論（栄養学科、4 年後期） 卒業ゼミ（栄養学科、4 年通年） 卒業研究（栄養学科、4 年通年） 健康科学（英語学科、観光文化学科、１年前期） 健康科学実習Ⅰ（英語学科、観光文化学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（英語学科、観光文化学科、１年後期） 健康科学実習Ⅰ（看護学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（看護学科、１年後期） 健康科学実習Ⅰ（福祉学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（福祉学科、１年後期） スポーツ科学実技（短期大学保育科、１年通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　健康科学　】 1.　PCを用いてプレゼンテーション・ソフトウェアーによる資料提示をおこない、必要に応じて資料を配布した。 2.　最新のトピックスの引用、および、最新の資料の提供に努めた。 3.　単元毎に小テストを行い、1週間内に採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導した。 本講における小テストの導入は、受講態度は積極的な参加態度に変容したばかりか、質問をする学生が回を追う毎に急増し、それはクラス全体の積極性を生みだし、授業内容の理解度はこれまでになく明確に向上したと思われる。
授業科目名【　健康科学実習Ⅰ　】 1.　受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 2.　3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業

外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。

3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. 健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。

授業科目名【　健康科学実習Ⅱ　】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

授業科目名【　運動生理学　】

1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
2. 単元毎に小テストを行い、翌日採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導するよう努めた。
3. 単元毎に授業ノートを提出させ、添削し、授業に対する緊張感と聴講する集中力を高めるよう努めた。

授業科目名【　健康体力評価論　】

1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え方を定着させるようにした。
3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論知的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本運動生理学会	常任理事（2008.7~2015.3）	1992.4
日本体力医学会	常任理事（2015.4~至現在）	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 平成26年度 福岡県バスケットボールリーグ戦 優勝	共	2014.4.	福岡県大学バスケットボール連盟	福岡県総合選手権の出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第19回 全九州大学春季バスケットボール選手権大会 準優勝	共	2014.4.26-5.11	九州大学バスケットボール連盟	九州東海大学と決勝戦をいこない、74:78で優勝を逃した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
男子第64回女子63回 西日本学生バスケットボール選手権大会 三回戦進出	共	2014.5.26-6.1	九州大学体育連合 （福岡）	二回戦から始まり、愛媛教育大学に38:116で快勝したが、三回戦の立命館大学に80-58で敗した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第64回 九州地区大学体育大会 優勝	共	2011.7.5-7	九州大学体育連合 （熊本地区）	戦後から続く伝統ある九州インカレは、九州地区の大学の祭典である。本大会において優勝した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第21回 九州大学バスケットボールリーグ戦 優勝 （2年連続3回目）	共	2011.9-10	九州大学バスケットボール連盟 （九州各地）	九州地区の大学の順位を決める大会は、一部リーグで全10試合を行い全勝で優勝し、全日本インカレの出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
平成26年度 福岡県総合バスケットボール選手権大会 優勝 （2回目）	共	2010.11.8-9	福岡県バスケットボール協会 （福岡市）	全業種が参加する本大会の優勝で真の福岡県1位に輝いた。更に九州総合選手権の出場権獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
第66回 全九州総合バスケットボール選手権大会 優勝	共	2011.11.8-9.	九州バスケットボール協会 （べっぷアリーナ）	九州各県の全業種の中で優勝し、本学が九州１位のチームとなった。同時に皇后杯（オールジャパン）の出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
東日本復興支援 第66回 全日本大学バスケットボール選手権大会 第六位	共	2010.11.24-29	全日本大学バスケットボール連盟 （東京都）	全日本の大学の中で、第六位に輝いた。皇后杯の大学枠を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第50回 三地区大学バスケットボール選手権大会 Aチーム優勝 Bチーム準優勝	共	2010.12.8-11	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管:中国大学バスケットボール連盟 （広島）	A・Bの2チームで出場し、参加大学約５０大学中１・２位を独占した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第90回天皇杯・ 第81回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会 二回戦進出	共	2010.12.8-11	日本バスケットボール協会 （東京都）	一回戦で一昨年インカレで優勝した松蔭大学に勝ち、二回戦ではＷＪＢＬの羽田ヴィッキーズに敗けた。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
咀嚼運動が脳神経機能に及ぼす影響	西南女学院大学	○八木康夫 稲木光晴 尾上　均	330,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
九州大学バスケットボール連盟	常任理事	2005.4~2015.3
北九州市バスケットボール協会	理事	2003.4~
日本バスケットボール協会	JBA 公認 C 級コーチ	~2016.3
日本体育協会	バスケットボール指導員	~2017.9.30
公開講座シニアサマーカレッジ	講師	~2015.8
福岡共同･教員免許状更新講習	講師	2015.8.18

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 学生委員：委員会活動、栄養学科の新入生研修会の計画と総指揮、栄養学科オリエンテーション・記念行事･卒業式栄養学科オリエンテーションの計画・進行・司会等 総合人間科学小委員会委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　南里　宏樹	職名　　教授	学位　　医学博士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
栄養代謝学　生化学　臨床栄養学　細胞生物学	活性酸素　酸化ストレス　抗酸化防御機構 糖毒性　糖化タンパク質　血管内皮細胞

研　　究　　課　　題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
病理学(後期) 基礎栄養学Ⅰ(前期) 基礎栄養学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅰ(前期) 管理栄養士演習Ⅱ(前期) 管理栄養士演習Ⅶ(後期) 運動・環境と栄養(後期) 健康と栄養(後期)(看護学科) 栄養学概論(前期) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【　病理学　】 パワーポイントを利用した講義を実施し、スライド内容をすべて配布資料として配布した。 病理学は、難解な医学専門用語が多く、栄養学科学生の苦手とする科目であるため、できるだけ具体的な図解や例を挙げるように留意し、また重要事項は繰り返し復習するようにした。これまでの授業評価で多くみられた「授業進行が速い」、「重要ポイント」かわからないという感想が昨年に引き続きなかったので、ある程度は授業改善の効果があったようだ。また、授業に対する取り組みに前向きのコメントが多かったのも、喜ばしい変化であった。例年通り、管理栄養士国家試験の過去問(2000 年～2014 年)の解説集、病理学の重要項目のまとめを配布したが、勉強しやすいと好評であった。昨年度の授業評価で配布時期を早めてほしいという要望があったので、早目に配付した。
授業科目名【　基礎栄養学ⅠおよびⅡ　】 パワーポイントを利用した講義を実施し、スライド内容をすべて配布資料として配布した。 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多く、いつも難しいという感想が多いので、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、講義全体のつながりが分かるように留意した。2014 年度の授業評価では、ネガティブなコメントが少なく、「栄養についてもっと知りたい」、「集中して取り組んだ」などの積極的なコメントが多かった。本年度も定期試験前に講義内容を復習するための練習問題、過去の国家試験問題(2000 年～2014 年)とその解説、および重要ポイントのまとめを配布した。
授業科目名【　臨床栄養学実習Ⅰ　】 糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する実験・実習を担当した。臨床検査データの測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と関連づけて具体的に理解できるように留意した。また実習のため説明の時間が限られているが、なるだけ実習の医学的意義について解説し、ポイントを絞った課題を出して、それについて考えさせ、レポートを提出させるようにした。

授業科目名【　管理栄養士演習ⅡおよびⅦ　】 2000年～2014年の基礎栄養学、病理学に関する管理栄養士国家試験の全問題について、各分野それぞれ項目別に分類し、各項目ごとに14年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、ただ問題の正答を知るだけではなく、問題に関連する周辺事項を幅広く復習し、それぞれの科目の理解を深めるように留意した。また、全問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習および自主講義として、前期１２回、後期１４回実施した。また、夏休みの集中ゼミを３回、国試前の直前対策を４回実施した。
授業科目名【　栄養学概論　】 栄養学科全教員のオムニバス方式による１年生向けの講義・体験実習である。今年度の体験学習では、新１年生の管理栄養士の仕事に対する理解を深め、管理栄養士としての自覚を高めることを目的として、実社会で管理栄養士として活躍している本学の卒業生および在学生の講演によるセミナーを開催した。各教員は10人前後の学生グループを受け持って、体験学習のレポートを評価した。
授業科目名【　運動・環境と栄養　】 三人の教員が分担する栄養学科３年生のための講義で、わたしは「環境と栄養」を担当した。 環境に関連する分野は、運動に比べて学生の関心はやや低かったが、ストレス、体内リズムなど、「栄養」を別の観点から考えることは、学生の興味を惹くようであった。
授業科目名【　健康と栄養（看護学科）　】 三人の教員が分担する看護学科１年生のための健康と栄養に関する講義である。わたしは「基礎栄養学」を担当した。限られた時間で基礎栄養の全容を講義するのは難しいので、全体像を把握させるための講義と重点事項を解説する講義のバランスを考えて授業をした。今回は、例年多くみられる「講義が速すぎる」、「分かりにくい」という感想は、幸いにも見られなかった。このクラスは私語が多かったので、その都度注意した。
授業科目名【卒業ゼミ】 基礎栄養・応用栄養・臨床栄養に関連するテーマを自分で選択し、それについて主に文献的に調査・検討し、最後にレポート(パワーポイントによる発表とワードによる論文)にまとめるという形式で実施した。文献の集め方、発表の仕方、レポートの作成方法について指導した。毎年、テーマの選択は、自分の興味があるものを選ぶようにしているので、主体的な取り組みができていると思う。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1977年４月より現在に至る
日本栄養・食糧学会		2003年５月より現在に至る
日本肥満学会		2008年４月より現在に至る
日本栄養改善学会		2014年１月より現在に至る
第62回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	総務委員会・副委員長	2014年４月より現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
第２次北九州市食育推進計画の推進にかかる意見交換会	構成委員	平成 26 年～平成 28 年

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
予算委員 キャンパス・ハラスメント防止・対策委員（委員長） 高校模擬授業（青豊高校・2014 年 12 月 6 日） センター試験監督（2015 年 1 月 17・18 日）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　清末　達人	職名　　教授	学位　　理博・医博

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1. 心筋細胞イオンチャネルの電気生理学・薬理学 2. 消化管の生理学	electrophysiology, pharmacology, cardiac myocytes, sugar absorption, gastrointestinal tract

研　　究　　課　　題
１．パッチクランプ法を用いた、心筋細胞イオンチャネルの電気生理学的研究。および、実験データの数式化による心筋細胞活動電位のコンピューターシミュレーション。 ２．食品に含まれる各種生理活性物質がラット小腸における糖の消化・吸収に与える影響 ３．西南女学院大学栄養学科独自の栄養価計算ソフトウエアの開発

担　　当　　授　　業　　科　　目
解剖生理学 応用生理学 運動・環境と栄養(分担) 解剖生理学実習 人体の構造と機能総合実習（分担） 生理学（福祉学科） 卒業ゼミ 管理栄養士演習Ⅱ（分担） 管理栄養士演習Ⅶ（分担）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【解剖生理学】 １．人体の神秘について興味がわくような教材、資料等を提供するよう心がけた。 ２．「レニン・アンギオテンシン物語」「バゾプレシンくんの一日」と題した短編小説風のパンフレットを作って配布し、ホルモンによる血圧調節と体液量調節の仕組みについての理解の一助とした。 ３．パワーポイントの配付資料をカラー印刷にして、印象を深めるようにした。 ４．出席カードに講義に対する意見・感想を書いてもらい、理解度の把握と次回の授業構成の参考とした。
授業科目名【応用生理学】 １．内分泌系に焦点をあて、①ホルモン名と分泌器官、②それぞれのホルモンの標的器官と生理作用について２回に分けて小テストを実施し、期末の成績に反映させた。 ２．「ヘモグロビンの酸素親和性」「消化管ホルモン３兄弟」という短編小説風のパンフレットを配布し、ヘモグロビンの酸素解離曲線や消化管ホルモンの役割などについての理解が深まるよう工夫した。 ３．パワーポイントの配付資料をカラー印刷とした。 ４．出席カードに、講義についての感想と意見を書いてもらい、問題点を次の授業で改善するよう努めた。
授業科目名【解剖生理学実習】 １．１年生にとって前期で唯一の実習科目であることを考慮し、最初の実習項目を骨格のペーパークラフト模型の製作にあて、新入生間のコミュニケーションが醸成されるよう工夫した。 ２．実験項目が、解剖生理学の講義の進行となるべく重なるように配慮し、実習と講義との相乗効果がでるように工夫した。

授業科目名【生理学（福祉学科）】 １．スパイロメーター、心電計、指尖脈波計などを授業現場に持ち込んで使い方、原理などを提示し、呼吸器や循環器に関する生理学的検査法に対する興味を喚起するように努めた。 ２．「脳」に関するビデオの鑑賞と感想文を書くことを通して、脳の働きと精神との関係についての理解を深まるように努めた。 ３．出席カードに、その日の感想と意見を書いてもらい、次回の授業構成を考える上で参考とした。
授業科目名【人体の構造と機能総合実習】 従来の担当実習項目は、①ラットの解剖、②腸管における糖吸収のメカニズム、③自転車エルゴメーターによる最大酸素摂取量（VO_2max）の推定の３項目であったが、今年度から、新たに④顕微鏡による上皮組織の観察を加えた。④を加えたのは国家試験に頻出する上皮組織についての問題に対応するためである。
授業科目名【運動・環境と栄養】 １．主に運動器（筋肉・骨）、呼吸器、循環器（心臓・血管）について、安静時と比較した運動時の機能の変化について概説した。 ２．出席カードに、その日の感想と意見を書いてもらい、次回の授業構成を考える上で参考とした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会	評議員	1979 年 4 月～現在に至る
日本循環器学会		1980 年 3 月～現在に至る
日本不整脈心電学会		1982 年 4 月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2006 年 1 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 給食管理実習のための栄養価計算ソフトウエアの開発	共著	2015年3月1日	西南女学院大学紀要	調理実習や給食管理実習の現場における参考資料とするため、調理実習で作成した料理をデータベース化しソフトウエアに組み込んだ。コンピューター画面の料理画像から 1 食分をマウスで選択すると、栄養価と栄養バランスが表示される。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	北九州市	植田　浩司 プロジェクトリーダー　清末達人 （日髙勝美、九州歯科大学）	689,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
日本高等教育評価機構　評価員（2010 年 4 月より） 栄養学科長（2012 年 4 月より）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　尾　上　　均	職名　　教授	学位　博士（医学）（大阪大学 1993 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+}動員機構 細胞内 Ca^{2+}恒常性維持機構 タンパク質相互作用

研　　究　　課　　題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
栄養学概論 生活の中の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習Ⅱ 管理栄養士演習Ⅶ 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　栄養学概論　】 ● 生理学、生化学、細菌学、食品学および病理学が、栄養学、特に基礎栄養学を習得するための基礎となる科目であること、さらに基礎栄養学という土台の上に応用栄養学や臨床栄養学が構築されていくことを、相関図を用いて説明した ● 上記の基礎額がいずれも生命に関連したライフサイエンスであること、その上に構築される栄養学も当然ライフサイエンスであること、そして人の健康にとって栄養という営みが極めて重要なファクターであることに力点を置いて説明した ● 哲学、生物学、化学、物理および数学といった最も基礎的な学問領域の相関図を用いて、自然科学の中での栄養学の位置づけを説明した ● 講義は、スライドを用いて行った
授業科目名【　生活の中の化学　】 ● 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを、目標の中心として講義を行った ● 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた ● 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した

授業科目名【　生化学Ⅰ　】

- 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた
- 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした
- 講義に用いるスライドにはゼミの学生の意見を参考に改訂を加えて使用した
- 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに図を加えるなど改訂して配布した
- 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した

授業科目名【　生化学Ⅱ　】

- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドにはゼミの学生の意見を参考に改訂を加えて使用した
- 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた。

授業科目名【　生化学実習　】

- 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導した。
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅱ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 練習問題はオリジナルに作成した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅶ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 練習問題はオリジナルに作成した

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会 日本薬理学会		1995年５月～現在に至る 1996 年９月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　甲　斐　達　男	職名　　教　授	学位　　農学博士（九州大学　1992 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
応用微生物学　　食品科学 音声学　　分子遺伝学	パネットーネ、酵母、乳酸菌、ゲノム解析、嚥下障害、音声解析、Ⅰ型糖尿病、低糖質食品

研　　究　　課　　題
（1）　パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析
（2）　嚥下障害の予知と予防に関する音声医学的研究
（3）　Ⅰ型糖尿病患者対応の糖質フリー加工食品の開発
（4）　カストラートの歌声解析

担　　当　　授　　業　　科　　目			
科　　目　　名	単　位　数		開講学期
	必　修	選　択	
加工食品機能論　（栄養学科）×２クラス	2		後期
食品衛生学実験　（栄養学科）×２クラス	1		後期
管理栄養士演習Ⅲ（栄養学科）	1		前期
食品衛生学　（栄養学科）×２クラス	2		後期
微生物学　（栄養学科）×２クラス	2		前期
微生物学実験　（栄養学科）×２クラス	1		前期
食品学Ⅰ　（栄養学科）×１クラス	2		後期
管理栄養士演習Ⅷ（栄養学科）		1	後期
卒業研究　（栄養学科）通年科目		4	通年
卒業ゼミ　（栄養学科）通年科目		2	通年

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名**【微生物学**（3年生対象）**・食品衛生学**（2年生対象）**・加工食品機能論**（２年生対象）**】**

１．定期試験の問題を５年連続で同じ内容と同じ形式（５択問題５０問）にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、４年次の国家試験対策への取り組み方を学年ごとに調整するのに役立った。

２．学生の要望により、成績を学生に開示しているので、評価方法に関するクレームは無かった。

３．講義資料が膨大であるため、これまで電子ファイルで配布してきたが、学生の要望により、すべてプリントで配布したところ、好評であった。好評の理由は、PC を持たない学生がいることと、印刷の手間が省けたとのことであった。

４．再試を実施して欲しいとの要望が強いので、再試を実施した。以前（５年前）とは違って、再試該当者のほとんどが受験に来てくれた（以前は、再試４科目縛りのため、実習に必要な科目の方を優先する結果、再試受験者がほとんどいなかった）。学力の向上に伴って、再試受験が減少してきたことが伺える。再試の成績も、予想を上回る、極めて優秀な結果を出してくれた。

５．私語が皆無であった。「私語が他人の迷惑になる」ことを今期強く説明し続けたことと、私語に対して若干の減点処置を講じたことが効を奏した。

授業科目名**【食品衛生学実験**（3年生対象）**・微生物学実験**（2年生対象）**】**

１．例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功したと。班構成は極めて重要である。

２．例年通り、全員参加型の授業（アクティブラーニング）になるよう工夫し、成功したと思われる。

３．実験レポートの質は、昨年に引き続き、高い状態で推移してきている。レポートの質によって、その学年の学力のポテンシャルが把握できるので、それに応じて、講義のやり方を調整できている。

授業科目名**【卒業ゼミ】**（４年生、１３名対象）

１．昨年に引き続き、学生の要望に添って１～５名をひとつのチームとしたところ、今年度も上手く機能した。卒ゼミの場合、卒研に比べて単位数が少ないので、１人が８０時間研究を行うという目標を与えたところ、短い期間にきちんとした良い結果を出してくれた。

２．チームの研究活動が、就職活動や国家試験の受験勉強に、「チームワーク」→「意欲」に繋がり、良い結果をもたらした。今年度は、やり易いメンバーであった。

３．ゼミの学生を対象に、今年度も、国家試験対策の勉強会を週１回開催したが、受験生のモーチベーションを高めるのに効果的であった。

授業科目名**【管理栄養士演習Ⅲ・Ⅳ】**（４年生対象）

気質上、指導しやすい学年であったので、学生の学習意欲を最後までうまく維持させることが出来た。

１．「食べ物と健康分野」の補講の回数は、昨年同様３０回とし、全学生が利用している参考書（クエスチョンバンク）を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を狙った。効果は大きかった。

２．管理栄養士演習Ｉ～Ｘまで１０科目あるが、学年によっては、必須科目は受講し、選択科目は履修登録すらしないということが、これまで度々あった。今年度は、全受験生が、必須・選択の１０科目すべてを履修するよう工夫し（主に心理的な側面へのアプローチによる）、それに成功した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本分子生物学会	正会員	1988 年 4 月～現在に至る
日本生化学会	正会員	1991 年 4 月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994 年 4 月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995 年 4 月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995 年 4 月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000 年 4 月～現在に至る
日本栄養・食糧学会	正会員	2000 年 4 月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002 年 4 月～現在に至る
日本醸造協会	正会員	2005 年 4 月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010 年 4 月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
日本臨床栄養学会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
日本嚥下障害臨床研究会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
日本嚥下医学会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
芸術科学会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014 年 4 月～現在に至る

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） ① Panettone and the anti-mold factor.	共著	2014 年 8 月	Food & Food Ingredient Journal of Japan 219(3) 238-247, 2014 石本祐子、甲斐達男 （査読あり）	① ミラノ地区のベーカリーで 150 年間植え継いできたパネットーネ母種から乳酸菌と酵母を純粋分離し、それらの微生物学的性状を解析し、さらに抗カビ性因子を分泌する乳酸菌株を得た。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				抗カビ性因子の分離精製を行った結果、高級脂肪酸の一種であることが推定された。
② Establishment of the proteolysis condition of raw material soybeans for tempeh production.	共著	2015 年 3 月	西南女学院大学紀要 Vol.19、97-108、2014 甲斐達男、坂元泰予、石本祐子（査読あり）	② 東南アジアの伝統的発酵食品であり常食でもあるテンペに、日本人の嗜好にマッチしたアミノ酸由来の旨味を賦与するために、原料大豆をプロテアーゼ処理する加工条件を検討した。最適の産業用酵素製剤を選定し、その酵素化学的性質に見合った加水分解条件を見出すことに成功した。
（学会発表） パネットーネ製パン用の酵母と乳酸菌の単離・同定・選抜に関する研究	共同	2014 年 8 月 30 日	日本食品科学工学会第 61 回大会（中村学園大学、福岡市） 石本祐子、古川加織、杉原翠、岡元美奈子、高本なつみ、石川鮎美、甲斐達男	北部イタリアで自然種から作られるパネットーネの母種から、YPD 培地を用いて酵母を、MRS 培地を用いて乳酸菌を純粋分離した。属種の同定は、酵母と乳酸菌の双方についてリボソームのスペーサー配列解析、酵母についてはさらに PFGE による核型分析によって行った。得られた株の中から、増殖速度、酸産生能、糖（スクロース・マルトース・グルコース）の発酵能、および、パン生地発酵能に優れた株を、酵母と乳酸菌からそれぞれ３株を選抜した。酵母と乳酸菌の相性の良いペアを、液体培養とパン生地発酵能、製パン試験、官能評価に基づき選抜した。さらに選抜した株に適合する製パン方法を検討した。選抜した株のペアは、共生による酸産生能、生地発酵力、パンの風香味に優れており、産業利用が期待できる株が得られた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
音声波形解析による摂食・嚥下障害発症の予知技術確立に関する研究	独立行政法人日本学術振興会（挑戦的萌芽研究）	○甲斐達男 石本祐子	2,080,000 円
パネットーネ母種より分離した乳酸菌と酵母の製パン特性とゲノムの解析および選抜した乳酸菌と酵母を用いた製パンシステムの構築	公益財団法人飯島藤十郎記念食品　科学振興財団	○甲斐達男 （杉元康志、鹿児島大学農学部大学院、教授）	3,800,000 円
カストラートの音声学的歌声特性解析および音響技術による音質改善の試み	西南女学院大学学内共同研究	○甲斐達男 金谷めぐみ	2.229,000 円

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
ﾊﾞｲｵｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰ協会	正会員	1989 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
（1）　図書館長 （2）　研究紀要委員会　委員長 （3）　図書委員会　　委員長

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　田　川　辰　也	職名　　教　授	学位　博士（医学）（九州大学　1995 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
循環器内科学　血管内皮機能　酸化ストレス 動脈硬化予防	血管内皮機能障害　一酸化窒素（NO） 抗酸化食品

研　　究　　課　　題
抗酸化食品による血管拡張機能（血管内皮機能）の改善作用に関する研究 非薬物的介入による代謝異常における動脈硬化の予防に関する研究 食生活改善による血管のアンチエイジング戦略ー栄養学による血管内皮機能の改善ー 心血管イベント抑制のための栄養学的戦略ー若年成人からの動脈硬化予防ー

担　　当　　授　　業　　科　　目
臨床生理学（前期） 臨床栄養学実習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅰ（前期） 栄養学概論（前期） 臨床生化学（後期） 臨床栄養管理学（後期） 管理栄養士演習Ⅵ（後期） 臨床栄養活動論（後期） 卒業ゼミ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【臨床生理学・臨床生化学】 臨床生理学・臨床生化学の講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患について、栄養学との関連に留意して概説している。講義内容としては、消化器、肝臓、膵臓、心臓、腎臓などの代表的疾患について、その成因、症状、診断、治療（食事療法を含む）について概説している。特に、最近注目されているメタボリックシンドロームや新しい診断基準（糖尿病、脂質異常症、高血圧など）についてわかりやすく説明している。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、疾患を学ぶにあたって、各臓器の生理機能と疾患を関連づけて理解できるように、その基礎となる解剖生理学や生化学を復習した上で、臨床生理学・臨床生化学の講義をしている。資料については、次回の授業プリントを先に配るようにし、予習しやすいようにした。授業アンケートでは、説明がわかりやすく、スライドも見やすいという意見をいただいた。今後もわかりやすい授業を心がけるつもりである。
授業科目名【臨床栄養管理学】 臨床栄養管理学では、ニュートリション・サポート・チームの一員として管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、さらに保健、医療、福祉との連携の中でも、ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的として、授業を行った。臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができるようになるよう、指導した。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、予習しやすいように次回の授業プリントを先に配るようにした。授業アンケートでは、説明がわかりやすく、スライドも見やすいという意見をいただいた。

授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】 基本的な身体診察法、救命救急法、心電図、75g 糖負荷試験、GI などの実習授業を行った．これらの内容は、医療現場の実際を体験することであり、医療スタッフとしての管理栄養士を目指すためには重要な内容である。学生たちが興味をもてるように、できるだけ医療の現場に近い形態で、体験型の実習にこだわって実習を行った。学生たちは、実際の医療現場に対する興味が深まったと考えられた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ・Ⅵ】 管理栄養士演習では、単に国家試験対策として問題を解かせるだけでなく、毎回の授業で、テストとレクチャーを組み合わせ、ポイントをまとめたプリントを作成し、学生たちが疾患の成り立ちやその治療法に対する理解を深めることができるように努めた。学生の不得意分野を重点的に講義し、参考プリントを作成し、理解しやすくなるように心がけた。今後も学生に理解しやすい授業を心がけるつもりである。
授業科目名【栄養学概論】 栄養および栄養学とは何か、また、人の保健・健康に対してどのような影響や意義もつのかを理解することにより、学生自身が栄養学を学ぶ意味を考え、展望を持って学べる姿勢を養う栄養学概論において、栄養と健康および疾患との関係を理解するため、病院での管理栄養士の役割を説明した。特に、栄養サポートチーム（NST）の活動、患者の QOL（生活の質）の改善に対し興味が持てるように努力した。
授業科目名【臨床栄養活動論】 臨床栄養活動論のなかで、医療人の倫理について、講義している。管理栄養士は当然医療人であり、倫理観が問われるが、医師や看護師における倫理と管理栄養士の倫理の違いについて、解説している。また、講義内容を理解できているかどうか、確認するため、授業の最後にレポートを提出させ、確認している。今年は、障害者に対する倫理観を問う「クワガタと少年」のビデオを見せ、その感想文を書かせて、学生たちの理解度を確かめた。
授業科目名【卒業ゼミ】 前腕血流量測定装置であるプレチスモグラフ、大動脈波伝播速度測定装置である form、酸化ストレス測定装置である FRAS4 を使用し、血管内皮機能と酸化ストレスの測定を行っている。研究課題としては、アルギニン、緑茶カテキン、エイコサペンタエン酸などの食品による血管内皮機能改善効果や抗酸化作用を調べている。学生に研究の面白さを知ってもらえるよう、できるだけ、学生主導で研究を計画、実行している。2014 年度はエイコサペンタエン酸が大動脈波伝播速度（PWV）に及ぼす効果について、検討した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本循環器学会	循環器専門医（1996 年 3 月～現在に至る） 九州支部評議員（2004 年 4 月～2008 年 3 月）	1989 年 4 月～現在に至る
日本内科学会	認定内科医（1994 年 9 月～現在に至る） 認定総合内科専門医（2005 年 12 月～現在に至る）	1989 年 6 月～現在に至る
日本高血圧学会	評議員（2002 年４月～現在に至る） 特別正会員（2003 年４月～現在に至る） 高血圧専門医（2009 年４月～現在に至る）	1992 年 8 月～現在に至る
日本臨床薬理学会		2002 年 5 月～2009 年 9 月
日本医師会	産業医（2005 年 2 月～現在に至る） 健康スポーツ医（2006 年 1 月～現在に至る）	2002 年 6 月～現在に至る
日本栄養改善学会		20014 年 10 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 若年成人女性における茶カテキン経口投与によるヒト血管内皮機能の改善効果。	単	2014年5月	第3回臨床高血圧フォーラム	① 茶カテキンは抗酸化物質であり、動脈硬化の予防効果、体脂肪の減少効果が期待されている。本研究では茶カテキン投与による若年健康成人の血管内皮機能と脂質代謝に対する影響を検討した。結果、茶カテキン投与後に反応性充血時のピーク後の前腕血流量が増加した。体重、体脂肪率、血圧、血中脂質には有意な差はなかった。茶カテキンは血管内皮細胞に対する抗酸化作用により、血管内皮機能を改善すると考えられた。 ② 第3回臨床高血圧フォーラムプログラム・抄録集 (P142)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
心血管イベント抑制のための栄養学的戦略－若年成人からの動脈硬化予防－	文部科学省	900,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州大学医学部同窓会 ふれあいの里とばた	同窓生名簿編集員 アドバイザー	2009年4月～現在に至る 2013年4月～2015年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員会　委員　２０１４年4月1日～２０１５年3月３１日 動物実験に関する規定検討会　委員　２０１４年4月1日～２０１５年3月３１日 国家試験対策委員会　委員　２０１４年4月1日～２０１５年3月３１日 外部資金導入促進プロジェクト　委員　２０１４年4月1日～２０１５年3月３１日 弓道部顧問 アドバイザー

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　近江　雅代	職名　　教授	学位　　博士(医学)(福岡大学 2002 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研　　究　　課　　題
・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担　　当　　授　　業　　科　　目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 栄養学概論(前期)(分担) 給食経営管理実習Ⅱ(前期)(共担) 管理栄養士演習Ⅳ(前期)(分担) 管理栄養士演習Ⅸ(後期)(分担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】 本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2 年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。
授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】 本実習は、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目標としている。「栄養治療学Ⅰ・Ⅱ」で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1 疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。傷病者の栄養管理では、治療用特殊食品を使用することも多く、実習後は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えていることもあり、業者協力のもと、治療用特殊食品を用いた調理実習も行った。また、実習の最終回には､献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数化することで、病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は、様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2 疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、3 回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。実習終了後は、事後指導として、事後報告会を開催した。施設ごとに発表資料を作成し、全実習施設が発表を行った。また、その報告会には新 3 年生を出席させることにより、臨地実習Ⅱへのモチベーションを高めることに繋げた。

授業科目名【栄養学概論】

本科目は、管理栄養士としてどのような社会的貢献ができるのか、また、将来のキャリアに対する自己の課題を認識し、4 年間の学習への動機づけを行うことを目標としている。全 8 回の講義のうち、第 2 回目「管理栄養士に必要な知識および技能とは？4 年間の学習内容について～資質の高い管理栄養士となるために～」を担当した。生活習慣病の蔓延、平均寿命の延伸、医療費の増大等、現代の日本について理解を促し、社会に貢献できる管理栄養士の必要性が高まっている現状を説明した。臨床的および予防的な食支援のできる管理栄養士を目指すため、管理栄養士として身につけるべき知識および技術を解説し、管理栄養士養成施設のカリキュラムに沿って、本学栄養学科の開講科目を説明した。また、第 4・5 回目「新入生研修」では、食事提供を担当した。栄養学科 4 年生の学生ボランティアとともに、1 年生、教職員およびスタッフの食事を、160 食作成し、提供した。大量調理として、食事を提供したことは、1 年生にとっては、自身が身につけるべきスキルを目の当たりにすることができ、また、4 年生ボランティア学生にとっては、管理栄養士としての自己効力感を高めることに繋がったと思われ、いずれの学生においても、大変有益であったと実感した。全 8 回の講義を通して、管理栄養士としての目的意識を強く持ち、4 年間の過ごし方等について改めて考え、今後の学習意欲を高めるものになったと思われる。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】

本実習は、給食経営管理実習Ⅰで修得した、栄養基準量に基づいた献立作成から、発注・検収・大量調理・検食・残食調査による評価、実習後の事務管理にいたる一連の栄養管理ならびに食品や施設の衛生管理に関する知識および技術を駆使し、栄養士・管理栄養士として、給食経営管理業務をマネジメントする実践力を修得することを目標としている。喫食対象者を女子学生とし、献立作成、準備、大量調理、喫食者への給食の提供(120 食/回)、片付けならびにアンケート集計を行った。美味しく、かつ、安全な食事提供のため、また、栄養士・管理栄養士業務を体得させるべく、厳しく指導した。実際の喫食者へのフードサービスを通し、学生にとっては、栄養士・管理栄養士業務への強い動機づけに繋がったものと考える。また、実習回を重ねるごとに、学生の成長は目覚ましく、作業効率も上がり、実習へのモチベーションも高まっていたと感じられた。また、班毎に給食管理に関わる様々なテーマ(給食施設の栄養管理の実際、行事食、災害時給食、給食用食器等)を調査・研究し、プレゼンテーションおよびディスカッション実施した。本実習は、臨地実習Ⅰ(小学校・事業所)と密接に関連した科目であり、臨地実習直前の学内実習として、給食経営管理業務全体を把握し、栄養士・管理栄養士としての基本的な姿勢を修得することができたものと考える。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ・Ⅸ】

本科目は、管理栄養士国家試験教科「臨床栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は 28/200 問であり、本演習の中で、過去 5 年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1 回の演習において、学生は 10～15 問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1 問ずつ

説明を加えながら解説した。また、管理栄養士演習Ⅸの最終回には、臨床栄養学の重要ポイントをまとめたプリントを配布し、国家試験直前対策とした。
授業科目名【臨床栄養学】 本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、治療用特殊食品等のサンプルを持参し、より分かりやすく、また、興味を持てるよう、解説した。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取りいれ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養・食糧学会 会員	正会員	1997年10月～現在に至る
日本栄養士会	正会員	2003年　4月～現在に至る
日本栄養改善学会	評議員	2003年　4月～現在に至る
日本病態栄養学会	評議員	2003年　4月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012年　4月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. わかりやすい臨床栄養学(第4版)	共著	2015年3月	三共出版株式会社	①臨床栄養学の概論と疾病別栄養管理について、総論編と各論編にわけて、主に管理栄養士がわかりやすく執筆している。また、国家試験の新ガイドラインに準拠し、過去の国家試験問題や必要関連領域の情報を可能な限り盛り込んでいる。初版発行後、慢性腎臓病、呼吸器疾患の増補、各種疾患のガイドライン改正、診療報酬の改定等のに併せ、訂正を施し、この度、第4版を刊行した。 ②監修者名：吉田勉 共著者名：飯嶋正広、井上久美子、今井克己、近江雅代、恩田理恵、小林三智子 ③担当部分：「1-5：栄養法」(P63～82)「2-3：消化器疾患（肝・胆・膵）」(P129～142)「2-4：腎・尿路疾患（透析含む）」(P143～158)「2-12：栄養障害」(P208～217) 総頁数：P291 ④B5版

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(学術論文) 1.High saturated fatty acid intake induces insulin secretion by elevating gastric inhibitory polypeptide levels in healthy individuals.	共著	2014年8月	Nutritional Research 34	①脂肪酸組成の違いが血糖・インスリン反応に及ぼす影響について検討した。実験食は脂肪酸食(F30%)と高飽和脂肪酸食(FB30%)とした。F30 食負荷後では血糖、インスリンのいずれも変化はみられなかったが、FB30 ではインスリンが有意に高値を示した。従って、高飽和脂肪酸の摂取がインスリン抵抗性を惹起することが示唆された。 ②共著者名：Itoh K, Moriguchi R, Yamada Y, Fujita M, Yamato T, Oumi M, Holst JJ, Seino Y ③共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 (P653-660)
(翻訳) なし				
(学会発表) 1.地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第 1 報)	共著	2014年11月	第 10 回日本給食経営管理学会学術総会 (於 同志社女子大学)	①講演および食事提供を 1 セットとし、第 1 部は講演、第 2 部は食事提供を行い、地域住民に対して食育活動を展開した。参加者は開催回数とともに増加、アンケート結果においても評価が高かったことから、満足度の高さが参加者増に結び付いたものと考える。本取組は、地域密着型の食育活動を具体化することを目標とし、次年度以降も継続する予定である。 ②共同発表者：青木るみ子、境田靖子、石本祐子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、近江雅代 ③第10回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P46)
				教育研究業績　総数 (2015.3.31現在) 著書3：(内訳：単0、共 3) テキスト2(内訳：単0、共 2) 学術論文18(内訳：単1、共17) 学会発表44(内訳：単6、共38)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立	西南女学院大学	○近江雅代 天本理恵 尾上　均 甲斐達男 青木るみ子 木村久江	730,000
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	北九州市学術・研究振興事業大学連携促進助成金	○清末達人 栄養学科教員	690,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡大学医学部看護学科「食と生活」	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・中村学園大学大学院栄養科学研究科「臨床栄養学特論」	非常勤講師	2013年4月～現在に至る
・福岡県介護予防市町村支援委員会	栄養改善部会委員	2013年8月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品（弁当・惣菜）の開発および提案	責任者	2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	給食担当	2014年4月～現在に至る
・平成26年度福岡県栄養士会生涯教育北九州支部ベーシック研修会「代謝の基礎」	講師	2014年6月14日
・2014年度西南女学院大学教員免許状更新講習：食と健康～次世代の健康を推進するために「次世代（児童生徒等）における健康な生活習慣づくり」	講師	2014年8月20日
・第61回日本栄養改善学会一般公演（口頭発表）臨床栄養（8）高齢者	座長	2014年8月22日
・NHK・小倉医師会・小倉歯科医師会・小倉薬剤師会主催第2回これでなっとく！健康長寿「脱ロコモ！足腰き	講師	2014年10月23日

たえて寝たきり予防」「健康寿命を延ばしましょう～ロコモ予防は毎日の食事から～」		
・ドリームキャッチャー栄養セミナー「褥瘡患者の栄養管理」	講師	2014 年 10 月 7 日
・平成 26 年度福岡県栄養士会生涯教育研修会「栄養スクリーニングの意義と方法」「実際にやってみよう！栄養スクリーニング・栄養アセスメントを学び的確な栄養管理計画を立てる」	講師	2014 年 10 月 19 日
・出張講義：宇部中央高校「健康と栄養との関わり」	講師	2014 年 10 月 29 日
・高大連携講座：「健康と栄養との関わり」	講師	2014 年 11 月 6 日
・ドリームキャッチャー栄養セミナー「嚥下困難者の誤嚥を防ぐ食事の工夫～美味しく安全なお食事のために～」	講師	2015 年 1 月 14 日
・お弁当・お惣菜大賞 2015：スーパーマーケット・弁当（米飯）部門「特別賞」受賞「愛情たっぷり弁当（西南女学院大学考案）」	責任者	2015 年 2 月 10 日
・平成 26 年度福岡県介護予防事業実務者研修会「高齢者の栄養管理」	講師	2015 年 2 月 24 日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員（2014 年 4 月～現在に至る） ・教育の質保障プロジェクト委員（2014 年 6 月～現在に至る） ・管理栄養士国家試験対策委員（2013 年 4 月～現在に至る）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　久保　由紀子	職名　　准教授	学位　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育	乳幼児栄養の実際、栄養教育マネジメント 高齢者の栄養改善、栄養ケアマネジメント

研　究　課　題
・2015 年 1 月に実施した幼児期の食生活及び生活習慣調査から、幼児期の栄養の実際と体位との関連を考察する。また小児肥満予防を目的にした食育活動の展開とその効果についても考察する。 ・高齢者施設における栄養管理、経口摂取による栄養改善の方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
栄養教育論Ⅱ（前期） 栄養教育論実習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅳ（前期） 栄養学概論（前期） 栄養教育論Ⅰ（後期） 栄養教育論実習Ⅱ（後期） 管理栄養士演習Ⅸ（後期） 臨床栄養活動論（後期） 臨地実習Ⅱ（後期） 卒業ゼミ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養教育論Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育の対象となる全てのライフステージ・ライフスタイル・健康度別に、栄養・健康上の特徴と問題点を捉え対処することができるよう、基礎的理論と併せて実際の場面におけるエピソードを交えて講義し、自ら考え判断する力が備わるよう指導した。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育論で学んだ理論がどのように展開されていくのか、単なるコピーペーストではなく、各自がマネジメントサイクルの過程を理解し実践していくことができるよう授業を計画した。また、栄養教育は人を対象とした行為である。模擬指導を行い実施後の振り返りを議論で深め、自分の考えを纏めて他者に伝えることができるよう場面を設定した。
授業科目名【臨床栄養活動論　】 学内の講義及び実習で学習した臨床の場における管理栄養士の活動について、理論と実際を総合的に理解し、臨地実習に向けて課題発見、解決できる力をつけることを目的に、テーマ別に外部講師を招聘し講義して頂いた。臨地実習の事前学習とすることができるよう、復習として講義後の考察、次週の予習として課題レポートを課した。
授業科目名【臨地実習Ⅱ　】 実習先から課せられた課題について事例を示し、学内で学んだ理論が実践の場ではどのように応用、展開されていくのか理解できるよう添削指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本病態栄養学会		1973年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取り組み～（第１報）	共	2014.11	第10回日本給食経営管理学会	① 九州歯科大学と連携して、地域住民の健康増進のための食育活動として「食と健康」に関する公開講座を実施している。取り組み内容及びアンケート集計結果について報告した。 ② 共同発表者名 ○青木るみ子、境田靖子、石本祐子、辻沢利行、天本理恵、坂巻路可、近江雅代
				教育研究業績　総数 （2015.3.31現在） 著書　2（内訳　共　2） 学会発表　14（内訳　単　1　共　13） その他　2（内訳　単　1　共　1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	北九州市	○清末達人 久保由紀子 他栄養学科教員	689,800
幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連性についてアンケート調査 （北九州市母子保健調査研究事業として北九州市小児保健研究会が北九州市より受託）	北九州市	○久保由紀子 天本理恵	120,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市通所型介護予防事業委託業者選定会（選定審査）	審査委員	2015 年 2 月 23 日
北九州市小児保健研究会	理事	2013 年 7 月 1 日～現在に至る
北九州市症口腔外科学会	理事	2013 年 2 月 16 日～現在に至る
第 23 回北九州市小児口腔保健学会	準備委員長	2014 年 10 月 25 日
	シンポジウム座長	2014 年 10 月 25 日
平成 26 年度北九州市小児肥満講演会	講師	2014 年 10 月 17 日
栄養研究グループ栄養相談会	栄養相談（ボランティア）	1990 年 7 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
就職委員会　副委員長	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
キャンパスハラスメント相談員	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
西南女学院後援会　幹事	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
西南女学院大学生活協同組合　理事	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
Ｌ．Ｏ．Ｄ　顧問	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　坂巻 路可	職名　准教授	学位　博士（医学）（神戸大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
植物界に広く存在するポリフェノール類の生体内カテコールアミン動態に及ぼす影響について	副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノール、フラボノイド

研　究　課　題
フランスでは動物性脂肪摂取量が多いにもかかわらず、心疾患による死亡率がイギリス等の他のヨーロッパ諸国に比較し低いという「フレンチパラドックス」の研究発表があり、食品との関連においてはワインの摂取量に差が認められ、ワイン含有のポリフェノールへの関心が高まった。本研究では、ワインのみならず植物に含まれるポリフェノール類の生態内カテコールアミン分泌に及ぼす影響についてウシの初代培養副腎髄質細胞を用いて検討を行い、精神面における鎮静作用の可能性を探求したい。

担　当　授　業　科　目
栄養学実習（前期）（栄養学科） 総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科） 管理栄栄養士演習Ⅳ（前期）（栄養学科） 臨床栄養管理学　（後期）（栄養学科） 臨床栄養学実習Ⅱ（後期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅸ（後期）（栄養学科） 臨地実習Ⅱ(後期)（栄養学科） 栄養学（後期）（福祉学科） 健康と栄養（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養学実習】 栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。各テーマ（例）身体計測、生活時間調査（活動記録）、食事調査では、演習で説明したテーマについて、各自で必ず実施し（体験学習）、その結果を用いながら栄養状態の評価・判定について理解が深まるよう工夫した。また、成人期、高齢期に起こりやすい疾病の栄養管理についても演習と調理実習を組み合わせることにより、演習で理解を深めたテーマについてできる限り次週に調理実習が行えるよう、実習日程を検討した。各回の配布資料については事前に配布し、予習のポイントを強調した。
授業科目名【総合演習Ⅱ】 総合演習Ⅱでは、演習のテーマとして主に症例検討を行った。初めに症例について説明し、各自で症例の栄養管理について検討し考えを纏め、さらにグループでディスカッションを行った。その意見をホワイトボードに示し、全体討議及び解説を行い学生の理解が深まるよう工夫した。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ】 管理栄養士演習Ⅳでは、関連する国家試験問題を解き、解説を行った。演習の進め方として、まず演習の開始時に問題を解かせ、その問題について各自で正文を作成した。各選択肢については、関連事項も併せて調べ、表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。その後、各問題についての解説を行った。正しく理解できているか、確認をしながら進めていけるよう時間配分を検討した。質問は演習時間内・外のいつでも自由にしてよいことを強調している。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅸ】

管理栄養士演習Ⅸでは、関連する国家試験問題を解き、解説を行った。後期は受講生が持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫し、演習終了後も正答チェックがしやすいようにした。理解度に応じ問題の難易度を高め、関連法規等の解説も詳しく行った。

授業科目名【臨床栄養管理学】

臨床栄養管理学では、主にパワーポイント資料による講義を行い、必要に応じて板書を行った。学生へ積極的に問いかけをし、また教室を廻りながら、説明が十分に理解できているかを確認しながら講義を進めた。また、学生同士で食事摂取状況調査を行い、専門的に栄養を学ぶ視点から自己の食生活の振り返りを行った。講義のパワーポイント資料は、分かりやすいよう図表や写真を必要に応じて使用し、ポイントは枠で囲むようにした。毎年、パワーポイントの色使いを気にする学生がいるので、最少の色使いにし、配布資料のサイズを統一する等、昨年度の改善要望をできる限り取り入れるよう努めた。

授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】

臨床栄養学実習Ⅱでは、各テーマの疾患と栄養管理について調理実習に入る前に解説を行い、当日作る献立を示範して調理操作におけるポイントを説明し、その後学生が実際に調理実習を行った。実習テーマについては、事前に資料を配布し次回の実習の内容等を説明した。グループごとに事前に調理作業の工程表を作成させ、作業分担を決め担当者の記入を指示した。グループワークにおいては、作業の負担割合の差が大きいと不平等感が生じるため、その軽減ができるよう試行錯誤している。解説の仕方や重要事項の示し方については、パワーポイント等の資料も用いながら、学生が理解しやすいよう改善・工夫に努めている。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

臨地実習Ⅱでは、管理栄養士として必要な知識と技術を実践的に習得するため、医療施設における実習が行われる。実習に備えて、事前オリエンテーションが行われ、事前学習においては、学生の状況に応じて個人指導を行った。また、実習施設からの課題についても繰り返し指導を行い、速やかに実習が開始できるよう、準備を進めていった。事後指導として、実習報告会が行われ各医療施設における栄養管理について、またその他様々な学びを共有しながら、更に理解を深めることができた。

授業科目名【栄養学　福祉学科】

福祉学科の栄養学は栄養学を専門としない学生が対象のため、分かりやすい解説を心がけた。講義後に本日の講義のポイント、授業に対する感想や要望を書いて提出してもらった。提出された内容を参考にしながら、講義を進めていった。 解説をした部分は、「講義の感想に書かれておりました、〇〇を本日解説しました」、というように確認も行うよう工夫した。栄養素の種類が多く、混乱しやすい場合は、途中で関連記事をまとめたブレイクタイムを設け、学生が集中して講義に臨めるよう、改善努力をしている。

授業科目名【健康と栄養　看護学科】

看護学科の「健康と栄養」は１年生を対象とし、栄養学を専門としない学生が対象のため、できる限り専門用語の解説に努め、パワーポイント資料には関連のある図表や写真を取り入れ、栄養ケアマネジメントや各ライフステージにおける栄養管理について視覚的にも分かりやすいよう解説をした。また、各テーマについて関連する新聞記事を取り上げ、より身近に「栄養」を感じてもらうように工夫した。学生同士で食事摂取状況について質問を行ったり、BMI や理想体重を算出する時間を設けたりした。講義後の感想より、チーム医療における多職種協働の重要性と共に看護師、管理栄養士との関わりついても理解が深まったと考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養・食糧学会		2004 年～現在に至る
日本栄養改善学会		2004 年～現在に至る
日本薬理学会		2006 年～現在に至る
日本公衆衛生学会		2006 年～現在に至る
日本栄養士会		2005 年～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1. 培養ウシ副腎髄質細胞におけるカテコールアミン分泌に対する植物性フラボノイドの作用	共	2014.11.22	第7回トランスポーター研究会九州部会（産業医科大学）	① 本研究では、ウシ副腎髄質の初代培養細胞を用い植物中のフラボノール類の、カテコールアミン神経系への作用について検討した結果を発表した。 ② ○坂巻路可，豊平由美子，小原　剛，稲垣博英，高橋浩二郎，柳原延章 ③ 第7回トランスポーター研究会九州部会　要旨集（p38）
2. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第 1 報)	共	2014.11.29～30.	第 10 回日本給食経営管理学会学術総会	① 西南女学院大学と九州歯科大学は、「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を今年度より開催している。その取組内容およびアンケート集計結果についての報告を行った。 ② ○青木るみ子、境田靖子、石本祐子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、近江雅代

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　総数　(2015年 8月31日現在) 著　書　7　(内訳　単　0，共7) 学術論文　18　(内訳　単0，共18) 学会発表　24　(内訳　単0，共25)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	北九州市学術・研究振興事業大学連携促進助成金	清末達人 他栄養学科教員	689,800

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
産業医科大学訪問研究員 **福岡県研究教育栄養士協議会**	訪問研究員 運営委員及び連絡委員	2004年4月 ～ 現在に至る 2010年4月 ～現在に至る

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)		
職員研修委員	委員	20014年4月 ～2015年3月31日
国際交流委員	委員	2009年4月 ～現在に至る
国家試験対策委員	委員	2009年4月 ～2014年3月31日。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　相良かおる	職名　准教授	学位　博士（工学）奈良先端科学技術大学院大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理　辞書　データベース　医療用語 日本語学　語彙調査　語彙分類

研　究　課　題
医療文書の分かち書き用辞書 ComeJisyo を作成し無償公開している。 医療記録文書に含まれる実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担　当　授　業　科　目
情報科学演習Ｉ　（前期）（栄養学科） 現代社会と統計　（前期）（栄養学科） 情報科学演習 II　（後期）（栄養学科） 健康情報処理論　（前期）（栄養学科） 健康情報処理実習（後期）（栄養学科） 卒業研究演習　　（通年）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　情報科学演習 I】履修生：A クラス 55 名、B クラス 53 名

栄養学科では初年時導入教育を行っていないことから，情報検索を含むレポートの作成法やモル及び規定濃度等の計算についての授業を行うため，出来るだけ履修するようにオリエンテーション時にアナウンスしており，選択科目であるが１年生のほぼ全員が履修している．

授業は，上記内容に加え，情報処理に必要な基本的知識，クラウドコンピューティングや SNS 等の最新の ICT に関する情報，そしてインターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と，Word 及び Excel の基本操作の演習が含まれる．タイピング教材には日本国憲法全文と，管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている．

◇　「説明が早くてついていけない」「理解できない」等、授業に否定的な学生　5 名

◇　学生が本授業で上達したと感じた項目は以下の通り（複数回答）

１：考えたことを文章にまとめる能力　25 名
２：テキストの使い方　26 名
３：ノートの取り方　2 名
４：レポートの書き方　56 名
５：その他（具体的内容を教えて下さい）　6 名（タイピング、Word や Excel の操作）

授業科目名【　情報科学演習 2】履修生：26 名

本授業では，Word の演習としては，「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成，Excel の演習としては，銀行およびクレジット会社で使われている利息計算，そしてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を使った報告書の作成を行った．

選択科目であり、パソコンが好きな学生が履修し、かつ履修生が少ないため、授業が分かり難いと否定的な学生は１名と少ない一方で、もっと詳しく Excel を学びたいというように授業内容に物足りなさを感じる学生もいた。

授業科目名【　現代社会と統計　　】履修生：110 名

栄養学科１年前期開講の選択科目であるが，授業では２年次開講の必須科目「健康情報処理論・実習」，「公衆衛生学」の前提知識となる統計学を教えることから，出来るだけ履修するようにオリエンテーション時にアナウンスしており，１年生ほぼ全員が履修している．

授業の始めに，四則演算の簡単な計算をし，分数や少数についての説明を行っているが，小学校レベルの算数を理解していない学生も多く，統計学の入門的・基礎的内容にもかかわらず，授業評価アンケートでは，理解が難しく応用的なもの，身近でないものと認識しており，予習・復習を良くしたと回答していた．

また，野菜などの食材を実際に購入して重量を測り，バラツキを観察するなど，日常の身近なことを教材とし，記述統計の基礎的な知識を理解できるよう工夫を行った結果，統計学を実務的なものと認識していた．

◇　この授業を受けた後の数字や数式に対する苦手意識についての調査結果は以下の通りであった。

1．苦手意識が増した　39 名
2．苦手意識に変化なし　42 名（もともと苦手ではない学生も含まれる）
3．苦手意識が薄らいだ　9 名
4．もともと苦手ではなかった　14 名
5．数字や数式が以前に比べて好きになった　3 名

授業科目名【　健康情報処理論　　】履修生：A クラス 48 名、B クラス 49 名

マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と，自分が必要とする健康情報の収集方法，そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが，適切な教科書がなく，毎回資料を配布して授業を行った．「フードファディズム（Food faddism）」と「3 た論法（飲んだ，治った，効いた）」については，具体的な事例を紹介し，また身近にある事例を見つけて信頼性を評価する課題を課し，問題解決型の授業を行った．

暗記型，一方向型の講義ではなく，学生参加型の思考する授業を行ったことから，受動型の授業に慣れている学生には，自分なりの目標を設定し難く，「教えてくれない」と不満に感じ，理解が難しいと感じた学生も散見された．

また，推測統計の授業では，シラバスに参考図書を明記しているものの，1 年次で学んだ基本統計の内容を忘れており、意欲的に参考図書で予習・復習した学生は少なかった．

◇　本授業により健康情報リテラシーが向上したか否かの調査結果は以下の通りである。

1. 向上したと思うそう思う　32 名
2. 向上したとは思わない　6 名
3. 分からない　49 名
4. その他（具体的に教えて下さい）1 名

授業科目名【　健康情報処理実習　　】履修生：A クラス 48 名、B クラス 46 名

本授業は，「現代社会と統計」，「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし，「栄養疫学（栄養学研究）」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である．管理栄養士として調査研究する際に必要な，食に関わるアンケート調査票の作成，実施，集計，分析，報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型，共同学習型の授業を構成し，成果物が卒業後も活用出来るように，教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している．また，評価においてもグループ評価 20%，課題提出 20%，授業貢献 10%とし，毎回の授業の取組を評価するようにしている．

しかし，統計学・数学を苦手とする学生が多いことから，理解が難しいと感じる学生も多く，実務的なものと認識しているものの，身近でないものと感じる学生が多い．調査研究に携わる機会の多い病院や保健施設で働きたいという意欲の希薄な学生には，主体的に課題に取り組むことが難しく，授業の内容や大切さが理解できなかったようだ。

授業科目名【　卒業ゼミ演習　　】履修生：4 名

仕事を持ち，そして，主体的に自身のライフキャリアを計画し，心豊かに暮らす能力を培うことを目的に，前半は，坂東眞理子の「幸せの作法」を輪読し自分にとって「働くこと」の大切さや「幸福」について議論し，自分のライフキャリアの計画を立て，就職活動に活かし，後半は，各自が興味を持つ内容を調べレポートにまとめた．

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
情報処理学会		1996 年
教育工学会		2000 年
医療情報学会		2002 年
日本看護科学会		2004 年
大学女性協会		2008 年
日本女性科学者の会		2009 年
言語処理学会		2011 年
情報知識学会		2014 年

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文＆口頭発表） ComeJisyo の紹介と医療情報に含まれる誤字調査 （査読有）	単著	2014. 5	情報知識学会誌 2014 Vol.24. No.2,p.204-209.	相良かおる 現在公開している ComeJisyo の紹介と，医療情報に含まれる 53 種の誤字の分析結果を報告している.
医療経過記録における漢字連続複合語の計量的分析 （査読有）	共著	2014. 12	情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2014.No.3, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.221-226.	山崎誠、相良かおる 医療経過記録に含まれる漢字連続複合語の語彙成分を計量的に分析し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』の分析結果と比較することで、医療経過記録の言語的特徴を明らかにしている。
（ポスター発表） 医療経過記録における名詞連続の計量的特徴	共著	2015. 3	第 7 回　コーパス日本語学ワークショップ予稿集　p.303-308.	山崎誠、相良かおる 小児看護領域の医療経過記録 90 万短単位から抽出した名詞連続の構造を品詞、語種、意味を中心に分析し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』と比較している。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（紀要） 医療用語のシソーラス作成にむけた予備的調査	共著	2015. 3	西南女学院大学紀要 Vol.19,2015,p.109-118	相良かおる、小野正子、上野恵子 医療記録文の分かち書き用辞書 ComeJIsyo に含まれる 739 語を対象に Mesh カテゴリー分類に準拠した「医学用語シソーラス第 7 版」のカテゴリー分類により分類した結果について述べている。
				教育研究業績　総数　87 (2014.4.1現在) 著　書　1　(内訳　単 0, 共 1) 学術論文　14　(内訳　単 0, 共 14) 詳細抄録　28　(内訳　単 2, 共 26) 紀　要　6　(内訳　単 2, 共 4) 翻　訳　1　(内訳　単 0, 共 1) 調査報告　2　(内訳　単 0, 共 2) その他　8　(内訳　単 3, 共 5) 口頭発表　18　(内訳　単 0, 共 18) ポスター発表　4　(内訳　単 0, 共 4) 特許出願公開　5　(内訳　単 0, 共 5)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
実践医療用語の意味解析とシステム辞書の作成	学内共同研究	○相良かおる，小野正子、（山崎誠）	2120,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト（特定非営利活動法人　言語資源協会正会員）	代表	2012 年～現在
一般社団法人　日本女性科学者の会（SJWS）2014 年度 第 10 回 学術大会 並びに　新春懇談会 「西日本からの発信」 ーアピールしよう！今の自分をー	実行委員	2014. 9 ～ 2015. 1

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
◆　図書委員 ◆　倫理審査委員 ◆　宗教委員 ◆　個人情報保護委員 ◆　茶道部　顧問

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　天　本　理　恵	職名　　准教授	学位　博士　（医学）九州大学 2012 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
応用栄養学　分野	小児栄養、母性栄養、栄養指標（臨床検査）、生活習慣病（主に癌）とミトコンドリア

研　　究　　課　　題
1. 癌とエネルギー代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。 2. 新しい栄養指標となるような血液中のタンパク質をみつける。 3. 戦中、戦後の低栄養の時代の妊婦の栄養素摂取量と現在の生活習慣病との関連や、妊娠前・妊娠中の体位の変化と低出生体重児出生との関連、および極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 4. 幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担　　当　　授　　業　　科　　目
応用栄養学Ⅰ　（後期） 応用栄養学Ⅱ　（前期） 総合演習Ⅰ　（前期） 総合演習Ⅱ　（前期） 応用栄養学実習　（後期） 管理栄養士演習Ⅲ　（前期） 管理栄養士演習Ⅷ　（後期） 臨地実習Ⅰ　（後期） 卒業ゼミ（通年） 栄養学概論（前期） 母子栄養学（前期　助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概論（１回のみ）　】 1. 視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. １の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power　Point 教材だけでは不十分なところについては、黒板を使用して図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに質問や感想が書いてある時はそれに必ず答えて返却した。2014 年度応用栄養学Ⅰ受講生は、多くの学生が、この小テストに意見や感想、質問を書いてきており、さらに授業評価で、この講義は将来役に立ちそうだという評価を受けることが出来たので、応用栄養学への関心の高さが伺えた。 4. 昨年度、授業評価の学生からのコメントに授業の進行が速いという意見があったため、今年度は、その学年の特性に合わせた授業進度に切り替えた。今年度のコメントには進行が速いという意見は見られていない。今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。

授業科目名【　応用栄養学実習　】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。この実習を行うために粉ミルクメーカーや食物アレルギー用の食品等（特殊食品）の会社に協力をお願いした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手（教育支援職員）の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。（この実習は講義時間だけでなくその前後に多くの時間を要してしまう実習であるため、この実習が行えるのは助手の先生方が手伝って下さるおかげだと感謝しています。）今年度も授業評価では、この実習が将来役に立ちそうな実習であると評価されており、これからもさらに充実した実習になるよう努力していく。

授業科目名【　総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ　】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅲ、Ⅷ　】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回テーマ別に試験問題を作成し、実施した。
その問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回、前回テストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。授業評価では、上記の講義形式が学生の理解を促しているとの評価を受けており、今後も継続して
この講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【　母子栄養学　助産別科　　】

視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
また調乳については講義だけではなく、実際に学生たちに調理して（調乳して）もらうことで、乳汁栄養に関する理解を促した。さらに母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2002 年 4 月～現在に至る
日本栄養改善学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002 年 11 月～現在に至る
日本臨床栄養学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本癌学会		2010 年 6 月～現在に至る
日本分子生物学会		2012 年 9 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. イラスト 応用栄養学	共	2014. 5	東京教学社	①応用栄養学（ライフステージ別の栄養管理、食事摂取基準、スポーツ栄養、特殊環境下の栄養）の各項目について、イラストを多く使い、出来るだけ平易な文章表現で記載しており、学生の理解を促しやすい教科書になっている。 ②田村明、天本理恵、熊原秀晃　藤木理代、三田有紀子、大和孝子　著 ③担当部分 第４章　妊娠・授乳期 第５章　新生児・乳児期 （p.58～114） 総頁 p.289 ④B5 判
（学会発表） 1. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第１報)	共	2014.11	第 10 回日本給食経営管理学会 （於　龍谷大学）	①本学栄養学科と九州歯科大との連携で実施した公開講座についての報告を行った。 ②共同発表者名：〇青木るみ子、境田靖子、石本祐子、近江雅代　他４名 ③第 10 回日本給食経営管理学会抄録
				教育研究業績　2014 年度 著書　1（内訳　単0,　共0　） 学術論文　0（内訳　単0,　共0　） 学会発表１（内訳　単0,　共１　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 〇代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

地域住民の健康増進のための食育活動の展開	平成 26 年度大学連携促進助成金（北九州市）	○清末達人、近江雅代　他栄養学科全教員	689,800 円
非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立	西南女学院大学共同研究費	○近江雅代、青木るみ子、天本理恵、木村　久江、甲斐　達男、尾上均	730,000 円
極低出生体重児とその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究	西南女学院大学共同研究費	○野井未加、山根正夫、谷川弘治、上村眞生、小野正子、天本理恵	1,315,000 円
幼児期の食生活および生活習慣と体位との関連性	北九州市	○久保由紀子、天本理恵	120,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額（単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称（内　容）	役　職　名　等	任　期　期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
大学点検評価改善会議 FD 部門　委員	2012 年 4 月～現在に至る
将来計画　教育の質保証部門　委員	2012 年 12 月～現在に至る
学生募集　委員	2014 年 4 月～現在に至る
ほほえみの会（代表　福祉学科　野井　准教授）における　栄養相談等、栄養士業務	
チアリーディング部（ルーシス）顧問　（2014 年度は部員 0 名）	2002 年 4 月～現在に至る

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　青木　るみ子	職名　　講師	学位　修士（栄養学）（神戸学院大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
健康教育学 栄養学 食教育	青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ 高齢者・栄養評価・嚥下機能 幼児期・学童期・食育

研　究　課　題
１.ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討 ２.青年期の生活習慣と健康および幸福感に関する研究（大学生健康・栄養調査：多大学共同研究） ３.幼児期を対象とした食教育の現状調査～保育園と幼稚園における教育者および実施内容の検討～ ５.児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討 ４.高齢者福祉施設における非侵襲的栄養評価および嚥下機能評価の検討

担　当　授　業　科　目
栄養学概論（1 年前期） 給食計画論（2 年前期） 給食経営管理論（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅰ（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期） 総合演習Ⅰ（3 年前期） 臨地実習Ⅰ（3 年後期） 管理栄養士演習Ⅴ（４年前期） 管理栄養士演習Ⅹ（4 年後期） 卒業ゼミ（4 年通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【給食計画論】2 年前期科目 　後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰとする）の基盤となる科目である。給食システムの概念とその構造の理解を中心と中心に授業計画を行った。導入として、「給食」および「特定給食施設」の意味と社会的位置づけを解説し、栄養士・管理栄養士の役割について理解を促した。また、本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養管理として、①栄養アセスメント，②食事摂取基準 2015 年版の給食管理における活用，③献立立案，④栄養・食事管理の評価、改善，について演習を通して理解とと実務の習得を促した。講義を行うための資料としては、重要ポイントをまとめた PP を活用した。また、実習Ⅰの栄養・食事管理の資料とするため、履修学生全員の栄養アセスメント情報を集約し、これを基に演習を通して栄養アセスメントを実施させた。その際に活用される食事摂取基準については、理論を学ぶ科目が、本講義の後発となるため、活用を中心に実施せざるを得ない状況があり、この点に関しては、学生の混乱を招く恐れがあることが憂慮される。 　本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」，「衛生管理」も詳細に解説して。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の給食試食および試食に関するレポートを義務付けている。試食の回数としては２回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「生産・提供管理」の難しさ、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。同時に、担当教員にとっては、学生の実習Ⅰへの向学意欲の向上効果を確認できた。

授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促した。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類に関する分野も解説した。特に、原価・会計管理に関する項目では、給食分野での原価・会計管理に必須の内容である「損益分岐点分析」や「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。さらに、3年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを8班編成とし、4班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。給食の計画・生産・提供・評価の一連の管理を行わせることで、給食提供を行う実習Ⅱのための知識と技術の習得を意識させた。各業務を行う上で必要な帳票類の種類と作成方法の演習を大量調理実習と並行して行い、給食施設の業務に沿った指導に努めた。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス8班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「女子大学生対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数 120 食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。つまり、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。一連の科目を連動させることにより、「給食」という特殊な分野の理解が深まっていると考える。

実習を進めるにあたり、実習Ⅰ同様に、4班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を担当業務に含ませている。そうすることで、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。また、生産管理工程に関しても、管理栄養士担当班が中心となって指示・管理を行う。喫食者に実際に提供することを前提とした生産管理を実施しなければならないことから、給食の「品質管理」に関する管理体制を意識させた。本実習のみならず、実習Ⅰに関しても、「給食」にはその対象者が必ず存在することから、各管理業務を行わせる過程で担当教員からは非常に厳しい指導を入れている。さらに、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行ってはいる。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3 年後期科目である「臨地実習Ⅰ」のための事前指導を中心とした科目である。外部講師による「マナー講習」を導入し、学外における社会における一般常識の定着を試みた。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関しての講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。さらに、「臨地実習Ⅰ」が「給食の運営」に関する学実習であることを踏まえて、給食の計画を同時に必要な栄養教育計画を行わせた。臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。本科目による栄養教育は、同時開講の「栄養教育論実習Ⅰ」の進度に合わせて、担当教員同士の協力体制の下で指導を行った。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生の導入教育としている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ・Ⅹ】4年前・後期 「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。演習Ⅴでは、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、演習Ⅹでは、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関係する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、特定給食施設衛生管理マニュアル等を中心に重要ポイントを解説した。過去約 10 年間の給食分野の国家試験問題および業者模試の問題を項目ごとに徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その結果、本分野の得点率は飛躍的に上昇した。
授業科目名【卒業ゼミ】4年通年 ①高齢者や児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。ライフステージの違う料理教室を順次計画させたため、対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力、協調性等が養われたと考える。 ②北九州市に本社を置くスーパーマーケット「ハローディ」と共同し、マーケティング活動や料理教室を実施した。マーケティング活動では、井堀店の店舗にてクッキングサポートコーナーで料理の提案を行った。その際、店頭の商品を使用することで、マーケティングの 4P であるプロモーションにおける販売促進効果を体験した。また、芦原店にて顧客対象の料理教室「おせち料理のアレンジ」を企画・実施した。本取組は、ハローディ企画営業部との共同で行われ、管理栄養士の活動の場の広さを理解させることにつながったと考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本学校保健学会	正会員	2010.4～現在
日本健康教育学会	正会員	2010.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員	2013.9～現在
日本食生活学会	正会員	2012.4～現在

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 給食管理実習のための栄養計算ソフトウェアの開発	共著	2015.3.1	西南女学院大学紀要 Vol.19.　p.119～125	①栄養学科における調理実習や給食管理実習の現場で使用することを念頭において栄養価計算ソフトウェアを開発した。 ②共著者名　清末達人、青木るみ子、石本祐子、境田靖子

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～（第１報）	共著	2014. 11. 30	日本給食経営管理学会（京都・同志社女子大）	西南女学院大学および九州歯科大学は「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を実施した。その内容を報告した。 ②共同発表者　青木るみ子、境田靖子、石本祐子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、近江雅代
				教育研究業績総数 （2015年度8. 30現在） 著書　0（内訳　単　, 共　） 学術論文　7（内訳単１, 共6） 学会発表　14（内訳単0,　共14）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

平成27年度子どもゆめ基金助成金	独立行政法人国立青少年教育振興機構	238,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
多大学健康栄養研究会 北九州市教育委員会学校給食審議委員	理事 委員	平成26年2月14日～平成28年3月31日 平成26年4月～平成28年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会 管理栄養士国家試験対策委員（栄養学科） 周望学舎シニアサマーカレッジ講師 井堀地区まちづくり協議会委託事業「井堀校区生き生きチャレンジキッズ」講師 子どもゆめ基金助成事業「大すきにっぽん」食分野担当講師 栄養学科公開講座「給食提供分野」担当 料理研究部顧問

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　境田　靖子	職名　　講師	学位　修士（学術）（大阪市立大学　1996年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆栄養	DOHaD説，低出生体重，生活習慣病， 食育，青年期，食生活

研　究　課　題
①妊娠前からの体重管理による低出生体重児と将来の生活習慣病予防との関連について ②青年期の食生活改善を目指した指導プログラムの開発

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
公衆栄養学Ⅰ（後期）	2		
公衆栄養学Ⅱ（前期）	2		
地域栄養活動論（後期）		2	
国際栄養論（後期）		2	
公衆栄養学実習（後期）	1		
臨地実習Ⅲ（後期）		1	
管理栄養士演習Ⅴ（前期，分担）		1	
管理栄養士演習Ⅹ（後期，分担）		1	
卒業ゼミ（通年）		2	
栄養学概論（前期、分担）	1		
総合人間学概論（前期、分担）	1		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【公衆栄養学Ⅰ，Ⅱ】
- 指定教科書を重点的に使用し、重要な箇所についてはマーカーで線を引く、必要事項はプリントではなく教科書に書き込むように指導した。
- 教科書にないものについては、必要に応じてパワーポイントの資料を配布し、内容によっては教科書に指定したページに添付するように指導した。
- 適時、小テストや課題を実施し、定期試験へ向けての足掛かりとなるように支援した。
- 臨地実習の履修要件のため、厳しく指導した。
- 日本人の食生活の変遷については、ビジュアルでイメージを膨らまし納得できるようにDVDを用いて指導した。

授業科目名【国際栄養論】
- 履修生が14人だったため、パワーポイント資料を可能な限りカラー印刷で配布した。
- 身近な国際機関として、八幡のJICA九州の見学（レポート）を実施した。
- 例年より、履修者が多かったことから、グループ発表（テーマ：宗教と食）を取り入れた。

授業科目名【地域栄養活動論】
- 外部講師の先生による講義により、教科書には記載されていない実際の栄養活動について理解が深まるように支援した。
- 後期の臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の実習内容に結び付けて、外部講師の講義内容の補足を行った。

授業科目名【公衆栄養学実習】
・後期に実施される臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター，病院実習）での課題実践に備えて、実践的な集団指導の手法の取得と事業評価の能力を取得できるように尽力を注いだため、厳しく指導した。
・保健所・保健センターの実習に行かない学生についてはモチベーションが下がるため、実習レポートを個人個人で作成し、文書作成能力の向上に努めるよう指導した。
・前年度の反省から、使用するアンケートの項目を改善した。
・統計分析およびその結果の考察を苦手としている学生が多いため、同じデータを用いて分析したものを例として示し、グラフ作成の基本から指導した。

授業科目名【臨地実習Ⅲ】
・実習施設ごとの事前課題を指導し、学生が短い実習期間で実習内容を達成できるように指導した。
・実習最終日の反省会や学生は発表する日には、なるべく自ら巡回指導を行い、実習施設の指導管理栄養士に直接、学生の学びの様子を伺った。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ，Ⅹ】
・１つのテーマについて、重点的に講義し、１回 90 分の間にマスターできるように徹底的に指導した。
・模試の正答率を分析し、正答率の低い問題から取り組むなど、国家試験の合格へ繋がるよう努めた。

授業科目名【卒業ゼミ】
・まなびと ESD ステーションでの食事指導、小倉祇園太鼓での食育コーナーの出展、北九州市保健福祉局の食育推進事業の企画・運営等、管理栄養士としての実践力が身に付くようにフィールドワークを中心に活動した。
・行政管理栄養士（大分市）として採用された学生を輩出することができた。

授業科目名【栄養学概論】
・体験学習において、４年間の学びの流れについて指導した。モデル時間割の例示では、２年から３年の臨地実習に出る前までの時間割のタイトさに学生がかなりの驚きを見せ､｢再履修はかなり厳しい状況を生むことになる。１つ１つの科目を丁寧にマスターすることが重要だ｣という点について、理解を増していた。
・体験学習のレポートに、感想や誤字脱字等の訂正、文脈の不明瞭さの指摘を赤字で書き入れ、コピーを取ったのち、原本を返却した（コピーは学科保存)。

授業科目名【総合人間学概論】
・学部学科のキャリアモデル/キャリア形成を担当した。
・資格を取得することは困難であるが、自分の描いた道を進むためにすべきことはその都度実行していく計画性を持つことを伝えたかったが、実際には学生は結婚・出産しか描けないようであった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会		2000 年４月～現在に至る
日本学校保健学会		2002 年４月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2003 年６月～現在に至る
日本体力医学会		2005 年１月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 公衆栄養学	共	2014.4	建帛社	①平成 22 年に改訂された管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）に準拠し、将来、学生が公衆栄養活動の実践の場に出たときに、有用な最新の知見を網羅した内容をまとめた。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				担当部分である、地域における健康づくりプログラムについてはソーシャルキャピタルの概念に基づいた実践活動を，食育については幼少連携した実践活動について述べた。 ②編集者名：由田克士・押野榮司 共著者名：森惠子、境田靖子、他 10 名 ③担当部分：第６章公衆栄養プログラムの展開、1-⑴健康づくり 1-⑵食育、P146～152 総頁数 P215 ④B5 版
（学術論文） 給食管理実習のための栄養価計算ソフトウェアの開発	共	2015.3	西南女学院大学紀要	①栄養学科における調理実習や給食管理実習の現場で使用することを念頭において栄養価計算ソフトウェアを開発した。実習で使用した献立をデータベース化し、組み合わせを変えることで評価が変わることが学べ、かつ安価であることが利点であるが、推奨量以上耐容上限量未満の評価ルールについて検討の必要がある。 ②共著者名：清末達人，青木るみ子，石本祐子，境田靖子 ③（P119～126）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の食育推進」	北九州市保健福祉局	○境田　靖子	521,132 円

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
大学間連携共同教育推進事業「まちなか ESD センターを核とした実践的人材育成」	運営委員，ワーキングメンバー	2012 年 10 月～（５年間）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策委員（2012 年 4 月 1 日～現在に至る） 学生募集委員会　（2013 月 4 月 1 日～現在に至る） 将来計画　教育の質保証プロジェクト（2013 年 8 月～現在に至る）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９（2014））

氏名　　銀光	職名　　講師	学位　博士(医学)（九州大学　2005年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん　糖尿病　胃がん　食生活習慣 遺伝子多型　疫学

研　究　課　題
１．症例対照研究におけるDNA修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 ２．アルコール関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究 ３．コーヒー摂取と胃がんに関する栄養疫学研究 ４．コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究

担　当　授　業　科　目
公衆衛生学（前期） 健康管理概論（前期） 栄養疫学（後期） 管理栄養士演習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅵ（後期） 栄養学概論（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生学】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけスライドを多く作り、授業内容が分かりやすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。
授業科目名【　健康管理概論　】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ　Ⅵ　】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。
授業科目名【栄養疫学】 公衆衛生学では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書をほどんと読んでないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 会員 会員 会員 会員	2002 年　10 月～現在に至る 2003 年　1 月～現在に至る 2003 年　10 月～現在に至る 2004 年　8 月～現在に至る 2010 年　12 月～現在に至る

２０１３年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015 年 3 月	*Asian Pac J Cancer Prev*.2015;16(5):2019-26.	① この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである ApaI 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。 ② 共著者：Takeshige N, **Yin G**, 他 12 名 ③ P2019-2026
2. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015 年 2 月	*Ann Rheum Dis.* 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	① この研究は、1994 名の日本人男性痛風患者と 2547 名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。 ② 共著者　Mtsuo H **Yin G**　他 38 名 ③ doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191

２０１３年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Associations between body mass index and serum uric acid levels in a Japanese population were significantly modified bay LRP2 rs2544390.	共著	2014 年 8 月	*Nagoya J Med Sci.* 2014 Aug;76(3-4):333-9.	① この研究は、J-MICC コホート研究の 1 つの地区である名古屋大学静岡地区の横断研究に参加した 3477 名の男女を対象とした分子疫学研究である。BMI と血清尿酸値の関連は LRP2 遺伝子多型により修飾されていることが示唆された。 ② 共著者 : Suma S　**Yin G** 他 7 名 ③ P333-339
4. Impaired 8-hydroxyguanine repair activity of MUTYH variant p.Arg109Trp found in a Japanese patient with early-onset colorectal cancer.	共著	2014 年 4 月	*Oxid Med Cell Longev.* 2014;2014:617351. doi: 10.1155/2014/617351.	①この研究は、福岡大腸がん研究において、大腸がん患者 685 名と健常な対照 778 名を対象にした症例対照研究である。結果として、*MUTYH* Arg109Trp 遺伝子多型が初期大腸発がんと関連していることが示唆された。 ②共著者　Shinmura K　**Yin G**　他 10 名 ③doi:10.1155/2014/617351
（翻訳）				

２０１３年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） １．　ABCG2 dysfunction causes not only renal urate overload hyperuricemia but also renal urate underexcretion hyperuricemia	共著	2015 年 1 月	第 25 回疫学会学術総会（於　名古屋）	①J-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）ベースライン静岡地区調査参加者のうち、2267 名を対象とした。この研究では、ABCG2 の遺伝子機能障害は高尿酸血症発症に影響を与えていることが示唆された。 ②共同発表者：松尾洋孝、銀光　他 18 名 ③第 25 回疫学会学術総会抄録集（P103)
２．J-MICC 研究（静岡地区）における現在歯数と栄養素摂取との関連	共著	2014 年 5 月	第 63 回日本口腔衛生学会総会（熊本）	①対象者は J-MICC 研究の静岡地区のベースライン調査参加者 4,921 名（35~69 歳、平均年齢 52.2±8.7 歳）である。自記式質問票を用いて生活習慣や既往歴に関する情報を収集し、現在歯数（智歯除く）は自己申告のデータを用いた。本研究では、カロテン、ビタミン B_2、飽和脂肪酸の摂取量が、現在歯数と有意な正の関連を認めた。 ②共同発表者：須磨紫乃、銀光　他 7 名 ③第 63 回日本口腔衛生学会総会抄録集（P180）

２０１３年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 （2015年4月1日現在） 著書　3 （内訳　単 1,共 2） 学術論文　37 （内訳　単　0, 共　37） 学会発表　25 （内訳　単　0, 共　25)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
コーヒー摂取習慣遺伝子多型と２型糖尿病に関する分子疫学研究	独立行政法人日本学術振興会	4.680,000 円	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会　委員 2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　石本　祐子	職名　　助手	学位　　学士（教養）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード

研　　究　　課　　題

担　　当　　授　　業　　科　　目
・総合演習Ⅰ　　（前期） ・応用調理学実習　（前期） ・食品栄養実習　　（前期） ・基礎調理学実習　（後期） ・応用栄養学実習　（後期） ・微生物学実験　　（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　総合演習Ⅰ　】（前期）２クラス 　後期授業開始早々に予定されている「臨地実習Ⅰ」へ向けて、学外実習をより効果的に学べるよう、心構え、実習姿勢などについて重ねて助言した。特に積極性や態度については日ごろからの積み重ねが重要であり、大学生活の中でも意識して課題等に取り組むよう促した。学習者が効果的に学外で栄養教育ができるよう、媒体作成時の注意点などについてもアドバイスした。
授業科目名【　応用調理学実習　】（前期）２クラス 　2014 年度は特任教員の担当であった。示範調理においては、限られた時間配分の中でいかに分かりやすく実習の目的を理解させるのか、作業工程の詳細についても担当教員との打ち合わせに多くの時間を割いた。また、後半の自主作成献立実習では、基礎調理学実習やこれまでの実習で得られた食品自体の特徴や調理性についての知識を活用し、調理や料理自体への興味を大きくふくらませることができるよう、献立作成、色彩等についてもアドバイスした。
授業科目名【　食品栄養実習　】（前期）２クラス 　実習前講義での実習理論や目的を理解し、要点を押さえながら学習者が実習に臨めるよう、各班での実習指導にあたった。この実習は、班ごとに配合をかえたものを交換して製造評価することもあり、比較という観点からもポイントを助言し、市販の加工食品製造への関心が高まるよう指導を行った。また実習によっては、使用器具が特殊なものもあり、怪我のないよう留意した。
授業科目名【　基礎調理学実習　】（後期）２クラス 　器具類の適切な使用方法と衛生については、細かく各班に注意した。また、食品成分表、栄養価計算については、特に、今後の調理系実習の基礎となるところであり、食品を知るためにも活用方法等の不明な点について質問を受けた。季節食材の取り扱いや行事食（クリスマス・おせち料理）においては作業が煩雑であったが、時間内に実習を終えることができるよう各実習台に指示カードを作成し、作業工程の見直しに努めた。

授業科目名【　応用栄養学実習　】（後期）１クラス 　この科目は３年次の実習であり、調理作業は比較的容易にこなしているように感じるが、ライフステージ毎の調理形態の工夫や加熱調理の差異についても理解できるようアドバイスを行った。学習者がこれまでの調理系実習で得た知識と経験とを生かし、対象者に適した「食作り」ができることを目指して、示範調理での理解を深められるよう心掛けた。
授業科目名【　微生物学実験　】（後期）１クラス 　滅菌操作・培養上の注意点等については、実験結果に影響しないよう細部にわたって留意するようアドバイスした。また、グラム染色のデモンストレーション時には、目的と原理についても操作をしながら再度説明をすることで、理解が深められるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本スポーツ栄養研究会 日本栄養・食糧学会 日本食品科学工学会		2006年５月～現在に至る 2006年５月～現在に至る 2008年10月～2014年３月 2014年４月～現在に至る 2014年４月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） Panettone and the anti-mold factor.	共	2014..8	Food & Food Ingredient Journal of Japan 219(3),238-247,2014 （査読あり）	①パネットーネは、平均３ヶ月という長いシェルフライフを特徴としている。ミラノ地区で150年間植え継いできた母種から乳酸菌と酵母を純粋分離、解析し、抗カビ性因子を分泌する乳酸菌株を得た。抗カビ性因子の分離精製を行った結果、高級脂肪酸の一種であることが推定された。 ②石本祐子、甲斐達男 ③p238-247

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Establishment of the proteolysis condition of raw material soybeans for tempeh production.	共	2015.3	西南女学院大学紀要 Vol .19,97-108,2014（査読あり）	①インドネシアの伝統的発酵食品であるテンペを日本市場に普及させるために、たんぱく質をプロテアーゼで加水分解し、アミノ酸由来の旨味を賦与することを試みた。産業用酵素での処理時間、酵素濃度の検討も併せて行い、工業的生産方法が確立した。 ②甲斐達男、坂元泰予、石本祐子 ③p97-108
（学会発表） パネットーネ製パン用の酵母と乳酸菌の単離・同定・選抜に関する研究	共	2014.8.30	日本食品科学工学会第 61 回大会（中村学園大学、福岡市）	①イタリアの伝統的菓子パン（パネットーネ）の母種から乳酸菌と酵母を純粋分離した。属種の同定は、リボソームのスペーサー配列解析、酵母についてはさらにPFGEによる核型分析を行った。増殖速度、酸生産量、糖の発酵能、パン生地発酵能に優れた菌株を選抜し、その中から乳酸菌と酵母の相性についても検討し、パン生地発酵能、製パン試験、官能評価に基づき、産業利用が期待できるベストペアを選抜した。 ②○石本祐子、古川加織、杉原翠、岡元美奈子、高本なつみ、石川鮎美、甲斐達男
地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～（第１報）	共	2014.11.29～30	第 10 回日本給食経営管理学会学術総会	①「食と健康」「口腔保健」の視点から、教員と学生の協働による地域社会に向けての啓発活動として、九州歯科大学との連携公開講座を開催した。その取組内容と、アンケート集計結果について報告した。 ②○青木るみ子、境田靖子、石本祐子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、近江雅代

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
音声波形解析による摂食・嚥下障害発症の予知技術確立に関する研究	独立行政法人日本学術振興会（挑戦的萌芽研究）	○甲斐達男、石本祐子	2,080,000
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	北九州市学術・研究振興事業大学連携促進助成金	○清末達人他、栄養学科	689,800

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・北九州市保健福祉局委託事業「LOVE キッチン」	スタッフ	2014 年 12 月 6 日実施

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教職員懇親会委員 ・管理栄養士国家試験対策委員

人　文　学　部

英　語　学　科

２０１４年度教育研究活動報告用紙

氏名　阿部　弘	職名　教　授	学位　MA(TESL)　（カンザス大学 1976 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育における英語音声学	英語教育、音声学、小学校英語

研　究　課　題
継続的な研究テーマは「英語教育における効果的な音声指導の探究」である。中学校・高等学校の学習指導要領には、「コミュニケーション能力の育成」の重要性が謳われており、その中でもとりわけ音声教育に関しては強調されている。一方、公立小学校においては「総合的な学習の時間」における「国際理解教育」の中で英語を教えることが可能になったことや、2011 年度から小学校５・６年生対象に英語が「必修化」されたため、ますます音声教育の重要性が増してくることになる。しかしながら、現場の先生方は音声指導に関しては不得手な方が多いため、現在取り組んでいる実践的な研究が現場での教育の一助になり得ると確信している。そして最終的には小・中・高・大における音声指導の一貫性が重要な意味を持っていることを提唱したい。

担　当　授　業　科　目

科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
Practical English Phonetics Ⅰ（前学期）	2		
Practical English phonetics Ⅱ（後学期）	2		
英語教科教育法Ⅴ（前学期）	2		
専門演習（通年）（英語学科３年）	2		
卒業研究（通年）（英語学科４年）	4		
教育実践研究（不定期）（英語３・４年）	1		
教職実践演習（後学期オムニバス）（英語）	2		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　Practical English Phonetics Ⅰ　】

担当しているどの科目も「授業学」ということばを念頭に置いた教育を実施している。Practical English Phonetics Ⅰ（前学期）は英語学科１年生対象の必修科目である。授業は 90 分を二分して、前半 45 分は理論中心の展開の中で全体の practice を行い、後半 45 分は小グループに分けて、隣室小部屋での Group Lesson と呼んでいる発音の個人矯正指導を実施した。このことにより、英語学習における正しい音声修得の重要性を受講生に認識させた。4 月から 7 月にかけては英国 Winchester 大学から来た２名の学生にも授業を参観させ、課題を探求させながら日本人学生に対して英語のモデルとしての働きを担わせた。

授業科目名【　Practical English Phonetics Ⅱ　】

この科目も英語学科１年生対象の必修科目である。中身は前学期と同様な時間配分での授業になっている。とりわけ指導上絶対に切り離せないのが、受講生に好評な発音の個人矯正指導である。他にも、前・後学期を通してテキストの本文を各自録音させ提出課題とし、総合評価の一部とした。

授業評価アンケートの結果によると、ほぼ担当者のねらい通りの結果を得ているので、満足度は高いと言える。しかしながら、予習・復習に時間をかけていない学習者が少数ながら存在したのは残念であり、新年度の対策としたい。

授業科目名【　英語教科教育法Ⅴ　】

教職課程履修４年生対象の必修科目である。教育実習に行く直前の指導であるため、主として模擬授業を中心に展開させ、それをお互いに批評し合い、教師が最後のコメントを行うという実践的な内容であった。さらに、一人ひとりを対象に、実習直前の発音個人矯正指導も、毎年恒例のことながら、授業時間外に実施した。
※受講者２名のうち、１名が北九州市の教員採用試験に合格した。

授業科目名【　専門演習　】

英語学科３年生対象の通年必修科目である。ゼミのテーマは「英語音声学的見地からの英語力強化と個人総合力強化戦略」である。前学期はリスニングの強化訓練を主軸とし、英字新聞記事を利用した英語力強化と世界情勢の把握に取り組ませた。また、日本の各新聞からの情報収集や記事の筆写には、１年間強制的に取り組ませた。後学期は就職活動を意識させながら、会社研究や面せ対策にも目を向けさせた。

授業評価アンケートは、担当者全員の内容となっているので判別しにくい部分もあるが、自分が担当した内容に対する評価と思われる部分は、「再発見したこと」の番号 17～22 の部分に含まれている。また、「担当教員への意見」においては、番号の４～5 は明らかに自分に該当するので、工夫したことが具現化できた。

授業科目名【　卒業研究　】

英語学科４年生対象の通年必修科目である。３年次で学習したことを一部継承させながら、就職活動の手助けになるような指導を行った。同時に４年次の最終目標は卒業論文を完成させることにあるので、「論文&レポートの書き方」という本を輪読しながら、テーマ設定やアウトライン作成をさせて行った。11 月から 12 月にかけて、各自の論文発表会を実施し、完成品を「卒業論文集」として冊子にした。

授業評価アンケートによると、全体の学生の目標達成度は高い。これは、卒業論文が必修であるためであろう。個人への評価は抽出しにくいが、卒論指導への好意的な意見の部分に含まれていると推測できる。

授業科目名【　教職実践演習　】

大学全体の教職課程履修４年生対象の必修科目である。これまでの教職課程での学びと教育実習を振り返りながら、教師としての使命感、保護者や地域社会への責任、信頼される学校づくり等の課題について総合的な理解を深めることで、実践力をさらに伸ばす機会となることを意図して開講されている。オムニバス形式であるため、教職課程に関わる複数の教員による授業となっている。15 週のうち自分が単独で担当したのは、12 月 18 日（水５時限）の「模擬授業（２）」の箇所であった。「模擬授業(1)」を受け継ぐことになっていたため、英語学科の８名を４グループに分け、各グループ 10 分という制限時間の中で、中学校２年生用の「New Horizon Unit　7 : Reading Communication p.76」の模擬授業をさせて、講評した。全員教育実習経験者であったため、各グループの特徴が随所に見られ、有意義な時間であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州英語教育学会	全国大会事務局長２回、副会長・評議員	昭和 52 年 12 月～現在
外国語教育メディア学会		昭和 53 年１月～現在
大学英語教育学会		昭和 54 年 10 月～平成 21 年３月
日本児童英語教育学会	九州・沖縄支部長(2010 年４月～2013 年３月)	平成２年８月～現在
日本英語音声学会	九州・沖縄・四国支部理事 (1996 年 12 月～現在に至る)	平成８年 12 月～現在
全国英語教育学会	上記掲載の通り、九州で全国大会開催時に２回事務局長(1992 年、1999 年)	平成 14 年４月～現在

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著　書)				
(学術論文)				
(その他)				
				教育研究業績総数(2013.3 現在) 著書 学術論文 学会発表

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・日本英語検定協会	二次面接試験委員	1992 年 11 月～2014 年３月
・文部科学省初等中等教育局国際教育課	英語教育集中研修講師	2003 年４月～2008 年３月
・ スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)委員会	運営指導委員	2005 年４月～2008 年３月
・北九州市英語教育研究協議会	運営委員	2006 年 10 月～2008 年３月
・北九州市英語教育研究協議会	運営委員(アドバイザー)	2008 年７月 23 日～2010 年３月
・北九州紫水ライオンズクラブ	市民教育レオネスレクレーション委員	2008 年 10 月～2009 年６月
・北九州紫水ライオンズクラブ	国際協調 YCE・LCIF 委員	2009 年７月～2010 年６月
・北九州紫水ライオンズクラブ	社会福祉・公衆安全・環境保全・青少年指導・薬物乱用防止委員長	2010 年７月～2011 年６月
・北九州紫水ライオンズクラブ	国際協調 YCE・LCIF 副委員長	2011 年７月～2012 年６月
・北九州紫水ライオンズクラブ	社会福祉・公衆安全・環境保全・青少年指導・薬物乱用防止委員	2012 年７月～2013 年６月
・北九州紫川ライオンズクラブ	賛助会員	2013 年７月～2014 年６月
・JASTEC(日本児童英語教育学会)第 20 回九州沖縄支部研究大会	支部長兼実行委員長(於西南女学院大学)	2012 年 10 月 27 日(土)
・ 模擬授業(テーマ：英語の発音あれこれ)	講師（於 東筑紫学園高等学校）	2014 年６月 27 日（金）
・ 出前授業(テーマ：英語の発音あれこれ)	講師（於 福岡県立小倉商業高等学校）	2014 年９月６日(土)
・ 模擬授業(テーマ：英語の発音あれこれ)	講師（於山口県立萩高等学校）	2014 年 10 月 21 日(火)
・ 進路ガイダンス(テーマ：語学を活かす仕事)	講師（於山口県立西京高等学校）	2014 年 11 月４日（火）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・英語学科長(2006 年４月～2010 年３月)
・学生委員会委員（2007 年４月？～現在）
・人文学部長(2010 年４月～2012 年３月、この間大学理事)
・英語学科長(2012 年４月～現在)
・学長選考委員(2012 年７月～2013 年１月)
・ウィンチェスター大学教育実習生に「PHONETICS」の講義(2014 年４月～６月、6 年連続)
・教員免許状更新講習講師(2014 年８月 19 日、2009 年以降 6 年連続)
・人事委員(2012 年４月～現在)
・ 2013 年度 FD 研修会(テーマ：西南女学院としての教育力を高めよう)における、第３分科会(テーマ：学生のやる気を引き出す授業づくり)で、代表者のひとりとして 20 分間の講師（2013 年９月 26 日）
〈部活動・その他〉
・ 朝礼司会及びチャペルの司会(チャペルの司会は年間計６回) （この部分はこれまで昨年度まで未記載であ

ったため、新たに追加した)

・大学・短期大学部テニス部顧問（2003 年 4 月～現在）（短期大学時代は 1987 年 4 月に部昇格以来 2003 年 3 月までテニス部顧問、九州１部リーグに昇格して３年、一昨年２部に転落したため、現在チーム再建中）

２０１４年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　L.D.Woolbright	職名　教授	学位　修士（文学）（デンバー大学　1982 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育学、パブリック・スピーキング	slang, world English, movies、English Haiku

研　究　課　題
English Haiku

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
Oral English Ⅰ（前期）	4		
Oral English Ⅱ（後期）	4		
Public Speaking Ⅰ（前期）		2	
Public Speaking Ⅱ（後期）		2	
Discussion Ⅰ（前期）			
Discussion Ⅰ（後期）			
Ｄｅｂａｔｅ（後期）		2	
専門演習（前期）	4		
卒業研究（後期）	4		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　Oral English　Ⅰ】

個々の生徒に出席表と授業の進歩表を渡した。教員はその都度スタンプを押し、各自の出席状況がはっきりわかるようにした。この方法で、学生の出席状況が良くなることを望んでいる。

授業では学生同士の交換日記を行わせた。交換日記によって、生徒の英語のスキルアップができ、また、生徒がお互いを知るきっかけづくりに効果的であった。更に、学生同士が良好な関係を築けるような雰囲気作りをし、グループワークやペアワークの回数を多く行った。

授業中は、日本語ではなく英語で考える習慣を身につけさせるためにも、英語の使用を勧めた。そしてスピーチの作成の時には、一人一人個別に、丁寧な対応を行った。

また、学生の名前を覚えるために、ネームカードを作り、宿題のチェックは顔写真を見ながら行った。

授業科目名【　Oral English　Ⅱ】

夏季休暇中の活動について英語でレポートを出すよう奨励し、夏休みに宿題を与えた。

少人数制のクラスのため、ペアワークを多く行った。また、個人のペースで英語が上達するように手助けをすることを心がけて授業を進めた。

それぞれのレベルと授業についていけているかを確認するために、毎週ミニテスト（クイズ）を行った。

また、3 分間スピーチの課題を与え、上位の学生は毎年実施するシオンカップコンテストに出場させた。

前期と同様、個々の生徒に出席表と授業の進歩表を渡した。教員はその都度スタンプを押し、各自の出席状況がはっきりわかるようにした。この方法で、学生の出席状況が良くなることを望んでいる。

授業科目名【　Public Speaking Ⅰ＆Ⅱ　】

スピーチ作成準備の時間を十分にとったことで、今年度は授業方法を理解し、納得のいくスピーチを作成することができた。姉妹校である英国ウィンチェスター大学の学生に授業に来てもらい、スピーチモデルの役割を担ってもらった。反対に、学生がウィンチェスターの学生の前でスピーチを行い、アドバイスをもらうような機会を設けた。さらに、学生に学外のスピーチコンテストに出場するよう奨励し、出場する学生には準備の段階では指導をした。

また、毎週学生たちにスピーチを作成・発表させた。このスピーチの作成においては、一人一人個別に、英文の訂正やスピーチをする上でのポイントなど、丁寧な対応を行い、学生が完成度の高いスピーチを発表出来るようにした。スピーチをする際には、発音の間違いを注意し、聴衆に気を配るように指導をした。

授業科目名【　Discussion Ⅰ】

テキストは"Impact Issue２”を使用し、学生には毎週レポートを課した。新しい単語を使用し文章を書かせることで多くの語彙を学ばせる工夫を行った。更に、英語を使用する機会を増やすためにペアワークの機会を作るということで、ある程度一般的なコミュニケーション技術を向上させることに有効であった。

また個々の学生の英語学習に役立てるようコンピュータ支援学習を取り入れたこと、プレゼンテーションの準備・作成・発表の機会を設けることで、プレゼンテーション技術の向上に効果があったとともに、あらゆる場面で自分の意見を述べることができるようになった。

授業科目名【　Discussion Ⅱ　】

Discussion Ⅰと同様のやり方で授業を継続しているが、付け加えた構成要素として、パワーポイントを使用してのグループでプレゼンテーションを行うことを課した。優秀なプレゼンテーションについては、英語学科の英語コンテストにおいて発表する機会を設けたことで、積極的に取り組み、効果的であった

授業科目名【　Debate　】

基礎的なディベート技術を習得してもらうために、より緩やかでシンプルに教材を使用することを心掛けた。今年度は簡単な意見交換から始めた。次に、根拠による意見の指示の仕方、証拠を使用した根拠の指示の仕方、そしいて有意味なメッセージを情報に組み入れる方法を補うためのディベートの基礎的学習へと移行する方法をとった。また、学生は、相手の節目に反論するための議論の仕方、証拠に対して異議申し立てを行う方法、一つの意見に対しての反論を組み立てる方法を授業の中に取り入れている。最後には、意義のある、徹底したディベート方法を学ぶことができた。

授業科目名【　専門演習　】

前期は、〝シンデレラ”を演目とし、パフォーマンスの課題とした。英国ウィンチェスター留学生の３名の留学生が補助として授業に入ることで、英語を話すことに対しての高い動機づけとなった。それ以外に、留学生たちと一緒に課題図書を輪読し、一緒に討論する機会を設けた。

また、TOEIC 対策指導や、卒業論文についてのゴールを確定し、卒業論文作成へ向けての指導も行った。

授業科目名【　卒業研究　】

今年度はゼミ生（３名）によるグループ・ワークを中心に、学生たちが興味をもっている幅広い内容を取り上げた。また３年生ゼミと合同で、ドラマ〝シンデレラ”を演じるという課題を与えた。英国留学生が授業に参加することで、英語を話すことに対しての高い動機づけとなり効果が高かった。

今年度も、卒業論文作成へ向けての指導も行い、３名とも卒業論文を完成することができた。さらに、北九州が実施する清掃ボランティア活動に参加するとともに、就職試験に向けての面接指導を行い、就職希望者全員の就職が決まった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	平成 3.9～福岡支部ニューズレター編集委員、平成 4.2～福岡支部 Publicity Secretary 委員、平成5.1～福岡支部長、平成 6.1～理事、平成 10.1～北九州支部長、平成11.2～広報支部長、平成12.1～平成 12.12　JALT2000　News 編集委員、平成 14.　10～平成 15.12 編集委員	1985 年 4 月～現在に至る

日本コミュニケーション学会 大学英語教育学会 九州英語教育学会	平成 16. 10～平成 19. 3　北九州支部長	1990 年 2 月～2000 年 3 月 1991 年 4 月～現在に至る 1991 年 8 月～現在に至る

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(学会発表)				
(その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

第22回 International Speech Contest	福岡大学ＥＳＳスピーチコンテスト審査員	2014年5月3日
第10回「イングリッシュコンテスト北九州」	北九州市立中学生対象スピーチコンテスト審査員	2014年10月4日
第14回　IBCスピーチコンテスト	西鉄国際ビジネスカレッジスピーチコンテスト審査員	2014年11月21日
第 65 回ギャロット杯争奪英語弁論大会	西南学院大学スピーチコンテスト審査員	2014年11月22日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○国際交流委員会

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　マルコム　ロス スワンソン	職名　　教授	学位　　大学教育部大学院修士課程

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1. Second language learning 2. Tablet devices and CALL 3. Self-access learning centres	e-Learning, learner autonomy, student-centered learning, computer assisted language learning, self-access, tablet devices

研　　究　　課　　題
1. Student centred learning through self-access centres 2. Digitising the English language learning classroom 3. Use of tablet devices for second language learning

担　　当　　授　　業　　科　　目
Academic English Writing Advanced English Discussion I & II Area Studies II Extensive Reading I, II, III (supervision) Media English Media Skills Oral English I & II Presentation Skills 専門演習 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Oral English I & II】 今年度この科目は、過去数年行っているプログラムを継続している。一方で、学生には CHIeru を使用してのｅラーニング学習をより一層推奨し､その結果プレゼンテーションやディスカッションでは完成されている。スキルの向上が明確に示された。今年度は、観光文化学科との協働による新カリキュラムが予定されている。これにより、学生の会話力及びリスニング・ スキルの向上の機会となることが期待されている。
授業科目名【Advanced English Discussion I & II】 非常勤講師・ジッツマン先生との協働により、なお一層のディスカッション・スキルの伸ばすために、カリキュラムの総点検を行っている。学期の初めに、トピックから授業プログラムの残りすべてのコースの授業計画を学生が立てるようにした。彼らはまた教員と協議し、自己評価も行った。後期には、ビジネスによる手法、そして事例研究や共同調査研究を中心に構築した授業方法を用いた。その結果、学生が研究した結果が他の学生への教材として示されている。両コースは、実にうまく機能しており、以前と比較するとクラス・アクティヴィティにおいて学生が英語を使用する際、学生にとって満足するものとなっている。
授業科目名【Media Skills】 ウェブサイト“seinan-jo.com”を使用をし，語学学習者に有効ないくつかの技術を検討しつづけていた。ソーシャル・ネットワーク、ポッドキャスト、グラフィックス、ウェブデザイン、調査法、オンライン語学学習ツール、ビデオサイトなどである。いつも人気のコースであり、学生はよりウェブ知識に精通するようになるが、ますますそれらを網羅した教材を探すのが困難となっている。

授業科目名【Academic English Writing】
このコースでは、情報調査の仕方、情報の組み当て方、Writing の過程を学ぶといった、学術的なレポートの構成に焦点を当てている。学生は関連する Activities と、学期の最後に評価のためのレポートを提出する。これらのレポートは冊子にまとめられ、学生に手渡すようにしている。

授業科目名【Presentation Skills】
この科目では、マイクロソフト社のパワーポイントのようなプレゼン用ソフトを使用し、調査する、作成する、練習する及びプレゼンで伝達するといった準備するために必要な技術について焦点を当てている。学生は個人個人で、ウェブ上に６つのミニプロジェクトをアップロードさせ、完成させるという課題を課した。また、ワークブック、上手なプレゼン練習についての小論文、最終的なプレゼンを提出されることで評価を行った。次年度は、パワーポイントに焦点を当てずに、他のプレゼン用ソフトを中心に使用することにしている。

授業科目名【Extensive Reading I & II】
　オンライン・ウェブサイトを再構築し、学生向けテストに使用している。2014 年度 1 年生のテスト平均は 85,133 語、2 年生の平均は 278,404 語（2013 年～2014 年）であった。読む速度や語彙力においても、肯定的な進歩がみられた。

授業科目名【海外研修】
　今年度は、これまでにない 21 名の受講者数（英語学科 20 名、観光文化学科 1 名）であった。すべてにおいて入念に計画したことで、今回は特に滞りなく、成功した。また多種多様のアクティヴィティと学習機会を参加者に経験させることができた。

授業科目名【Special Events】
通常授業以外に、英語学科の学生のために以下の特別行事を行なった。

- 俳句・花見イベント（Haiku & Hanami Event）
- 英語講義 6 回シリーズ（English lectures (6x)）
- フレッシュ・キャンプ（English Camp）
- マロリーカップ英語コンテスト（Mallory Cup English Contest）
- シオン英語スピーチ・コンテスト（Zion Cup English Contest）
- クリスマス・インテンシブ（Christmas Intensive）
- ムービー・ウィーク（Movie Month）
- Chieru e-Learning - CHIeru は、学生の進歩状況により「マイル」を取得する。前期・後期に最低 1,500 マイル完結することを課している。これを達成するために、学生は、１週間に約 40 分 e-Learning 学習を行わなければならない。2013 年度の学生の結果は、1 年生平均 4,170 マイル、2 年生平均は 8,893 マイルであった。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	会員	１９９６年～現在に至る
	第３９ 回全国語学教育学会　大会研究発表記録集編集長	２０１３年１０月
	Website 編集委員	２０１０年５月～現在に至る
CALICO（コンピュータ支援言語教育コンソーシアム）	会員	２００５年５月～現在に至る

２　０　１　４　年　度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） Transforming	単著	2014年4月	Apple iBooks	学生の卒業論文の発行を可能

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Academic Writing: A Thesis With *iBooks Author*				とする〝iBooks Author"の使用方法についてレポートしている。これは、アップル社の教育者プログラムの一環によるものである。
（学術論文） 短期集中型学習が言語能力向上に与える効果について：１つのケーススタディ	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19	一定の短期集中型学習が学生の能力や成績に与える効果について、2014 年前期に検証プロジェクトを実施した。このプロジェクトでは、学生は 15 週間、毎日 20 分間で完成する課題を与えられた。プロジェクト終了後、学生の TOEIC スコア、読解速度、語彙レベルの比較を行った。その結果、このプロジェクトに無欠席で参加した学生には、そうでない学生に比べると明らかな進歩が確認された。（共同研究者：Andrew Zitzmann）
（翻訳）				
（学会発表） Creating Multimedia Content with Apple Technology	共著	2014年4月	全国語学教育学会（北九州支部大会）	マルチメディア素材が英語語学教室を創りだす方法について報告している。 （共同研究者： Steve Paton）
Creating content with iBooks Author	単著	2014年6月	Kansai Univ. of International Studies: Summer Seminar	英語クラスにおいて、iPad タブレット及び教材作成のためのソフトウェア〝*iBooks Author*”を使用してのワークショップを行う。
Keynote in the Classroom	共著	2014年6月	Osaka JALT / Osaka Apple Store	英語クラスにおける教材作成のためのソフトウェア（例： Apple Keynote）を使用してのワークショップを行う。（共同研究者： Steve Paton）
Using Layout Software for Creating Classroom Materials	単著	2014年11月	JALT2014全国語学教育学会	教材作成のためのソフトウェア“Adobe InDesign”を使用しての技術的なワークショップを行う。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
QR Codes for Classroom Activities	単著	2014年11月	JALT2014全国語学教育学会	QR Codeの使用による教材作成および、学生管理方法について発表した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
福岡県東峰村におけるグリーンツーリズムの推進による地域活性化の研究	西南女学院大学	木沢誠名，飯田一郎，マルコム　スワンソン	2,120,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
梅光学院大学ＥＳＳスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2014年6月7日
ESS Speech Contest	下関市立大学スピーチ・コンテスト審査員	2014年7月5日
ESS Speech Contest	西南学院大学スピーチ・コンテスト審査員	2014年11月23日
Campbell High Debate & Speech Contest	西南女学院高等学校ディベート＆スピーチ・コンテスト審査員	2015年3月13日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

紀要委員
　2014 年度の紀要発行に向けて、執筆者の選抜や編集を行う。

教育経費予算配分委員
　英語学科の予算委員を担当し、2014 年度委員長となる。

情報システム管理運用委員
　531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについての計画に取りかかる。

オープンキャンパス、マロリーカップの運営委員
　英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、マロリーカップ（スピーチコンテスト）の委員となって企画、運営を行う。

英語学科ウェブサイトの管理
　英語学科のウェブサイト情報をアップデイトするための委員会の責任者となる。

英語学科フレッシュ・キャンプ委員
　プログラムの企画検討を行う。（行き先：山口県西長門リゾートホテル）

教育の質保証プロジェクト会議
　アクティブ・ラーニングについての検討委員会のメンバーとなる。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　横　溝　紳　一　郎	職名　　教授	学位　博士（ハワイ大学大学院　1997 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり	連携（アーティキュレーション）、学習意欲（モティベーション）、アクション・リサーチ

研　　究　　課　　題
小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、アクション・リサーチを通じて調査・分析する。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行う。

担　　当　　授　　業　　科　　目			
科　　目　　名	単　位　数		授 業 評 価 ポ イ ン ト
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
異文化間コミュニケーション（前期）（英語学科）		2	
異文化間コミュニケーション（前期）（観光文化学科）		2	
日本語教育方法論Ⅰ（前期）		2	
日本語教育方法論演習Ⅰ（前期）		2	
日本語教育実習（通年）		4	
ことばと文化（後期）		2	
日本語学概論（後期）		2	
日本語教育方法論Ⅱ（後期）		2	
日本語教育方法論演習Ⅱ（後期）		2	
専門演習（通年）	4		
卒業論文（通年）	4		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【異文化間コミュニケーション】 大人数の学生の集中力を維持するために、（1）教科書の使い方の工夫、（2）画像や映像教材の多用、3）ふり返りの時間の確保、（4）わたしメッセージの発信、5）座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。
授業科目名【日本語教育方法論Ⅰ】 日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、外国語の学び方も学べる環境を整えた。
授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅰ】 日本語教育方法論Ⅰ及びⅡでカバーした内容を基に、日本語教育の現場を演習形式で体験する授業を展開した。その中で、JICA の研修生に対し日本語の発音を教える機会も与えた。
授業科目名【日本語教育実習】 教育実習授業は(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州 YMCA での授業、(3)ハワイのカラニ高校での授業と、3 度実施した。

授業科目名【ことばと文化】 異文化間コミュニケーションの授業と異なり、履修者が英語学科所属で比較的少人数の学生だったので、日本語と英語の違いに表れた文化的差異について、多くの時間を費やした。
授業科目名【日本語学概論】 日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の回答、という流れで進めた。
授業科目名【日本語教育方法論 II】 日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。
授業科目名【日本語教育方法論演習 II】 次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。
授業科目名【専門演習】 次年度の卒論執筆の前段階として、前期は日本語、後期は研究方法について、演習形式で授業を進めた。
授業科目名【卒業論文】 履修生のニーズに応える形で、アクション・リサーチによる卒論指導を一年間行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本語教育学会	評議員（2001 年 7 月～2007 年 6 月） 研究集会委員（2006 年 7 月～2011 年 6 月） 理事（2007 年 7 月～2013 年 6 月）	1988 年 8 月～現在に至る
九州日本語連絡協議会	事務局長（2007 年 4 月～2011 年 3 月）	2005 年 10 月～現在に至る
日本教師教育学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	副代表（2010 年 10 月～現在に至る）	2010 年 10 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 特になし				
（視聴覚教材） 1.今さら聞けない…日本語教師塾：日本語教師の役割＝やる気を引き出す！	単	2014. 8	凡人社	① 日本語教師の一番重要な役割を「やる気を引き出すこと」と定義し、その具体的手法について映像で紹介した。 ②（DVD：100 分）
（学術論文） 1. 優れた教師からの学びを、自分自身の実践にどう活かすのかー上級学習者への発音指導で、授業と家庭学習のつながりを求めて	単	2014. 10	言語教育実践イマ×ココ　第 2 号	② ある優れた英語教師の教育哲学と授業運営に基づいた、上級日本語学習者に対する発音授業の工夫を紹介し、その効果を検証した。 ②（P96~P106）

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 1. クラスルーム運営における教師の役割について、具体的に考えてみよう！	単	2014. 4	韓国日語教育学会年次大会（ソウル）	① クラスルーム運営に関して、教師ができること／すべきことを具体的に紹介した。
2. こんな時、どうする？私語をする・宿題をしてこない学習者に焦点を当てて	単	2014. 6	2014 年度日本語教育学会研究集会九州・沖縄地区（鹿児島）	① 学生の私語や宿題をしてこない理由に焦点当て、問題解決の方法を具体的実践例とともに紹介した。
3. Collaborative Action Research	単	2014. 9	Ministry of Education Language Centre Japanese Department（Singapore）	① 教師の自己成長のためのアクション・リサーチを協働的に行う方法について、その可能性と課題を探った。
4. 中1入門期における協働的アクション・リサーチ	共	2014. 10	全国教育アクション・リサーチ・ネットワーク（山形）	① 小学校の外国語活動での実践をベースにした、「緩やかな移行」と「適度な段差」を意識した、中1入門期における英語教育実践を紹介し、その可能性と課題を分析した。 ② （共同発表者　松田由紀子・市川智也）
				教育研究業績　総数　（2015.4.1 現在） 著　書　23　（内訳　単　3，共　20） 学術論文　37　（内訳　単　29，共　8） 翻訳　1　（内訳　単　0，共　1） 学会発表　55　（内訳　単　27，共　28） （その他） 視聴覚教材　3　（内訳　単　2，共　1） 書　評　1　（内訳　単　1，共　0） 科研成果報告書　4　（内訳　単　0，共　4） 事　典　1　（内訳　単　0，共　1） 文化庁委嘱事業報告書　2　（内訳　単　0，共　2） その他の報告書等　11　（内訳　単　0，共　11） 以上

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
英語教師実践ナラティブにおける書記言語・音声言語、および日本語 ・英語の選択	日本学術振興会	○　（柳瀬陽介） （樫葉みつ子） （今井浩之） （玉井健） （吉田達弘） 横溝紳一郎	800,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
協働的アクション・リサーチによる、中１入門期の英語教育に関する総合的研究	日本学術振興会	1,100,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007年4月～現在に至る
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007年4月～現在に至る
福岡市らしい国際教育懇話会	座長	2011年4月～現在に至る
福岡県立香住丘高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2011年4月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会主催 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012年4月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師派遣	講師	2012年4月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入学試験会議　委員　2013年4月1日～2015年3月31日 学生募集委員会　委員　2013年4月1日～2015年3月31日 キャンパス・ハラスメント　相談員　2013年4月1日～2015年3月31日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　村橋　素行	職名　　教授	学位　フランス語学士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
アメリカ文学	ナサニエル・ホーソン　ウィリアム・シェイクスピア ジョン・バニヤン　緋文字　ヘンリー・ジェイムズ

研　　究　　課　　題
ピューリタン信仰と芸術（文学）活動の相克

担　　当　　授　　業　　科　　目
Intensive Reading I, Intensive Reading II,　TOEIC 演習 A,　TOEIC 演習 B, TOEIC 演習 D 現代ビジネス人材論

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Intensive Reading I, Intensive Reading II】 ・　単語の意味からではなく文法・語法・構文に基づく英文解釈。 ・　教材の客観的理解と、視点を提示することによるクリティカルシンキングの支援。
授業科目名【TOEIC 演習 A,　TOEIC 演習 B,　TOEIC 演習 D】 ・　欧米におけるビジネスや社会生活のしくみや実例を紹介し、実社会で必要とされる英語情報処理技能を紹介。 ・　個人別の弱点項目の把握に努め、添削や研究室で個別指導。
授業科目名【現代ビジネス人材論】 ・　社会人基礎力の概念とその向上を図る手順を、分かりやすくパワーポイントに教材化。 ・　ビジネス実務で不可欠な状況分析手法、口頭・文書による各種コミュニケーション、企業会計知識、マナー・プロトコルなど、即戦力として必要な基本手法を整理して提供。 ・
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本アメリカ文学会 九州アメリカ文学会 北九州アメリカ文学研究会		2014年5月 同上 2014年9月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　塚　本　美　紀	職名　　講師	学位　修士（教育学）（テンプル大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育学	CLT (Communicative Language Teaching), TETE (Teaching English Through English), ELF (English as a Lingua Franca)

研　究　課　題
英語教育学について、コミュニケーション能力を育成する指導方法について中心に考察する。また、現代の国際社会において、英語が事実上の国際語であるという視点から英語教育をとらえ考察を深めたい。

担　当　授　業　科　目
Grammar & Composition I (A)、(B)（前期） 欧米文化交流研修 A（前期） 小学校英語教育入門（前期） Grammar & Composition II (A)、(B)（後期） 小学校英語教育研究（後期） 英語教科教育法 I（後期） 英語教科教育法 IV（後期） 専門演習（通年） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年）（英語学科） 教育実習 II（通年）（英語学科） 教職実践演習（中・高）（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Grammar & Composition I　　】 学生の予習復習の習慣がつくように、課題を具体的に指示した。また、学生がさまざまな場面を利用して学修できるように、スマートフォンのアプリを利用して単語学習ができるようにした。その結果、学生の語彙力が向上した。
授業科目名【欧米文化交流研修 A　　】 現地での研修が効果的に行われるように、学生が現地で使用する可能性の高い英語表現を繰り返し練習したり、イギリスの文化や地理や歴史について指導したりした。また学生の学びが深まるように、現地でも折に触れて必要な事項を伝えた。
授業科目名【小学校英語教育入門　　】 学生の理解が深まるように、具体例を示したり、背景となる事象を適宜説明したりした。また、学んだことをまとめるために、断続的に課題を与えた。

授業科目名【Grammar & Composition II　　】 　学生がより積極的に授業に参加するように、一部反転授業の方式を取り入れた。その結果、学生が教科書の課題等をより深く理解しようとする姿勢が見られた。
授業科目名【小学校英語教育研究　　】 　小学校での英語教育について、より主体的に考えてもらうために、小グループでの討論や発表などを取り入れた。また、講義で理解したことを実践するために、全員に模擬授業をしてもらった。
授業科目名【英語教科教育法 I　　】 　学生が実際に体験しながら指導法を学べるように、ペア活動、グループ活動、ワークショップ形式の活動など、授業の中にさまざまな活動の形態を取り入れた。
授業科目名【英語教科教育法 IV　　】 　教員採用試験の対策も兼ねて、既習事項についての振り返りを行ったり、教育に関する時事問題についての討論を実施したりした。
授業科目名【専門演習　　】 　来年度の卒業研究につなげるため、興味のある分野について研究し発表するというプロジェクトを実施した。
授業科目名【卒業研究　　】 　卒業論文の執筆については、授業時間だけではなく、電子メールや個人面談なども活用して、それぞれの課題に応じた対応をした。
授業科目名【事前及び事後の指導　　】 　学生が教育実習に向けて適切に準備できるように、中学校や高等学校で活躍している英語の先生方に来ていただき、学校現場での指導のあり方について、具体的に話していただいた。
授業科目名【教育実習 II　　】 　学生が実習先で授業をする際に困らないように、さまざまな指導案や言語活動などを紹介した。また、なるべく早くに教材を手に入れて、教材研究をするように折に触れて話した。
授業科目名【教職実践演習（中・高）　　】 　教育実習で経験したこと及び学んだことを将来教職に就いた際にいかせるよう、学生の教育実習での経験を一つ一つ取り上げながら、起こった事象を分析したり、その際に学生がとった行動が適切だったかどうかについて話し合ったりした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」	会員	１９９０年９月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1. The Influence of Short-Term Study Abroad on Motivation for Language Learning	共	2015. 2	11th CamTESOL Conference （於　Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia）	①　短期語学留学が学習者の英語学習の動機に与える影響について ②　共同発表者　峯山奈々美、平原菜南子
			教育研究業績　総数（2014. 3. 31現在） 著書　　１　　（内訳　単　０、共　１） 学術論文　９　　（内訳　単　６、共　３） 学会発表　５　　（内訳　単　０、共　５）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本英語検定協会	面接委員	１９９３年７月～現在に至る
e-dream-s（教育分野での国際貢献を目指すNPO法人）	理事（２００１年９月～現在に至る）	２０００年７月～現在に至る
北九州ESD協議会	会員	２０１０年４月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　委員（２０１２年４月１日～２０１５年３月３１日）
教務委員会　副委員長（２０１４年４月１日～２０１５年３月３１日）
大学点検評価改善会議FD部門会議　委員（２０１３年４月１日～２０１５年３月３１日）
教育の質保証プロジェクト会議　委員（２０１３年４月１日～２０１５年３月３１日）
ゴールデンZクラブ　顧問（２０１４年４月１日～２０１５年３月３１日）

観　光　文　化　学　科

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告

氏名　須藤 秀夫	職名　教授	学位　修士（経営学） （米国ペンシルバニア大学ウォートン校　１９７８年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際金融、　国際ビジネス	金融危機、企業統治、 企業の社会的責任(CSR)　BoP ビジネス

研　究　課　題
・多国籍企業およびマネー（短期資金）の功罪は何かを考察する。 ・企業の社会的責任(CSR)、CSR を基準にする投資(SRI について、欧米と日本での動向の違いを考察する。 ・貧困層を相手にする BoP ビジネスの動向を考察する。

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
経済交流論　（前期）		2	
国際ビジネス論（前期）（英語学科向け）		2	
同上　（観光文化学科向け：２学科合同）			
基礎演習 A（前期）	1		
専門演習 II　（前期・後期）	2		
卒業研究　（前期・後期）	4		
多国籍企業論　（後期）		2	
ビジネスコファイナンス　（後期）		2	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【経済交流論　（前期）】 ・学生の生活・将来に関係するものとしての国際経済を学ぶ意味を強調し、学習意欲を引き出すように努めた。 ・学生の疑問・質問を質問票に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。 ・複雑な事象（例えば、通貨危機、世界的金融危機等）の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し学生の興味を引き出すことに努めた。 ・ほぼ毎週、最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項（輸出とアベノミクス、国際収支、自由貿易協定 FTA と TPP、世界の貧困問題等）が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。 ・学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。 ・門司税関・太刀浦コンテナターミナルの見学を取り入れて、国際経済の一つのテーマである貿易を身近なものとして感じられるように、また、貿易という職業を身近なものと感じられるように努めた。 ・WORD の文章（これを配付教材としている）を画面に表示するのは、字が小さくて読みづらいので、PowerPoint だけにしてほしいとの意見に留意し、ポイントとなる事柄は、PowerPoint に図を使った解説を行って別途配付した。また、教材の中で、覚えてほしい語句は、穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。 なお、「プリントが多いので、ノートの方が良いと思いました」との学生意見には留意したいが、板書してノ

ートを取らせる方式は、板書の時間がもったいないので、今後も避けたい。
・「経済のことが前より分かるようになった」「日本と外国の経済の動きなどを学び、その関係についても知ることができました。新聞などでも、経済の記事に興味を持つようになりました」などの学生意見は、この授業の狙いとするところであり、喜ばしく、また教員として励みになる。

授業科目名【国際ビジネス論　（前期）（英語学科学生および観光文化学科学生向け合同】
・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。実社会で使われているキーワードはなるべく多く英語を併記し、英語の学びにもつながるように努めた。
・国際ビジネスの先兵といえる総合商社の機能、および国際ビジネスの主戦場となっている中国ビジネスを理解させるため、商社の中国ビジネスの歴史的事例に関する文献を読みレポートを提出する課題を与えた。また、学生が関心をもつ日本航空の、成長が期待される中国人マーケットでの文化的摩擦という苦い経験の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。
・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっていると関係していること、また（例えば外国人留学生の雇用など）就職事情にも関係することが理解できるように努めた。
・学生からの質問をメモの形で複数受け付け、積極的な受講態度を引き出すように努めた。また、学生にとって授業で分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。
・「国際関係の流通に関心がもてた」などの学生の感想は、授業の狙いとするところなので、喜ばしい。

授業科目名【基礎演習Ａ（前期）】
・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。
論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。
なお、学科全体の取組みであったが、ゼミ対抗のディベート大会を学期末に行い、準優勝となったので、きちんと議論することの重要性も改めて認識した様子である。
・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。

授業科目名【多国籍企業論（後期）】
・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
・学生にとって馴染みのある企業（COACH、Disney、資生堂、ネスレ、アップル等）のブランド戦略、経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。
・多国籍企業の社会的責任（人権侵害しないこと等）に関連して、チョコレートの原料であるカカオの生産に児童労働（カカオ・キッズ）が関わっていることを写真付きで説明し、学生が国際情勢やサプライチェーンの問題に関心を持つように努めた。さらに、ビデオ（ナイキ社が 90 年代途上国での若年労働者を劣悪な労働条件で雇用・使用したとされる事例）を活用し、書物だけではわかりにくい現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。
・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の営業活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである。
・馴染んでもらいたい重要な語句を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。
・「グローバルな考え方ができるようになった」「有名な企業の経営のノウハウが少し分かった」などの学生の感想は、授業の狙うところであり、喜ばしい。

授業科目名【ビジネス・ファイナンス（後期）】

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことか、を把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。また、一方通行にならないように、学生の席に行き学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。

・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。

・財務分析を理解させ、前向きの受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ企業が実際に発表している数字を扱う課題を与えた。同業２社の数字を比較させることによって、財務分析の意味をよりよく理解させるように努めた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。

・EXCEL を十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCEL の表計算を使った収支計画の課題を与え、EXCEL の知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。

・財務分析および収支計画作成の作業を行わせるに際して、模範解答例を示し、作業に取り掛かりやすくなるように工夫した。また、実社会では収支計画の作成が広い領域で必要とされていることを強調し、学生の関心を高めることを狙った。

・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題が今日的な経済社会問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた（例えば、不正会計を許さない会計監査が重要であること、為替の変動が個別企業の利益にどの程度影響を与えているか等)。

・利回り計算は、金融界に就職すると求められる資格である外務員（金融商品）の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

・「１つ１つの言葉が難しかった」との学生の感想が寄せられたが、徐々に馴染んで使えるようになること、実社会に出てからでも重要性に気づくことを願う。

授業科目名　【専門演習 II　（前期・後期)】

・実際の為替相場を使った外為ディーリング（ドル・円の売買）を３ヶ月間競争の形で行わせ、どのように為替取引が利益・損失につながるのかを理解させた。また、どのような要因が相場の変動につながるのかを、１週間の動きから報告させ、外国為替相場の理解を深めさせることに努めた。

・就職活動に向かうに当たって、基礎学力をつけておく必要もあるため、学生同士で SPI の類の問題（国語、算数、時事問題など）を出題させ、議論し合う時間を設けた。出題に関連した時事問題について随時教員が補足説明し、学生の理解・関心を深めるように努めた。

・企業のブランド政策の失敗事例の輪読（前期）を通して、自社の強みをさらに磨き顧客を満足させ続けることがいかに重要であるかを理解させることに努めた。

・学生が自分で選んだ新聞社説を採り上げ、また、自分たちで選んだテーマ「子供に英語を３歳から学ばせるべきか」を採り上げ、討論させたが、自分の意見を言い他人と議論する面白さを認識させることを狙った。また、グループワークとして、ある商品を外国１国で作って売るための海外進出に際して必要な情報を自分たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。

・日本の経済社会（消費増税、原発再稼働、TPP と医療、シェールガス革命、リニアモーターカー・グーグルグラス・3D プリンタなどの技術革新、ビッグデータ、女性活躍・ブラック企業などの労働事情、介護・年金など）に関する文献（『日本の論点』）を輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。

授業科目名【卒業研究（通年)】

・考察・論述の枠組みが筋道立っていてしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確にすること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネス研究学会 日本金融学会	会員 会員	2002 年 10 月～現在に至る 2012 年５月（入会）～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績　総数 (2015年3月31日現在) 著書　なし 学術論文　16 (内訳　単14　共2) 翻訳　なし 学会発表　なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
株式会社ジェイコム九州　北九州局	テレビ放送審議委員 （兼）審議委員会会長	2012 年 12 月～2013 年 11 月 2013 年 12 月～2014 年 11 月 2014 年 12 月～2015 年 11 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・人文学部長 ・観光文化学科の社会貢献グループ WILL の顧問　（高橋先生と共同で） ・社会貢献活動として、小倉城に来訪した外国人観光客をアテンドする活動を手配・指導した（12 月半ば～2 月末。英語学科 5 名および観光文化学科 34 名の 1~4 年生　計 39 名が参加した）。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　飯田一郎	職名　　教授	学位　博士（北九州市立大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
近代英国の交易史・旅行史 アメリカ文学 観光社会学 Japanology	英語語彙史、旅の史的文献 H. D. Thoreau 観光と社会・文化、アグリトゥーリズモ 日本文化・歴史・思想の英語表現

研　究　課　題
英語語彙史、旅の史的文献研究 H. D. Thoreau 観光と社会・文化、アグリトゥーリズモ 日本文化・歴史・思想の英語表現

担　当　授　業　科　目
観光英語 観光社会学 英語通訳ガイド演習 I, II 欧米観光文化地理 I, II 基礎英文読解 II 専門演習 II 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　英語通訳ガイド演習　】 １．「日本事象 300 選」の和文英訳小テストを毎回行い、評価の一部とした。 ２．日本事情を解説した英語放送のリスニングを行った。 ３．国家試験「通訳案内士」の過去問題を分析し、問題を作成して学生に解かせた。 ４．ロールモデルとして優秀な社会人（１７名）を授業に同席させ学生への好影響を試みた。
授業科目名【欧米観光文化地理】 １．前回の授業内容をもとにしたテストを毎回実施して、評価の一部とした。 ２．欧米、中東、アフリカ、オセアニア各国の地理、歴史、文化、言語を大学レベルに相応しい内容で講義し、関連するＤＶＤも教材として使用した。
授業科目名【観光社会学】 １．アメリカの大学テキスト(*Tourism: Principles, Practices, Philosophies*) を使用して英語と観光社会学の学びを進めた。 ２．観光と社会現象を取り扱った学際的なＤＶＤを学生に見せて、講義内容とともに毎時限レポートを提出させ、評価の一部とした。
授業科目名【観光英語】 １．旅行業務の英単語テストを毎回行った。 ２．リスニングを中心に旅行業英語を学ばせ、毎回ほぼ６０名全員に発話させた。 観光地の英語ＤＶＤを使用し、トランスクリプションを配布して学生の内容理解に努めた。

授業科目名【基礎英文読解 II】 １．授業のポイントを授業開始前に板書した。 ２．学生の集中度を持続させるために授業を３分割し、①読解　②リスニング　③ディクテーションに割り当てた。また、授業の開始時に毎回小テストを実施した。 ３．「日本事象 300 選」のディクテーション小テストを毎回行った。
授業科目名【卒業研究】 １．毎回授業開始時に、欧米の文学、美術、世界遺産、食文化、歴史について班別に学生によるプレゼンテーショを実施した。 ２．卒業論文を個人指導して全員１００ページ以上の卒業論文を提出させた。 ３．東欧研究を指導した学生が西南学院大学の大学院に進学した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本ソロー学会		1991 年～現在に至る
国際ビジネス・コミュニケーション学会（旧商業英語学会）		1994 年～現在に至る
日本比較文化学会		1988 年～現在に至る
日本英文学会		1999 年～現在に至る
The Association for Business Communication (New York)		2003 年～現在に至る
European Business History Association (Glasgow)		2003 年～現在に至る
日本国際観光学会		2004 年～現在に至る
日本観光ホスピタリティ教育学会		2011 年～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） Lexical Evidence Contributed to the *OED* (2nd ed.)	単		オックスフォード大学出版局 辞書編纂室	17 世紀英国の商業文献から、「オックスフォード英語大辞典」に収録されていない語彙を収集し論文としてまとめ、これを報告してきた。
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡日仏協会会員 ムーブ（北九州市立男女共同参画センター）	「英語通訳ガイド演習」授業の社会人受け入れ担当	1984 年～現在に至る 2013 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．学生募集の一環として県内外の高校で模擬授業を行った。 ２．フランス文化研究会学友会サークル顧問：フランス料理実習、美術館研修。 ３．学生の相談を受けるため毎日 16：30 以降は研究室で学生の対応に勤めた。 ４．英字新聞講読の課外講座（16:30~18:00）を実施した。 ５．春季ヨーロッパ研修を実施し、アムステルダム・パリの観光、歴史、文化、地理を実地で講義した。

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　八尋春海	職名　　教授	学位　修士（文学）九州大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
１　九州の観光 ２　英語教育	１　九州、観光、地域振興 ２　英語、大学教育、教材

研　究　課　題
１　九州における観光を活用した地域振興の抱える問題と課題について ２　大学における英語教材の開発について

担　当　授　業　科　目
プレゼミ（前期）（観光文化学科） Intensive Reading I （前期）（観光文化学科） 映画で学ぶ世界遺産(後期)（観光文化学科） 映画で学ぶ英米文化(後期)（観光文化学科、英語学科） 専門演習II（通年）（観光文化学科） 卒業研究（通年）（観光文化学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Intensive Reading Ⅰ】 大学に入学して初めての英語の授業であったため、まずは「受験英語」から脱却して自分のペースで自主的に勉強ができるよう動機づけを行い、授業を通してさまざまな学習方法を伝授した。
授業科目名【映画で学ぶ英米文化　観光文化学科】 観光文化学科の学生には、「観光」に関心の高い学生が多いため、授業で取り上げた（観光とは関係の薄いものであっても）テーマについて観光の視点を取り入れながら授業を行った。
授業科目名【映画で学ぶ英米文化　英語学科】 英語学科の学生の中には、異文化コミュニケーションの関心の高い学生が多いため、なるべくそのようなテーマを選ぶようにした。また、授業で解説する専門用語については英語でも教えるようにした。
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 授業中には地図をフル活用して、世界遺産の場所、そこまでのアクセス方法、周囲の地形、周辺の国々なども学ぶようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	理事（2006～現在）、副会長（2010～現在）	1996年
日本比較文化学会九州支部	支部長（2010～現在））	1996年
余暇・ツーリズム学会	九州支部事務局長（2009～現在）	2005年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長（2013～現在）	2013年

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 大学生の英語学習における動機と企業の求める英語力	共	2014年3月	『西南女学院大学紀要 vol. 18』	大学生の英語学習動機を高める先駆的な取り組みを行っている大学の事例を分析し、その応用について検討を行った。また、企業の入社試験における英語について現状の分析を行い、学生の英語学習への動機との関係について論じた。
（翻訳） スタンド・バイ・ミー	共	2014年7月	フォーイン	映画『スタンド・バイ・ミー』のセリフの翻訳を行った。監修も務めた。単なる解説ではなく、難解な語句の解説や役に立つ文法事項の解説も行った。
食べて、祈って、恋をして	共	2014年11月	フォーイン	映画『食べて、祈って、恋をして』のセリフの翻訳を行った。監修も務めた。単なる解説ではなく、難解な語句の解説や役に立つ文法事項の解説も行った。
（学会発表） 過疎地域における地域振興とツーリズム	単独	2014年9月	2014年度余暇・ツーリズム学会全国大会(於　別府大学)	東峰村のグリーン・ツーリズムの取り組みについて、行政が地元住民の対してどのような働きかけを行っているのかを中心に論じた。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
阿蘇地域の『格安ホテル』について	単独	2014年11月	2014年度余暇・ツーリズム学会九州支部大会（於　ももちパレス）	阿蘇地域におけるホテルのうち、インターネットサイト「じゃらん」の分類する格安ホテルの顧客満足度について論じたものである。
阿蘇地域におけるグリーン・ツーリズムの取り組みについて	単独	2014年11月	2014年度日本比較文化学会九州・中四国・関西３支部合同研究会（於　福岡医療短期大学）	阿蘇地域の宿泊施設が取り組むグリーン・ツーリズムについて、自然の観光資源を分類して、それぞれをどのように生かしているのかについて論じた。
阿蘇地域の宿泊施設の地域特性について	単独	2015年3月	日本比較文化学会第27回九州支部大会（於福岡女子大学）	阿蘇地域に存在する宿泊施設がそれぞれのエリアの特徴を生かし、どのような宿泊プランを提供しているのかを論じた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生部長　2012年4月1日～現在 教育経費予算委員　2014年4月1日～現在

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　林裕二	職名　教授	学位　修士（文学）（西南学院大学　1993 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研　　究　　課　　題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本）を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担　　当　　授　　業　　科　　目
総合人間学概論　(前期)　(英語学科・観光文化学科) 英文講読Ⅰ　(前期) (観光文化学科) Extensive Reading Ⅰ　(前期) (観光文化学科) Intensive Reading Ⅰ　(前期) (観光文化学科) 基礎演習A　(前期)　(観光文化学科) 英文講読Ⅱ (後期)　(観光文化学科) Grammar & Composition Ⅱ　(後期)　(観光文化学科) Extensive Reading Ⅱ　(後期)　(観光文化学科) TOEIC演習B　(後期)　(観光文化学科) 英語Ⅱ　(後期) (福祉学科) (後期)　(観光文化学科) 専門演習Ⅱ　(通年) (観光文化学科) 卒業研究　(通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【総合人間学概論】全８回中の１回を、人文学部の両学科長で担当する。学生側からすれば、大学教育の基礎の根幹をなす学部共通の最初の授業である。従って、どちらの学科の学生でもこの時点で押さえておくべき基本的なポイントに絞って、PPT を使い講義をした。
授業科目名【英文講読Ⅰ】 必修科目で、2 年生を四分割した少人数の習熟度別クラス。観光ガイド受験の役に立つ英語を読むトレーニングをした。クラス内の読解力にはかなりの幅があった。英語の原書を輪読したが、最初は発音記号に不慣れな学生もいた。語彙調べを隔週毎に提出させ、それを印刷して、何度も読み合わせをさせることで、6 月半ばにはかなりの慣れを学生自身が実感できた。学生には、テキスト内容が難解であり、背景知識となる日本語資料を読み込ませることで、理解度を高めた。そこで日本文化理解へのある程度の学習準備ができた。かなりの割合の学生が、より深い読みができるようになった。
授業科目名【Extensive Reading Ⅰ】 E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室での必修科目。マルチメデイア教室の特長(たとえば、一人を教卓からモニターし指導できる、モデル学生の音声を他の学生に聞かせる等）を生かし、学生をかなり早い時期に把握し、指導に生かすことができた。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、

読解力を高めるトレーニングをした。また、学習時間を担保できるように、毎回課題を出し、達成度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、目標を持たせて計画的に達成できるようにした。

授業科目名【Intensive Reading Ⅰ】

必修科目で、1 年生を四分割した少人数の習熟度別クラス。観光ガイド受験の役に立つ英語の原書を読むトレーニングをした。同じテキスト(二種類）を次年度の 2 年次(英文講読Ⅰ、Ⅱ、選択科目）にも使うので、1 年次には、基礎的な背景知識の理解、キーセンテンス、キーワードの理解だけでも十分と考えた。初めて原書に臨む不安感を取り除くようにした。語彙調べを隔週毎に提出させ、それを印刷して、何度も読み合わせをさせることで、6 月半ばにはかなりの慣れを学生自身が実感できた。学生には、テキスト内容が難解であり、背景知識となる日本語資料を読み込ませることで、理解度を高めた。そこで日本文化理解へのある程度の学習準備ができた。

授業科目名【基礎演習A】

専任教員による必修科目(演習研究科目)。2013年度までのカリキュラムにあった1年前期の演習研究科目「プレゼミ」を廃止して、基礎演習Ａに事実上一本化したもの。大学の授業を受けるために必要なノートの取り方などのスキルを少人数の授業で学ばせた。また入学時に友人ができないという孤独感に陥らないようにするため、友人グループへの帰属意識を持たせ、教員との信頼関係の第一歩を持たせるようにした。そのためにも、学生のペア作業、共同作業を多く取り入れた。

授業科目名【英文講読Ⅱ】

2 年生を四分割した少人数の習熟度別必修授業クラス。基礎より少し中級に近いテキストを使う。最初は発音記号に不慣れな学生もいた。語彙調べを隔週毎に提出させ、それを印刷して、何度も読み合わせをさせることで、12 月半ばにはかなりの慣れを学生自身が実感できた。１２月中旬にかなり出席率が落ちたことがあった。このあたりから、理解度も落ちていたので、実態に即した進度にした。

授業科目名【Grammar & Composition Ⅱ】

習熟度別の必修クラス。前期にも同名の科目Ⅰを学生は受講している。発音の基礎は何度でも繰り返して定着させることが大事なので、音と意味が一致するように、何度も繰り返し指導した。中学・高校で習う文法が文単位の枠内で教えられているので、この科目以降につながるように、文より大きな談話の中での、文法の意識づけも行った。できる限り、読む・書くという言語活動を重視して、発信型の活動を増やすようにした。定着させるために、理解確認後の音読練習は、ペア、グループ、全員輪読という単位で行った。

授業科目名【Extensive Reading Ⅱ】

E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室での必修科目。教材は、E-learning と英語の発音についてのテキストである。既に前期に CHIeru に慣れており、後期はそれを生かして、質的充実と練習量増を目指した。しかしながら慣れることで手抜きのテクニックを覚え始めて、問題解決の場面で、「考える」という最も重要な活動をせずに、単に答え合わせに終始する学生が出てきた。それを防ぐためにも、確実に自分で考えざるを得ない状況を増やすようにした。CHIeru のリスニング教材を使い、音読の練習をさせて、それをモニターして、動機付けを強めるようにコメントした。当初は声が出なかったが、次第に英語の発声方法にもなじんできた。最初から１人読みをすると声が出ないので、全体読み、グループ読み、ペア読みというように次第に単位を小さくして、恥ずかしさを感じさせないようにして、できる限り大きな声で音読できるように指導した。

授業科目名【TOEIC演習B】

2014 年度新カリキュラムの新規科目(選択）であり、受講生は１年生だけ。シラバスの履修条件的な部分の記述が曖昧であったため、受講層と予想した層よりも、更に基礎的な層の学生が受講した。TOEIC の 450～500 点レベルのテキストの読解部分は省いて、音声教材の部分だけに絞った。それを使い、音と意味が一致するようにさせた。TOEIC の音声のスピードに慣れさせていく必要があり、短い英文や、短い英文からできている英文のリスニングをさせた。声を出して英文を読むというトレーニングを必ず確保して、次回最初に前回分のリスニングを範囲とする小テスト(英語の書き取り=dictation)を行い、自宅学習の習慣をつけさせた。

授業科目名【英語Ⅱ】

福祉学科１年生の後期の必修授業。50 名以上を対象とするクラスであり、英語のレデイネス、習熟度には大きな幅がある。テキストは、基礎的な読解力養成を目指すものであるが、リーディングで難解と思えるところは扱わなかった。会話的な部分で、音声と意味が一致するようにトレーニングをした。隔週毎に語彙調べノートを出させ、それを印刷配布して、ペア学習で音読をさせることを繰り返した。授業の最初の小テスト(前回授業内容の英語の書き取り）をさせて、日ごろの学習を習慣付けるようにした。

授業科目名【専門演習Ⅱ】

「卒業研究」で卒論を仕上げる４年次の前年度として、研究の仕方の基礎が理解できているかを確認をし、積み重ねを行った。知識注入型の講義ではなく、問題発見・解決ができるように、いくつもの場面を提示した。その一つが新聞の読者の声の欄への投稿である。当初は自分で主題そのものを考えて、文章を書くこと自体に抵抗があったが、次第に採用者が出てくるにつれて、ゼミ全体の意識が高まった。知識の枠組みを広げて、文の構成を体得するために、新聞の社説をペンで手写しすることを毎週繰り返した。これに加えて、英語の多読もさせたので、授業外の負担が大きいと感じる学生もいた。授業では映画の英語の脚本（ローマの休日）を輪読し、基礎的な読解から、慣れを生むようにしていった。司会も学生にさせて、甘くなり過ぎない限り、学生の自主性に任せるようにした。

授業科目名【卒業研究 】

3 年次の専門演習Ⅱに続くテキスト（ローマの休日）を輪読した。基礎的な積み上げ（特に、文法、語彙強化）がこの学年でも必要だった。新聞の投稿も秋口までは継続した。間接的な成果であるが、手で書くこと自体には抵抗がなくなっており、社説写しから得た知識を利用して、就職活動の面接にも対応できた学生もいた。後期の最初から、時間配分を卒論作成へと比重を増やしていった。原則として 11 月以降は全体指導の授業を月一回として、残りは個別の卒論指導とした。卒論の論理的構成を理解するために、1 年次の基礎演習 A のテキスト（知へのステップ）を再度読み込んで、懸賞論文（ヤンマー株式会社主催）の輪読もした。しかしながら、最も大切な卒論の知的な深みについては、参考文献の使い方が原因となり、深まらない時期が 12 月上旬ぐらいまで続いた。卒論作成が本格的になる後期にも、個別にあるいは少人数で、文献検索と文献の使い方を再度学ばせて、理解を深めることが必要だった。オリジナリティを出させるために、何度も面談を繰り返した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会（旧日本商業英語学会）	九州・山口支部会長　（2010 年 2 月～現在に至る）	1993 年 6 月～現在に至る
映画英語教育学会	九州支部会計監査　（2006 年 1 月～2011 年 12 月） 紀要査読委員(2010 年 4 月～2012 年 3 月） 九州支部運営委員（2012 年 1 月～現在に至る）	1994 年 2 月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部副支部長(2008年10月～2011年 10 月） 九州支部紀要編集委員（2011 年 9 月～現在に至る）	1994 年 12 月～2015 年 3 月
日本人類言語学会		2002 年 10 月～2004 年 3 月
英語コーパス学会		2003 年 4 月～2009 年 3 月
日本比較文化学会		2010 年 2 月～現在に至る
万葉学会		2014 年 2 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 詩.　山の製材所	単	2014.11	産経新聞	①　詩人新川和江の選による。喪失感を主題とした。 ②朝刊１面「朝の詩」2014 年 11 月 27 日
1 英語の俳句　(1 句)	単	2014.7	毎日新聞の英語デジタルサイト:Haiku in English http://mainichi.jp/english/english/features/haiku/etc/archive/selection2014.html	①主宰者　Isamu Hashimoto 氏による選句。田植え後の水田を夜汽車が駆ける光景。 ②　2014 年 7 月 12 日
2.英語の俳句(4 句)	単	2014.5、6、11.2015．2	朝日新聞英語デジタル欄　Asahi Haikuist Network (http://www.asahi.com/english/haiku/)	①朝日新聞デジタル（The Asahi Shimbun Digital）紙上で、主宰者 David McMurray 氏による選句を掲載するコーナーに掲載。 ②2014 年 5 月 2 日、6 月 20 日、11 月 7 日、2015 年 2 月 15 日
3.英語俳句(1 句)	単	2014.4	Akita International Haiku Network 主催『詩の国秋田』 第 5 号 第 2 回日露俳句コンテスト 国別・英語ハイクシリーズ　E-パンフレット	①発行者による選句。田植え後の畦をよちよち歩く子供の様子を描く。 ②2014 年 4 月 10 日
4. 英語俳句(2 句)	単	2014.7	第 6 回山寺芭蕉記念館英語俳句大会 ：公益財団法人 山形市文化振興事業団 山寺芭蕉記念館主催 http://samidare.jp/basho/box/e-haiku%2026.pdf	①　第一部（日本人大学生・一般の部）の 95 句中の第二位（優秀賞）。テーマは、山のホテルに届く鳥のさえずり。 ②2014 年 7 月 20 日発行物は、左記 PDF でも公開。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
5.英語俳句(1句)	単	2015.2	山梨県富士山世界文化遺産保存活用推進協議会主催： 富士山俳句コンテスト　https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/haikuenglish.html	①　静岡県立美術館長･俳句研究者　芳賀徹氏による選句。6カ国から340近くが寄せられ、日本から1人だけ選句（Special Recognition）。 ②　2015年2月23日発行物は、左記PDFでも公開。
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1.「万葉集の英語訳（1940）の千首選択についての考察」	単	2014.6	日本比較文化学会第36回全国大会 （於　北九州国際会議場）	①万葉集の英訳が、日本学術振興会から1940年に出された。4.500を超える集から、1.000首を選ぶ際に、皇国史観が反映している面を指摘した。
2. 万葉集の英語訳（1940）ついての考察	単	2014.11	日本比較文化学会2014年度中国四国・関西・九州３支部会 （於　福岡医療短期大学）	①　葉集の英訳（日本学術振興会　版）について、Ian Levy Hideo氏の版（1981）とも比較しながら、考察した。1940年版では、当時の国体意識が垣間見えることを示した。
ワークショップ Haiku in English	共	2014.6	日本比較文化学会第36回全国大会 （於　北九州国際会議場）	①英語の俳句の説明と実作を行った。 ②L. Dennis Woolbright教授との共同ワークショップ

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究実績 総数　(2015. 3.31 現在) 著書　6（内訳　単 6、共 0） 学術論文　0（内訳　単 0、共 0） 翻訳　0（内訳　単 0、共 0） 学会発表　3（内訳　単2、共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
財団法人　日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接委員	1995 年 8 月～現在に至る

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)

国際交流委員会
観光文化学科長

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　神崎　明坤	職名　教授	学位　修士　教育学　九州大学 1995 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研　究　課　題
①　中国の明清時代における中国文人の道徳修養に関する研究 ②　日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
	必　修	選　択	
中国語通訳ガイド演習Ⅲ（前期）		○	
中国語通訳ガイド演習Ⅰ（前期）		○	
入門中国語会話（前期）		○	
日中文化交流論（前期）		○	
中国の社会と文化（前期）		○	
基礎演習Ａ（前期）	○		
専門演習Ⅱ（通年）	○		
卒業研究（通年）	○		
中国語通訳ガイド演習Ⅱ（後期）		○	
上級中国語（後期）		○	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　中国語通訳ガイド演習Ⅰ　】 １、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 ２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 ３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。 ４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 ５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。
授業科目名【　中国語通訳ガイド演習Ⅱ　】 １、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐ為に、中国の最新の情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 ２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 ３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

再発見したこと

中国語を学ぶと同時に、中国文化なども学ぶことができました。
中国語検定に合格したいと思うようになった。
中国に興味を持った。
もっと中国語や中国の文化について勉強したいと思いました。
中国語がとても分かった。

担当教員への意見

教科書だけの勉強ではなく、積極的に中国語での会話練習もしてくださるので、難しかったけれど、勉強になりました。
中国語検定３級のリスニングはできたのに、筆記で落ちてしまって悔しいので、次も受けいれたら受けようと思います。丁寧に中国語を教えてくれて有難うございました。
毎回、丁寧に分かりやすく教えてくださったので、すごく自分のためになりました。後期の授業もとても楽しかったです。有難うございました。

授業科目名【　中国語通訳ガイド演習Ⅲ　】
１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐ為に、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　　入門中国語会話　　】
１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で会話を練習させ、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　上級中国語　】
１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫

を行った。

再発見したこと

書き取りだけでなくて、中国語を話せるようになりたいと思いました。
中国語検定に落ちたが、また受けて合格しようと決めた。勉強して行くことが楽しいと思うことができる授業
検定試験に取り組むことができた。
中国の文化・歴史についても学べ、検定も取得できた。

担当教員への意見

説明がとても分かりやすくて、勉強しやすかったです。
先生の授業が分かりやすくて、大好きです。
中国語を勉強していて、楽しいと思うことができるようになった。英語よりも私は中国語をがんばりたい。もう一度検定を受けて３級に合格したい。
検定試験前には、授業時間以外で勉強を指導してもらってたすかりました。

授業科目名【　日中文化交流論　】

学習者の日本と中国との一層の相互理解のために古今縦横の二千年に亘る文化交流史を振り替えて、勉強することは正に現代国際社会の要請に答えるものである。新たな文化交流の使者を培うことがこの授業の狙いである。そのために広い視野で中国の文化と日本の文化の性格と特徴を掴んで学んだ。例えば日中両国の制度、思想、文学、芸術、民俗、習慣などの違いを理解し、日中両国の多角的な視点と物の考え方を学んだことである。

１・授業にテレビ等の補助教材の活用、質問技法の授業法を交え、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。（プリントを配布せず、しっかりノートを取ってもらい、授業に関する意見、質問等を提出してもらい、次回の講義に質疑をコメントし、授業に貢献する質問を成績にするので、学習者が真面目に講義を受ける形態を整えている）
２・指定した書物を読ませて、レポートを提出し、授業のときにその感想を言わせ、意見を発表し自己評価をさせた。
３・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。

授業科目名【　中国の社会と文化　】

グローバリゼーションの時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国―中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。

１・講義ならびにテレビ、DVD などの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
２・学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
３・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
４・中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実践調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本中国学会	会員	１９９８年４月～現在に至る
九州中国学会	会員	１９９８年５月～現在に至る
九州教育学会	会員	１９９４年　　～現在に至る
日本比較文化学会	会員	２０１１年　　～現在に至る
日本比較文学学会	会員	２０１２年５月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	２０１１年１１月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 中国における高等教育カリラムの改革に関する考察～日本語専攻教育を中心にして～	単著	2014 年 12 月 6～7 日	九州教育学会第 66 回大会長崎大学にて	本研究は中国国家教育委員会の法規に基づき、諸大学に如何にして、学生の多様性、地域社会経済発展の多元化を重く配慮したカリキュラムの弾力性が構築されたのかについて明らかにすること、また学際的、研究志向の教育質の向上をどのように位置づけられ、カリキュラムの開発，改善策等について検証を試みたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○　宗教委員会　副委員長　2014 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　劉　明	職名　准教授	学位　博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	東アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研　究　課　題
1. 東アジア観光・特に日中韓の観光交流について　2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光・中国人の訪日旅行について　3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について　4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
観光学入門　（前期）	2		
中国語通訳ガイド演習Ⅲ　（前期）		2	
中国語通訳ガイド演習Ⅱ　（後期）		2	
中国語通訳ガイド演習Ⅳ　（後期）		2	
アジア観光文化地理　（前期）		2	
アジアの歴史と文化　（後期）		2	
観光中国語　（前期）	2		
基礎演習Ａ　（前期）	2		
専門演習ＩＢ　（後期）	2		
専門演習Ⅱ　（通年）	2		
卒業研究　（通年）	4		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・ＰＣ・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。

授業科目名【中国語通訳ガイド演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ】
「中国語通訳ガイド演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」では、中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には、中国語ガイド通訳案内業試験年度別問題集、解答例を分析し、中国語の単語・文法・諺や中国語⇔日本語の翻訳のノーハウを学ぶ。また、日本の地理・歴史・一般常識などを勉強する。さらに学生たちに関心のある日中両国の観光文化の相違を学んでいただけるように尽力した。

授業科目名【アジア観光文化地理】
「アジア観光文化地理」の授業では、学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。
また、JTB 能力開発株式会社の教材とテスト問題集の活用により、学生の「旅行地理検定試験」や「旅行業務取扱管理者」の資格取得が有利になるように工夫した。

授業科目名【アジアの歴史と文化】
「アジアの歴史と文化」の授業では、アジア特に東アジアの地理・歴史・政治・経済・文化を踏まえた上で、日中韓の関係や観光交流の現状及び文化の中心である食文化の相違について考察を行う。また、東アジア特に日中韓に流れる歴史や文化の共有に対する理解を深めると同時に、異文化交流のあり方を認め、相互に尊重しあえる考え方を育むことができるように工夫した。

授業科目名【観光中国語】
近年、留学・研修・仕事で中国を旅する日本人のニーズに応えるため、観光中国語の授業では、日本人留学生が中国人の学生に案内され、名所旧跡を旅する場面を設定し、観光用の中国語会話を習得する。また、映像を通して、中国の観光文化や中国的持て成し方を勉強する。さらに観光中国語の表現練習を行い、観光中国語の基礎作りをすることが出来るように工夫した。

授業科目名【基礎演習Ａ】
「基礎演習Ａ」では、学科共通テキスト「知へのステップ」を使って、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能を大学の学習で必要とされるレベルまで高める授業を行い、大学生として必要な基礎力を養成することができる工夫を行った。

授業科目名　【専門演習ＩＢ】【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】
「専門演習ＩＢ」、「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
上海旅遊（観光）学会入会		2004 年 05 月－現在に至る
中国通訳者協会入会		1988 年 10 月－現在に至る
日本観光学会入会		1990 年 04 月－現在に至る
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会	評議員（2011 年 4 月－現在に至る）	1994 年 09 月－現在に至る
京都観光アカデミー入会		1996 年 03 月－現在に至る
中国留日同学会入会	理事（2000 年 8 月－現在に至る）	2000 年 08 月－現在に至る
日本観光研究学会入会		2001 年 01 月－現在に至る
京都国際観光活性化協議会入会		2001 年 07 月－現在に至る
京のアジェンダ 21 フォーラム　ワーキンググループ入会		2001 年 08 月－現在に至る
ツーリズム学会（現在の余暇ツーリズム学会）入会		2007 年 12 月－現在に至る
観光学術学会		2012 年 02 月－現在に至る

２０１４ 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 「九州における日中観光交流マーケティングの課題」 　- 上海からの観光客獲得を事例として	単	2014年 9月14日	余暇ツーリズム学会 2014 年度全国大会 別府大学にて	九州観光商品戦略をはじめ、九州観光商品の価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略を踏まえ、受入れ側（九州）と送出し側（中国・上海）の意識・行動の差及びその課題解決のための解決策を明確化し、これによって、マーケティング上の課題を明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
JR 西日本上海事務所設置と中国人観光客誘致のために相談役として JR 西日本に情報を提供	相談役	（2003 年 06 月－現在に至る）
京都府政策立案メンバーとして京都産業活性化プラン策定に係る政策検討会議に参加	政策立案会議メンバー	（2003 年 07 月－現在に至る）
九州観光推進機構上海九州観光交流促進のために相談役として九州観光推進機構に情報提供	相談役	（2006 年 07 月－現在に至る）
国家試験通訳案内士試験委員	中国語面接官 （口頭試問試験委員）	（2010 年 12 月－現在に至る）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．教務委員 ２．懇親会委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名： 木沢 誠名	職名：准教授	学位：修士(都市政策)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光事業論、観光まちづくり、国際観光	観光まちづくり、地域活性化、観光事業

研　究　課　題
・ 観光の力を活用した地域活性化の事例研究と実践 ・ 地域活性化への観光事業者の関与の研究 ・ 国際観光（インバウンド、観光開発）

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
■新カリキュラム			
国内旅行実務(国家試験対策)　前期２クラス		2	
観光関連法規(国家試験対策)　前期２クラス		2	
基礎演習Ａ　前期	1		
観光フィールドワーク　後期		2	
■旧カリキュラム			
海外旅行実務Ａ(国家試験対策)　前期		2	
海外旅行実務Ｂ　後期		2	
観光関連法規　後期		2	
旅行商品企画論　後期		2	
専門演習Ⅱ　前後期		2	
卒業研究　前後期	4		
	4		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【国内旅行実務】 国家試験対策のため、夏休みにボランティアで受験学生を対象に 12 コマの直前対策講座を行った。
授業科目名【海外旅行実務Ａ】 国家試験対策のため、夏休みにボランティアで受験学生を対象に９コマの直前対策講座を行った。 （上記とあわせ 21 コマ）

授業科目名【旅行商品企画論】 学生が、自分が企画するツアー商品の行き先へのフィールドワークを必須として課した。 近年はインターネット情報に過剰に頼り、旅行商品企画に限らず一度も当事者からヒアリングすることもなく、足を運ぶこともなく報告書や論文を仕上げる学生が目立つ。一次情報の重要さを理解させるため、現地で実際に一次情報（自己撮影写真、パンレット入手、ヒアリングなど）を得ることを課した。
授業科目名【観光フィールドワーク】 新カリキュラムで初めての開講で、テキスト作りから始めた。実際のフィールワークでは、これまで関係を築いてきた NPO 法人の力を借りて、小倉魚町商店街のフィールドワークを実践した。苦労して準備をした新規開講科目である。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本国際観光学会 旅行ビジネス研究学会 日本観光研究学会 東北亜観光学会（国際学会） 観光学術学会		2003 年 7 月より現在に至る 2003 年 9 月より現在に至る 2004 年 8 月より現在に至る 2006 年 8 月より現在に至る 2012 年 4 月より現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 「ARCS 動機づけモデルに基づいた観光情報学系科目の展開について」	共	2015 年 3 月	長崎大学教育イノベーションセンター紀要	アメリカのジョン・M・ケラーが提唱した、学習意欲を高める手立てである 4 つの側面「ARCS（Attention,Relevance,Confidence,Satisfactipn）」を、東峰村での学生たちの活動における観光アプリ等の ICT 活用を事例として、その効果を研究した。 その結果、学生たちの「新鮮な感動と新たな気づき」が、キャンパスで学んだ「観光の力」を実感でき。成長に著しいものがあることが判明した。
（翻訳）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
福岡県東峰村におけるグリーンツーリズムの推進による地域活性化の研究	本学（共同研究費）	○木沢誠名 飯田一郎 マルコム・スワンソン	1,900,000 円
門司港レトロ地区における民学協働の地域活性化事業「“女子旅”企画」	北九州市	○木沢誠名 （西田心平）	100,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
海外ボランティア「ミャンマーのこどもたちに運動会を！」	福岡県	633,340 円	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡商工会議所	「九州観光マスター検定」公式テキスト編集委員兼検定問題作成委員	2011 年 4 月より現在に至る
（意見）「社会における活動」を、このように委員を務めたかどうかで評価する方式は、日本社会全体が個人、法人を問わずその社会貢献を重視し、大学人も例外ではない近年においては、まことに時代錯誤と思料する。広く、社会貢献する活動を率直に評価すべきである。		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
■学内委員会等 ①就職委員会委員　2012 年 4 月～15 年 3 月（2010 年 4 月より 5 年連続継続中）） ②学生募集委員会委員　2012 年 4 月～15 年 3 月（2010 年 4 月より 5 年連続） ■学内外活動への学生引率、指導（担当ゼミ・授業以外の学科全体の自主活動） ①グリーンツ―リズム演習企画、引率 ・春期　2014 年 6 月　福岡県東峰村(2 日間) ・秋季　2014 年 10 月　福岡県東峰村(2 日間) ②国家試験対策特別講座 ・「国内旅行業務取扱管理者」　2014 年 8 月　学内（4 日間） ・「海外旅行業務取扱管理者」　2014 年 9 月　学内（3 日間） ③お仕事セミナー企画、引率

・「航空・空港のお仕事」　2015 年１月　スターフライヤー（１日）
・「ブライダルのお仕事」　2015 年２月　アーフェリーク迎賓館(1 日)
④門司港レトロ地区活性化活動指導
・「れとろこまち」運営　　2014 年 4 月～11 月　北九州市門司港（7-9 月を除くほぼ毎週末）
・「北九州市との協働でのソウルにおける北九州へのインバウンド誘致活動」実施　2014 年 11 月(3 日間)
・「門司港レトロ地区における“女子旅」実施　2014 年 10－11 月（約 10 日間）
⑤井筒屋との協働での「出張！れとろこまち」実施　2014 年 10 月（１日）
⑥本学生協との協働での「東峰村応援ウイーク」実施　2014 年 11 月（2 週間）
⑦海外ボランティア「ミャンマーの子どもたちに運動会を！」企画、引率　2014 年 12 月（6 日間）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９（2014））

氏名　高橋幸夫	職名　准教授	学位　修士（経済学）　京都大学　2005 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
マーケティング（ブランド論・広告論） デザインマネジメント	マーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研　究　課　題
・ IMC(integrated marketing communication)の今日的課題研究 ・ デザイン重視の経営研究（デザインマネジメント研究） ・ 大学における地域活性化活動

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
基礎演習Ａ（前期）	1		
基礎演習Ｂ（後期　２コマ）	1		
専門演習ＩＡ（前期　２コマ）	1		
専門演習ＩＢ（後期　１コマ）	1		
専門演習Ⅱ（前期・後期）	2		
卒業研究（前期・後期）	2		
マーケティング入門（後期）		2	
インターンシップ（前期）		2	
地域総合研究（前期）		2	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【基礎演習Ａ(前期)】

・ 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。

授業科目名【基礎演習Ｂ（後期２コマ）】

・ 基礎演習Ｂでは、学生生活で必須とされるレポートの必要性と書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。
・ 基礎演習Ａのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。

授業科目名【専門演習ＩＡ（前期２コマ）・ＩＢ（後期）】

・ 専門演習ＩＡ（前期）では、基礎演習Ａ及びＢの履修内容をより専門的課題に対するレポート及び論文作成能力向上のために毎回ワークシートによる演習方法を取り入れた。また、レポート作成時間及び字数など制約を加えることによって簡潔明解な論理思考能力の向上を目指した。
・ 専門演習ＩＢ（後期）では、上記演習内容の継続と「社会人基礎力」の修得度向上を目指したワークシートを導入した。ワークシート内容は自己分析・キャリアデザイン理論及びグループワークで構成した。

授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】

- マーケティング論及びブランド論の基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。
- さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。

授業科目名【卒業研究（前期・後期）】

- 卒論作成にあたり、論理的構成の重要性のほか、特に論理性を裏付ける「データの収集と取り扱い」の重要性について指導した。

授業科目名【マーケティング入門（後期）】

- マーケティング初学者以前に経営学初学者という認識のもと、「企業経営とはなにか」という初歩的段階から解説することにより「企業経営に欠かせないマーケティングの重要性」の修得に努めた。
- 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。

授業科目名【インターンシップ(前期)】

- 社会や企業活動の仕組みを知り、学生自身の適性、将来の進路方向性を考える上で必要な座学および就業体験で構成した。座学では、「なぜ働くのか、企業・企業活動とは何か」、「社会人としてのマナー、ルール」等を PPT、演習問題を活用し理解促進に努めた。また、就業体験では極力学生の希望を叶えられるよう受入先選定、交渉を行なった。

授業科目名【地域総合研究（前期）】

- 毎回北九州地域で活躍する社会人を中心に講師を依頼、地域活性化とキャリアデザインを中心に講義を展開した。また、学科卒業生にも講師として参加を依頼し、本学学科での学びとキャリアについて深く学ぶ機会を与えた。毎回講師向けコメントカードと担当教員向けカード（気づきなど）を提出、理解レベルを確認した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
・商品開発・管理学会 ・日本商業学会 ・産業学会		2005 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） （他　研究会発表） ・京都大学マーケティングワークショップ	(共同)	2014年 3月23日	「グローバル流通企業のアジア進出戦略と課題」	・巨大流通企業を取り上げグローバル企業がアジア進出において直面する課題について発表した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)

- 学生募集委員
- 大学オープンキャンパス模擬講義担当
- 2014 年度人文学部保護者懇談会担当
- 2014 年度卒業論文発表会担当
- 地域、企業との協働事業における学生指導（WILL）

助　産　別　科

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　笹山　雪子	職名　教授	学位　看護学修士愛知県立看護大学大学院 2009 経営情報学修士中部大学大学院 2000

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護管理 助産管理	チーム力 母乳育児支援　産後ケア

研　究　課　題
看護管理におけるチーム力に関する研究 院内助産、産後ケアの関する研究

担　当　授　業　科　目
【助産別科】 基礎助産学Ⅰ（前期） 女性の健康支援論（前期） 助産診断・ケア学Ⅲ（助産過程演習）（通年） 子育て支援論（前期） 助産管理学（通年） 助産学研究演習（通年） キリスト教と生命倫理（通年） 【看護学科】 母性看護概論（後期） ウィメンズヘルス看護論（前期） 実習（助産・看護）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅲ（看護過程演習）】 4 月～6 月の講義では、6 月後半から始まる基礎実習に備え助産過程の妊娠期・分娩期・産褥・新生児期の助産診断を理解するために個別指導と共有の時間をつくることで知識を深めるようにした。基礎実習終了後にも受持ち事例からの学びを全学生がまとめ発表共有することで後期の実習に向け学習を深めた。
授業科目名【　助産管理　】 病院・助産所等の業務管理・運営に関してガイドラインを用いて学習を深めた。基礎実習終了後に実習で学んだ助産管理の実際と課題について学生が主体的にプレゼンテーションを行い助産管理に関する知識を深めるよう努めた。8 月、10 月～12 月に施設の管理実習でさらに病院や助産院の特徴や管理方法を学び、ガイドラインと照らし合わせて学習を深めた。
授業科目名【基礎助産学Ⅰ】 周産期医療を取り巻く環境や課題、性と生殖に関するニーズの多様化、母子保健の動向の理解を深めるよう個々の学生の理解度を確認しながら講義を行った。お産の歴史・文化については学生の主体な学びや気づきになるようまとめ、プレゼンテーション技術を演習した。助産師の果たすべき役割や課題について考えるディスカッションを各講義の中に取り入れた。

授業科目名【　ウィメンズヘルスケア論　】
学生が興味関心のある女性の健康に関する課題を選択させ、グループワークでテーマの持つ特徴や課題をまとめ自己の課題を明確化した。母性、女性の発達段階や看護の援助について深く考える機会となった。グループワークの効果について再検討する課題が残った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1980年4月　現在に至る
日本看護管理学会会員		2009年　現在に至る
日本母性衛生学会		年月～2013年　月まで
日本助産学会会員		2013年12月　現在に至る
日本助産師会会員		1993年5月　現在に至る
日本母乳の会会員		2006年4月　現在に至る
ISLIS国際生命情報学会員		2010年2月　現在に至る
日本母性看護学会会員		2014年3月　現在に至る
日本看護科学学会会員		2014年5月　現在に至る
産業・組織心理学会会員		2014年4月　現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
西南女学院大学認定看護管理者　教育運営委員会委員	委員	1年　2013年4月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
助産別科長 運営委員会委員 入学試験委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　竹内　玉緒	職名　　講師	学位　修士（医科学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
母性看護学	母性・育児・地域・思春期

研　究　課　題
妊娠・出産・産褥期を通して、母親や父親の子育てに関する問題を明らかにし、その解決に効果的な看護介入方法を考察する。 若者の性意識を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
［助産別科］			
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1		
助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）	1		
助産診断・ケア学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）	1		
助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）	2		
基礎助産学実習	4		
助産学実習Ⅰ	5		
助産学実習Ⅱ	3		
助産管理実習	2		
［看護学科］			
母性看護方法論（次世代育成看護活動論）	2		
母性看護学（次世代育成看護活動論）演習	2		
母性看護学（次世代育成看護活動論）実習	4		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やＤＶＤ教材を使用し形態を立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。さらに、実践に活用できるために演習や技術試験に時間を増やすことを試みた。 また、助産過程や健康教育演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ】 指導案・企画書の作成から健康教育実施までの方法を理解し実践に活用できることを目標に、指導案の作成、教材の作成、実施、評価の作業を段階的に行った。
授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理）】 実習目標の到達を目的に指導計画を立案し、実習指導に取り組んだ。実習中は学生の状況をふまえて各個人の指導方法について臨床指導者と意見交換を行い共通理解に務めた。日々の記録に対しては、助産過程の理解、対象者に起こっている現象の根拠やメカニズムの理解や、学生が解決方法を見出すことを意図して学生の進捗状況を踏まえてフィードバックを行った。

授業科目名【　母性看護方法論・次世代育成看護活動論（看護学科）】 　母性看護を身近に感じられることを意識し、スライドの他、教室でも実践できる看護技術を実施しその効果を実感すること、さらに DVD を視聴することで母児のイメージ化を図るなど、学生が興味をもって講義に臨めることを意識して、変化のある講義内容を心がけた。また、重点ポイントについては理解を深めることを意図して講義を通して学生が直接記載できるよう資料を準備した。演習では、実践で活用できることを目的に、重要度の高い看護技術を絞って計画し実施した。
授業科目名【　次世代育成看護活動論（母性看護学）実習】 　実習中は臨床指導者と個々にあわせた実習内容を検討し、学生が効果的な実習を経験できることを心がけた。また、日々の記録に対しては、看護過程の理解、対象者に起こっている現象の根拠やメカニズムの理解を目的に、毎回フィードバックを行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	会員	2007 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会	会員	2008 年 4 月～現在に至る
日本あかちゃん学会	会員	2011 年 4 月～現在に至る
日本助産学会	会員	2011 年 5 月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 無				
（学術論文） 無				
（翻訳） 無				
（学会発表） 無				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
無			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
無			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
無		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
周望学舎シニアカレッジにおいて、企画・運営。 助産別科ホームページの運営 学生募集委員会

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　穴田　和子	職名　　助教	学位　修士（学術）（奈良女子大学　2003 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
助産学　母性看護学 ジェンダー	効果的な実習指導 助産師教育　ジェンダーフリー

研　　究　　課　　題
・学生の実習目標達成に関わる臨床指導者および教員の役割（言動・行動）について検討する。 ・助産師資格取得において性別制限のない国の助産師教育の内実について検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目			
科　　目　　名	単　位　数		授 業 評 価 ポ イ ン ト
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
母性看護学演習	1		
母性看護学実習	2		
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1		
助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）	1		
助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）	1		
助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）	2		
助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）	2		
助産学研究演習	1		
助産学基礎実習	4		
助産学実習Ⅰ	5		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　母性看護学演習　】 看護学科３年生の演習を担当した。 産褥の診察、育児技術、授乳について演習を担当し、基本的な母性看護技術が習得できるように模型を使用し説明・実施した。演習する際には産褥の退行性変化・進行性変化を理解すること、正確な方法で測定しなければ正しくアセスメントできないこと、新生児の身体的特徴を考慮し実施することなどを助言した。 また、看護過程演習としてウェルネス看護診断を用い、事例を通して関連図から診断・看護計画立案までの過程をアドバイスした。その際、臨地実習で応用できるよう
授業科目名【　母性看護学実習　】 看護学科３年生の実習を担当する。 基本的な知識・技術の習得ができるよう事前学習ノートの作成や技術チェックを行い、実習前の準備を行った。実習では褥婦・新生児を中心に受け持った。母体の生理的変化だけではなく心理的側面・社会的側面もアセスメントしていくこと、母・児一体でアセスメント・ケアする視点を持つことなど学生に助言した。 また、ウェルネスの視点でアセスメントできているか否か学生と共にフィードバックし、看護計画に反映できるよう助言した。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）　】 妊婦の診察法を中心に技術演習を担当した。特に習得が難しい助産技術の場合は、手を添えて助言しながら一緒に実施した。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）　】 分娩介助技術について講義と演習を担当した。分娩介助技術演習では、デモストレーションを行う際、１つ１つの動作については根拠を強調しながら説明するように努めた。 また、演習では、学生の不明な点・わかりにくい技術については再度実施し、一緒に確認していった。演習後も学生の練習に適宜付き添った。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）　】 褥婦の観察･ケアの技術演習を担当した。学習内容の解説を行い、学生が演習する際は適宜助言しながら技術習得の確認を行った。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】 学生の思春期教育（性教育）の運営に向けての企画および健康教育技術の習得過程に関わった。 対象者のニーズを捉えながら、媒体の工夫や参加型の運営を目指し取り組んでいった。目標が達成できるよう必要時助言していった。 また、実習で行う妊婦・褥婦への保健指導の演習については指導案作成の助言を行った。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）　】 数名の学生を担当し、段階的に助産過程の展開ができるようフィードバックしながら進めていった。 １ つの事例（妊娠期～分娩期～産褥期・新生児）を通し、対象をアセスメントし、助産過程の展開ができるよう助言した。
授業科目名【　助産学研究演習　】 学生３名を担当し、症例研究を行った。研究の動機・学んだ点を明らかにした上で、資料等の使用より客観的な視点を得ながら考察していくことを学生と確認し進めていった。研究するプロセスで不明な点は学生と面談しながら解決していった。
授業科目名【　助産学基礎実習　】 大学での学習・演習で得た技術・知識を必ず確認し、実施後は振り返りを行うことを心がけた。施設によって環境（使用する物品・設備など）が異なっても基本は同じであり、根拠を踏まえてケアすることを助言した。 また、受け持ち対象者の実習目標や行動計画が適切かどうか確認し、学生の実習が効果的に行えるように指導者とコミュニケーションをとりながら連携を取った。学生が注意されたことや疑問点はその都度解決するように努めた。実習で指導された技術については練習を繰り返し行い、学習の不足している部分は、知識を補うべく学生に助言した。
授業科目名【　助産学実習Ⅰ　】 助産学基礎実習を踏まえ、個別性を考慮して計画立案・実施・評価ができるよう助言した。分娩介助、褥婦・新生児へのケア（保健指導を含む)、継続事例（妊婦健康診査・分娩介助・産後ケア・家庭訪問・１か月健診）を受け持つなど行うべき実習内容が多岐にわたっているので、その都度、助産診断・計画、指導案作成、家庭訪問計画など学生とフィードバックする時間を調整しながら関わっていった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
奈良女子大学家政学会 母性衛生学会会員 日本看護協会会員 日本助産学会会員		２００１年４月～２００８年３月 ２００８年４月～現在に至る ２００８年12月～現在に至る ２００９年３月～現在に至る

２　０　１　３　年　度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				;
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
周望学舎　シニアサマーカレッジ　2014 年 9 月 5 日　担当教員の一員として参加

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　山田恵	職名　　助教	学位　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産ケア 不妊看護	寄り添うケア、五感、主体性、助産師学生 不妊カウンセリング、自己決定、選択

研　究　課　題
出産時の体験がその後の育児や家族関係に影響を及ぼすことは明らかであり、助産師として満足いく出産ができるよう支援することが重要である。貴重な出産を介助させていただく分娩介助実習では、助産師学生も対象の主体性を引き出しながら「五感を駆使して寄り添うケア」を実践していくことが望まれる。「寄り添うケア」は、単に「そばにいる」というのではなく言語的・非言語的手法を用いて意図的に介入するかどうかを決定していくことが重要であるため、学生の「寄り添う感覚」と産婦の「満足いく出産体験」との関係について質的研究を用いて考察する。

担　当　授　業　科　目
助産学研究演習 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期） 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期） 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期） 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） 助産学基礎実習、助産学実習Ⅱ（正常逸脱） 母性看護学演習 母性看護学実習 ウイメンズヘルス看護論

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）、Ⅱ（分娩期）、Ⅲ（産褥期）　】 入学生のレディネスが様々であり、母性看護学実習などでも母子のケアについて経験していない項目が多いことをふまえ、演習などではイメージ化しやすいよう教材や資料の準備など工夫した。また、学生の自己演習の際はできるだけ立会い技術習得に向けた支援を行った。
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）】 集団指導（思春期教育）の指導方法や教材作成に関し具体的に助言し、学生とともに作り上げ実施した。
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）】 担当学生の知識獲得状況や理解度の差があったため、個別対応の時間を多く設けた。助産過程のみならず前段階の看護過程の知識の補足もしながら、基礎的なレベルから段階を経て知識獲得が進むよう工夫した。

授業科目名【助産学基礎実習、助産学実習Ⅱ（正常逸脱）　】 学生の学習状況や演習時の状況を考慮し、個人に合わせた実習のすすめ方を検討し、指導者と調整した。実習準備段階より担当学生と面談などを行い個別に支援した。臨地ではケアを提供する機会を増やし、実践能力を身につけられるよう、対象者や指導者と調整した。対象へのケア提供時には安全確保を第一に考え、またコミュニケーションが円滑に図れるよう支援した。
授業科目名【母性看護学演習、母性看護学実習　　】 学内の講義と臨地実習が連動していくように、演習の内容を見直し、説明時にはわかりやすく伝えるよう教材の工夫をした。演習や実習では学生ができるだけ平等に体験し、学びを深めることができるよう機会を設けた。実習では新たな環境で緊張度も高く、特に分娩見学時などは学生の意向を聞き、適応状況を見極めながら実習させた。
授業科目名【ウイメンズヘルス看護論　】 選択科目であり漠然とした中で受講していたため、テーマ選択の際に学生の身近な状況からテーマを導き出せるよう、文献や新聞記事を提供し興味ある内容を選択させた。また、グループワークであったため、講義の終了前にはグループディスカッションの時間を設け、学習内容や進捗状況を共有し、共通理解を図った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本不妊カウンセリング学会 日本家族計画協会	不妊カウンセラー 上級思春期保健相談士	2003 年 5 月～現在に至る 2006 年 2 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
なし

大学短期大学部

生活創造学科

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　加 來 卯 子	職名　　教授	学位　博士（芸術工学）（九州大学　2011 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
被服学、色彩学	色彩、デザイン、被服製作、衣生活、高齢者

研　究　課　題
１．近年、紫外線による健康被害（皮膚ガン、眼疾患など）が懸念されている。そこで、人々が安全で快適な視環境をつくるという視点から、サングラス装着時における人々の色彩弁別能力の実態を分析し、サングラスの色による色の見えの違いを明らかにする。 ２．従来、家庭で行われてきた被服分野における‘ものづくり’はあまり行われなくなり、一般学生の製作への意識が変化しつつある。そこで、学生および一般市民を対象に、セミナー等を通じて（ESD における活動）、楽しみながら、人間の根源的な活動の一つである‘つくること’の重要性を周知する。

担　当　授　業　科　目
ファッショと生活（前期） 服飾基礎実習（前・後期） 服飾創造実習Ⅰ（前期） 服飾創造実習Ⅱ（後期） 衣生活論（後期） ファッションビジネス論（後期） ファッションビジネス論演習（後期） ボランティア論演習（前・後期） 生活創造演習（前・後期） 生活創造論（後期） 人間生活論（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【服飾基礎実習】 本授業は、被服生活を営む上で必要な知識および技能を修得することを目的としている。ここ数年、入学前までに被服実習の経験が少ない学生が多い傾向にある。初年次の必修の授業（実習）であるため、常に机間巡視を行い、マンツーマン体制で授業を進めている。教材として、「巾着袋」（着用しない服の更生、再利用）、「子供服」（衣服の構成および縫製技術、デザインを学ぶ）を設定した。学生の進捗状況を確認し、アドバイスを行うとともに、製作が遅れている学生については、教育支援職員の協力のもと、時間外の個人指導により対応した。
授業科目名【服飾創造実習Ⅰ・Ⅱ】 学生の感性を表現する教材として、トートバッグの装飾を選定した。デザインを表現する手法について、概説し、一人ひとりの興味関心に合わせて、個人指導を行った。計画に沿って授業を進めるが、授業時間内に目標を達成できない学生に関しては時間外の指導により対応した。製作作品はコンテスト（トート・アズ・キャンパスデザインアワード）に出品した。服飾創造実習Ⅱでは、着用しない衣服を更生させる作品「裂き織り作品」、感性を養う「キルトのタペストリー」を課題とした。授業時間内に課題をこなすことは難しいため、作品製作は授業時間外も含め行った。裂き織り作品は北九州芸術祭（染織部門）に出品し、入賞した。

授業科目名【ファッションと生活】 導入時にテーマに関する身近な事例をもとに問題提起し、問答を通して学生の関心を集めたうえで本論へ展開し、内容の理解を促した。視聴覚教材および文献資料を提示し、学生が授業内容を把握できるよう配慮した。毎時、授業の最後に、内容および感想、質問等について記述させ、授業に対する学生の意識、理解度等を把握し、次回の授業へ反映させた。
授業科目名【ファッションビジネス論演習】 今年度の演習は2月、市内デパートにおいて実施した。学生の配属先については企業と調整を図りながら決定した。演習初日、学生は入店者研修に参加し、接客方法、金銭授受等について指導を受けた。連日、実習日誌の記録に基づき、自らの活動を振り返らせ、明日への課題を確認させた。短期間のインターンシップであるが、学生の成長が感じられ、配属先のスポンサーからも高評価を得ることができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本家政学会		1990年4月～現在に至る
日本家政学会被服心理学研究分科会	九州地区委員（2003年4月～現在に至る）	1989年4月～現在に至る
日本繊維機械学会		1989年4月～現在に至る
繊維製品消費科学会		1989年4月～現在に至る
ファッションビジネス学会		2001年11月～現在に至る
日本色彩学会		2002年9月～現在に至る
日本生理人類学会		2008年4月～現在に至る
人間－生活環境系学会		2008年4月～現在に至る
日本衣服学会		2012年1月～現在に至る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 【資料】 お菓子の家　―ジンジャーブレッドハウスの歴史と生活創造学科学生による創作―	共	2015年3月	西南女学院大学紀要 vol.19	①　生活創造学科では、実習の一つとして「お菓子の家」製作に取り組んでいる。本報では、お菓子の家の歴史および学外展示について報告する。 ②　共著者名　木村久江, 加來卯子, 谷崎太, 浅野嘉延

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
手づくり市場 in 北九州	実行委員	2008 年 4 月～現在に至る
まちなか ESD センター運営委員会	委員	2012 年 10 月～現在に至る
九州地区大学教育研究会	委員	2014 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
入学試験会議	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
学生募集委員会	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
公開講座委員会	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
学生個人情報保護委員会	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
生活創造学科 2 年 B クラス	担任（学生支援）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　谷崎　太	職名　　准教授	学位　経営学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研　究　課　題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担　当　授　業　科　目
現代企業論（1年前期） コンピュータ総合演習（2年前期） 生活創造演習（2年通年） 生活創造演習（1年後期） 生活創造論（2年後期） ボランティア論演習（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【現代企業論】 ● 教科書と自作資料を併用し学生の理解に努めた。 ● グループワーク形式を取り入れ、討議、口頭発表の機会を設けた。
授業科目名【コンピュータ総合演習】 ● Word、Excel、PowerPoint を統合的に使用してより高度な文書作成が行えるようになることを主眼として展開した。 ● 特にアプリケーション間のデータ連係については、テキスト、html、bmp、jpg、メタファイル、音声、動画等を柔軟に組み合わせることを通じて理解が深まるように配慮した。
授業科目名【生活創造演習】 ● 企業の開示情報を多面的に見ることを促し、一定のまとめとなるレポートの作成を指導した。 ● 非財務情報を解釈する一助として、テキスト・マイニングの効果を探る初歩的なデータ処理を行った。 ● 会計情報に関する知識と、コンピュータリテラシーの統合的学修を提供することに務めた。
授業科目名【キャリアデザイン】 ● トピックにマッチした外部講師を依頼し、学生の関心を喚起して学修の刺激とした。 ● 自己分析等にかかる各種資料を作成することを促し、学修のアウトプットに務めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本簿記学会		1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会	監事（2000年～現在に至る）	1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会	中四国支部幹事（2001年～2003年）	1998年4月
広島大学マネジメント学会		2000年12月
経営行動研究学会		2008年8月

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 【資料】 『お菓子の家―ジンジャーブレッドハウスの歴史と生活創造学科生による創作―』	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19, 2015	pp.141-147 木村久江、加來卯子、谷崎太、浅野嘉延 欧米の家庭で作られる「お菓子の家」の歴史とレシピを紹介し、授業での製作と学外での発表展示会についてまとめた。
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
西南女学院大学生活共同組合 職業能力開発協会 CS 検定	理事長 主任試験官	（2014 年 5 月～2015 年 4 月） （2014 年 4 月～2015 年 3 月）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
生活創造学科学科長（2014 年 4 月～2014 年 11 月） 人事委員（2014 年 4 月～2014 年 11 月） 教務委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 学生委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 就職委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 大学ｷｬﾝﾊﾟｽ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止・対策委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 学生募集委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 教育経費予算配分委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 情報システム管理運用委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2014 年 4 月～2015 年 3 月）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　領木 信雄	職名　准教授	学位　博士（情報工学）（九州工業大学 2004 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ファッションとテクノロジ	e-textiles

研　究　課　題
テクノロジを素材とした衣服を制作し、その応用を探る。

担　当　授　業　科　目
コンピュータサイエンスⅠ（前期） コンピュータサイエンスⅡ（前期） 生活と情報（後期） コンピュータデザイン演習（後期） 生活創造演習（通年） 生活創造論（後期） ボランティア演習（通年） コンピュータサイエンスⅠ（前期）（保育科　４クラス　４コマ/週） コンピュータサイエンスⅡ（前期）（保育科　受講者なしで開講されず）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【コンピュータサイエンスⅠ】 実際に販売されている製品の紹介文・サービスの案内文・事件を扱ったニュースなどを導入にして、パソコンやスマートフォンを利用するにあたって、利用者として知っておくべき事柄について解説した。
授業科目名【コンピュータデザイン演習】 スマートフォンのアプリで用いるイラストや板をレーザーカットするための図面など、ひとつのアプリケーションから様々なものが制作できることを示した。
授業科目名【生活創造演習】 子どもを対象としたプログラミング教室のサポートや展示会での作品の実演など、授業で扱ったことを学外で活かせるようイベントに参加した。
授業科目名【コンピュータサイエンスⅠ（保育科）】 園だよりや園児名簿などを題材として、保育の分野で必要となるパソコン操作について基本から解説した。必要となるフリー素材の探し方や、利用にあたっての注意点についても説明した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
電子情報通信学会		2000年～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
まちなかESDセンター運営委員会 夏休み！子どもデジタル工作教室	運営委員 サポートスタッフ	2013年7月～ 2014年8月10日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○　学外活動への学生引率 ・夏休み！子どもデジタル工作教室　サポート　2014年8月10日 ・てづくり市場 in 北九州　出展　2014年11月8～9日 ・Kitakyushu MONOCAFE 2014 出展　2015年11月15～16日 ○　高大連携講座　模擬授業　2014年6月16日 ○　オープンキャンパス　模擬授業　2014年8月24日 ○　周望学舎シニアサマーカレッジ 講師　2014年9月19日 ○　生活創造学科blog管理 ○　西南女学院大学　生活協同組合　監事

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　木村久江	職名　講師	学位　家政学士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
調理学	ジンジャーブレッドハウス（お菓子の家） 食育教育、地域連携、産学連携

研　究　課　題
菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考察する。欧米の伝統的な菓子（ジンジャーブレッドハウス）を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考える。 生活創造演習としての観点からは、学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導していくことが課題であり、同時に意義があるものと思料する。

担　当　授　業　科　目
①　フードコーディネート論（前期） ②　調理の基本　（前期） ③　応用の調理　（後期） ④　食品加工実習　（後期） ⑤　調理学　（後期） ⑥　生活創造演習　（前期　・後期） ⑦　生活創造論　（後期） ⑧　ボランティア演習　（前期　・後期） ⑨　人間生活論　（前期）１回分

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【フードコーディネート論】 食に関係することを広い範囲で考え、仕事としての「フードコーディネート」の知識・技術を学び、実生活に 当てはめ応用できるように詳しく説明し理解させることに努めた。特にテーブルコーディネート等の実践が必要とされる項目については、グループ討論後、コーディネートを実践させることにも注力した。
授業科目名【調理の基本・応用の調理】 学生の安全確保を第一に心がけ、実習の役割分担を決め学生全員が調理に携わるように工夫した。 示範や説明を詳しく行い、レシピにも写真を加えるなど分かり易く工夫した。調理実習の復習のため、実習で学んだメニューを自宅で調理し、家族に感謝されることを経験することにより、料理することの楽しさを実践させた。
授業科目名【食品加工実習】 日本の伝統的な食品（ex.味噌、豆腐）を中心とした、様々な加工食品を実際に自分で作ることができるように、製造原理、加工方法などを詳しく説明して理解させることに努めた。また、実際に手を動かして実践させることにも注力した。

授業科目名【 調理学 】 調理により食品の材料が食物になって料理として喫食者に提供されるが、食品の材料名など文字にかかれていても、実際にはその材料を見たことが無い人や分からない人が多いのが実情である。授業においては、写真や実物をできるだけ使い、実生活との距離感を縮められるように工夫した。
授業科目名【生活創造演習】 菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考え、欧米の伝統的な菓子（ジンジャーブレッドハウス）を学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導した。社会交流として学外展示に対応できるように日頃からの礼儀作法に重きを置いた。
授業科目名【生活創造論】 欧米の伝統的な菓子（ジンジャーブレッドハウス）を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考えた。
授業科目名【ボランティア演習】 配食サービスボランティアは、地域の高齢者に減塩でバランスのとれた手造り弁当を作製し、自宅まで配達をした。このボランティアを通して高齢者とふれあい、今後どのようなサポートが必要で大切なのかを考えさせた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本調理科学会		1984年4月～1991年3月 2012年4月～現在に至る
日本家政学会		1984年4月～1991年3月

２０１４年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 【資料】 お菓子の家 ―ジンジャーブレッドハウスの歴史と生活創造学科生による創作―	共著	2015年3月	西南女学院大学紀要 Vol.19,2015 （査読あり）	pp.141-147 本学生活創造学科では、欧米においてクリスマスに家庭で広く作られる「お菓子の家」の作製を実習授業の題材の一つとしている。本報では、「お菓子の家」の歴史とレシピを紹介し、あわせて本学で行った「お菓子の家」の創作授業と学外発表展示会の結果を報告した。 共著者：木村久江、加來卯子、谷崎太、浅野嘉延

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 【寄稿】 『北九州八幡と「くろがね堅パン」』	単著	2015年2月	フードスペシャリスト協会会報52号	p.22 西欧の家庭に於いて親子で作るクリスマスの「お菓子の家」は、堅焼きクッキーで作ったお菓子の家のことで、この堅焼きクッキーによく似た食品が福岡県北九州市、八幡の地にある。「くろがね堅パン」という名前の由来と製造方法などについて執筆した。（依頼原稿）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立	西南女学院大学共同研究費	○近江雅代、天本理恵、青木るみ子、甲斐達男、尾上均、木村久江	750,280

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
• トヨタホーム福岡「お菓子の家」講習会	講師	2014年4月29日
• 子どもゆめ基金<だいすきにっぽん―子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」(パウンドケーキ講習)	講師	2014年11月21日

・フードスペシャリスト協会 ・高齢社会を良くする北九州女性の会（配食サービス活動、於：一枝市民センター）	試験実施委員 支援ボランティア	2012年4月～現在に至る 2014年11月～2015年1月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・フードスペシャリスト試験対策学生指導（2014年4月～12月） ・オープンキャンパス模擬授業担当「お菓子の家を作ってみよう」（2014年7月19日） ・株式会社サガミチェーン「八味とうがらしレシピコンテスト」応募にかかる学生指導（2014年4～7月）、成果：金賞（商品化決定）「パンナコッタ風杏仁豆腐」、銅賞「ピリ辛ささみチーズかつ」 ・第62回福岡県統計グラフコンクール応募にかかる学生指導（2014年10月～2014年2月）、成果：佳作5作品（12名） ・農林水産省主催「ＴＯＭＯＤＡＣＨＩキャラ弁コンテスト2014」応募にかかる学生指導（2014年4月～10月）

保　育　科

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (2014)

氏名　　齊　藤　育　子	職名　　教授	学位　博士（文学［教育学］）（神戸女子大学 2004）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
教育人間学　キリスト教教育　キリスト教保育	人間形成　憧れ　預かり保育　保育者　奉仕

研　　究　　課　　題
１．キリスト教保育・教育における「憧れ」の人間形成的意味―教育学的人間学的考察 ２．幼稚園における「預かり保育」の保育実践とその課題 ３．キリスト教学校における教員養成・研修：保育者養成に焦点づけて ４．近代日本とキリスト教：ディアコニア（奉仕）の形成とキリスト教学校の役割

担　　当　　授　　業　　科　　目
教育原理（保育科）：1 年後期　2 クラス 教育方法とメディア（保育科）：2 年後期　2 クラス 保育・教職実践演習（幼稚園）（保育科）：2 年後期　2 クラス 基礎実習（保育科）：1 年後期集中 教育実習Ⅰ（保育科）：2 年 6 月集中 教育実習Ⅱ（保育科）：2 年 9～10 月集中 教育実習指導（保育科）：1 年通年　1 クラス 教育実習指導（保育科）：2 年通年　1 クラス キャリア講座Ⅲ（保育科）：2 年前期　1 クラス 人間形成論（生活創造学科）：1 年前期　1 クラス

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【教育原理（保育科）】幼二種免必修・保育士必修 本授業は、幼稚園教員免許および保育士資格の必須の授業科目であり、基礎的専門知識の理解に重点がおかれている。そのため、一方的な講義形式の授業になる傾向があるので、学生への問いかけを行うなど学生の参加型授業を心掛けた。授業の際には、講義テーマをその都度確認しながら、授業のポイントやキーワードをパワーポイントで明示しながら視覚的に印象が残るように工夫して授業を行った。パワーポイント資料および関連資料を必ず準備・配布して理解を深めた。また、昨年度の反省をもとに、課題の提出を多く取り入れた。
授業科目名【教育方法とメディア(保育科)】幼二種免必修 一方向的な授業とならないように、PC 演習室でもデジタルカメラ等を用いた学生の参加型授業を増やした。また、「恩物」など実際に使って遊んでみる等体験的に学べるよう工夫した。メディアの活用を含め自ら教育方法を考えることができる力を身につけた保育者養成を目指し、授業内容を計画した。また、就職活動等で欠席せざるを得ない学生や理解力が緩慢な学生に対する配慮として、講義内容を毎回音声録音し、大学内外から時間的制約なく自由に何度でも聴ける自学自習ができるよう工夫した。
授業科目名【人間形成論（生活創造学科）】選択 学生の興味・関心を喚起するために新聞記事の切り抜きとコメント記入の課題を指示し、授業で取り扱うテーマについて、学生が自主的に事前学習をする機会を設けた。学生の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを利用し必ずコメントをつけて返却した。また、パワーポイントやビデオ、写真等を用いて視覚的に訴えかけ、自ら考える機会を作ると同時に、学生間でも話し合う時間を設けた。

授業科目名【教育実習指導（保育科１年２年）】幼二種免必修 実習に先立ち、教材研究を促すため課題を出し、それを発表する機会を設けた。また、全体指導・グループ指導・個別指導の諸形態を組み合わせて指導を行い、より丁寧な指導ができるように工夫した。さらに、実習前に先行学年３年分の教育実習体験を記した報告書を閲覧できるよう機会を作り、実習前の自己学習を支援した。報告会では、保育方針が異なる実習園を選び、実習体験の共有化を図った。
授業科目名【キャリア講座Ⅲ（保育科）】必修 自らの興味や関心に基づいて積極的に授業参加できるよう、大きなテーマのみ設定し、各自が自由に研究できるようにした。作成した教材をもとに、学生間の研究討議が充分にできるよう時間および空間の設定を工夫した。これまでのゼミメンバーの研究結果の冊子を見本とすることで、研究成果の発表方法のモデルを示した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育学会		1980年８月～現在に至る
教育史学会		1980年10月～現在に至る
教育哲学会		1981年10月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	同学会誌編集委員（2013年６月より現在に至る） 同学会理事（2014年６月より現在に至る）	1989年５月～現在に至る
日本教師教育学会		1992年１月～現在に至る
日本ペスタロッチー・フレーベル学会		2001年９月～現在に至る
日本保育学会		2002年５月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	同学会誌編集協力委員（2007年４月より現在に至る）	2002年５月～現在に至る
日本モンテッソーリ協会（学会）		2006年４月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 祈りの教育者上代 淑 ―示範による人間陶冶	単	2015年３月31日	キリスト新聞社	① 本書は、「教育とは何か」「教師は如何にあるべきか」という根源的な問いを索求することを目指している。近代日本の女子中等・高等教育の発展に貢献した祈りの教育者上代 淑は、「キリスト者」と同時に「教師」として活躍した秀抜な人物であった。米国女子教育のパイオニア Mary Lyon の衣鉢を継ぐ上代の「人と実践」の内実に、「解釈学的教育人間学的」分析方法を用いて迫った研究書である。 ② 全編６章。 ③ A５版　総291頁。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし その他 依頼原稿：キリスト教学校の教員とは	単	2014年10月15日発行	キリスト教学校教育同盟月刊誌	キリスト教学校教育同盟主催の第1回大学新任教員研修の実行委員として、同会の総括レポートとして執筆。
依頼講演：子どものこころ―子どもが泣くとき叫ぶ時	単	2014 年７月11日	シオン山幼稚園保護会講演会	子どもの心の成長・発達の具体的場面に則して、モンテッソーリの教育理念を基にわかりやすく解説した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
テーマ「近代日本とキリスト教」	同志社大学人文科学研究所	○（原　誠） （田中智子） （本井康博） （坂本清音） （室田保夫） 齊藤育子　他	第１８期 第１研究会嘱託研究員（社外）として研究に参加
テーマ「キリスト教学校の教員養成・研修」	日本キリスト教教育学会	○（町田健一） （大川　洋） （池内耕作） （本田栄一） （後藤田典子） （水口　洋） （磯貝曉成） （駒木　亮） 齊藤育子　他	日本キリスト教教育学会公認の課題研究に学会員として参加

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
学校法人 山陽学園	理事	2008 年 5 月 13 日～現在に至る
キリスト教学校教育同盟大学第１回新任研修会	実行委員	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
日本キリスト教教育学会	理事	2014 年 6 月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	学会誌編集委員	2013 年 6 月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	学会誌編集協力委員	2007 年 4 月より現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・西南女学院大学短期大学部　学部長　2014 年 4 月 1 日～現在。 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園　園長　2014 年 4 月 1 日～現在。 ・西南女学院大学短期大学部　生活創造学科　学科長　2014 年 12 月 18 日～2015 年 3 月 31 日。 ・西南女学院　理事　2014 年 4 月 1 日～現在。 ・西南女学院　評議員　2008 年 4 月 1 日～現在。 ・西南女学院維持会　発起人　2007 年 4 月 1 日～現在。 ・西南女学院維持会　幹事　2007 年 4 月 1 日～2014 年 12 月 31 日。 ・西南女学院維持会　常任幹事　2015 年 1 月 1 日～現在。 ・西南女学院後援会　学校委員　2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日。 ・情報システム委員会 委員　2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日。 ・学長選考委員会　委員　2014 年 5 月～12 月。 ・敬愛高校、1 年生対象に短期大学についての説明　2014 年 7 月 14 日。 ・西南女学院同窓会　保育科同窓会「要の会」学科代表連絡等の係。 保育科と卒業生との連携を期して結成されている「要の会」の総会等準備委員会に出席し、学科との調整連絡および学内の諸手続き準備等に協力した。 ・保育科公開講演会（2014 年 7 月 21 日開催）責任者。 ・西南女学院職員懇談研修会講師：シオン山幼稚園「幼稚園における学校評価―幼稚園の良さを発信しよう」（2014 年８月１日） ・西南女学院月報　第 604 号巻頭言執筆：「人間教養（humanitas）の再生」（2014 年８月号） ・西南女学院月報　第 610 号巻頭言執筆：「万事休すと雖も」（2015 年 2 月号） ・西南女学院広報 Vol.86 執筆：「祈りに始まり、祈りで終わるシオン山幼稚園のキリスト教保育」（2014 年６月 30 日） ・西南女学院広報 Vol.87 執筆：「同労者として互いに仕え合う―第三者評価に向かって―」（2014 年 10 月 30 日） ・同上誌執筆：「キリスト教保育」の原点に立つ―現行のままの幼稚園として―」（2014 年 10 月 30 日） ・同上誌執筆：「短期大学部　保育科公開講演会報告」（2014 年 10 月 30 日） ・西南女学院キリスト教センター便り No.81 執筆：「西南ファミリー」（2014 年 春号）

・附属シオン山幼稚園「しおんの園のあゆみ」巻頭言執筆：「お祈りしましょう　ご一緒に」（2014 年 4 月）
・附属シオン山幼稚園保護者会発行『ひかりの子のまど』No. 54 執筆：「晴れやかに、爽やかに」（2015 年 3 月 10 日）
・研究倫理講習会受講修了（西南女学院大学・大学短期大学部開催、2014 年 7 月 31 日、2015 年 2 月 20 日）
・短大部チャペル奨励　：「晴れやかに、爽やかに」（2014 年４月 22 日）
・短大部チャペル奨励　：「神の愛―ヨナに学ぶ」（2014 年 7 月 15 日）

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　戸田　由美	職名　教授	学位　文学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
日本近代文学	文芸学的諸相、日本的見方、西洋的見方、見立て

研　究　課　題
「夏目漱石文芸における不思議さの究極にあるものは何か」をテーマとし、その本質を究明するものである。漱石の文芸作品を緻密に考察することを主眼とする。

担　当　授　業　科　目
文學1(保育科・生活創造学科) 文學Ⅱ (保育科・生活創造学科) 日本語表現法 (短大保育科・生活創造学科) 児童文学 (保育科) 日本語表現法 (大学) 美しい日本語と文章表現 (生活創造学科) キャリア講座

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【文学Ⅰ・Ⅱ　】(保育科・生活創造学科) 　最近とくに、読書することの意義がわからない学生が多くなっている。読書の効力を知らせるための講義の仕方法を工夫することによって、すこしでも読書体験が豊富になるよう努めた。向上させなければ、発想、表現理解力の低迷は目に見えているので、文学の意義を学ぶことによって様々な表現を修得し、コモンセンス豊かな発想ができるよう上質な文学作品の構想・構成を紹介し、解明した。
授業科目名【日本語表現法　】(短大保育科・生活創造学科・　大学) 　社会に出ても立派に通用するよう、さまざまな表現方法の習得に力を入れた。小論文の場合はマンツーマン指導をし、その他の場合はその都度、小テストを実施したり、学生が自らの欠点を把握し、訂正し、反省しながら学べるよう考慮して講義した。 授業科目名【　児童文学　】(保育科) 　こどもの成長にかなった本の与え方について講義する際、単なる文学的な説明だけではなく、保育の専門分野の概要も解説しながら、また現場での母親の質問等々も数々事例をあげて講義している。机上の空論にならないように、就職後すぐに役立つような問題を小テストのような形で出すことによって、学生からの質問も多くなったように思う。
授業科目名【美しい日本語と文章表現　】(生活創造学科) 　ことばの背後に隠れている日本文化についても認識を深めることができるように数々の方法論を提唱し、学生たちがみずから実践しやすい事例、美しい表現を提示することに努めた。学生一人ひとりの、現在の「実力」と「講義受講後の実力」との比較調査をし、学生に伝えている。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本文芸学会		1983年
日本キリスト教文学会		1983年
日本近代文学会		1985年
谷崎純一郎文学会		1995年
近代部会		1995年
文芸形象会		1984年

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
認定こども園・確認部会	北九州子ども・子育て会議 専門委員	平成 29 年まで

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
保育科学科長 人事委員

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　下　山　祥　子	職名　特別契約 第三種　教授	学位

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
幼児教育学 幼児の育ちと言葉	・幼稚園教育　　・保育所保育・保育者の資質向上 ・幼児期の言葉　・保育実践

研　　究　　課　　題
１．専門職として資質向上に向けた保育の在り方 専門職としての保育者の責任と義務、子どもの成長を支える保育者の在り方を考察する。 ２．ことばを育てる児童文化財の在り方 ことばと幼児の育ちとの関係、ことばを育てる児童文化財について考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
指導法の研究　（前期） 保育内容の研究・言葉　（後期） 保育・教職実践演習　　（後期） 教育実習指導　１年生　（通年） 教育実習指導　２年生　（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　指導法の研究　】 ・　理論の面で、各年齢の発達を理解するために視聴覚教材を通して授業を行った。また実際の保育の場面では教師の援助の仕方が大事であり、幼児の発達にも関係してくるため事例を通して理解を図っていった。またグループ協議で意見を出し合ったことは、保育の在り方を知ることができ勉強になったようである。 ・　実技の面で、幼児の発達と季節を考慮して教材作りを行った。身近にある素材を活用して、作って遊べる内容を保育に取り入れることについて知らせていったことは楽しかったという意見があった。
授業科目名【　保育内容の研究・言葉　】 ・　実習前の教材準備として絵本読みを各自全体の前で行った。実演の前に絵本を選択した意図、幼児の前でするときの留意点を発表したことは、教材準備をするうえでの意識が明確になってよかったと思われる。 ・　保育内容の「言葉」について教育指導要領、保育指針でのねらいをおさえると共に、幼児の育ちを考えて言葉に関する保育の内容と方法について視聴覚教材と事例を通しておさえていった。 　さらにグループでの教材作りを行い、役割分担をする中で協力することの必要性、グループで実演をする喜びを感じ取れたことは保育者になるうえで良かったのではないかと思われる。
授業科目名【　保育・教職実践演習　】 ・　実践演習の一つ、「模擬保育」を指導案作りから準備、実践後の協議までを学生がすべて進めていったことは、各自が自主的に考え行動していくことを学ぶよい機会であったと思われる。 ・　現場で必要とされる「保護者とのコミュニケーションの在り方-学級だより-」「個人記録の書き方」「指導要録の書き方」等についてパワーポイントや資料を通して行った。さらに自分が担任だと想定して、対応の仕方を書く機会を持ったこと、また学級だよりを書く経験をもったことは今後の参考になったと考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		２００３年～現在に至る

２０１２年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著　書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
新採幼稚園教諭研修会	講師	２０１４年　４月１６日
北九州市福祉事業団 児童福祉施設保育士研修会	講師	２０１４年　９月　１日
全国幼児教育研究協会	特別名誉会員	２００８年５月～現在に至る
学校評議員（北九州市教育委員会）	委員	２００６年４月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
西南女学院同窓会保育科部会役員	２００８年度～現在に至る
西南女学院同窓会常任幹事	２００８年度～２０１４年度

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　脇　　信　明	職名　　教　授	学位　　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育学	保育　・　幼児教育　・　保育方法論　・　乳幼児　・　子育て　・　育児　・　集団づくり　・　クラス運営　協同的活動

研　究　課　題
乳幼児の集団づくりと人格の発達 保育者と保護者との関係づくり 保育者の実践力形成の方法 「問い」による保育

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
保育者論	2		
保育原理		2	
指導法の研究		1	
保育・教職実践演習（幼稚園）		2	
保育実習指導Ⅰ		2	
保育実習指導Ⅱ		1	
保育所実習Ⅰ		2	
保育所実習Ⅱ		2	
キャリア講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		各１	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　保育者論　】 ワークシート等を用い学生が主体的に考えながら授業に取り組むことができるよう工夫をしている。 また実際の保育者としての活動や子どもの様子をイメージしやすいように、具体的な保育実践記録を用いながら、現場の保育者の意図や方法などを学習できるようにしている。
授業科目名【　保育原理　】 現代の社会問題と子どもの成長や保護者の養育態度の関係性がわかりやすいように、できるだけ用例を提示しながら授業するように心がけている。また、保育制度の課題などについては、実情を理解しやすいような資料等を提示するようにしている。
授業科目名【　指導法の研究　】 学生に、より保育実践の内容やその具体的な方法と考え方、そして子ども観を育成するために、具体的な保育実践を記録したものを授業で用い、それを具体的に分析・検討することで学生の指導力・実践力の向上を目指している。

授業科目名【　保育・教職実践演習　】 教職の総合科目として、子ども理解を深くおこないつつ、保育者として次の手立てを考えるためのワークシートを導入し、学生が自ら考えて保育を行うための力を涵養できるような授業方法を多く取り入れている。
授業科目名【　キャリア講座Ⅲ　】 保育実践の場面記録をもとに、子どもの具体的な行動からその裏に軽い途や想いを捉えることや、現場の保育者の意図や考えなどを学ぶことができるような教材を用いるようにしている。
授業科目名【　保育実習指導ⅠおよびⅡ　】 学生の実習体験をより活かすために、自分の活動についてのレビュー（振り返り）を行い、それをもとに次の実習へ向けての明確な目標の設定ができるようなワークシートを作成し導入している。 また、実習日誌をもとに自分の子ども理解の傾向や現場の保育士の意図の理解などを促すワークシートなども導入している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 九州教育学会	座長（2013年5月）	1993年4月～現在に到る 2012年4月～現在に到る

２０１４年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） ・「保育者の専門性についての調査」　−養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み−（第2報）	共	2014年6月	全国保育士養成協議会	全国保育士養成協議会専門委員による全国的な調査研究報告である。昨年に引き続き第2報として全国の幼稚園・認定こども園を対象としたアンケートを結果をもとに、保育者の専門性の育ちと養成校との関係について明らかにした。

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） ・保育者の実践力形成（２）～保育者養成校における授業分析から～ ・「保育者の専門性についての調査」　−養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み−（第２報）	共 共	2014年5月 2014年9月	日本保育学会第67回大会 全国保育士養成セミナー福岡大会	保育者養成校の中において、教材として用いた「場面記録」がどのように学生に実践力形成に影響を及ぼしているか検討を行った。 全国保育士養成協議会専門委員による全国的な調査研究報告である。昨年に引き続き第2報として全国の幼稚園・認定こども園を対象としたアンケートを結果をもとに、保育者の専門性の育ちと養成校との関係についての研究結果を報告した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　　間　　等
全国保育問題研究協議会	集団づくり分科会運営委員	2002 年 6 月～現在に到る
九州保育団体合同研究集会	常任委員・運営委員	2001 年 9 月～現在に到る
全国保育士養成協議会	専門委員	2013 年 4 月～現在に到る
保育研究誌 季刊 『保育問題研究』	編集委員	2013 年 4 月～現在に到る
大分保育団体連絡会	副会長	2013 年 6 月～現在に到る
大分県保育問題研究会	副会長	1999 年 4 月～現在に到る
社福法人なかよし コスモス保育園	理事	2012 年 4 月～現在に到る
NPO 法人たんぽぽ保育園	理事	2013 年 9 月～現在に到る
全国保育士養成協議会九州ブロック セミナー佐賀大会実行委員会	オブザーバー	2014 年 8 月～現在に到る
＜助言者・依頼講演等＞		
• 北九州市保育問題研究会学習会	講師	2014 年 5 月 20 日
• 北九州市市立幼稚園連盟第1ブロック学習会	講師	2014 年 6 月 17 日
• 全日本教職員組合幼稚園部夏期教育研究集会	講師	2014 年 7 月 20 日
• 北九州私立幼稚園連合会教師研修大会	助言者	2014 年 7 月 22 日
• 福岡県私立幼稚園振興協会　研修発表大会	助言者	2014 年 7 月 28 日
• 全国保育団体合同研究集会第 44 回福岡大会集団づくり分科会	世話人・講師	2014 年 8 月 3 日
• 全国保育問題研究会　夏期セミナー「異年齢保育」	講師・運営委員	2014 年 8 月 23～24 日
• 全国保育士養成協議会全国セミナー福岡大会　第 2 分科会	分科会司会	2014 年 9 月 17 日
• 長崎県保育協会公立保育所研修会	講師	2014 年 11 月 7 日
• 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園保護者学習会	講師	2015 年 1 月 22 日
• 北九州市保育士会中堅保育士研修会	講師	2015 年 2 月 20 日・24 日
• だいすきにっぽんプロジェクト	講師	2015 年 3 月 20 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
キャンパスハラスメント対策委員会　副委員長 幼稚園運営委員会　委員 研修委員会　副委員長 衛生委員会　委員 教育の質保証プロジェクト　メンバー 外部資金導入促進プロジェクト　メンバー 教員免許更新講習担当（幼稚園教諭免許）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　阿南 寿美子	職名　　准教授	学位　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児心理	社会的能力の発達　規範意識　いざこざ

研　究　課　題
幼児期の対人交渉における葛藤場面に焦点をあて、幼児の規範意識や対人関係構築などの社会的能力がどのように獲得されていくのかについて考察する。

担　当　授　業　科　目
・発達心理学（前期） ・教育心理学演習（後期） ・乳幼児の発達理解と遊び（複数担当教員）（前期） ・教育実習指導（複数担当教員）（2 年間通年） ・基礎実習（複数担当教員）（通年・学外） ・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（前期・学外） ・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（後期・学外） ・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期） ・キャリア講座Ⅰ（前期） ・キャリア講座Ⅱ（後期） ・キャリア講座Ⅲ（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【発達心理学・教育心理学演習】 スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるようにするとともに、学生の経験に基づく事例（実習等）の検討を学生同士のディスカッションを含めて行うことにより、保育者の留意事項をより身近で具体的に理解できるようにした。
授業科目名【乳幼児の発達理解と遊び】 乳幼児の遊びを実際に体験した上で感じたことを振り返り、それを基に指導案の作成を行うことにより、子どもの思いへの理解を深めながら保育者としての視点で計画を立てることができるようにした。
授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州心理学会 日本保育学会	会員 会員	1998 年 2012 年

２　０　１　４ 年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州保育団体合同研究集会	北九州部会副委員長	2012 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会 副委員長（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 学生募集委員会 副委員長（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 入学試験会議（2014 年 4 月～2015 年 3 月） 教員免許状更新講習コーディネーター・講座担当（2014 年 8 月 19 日） だいすきにっぽん（2014 年 12 月 20 日-講座担当、2015 年 1 月 10 日、2 月 21 日-講座担当、3 月 21 日）

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　命婦　恭子	職名　　准教授	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床心理学	ストレス　メンタル・ヘルス　学校臨床　子育て支援

研　究　課　題
研究課題は大きく二つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、中学生の学校ストレスの現状とその支援策につて、数量的データを用いて検討することである。

担　当　授　業　科　目		
子どもの臨床心理　（前期）	キャリア講座Ⅰ（前期）	施設実習Ⅰ
障害児保育Ⅰ（後期）	キャリア講座Ⅱ（後期）	施設実習Ⅱ
障害児保育Ⅱ（前期）	キャリア講座Ⅲ（前期）	
保育相談支援（後期）	保育実習指導Ⅰ（通年）	
保育カウンセリング（後期）	保育実習指導Ⅲ（通年）	
保育・教職実践演習（後期）		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　子どもの臨床心理　】 心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取り入れて授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を目指す学生にとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。
授業科目名【　保育カウンセリング　】 カウンセリング技法について、実践的に学ぶためのワークを多く取り入れた。選択科目のため受講生数が少ないことを利用して、グループで行うカウンセリング技法のロールプレイを実施した。
授業科目名【　保育相談支援　・障害児保育Ⅰ　】 小グループをつくり、それぞれにトピックスを割り当て、学生が調べた内容をプレゼンテーションしたものに教員が解説を加える方法で授業を行った。担当した学生がそのトピックスに興味を持ち、理解を深めることができることを目指した。
授業科目名【　保育・教職実践演習　】 担当したテーマは保護者支援であり、オリジナルの事例を用いて保育者として保護者の相談にのるロールプレイを実施した。ロールプレイ後、イメージできる母親像について複数の側面からの解説を行い、具体的なイメージができるよう支援し、実践的学びができるように工夫した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康心理学会 日本心理臨床学会 日本心理学会 日本行動医学会 日本ストレスマネジメント学会 日本こども健康科学会 日本健康支援学会 日本保育学会 日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員		1997年4月～現在 1998年4月～現在 2000年4月～現在 2001年4月～現在 2002年4月～現在 2009年4月～現在 2010年4月～現在 2014年4月～現在 2002年4月～現在 2002年～2007年、2014年4月～現在

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 養成校における鍵盤楽器教育についての調査研究（2）―気分と練習量の関連―	共	2014年9月	全国保育士養成協議会第53回研究大会（於　ホテルニューオータニ博多）	①保育士養成校における学生のピアノ練習量と練習により喚起される気分の関連について質問紙調査を用いて分析し検討した。 ②共同発表者：岩佐明子、伊藤充子 ③全国保育士養成協議会第53回研究大会研究発表論文集p115
				研究業績総数（2015．3.31現在） 学術論文　8（内訳単1　共7） 学会発表　20（内訳単0　共20）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
社会資本としての市場を活用したソーシャル・スキルの向上を目的とする新しいペアレント・トレーニングの実践研究	北九州市	○　命婦恭子 （竹川大介） （木下靖子）	700,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特になし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
紀要委員 図書委員 公開講座委員

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　篠木　賢一	職名　　講師	学位　修士（体育学）（鹿屋体育大学　2001年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研　究　課　題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

担　当　授　業　科　目
幼児体育Ⅰ、幼児体育Ⅱ、スポーツ・健康科学概論、キャリア講座Ⅰ、キャリア講座Ⅱ、キャリア講座Ⅲ、スポーツと健康、ダイエット論演習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　幼児体育Ⅰ　】 運動発達について理解をするために、子どもたちのあそびを実際に行いながら、運動の発達や展開を説明した。
授業科目名【　幼児体育Ⅱ　】 運動あそびの果たしている役割を理解し、あそぶ力とあそびを発展していく力を身につけるために、指導のポイントや安全管理についてグループごとに考えられるようにした。
授業科目名【　スポーツ・健康科学概論　】 運動が体に及ぼす影響や運動によって健康・体力の維持、増進させつ具体的方法について解説する。また、ダイエットが身体に及ぼす影響や実践方法など詳しく解説した。
授業科目名【　スポーツと健康　】 健康管理や望ましい生活習慣獲得のために、運動・スポーツが身体に及ぼす影響を科学的知見から紹介し、生涯スポーツに役立つスポーツスキルの獲得を目指した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会		1997年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2013年12月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				①

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学バレーボール連盟	競技委員 女子強化委員	2003 年 4 月～2013 年 3 月まで 2006 年 4 月～現在に至る
北九州市障害者スポーツボランティアの会	幹事	2008 年 4 月～2011 年 3 月まで
附属シオン山幼稚園 「運動あそび」	講師	2014 年 5 月～ 毎月 1 回程度
第 9 回北九州市精神障害者バレーボール大会	審判長	2014 年 9 月 11 日
第 15 回西日本大学バレーボール 5 学連女子選抜対抗戦	監督	2014 年 12 月 23 日～ 12 月 24 日
九州大学バレーボール連盟	競技委員副委員長	2013 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員　2009 年 4 月～2012 年 3 月まで 学生委員　2012 年 4 月～現在に至る 幼稚園運営委員会　2012 年 4 月～現在に至る バレーボール部コーチ

２０１４年度教育研究活動報告用紙（様式９(2014)）

氏名　　藤田　稔子	職名　　講師	学位　修士（看護学）（神戸市看護大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	感染症（感染症対策、予防接種） 小児ぜんそく

研　究　課　題
・感染症対策に関して、乳幼児の身近なもの（現在は、絵本を対象に調査）への一般細菌の付着状況を実験的に調査しています。その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
保育内容の研究・健康（前期） 子どもの保健Ⅰb（前期） 医療保育概論（前期） キャリア講座Ⅰ（前期） キャリア講座Ⅲ（前期） 子どもの保健Ⅰa（後期） 子どもの保健Ⅱ（後期） 病児保育演習（後期） キャリア講座Ⅱ（後期） 看護臨床実習（前期）（福祉学科４年） 看護臨床実習（後期）（福祉学科３年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容の研究・健康】 座学だけでなく、お散歩を実際にすることやシオン山幼稚園正門前の公園に行って遊具の配置や安全性などを実際に見ること等の「体験」を通した気づきを基に授業を進めていきました。また、授業中は、積極的に発言できるよう、発言者には“GOOD　JOB”印鑑を捺していくシステムにすることによって、授業の後半には、しっかりと考えて自分の意見を言えるように、競うように発言する姿が見られました。
授業科目名【子どもの保健Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ】 前期、できるだけ学生の負担を軽減させようと、詳細な内容で配布資料を作成していましたが、その結果、講義内容をメモする学生が減少し、定期試験の結果がよくありませんでした。後期、１年生が「子どもの保健」を始めるにあたり、ノート作りを課題として、配布資料はノート作りをするための図表のみにしました。その代わりに、授業中のスライドは、ノートに丸写ししないことを条件に携帯・スマホ・デジカメで撮影してもよいことにしました。その結果、ノート作りのために授業で触れたこと以外の調べ学習もおこない、内容理解も深まり定期試験の結果の良好でした。
授業科目名【キャリア講座Ⅰ・Ⅱ】 本科目はオムニバス科目であるため、今年度のコーディネーターとして授業内容を精査しました。特に「キャリア講座Ⅱ」の内容では、初年次教育学会でのワークショップを参考に、全く保育とは関係ない題材で、資料検索から分析、プレゼンテーションまでおこないました。グループワークで展開しましたが、グループワーク特有の問題を回避するため、個人の役割を明確化し、楽しみながらワークができるように随所に工夫を施しました。その結果、探究する力、他者へ伝える力を養うことが効果的にできたように思います。

授業科目名【看護臨床実習（福祉学科）】

３年前期に開講されている「基礎看護技術」とリンクさせ、病院実習事前指導を進めていきました。また、病院実習においては、実習指導者会議等を密にして看護学生以外の実習生受け入れに更なる理解を深めることができました。しかし、今年度の実習生は質問内容が専門的であったり行動力があったため、スタッフから看護学生と間違えられ、看護学生並の要求をされ学生が困惑する場面が見られた。予想外の反応であったため、即時看護部に報告し対応していただきました。次年度は、看護学生と区別できる工夫をするよう病院側とも話を進めています。4 年前期の病院実習後の学内演習は、学校現場を想定した応急処置やロールプレイを中心に進め、技術向上に努めました。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児救急医学会		2000 年 4 月～現在に至る
日本小児保健学会		2000 年 4 月～現在に至る
日本小児看護学会		2005 年 4 月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009 年 4 月～現在に至る
日本学校保健学会		2009 年 4 月～現在に至る
日本医療保育学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本環境感染学会		2010 年 4 月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績　総数 （2015. 8. 31現在） 著書　3　（単0　共3） 学術論文　2　（単1　共1） 学会発表　11（単1　共10） その他　8　（単0　共8）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「絵本」の微生物汚染状況とその消毒方法	西南女学院大学短期大学部共同研究費	○　藤田稔子 （古賀璃沙子） 尾上均 田川辰也 甲斐達男	208,150

だいすき　にっぽん ー子ども達に伝えたい「食」と「あそび」ー	子どもゆめ基金	○　甲斐達男 稲木光晴 青木るみ子 上村眞生 藤田稔子 林田正雄	305,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市開発審査会	委員	2013 年 11 月～現在に至る
医療保育セミナー　IN ふくおか	スタッフ	2010 年 4 月～現在に至る
北九州地区医療保育士ネットワーク（SOFT　NA　HOT）	コーディネーター	2010 年 10 月～現在に至る
医療保育専門士論文指導（日本医療保育学会の医療保育専門士の資格認定を受ける卒業生の最終論文の指導）		2013 年 8 月～2014 年 6 月
教学寺幼稚園　母親研究会	講師	2014 年 7 月 17 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・委員会 倫理委員会　副委員長　2010 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 予算配分委員会　2010 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 教務委員会　副委員長　2013 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 ・S.D.C 顧問 ・アドバイザー関連 保育科 1 年 A クラス　クラス担任兼アドバイザー 保育科 2 年 A クラス　クラス担任 保育科 2 年ゼミ　アドバイザー ・学生募集関連 併設校、高大連携講座　2014 年 6 月 18 日 オープンキャンパス　模擬授業　2014 年 7 月 19 日 小倉西高等学校　模擬授業　2014 年 10 月 28 日 ・附属シオン山幼稚園 運動会救護担当　2014 年 10 月 25 日 ・地域貢献 「だいすき　にっぽん」　2014 年 11 月 22 日・12 月 20 日 2015 年 1 月 10 日・2 月 21 日・3 月 21 日

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　東　彩子	職名　　講師	学位　修士（宣教学）（フラー神学校　2006 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
●神秘劇の起源と発展 ●キリスト教音楽を用いたエクササイズ「SARA」(Stretch And Relaxation, Agape)の開発と展開	宣教、中世、礼拝、芸術、表現 宣教、伝道、トータルヘルス

研　究　課　題
今年度より、保育総合表現の責任を担う機会を頂いたことをきっかけとして、自身の研究の柱である「宣教」と「表現」との接点を考察したところ、以前より学内で監督をしていた宗教劇の起源を探る方向へと研究が進んだ。今年度は材料を集めることに集中し、論文を書くには至らなかったが、自分にとって追求すべき大きな研究テーマが見いだせたことが成果と言えよう。 キリスト教音楽を用いたエクササイズ「SARA」については、キリスト教センターの集いに加え、今年度は、シニアサマーカレッジにて高齢者むけ、また、北九州市立子育てふれあい交流プラザにて親子むけのプログラムを展開できたことが進展と言える。

担　当　授　業　科　目
＜保育＞ キリスト教学Ⅰ（前期） キリスト教と子ども（後期） 保育総合表現（通年） キャリア講座Ⅰ（前期） キャリア講座Ⅱ（後期） キャリア講座Ⅲ（前期） ＜生活創造＞ キリスト教学Ⅰ（前期） キリスト教学Ⅱ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育総合表現】 今年度より刷新することとなったこの科目の責任を担った。後期の最後に学外の大ホールにて表現の発表をすることを目的としたが、テーマ決めからシナリオ作成、上演までの全てを学生自らが企画し実施できるよう、会場とのやり取りや非常勤講師との役割分担とチームワークに細心の注意を払い、クラスの監督を中心に、バーンナウトすることなくクラスをリードして行けるよう、監督たちの精神的なケアに心を配った。
授業科目名【キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】 学生全員参加型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・絵本読みなどに参加した。読みづらい聖書をわかりやすく伝えるため、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。 また、聖書を学生自らが進んで読み始められるための動機づけに試行を凝らした。
授業科目名【キリスト教と子ども】 キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業をおこなった。 今年度の新しい成果は、「世界の子ども」というテーマで、ユニセフの資料を元にして、学生たちが自ら、世界で恵まれない環境に置かれている子どもたちについて調べ、グループごとに発表をしたことにより、世界の子どもたちへの理解を深めると共に、恵まれた環境に置かれている自身を再確認し、感恩奉仕の

実践に向けて、学生同士の士気が上がったことである。
また、聖書の劇を作り上げていく過程の中で、他者との関わりや支え合い等を経験しつつ
キリスト教保育の現場におけるチームワーク構築の疑似体験ができるよう指導し、困難に直面しても
お互いに励まし合うことができるような過程を踏めるよう、講義と実践とのバランスを工夫した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年９月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年９月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年９月～現在に至る

２０１４年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
日本バプテスト小倉キリスト教会	教育執事・牧師招聘委員	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月
	教会学校青年科担当教師	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月
日本バプテスト連盟北九州地方連合	賛美集会講師	2015 年 1 月 12 日
ワールド・ビジョン・ジャパン	チャイルドサポーター	2010 年 7 月～現在
日本キリスト教海外医療協力会	会員	2010 年 7 月～現在
ADRA ジャパン	会員	2010 年 7 月～現在
東京 YWCA	会員	2014 年 9 月～現在
北九州市立子育てふれあい交流プラザ	子育て支援イベント講師	2015 年 2 月 7 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
大学・大学短期大学部宗教主事補	２０１１年４月１日～２０１５年３月３１日（2013 年度を除く）
キリスト教センター運営委員	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
キリスト教教育研究会委員	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
大学宗教委員会副委員長	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
クリスマス礼拝コーディネーター	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
クリスマスページェント製作・総監督	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
学生募集委員会	２０１４年４月１日～２０１５年３月３１日
西南女学院月報巻頭言執筆	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
シニアサマーカレッジ講師	２０１４年７月２５日
キリスト教センター活動「SARA」	２０１４年１１月～２０１５年１月

２０１４ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2014)）

氏名　　植村 和彦	職名　　講師	学位　　修士（教育学）（福岡教育大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	歌曲伴奏、室内楽、アンサンブル、幼児の音楽表現

研　究　課　題
１．主に弦楽器、管楽器との共演において、作品の背景や演奏編成を踏まえたピアノ演奏の在り方や役割について実践的に研究し、ピアノによる様々な演奏表現の可能性について探求する。 ２．声楽（独唱）や合唱との共演において、作品中での歌詞と音楽の関係性や各声部とピアニストの役割を分析しつつ、歌唱表現や詩的内容と一体となったピアノ演奏表現について実践的に探究する。 ３．保育現場において求められる保育者のピアノ実技力を踏まえた演奏の指導法について検討する。

担　当　授　業　科　目
ピアノ奏法ａ(1 年前期)(保育科) ピアノ奏法ｂ(1 年後期)(保育科) ピアノ奏法ｃ(2 年前期)(保育科) ピアノ奏法ｄ(2 年後期)(保育科) 保育総合表現（2 年通年)(保育科) キャリア講座Ⅰ（1 年前期)(保育科) キャリア講座Ⅱ（1 年後期)(保育科) キャリア講座Ⅲ（2 年前期)(保育科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ピアノ奏法ａ　】 １クラスに対して６名の教員体制の中で、各グループの所属学生については各自のピアノの経験値や能力に大きな格差が生じないように配慮して編成を行った上で、特に経験の浅い初心者の心的なケアに配慮した。教材についてはバイエルピアノ教則本を基盤とし、初心者から経験者まで各自の進度に合わせた選曲と演奏面での助言が出来る体制で授業を行った。
授業科目名【　ピアノ奏法ｂ　】 前期の「ピアノ奏法ａ」の延長線上にある科目であるため、担当教員と所属学生の編成については変更せず、各自の前期終了時の課題曲の進度や単位修得状況に応じた個別指導が出来る体制を維持した。教材については身近な幼児唱歌を基盤とし、弾き歌いの実践力を身につけていくことを重視しながらも、前期中にバイエルピアノ教則本を未修了の学生に対しては補足を行い、基礎的な実技力の向上を支援した。
授業科目名【　ピアノ奏法ｃ　】 科目担当教員の一部変更により、学生によっては担当教員の変更が生じたが、該当学生においては１年次終了時点での各自の課題曲の進度や単位修得状況等の情報を確実に引き継いだ上で、最終学年を迎えての希望進路を踏まえたピアノの個別指導が出来る体制をとった。教材については季節や行事に合わせた子どもの歌や幼児さんびかを基盤とし、並行して実習先でのピアノ演奏へ向けた準備の支援も個別に行った。
授業科目名【　ピアノ奏法ｄ　】 前期の「ピアノ奏法 c」同様、科目担当教員の一部変更が生じたが、特に全員の２年次前期までの単位修得状況に配慮し、不足がある学生については保育士資格・幼稚園教諭免許取得要件単位を当科目にて確実に修得出来るような支援体制をとった。学生個人の実習先や就職の希望等に合わせて各教員が幅広く教材を選定し、現場での選曲や演奏時の簡易伴奏付けなど応用力が身につけられるよう柔軟な指導を展開した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 九州公私立大学音楽学会		2011 年～現在に至る 2011 年～現在に至る

２　０　１　４ 年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
(所属団体等)		
・西南シャントゥール	ピアニスト	2006年2月～現在に至る
・西日本オペラ協会	ピアニスト	2007年4月～現在に至る
・福岡フルート・レ・フルール	ピアニスト	2008年4月～現在に至る
・修猷館月一合唱団	ピアニスト	2013年1月～現在に至る
(演奏会等)		
・『コール・フェスタ「コンサート2014」』客演	ピアニスト	2014年9月27日 （於：北九州市立 響ホール）
・『宮崎県立本庄高等学校 創立101周年記念式典「芸術鑑賞会」』出演	ピアニスト	2014年11月14日 （於：宮崎県立本庄高等学校 体育館）
・『大村友樹・八木瑛子 フルートコンサート～音楽の花束～』出演	ピアニスト	2014年12月5日 （於：肥後藍御船工房ギャラリー／熊本県）
・『大瀬戸厚生園「クリスマスコンサート」』出演	ピアニスト	2014年12月20日 （於：大瀬戸厚生園／長崎県）
・『西南女学院大学・同短期大学部合唱部クール・ベルフィーユ「第35回定期演奏会」』出演	ピアニスト	2015年1月24日 （於：戸畑市民会館 中ホール）
・エミール保育園主催『のばらコンサート』出演	ピアニスト	2015年1月30日 （於：エミール保育園／福岡市）
・『西南学院大学グリークラブ「定期演奏会」』出演	ピアニスト	2015年3月6日 （於：西南コミュニティセンター ホール）
(セミナー・講習会等)		
・『声楽セミナー カトレア会による「第9回クラシックコンサート」』出演	ピアニスト	2014年5月25日 （於：あいれふホール）
・『加未京子氏（ソプラノ）による「第13回門下生声楽発表会」』出演	ピアニスト	2014年12月6日 （於：あいれふホール）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・就職委員会 副委員長（2014年4月1日～現在に至る） ・児童文化部 顧問（2013年4月1日～現在に至る） ・「創立記念式」奏楽担当（2014年4月18日） ・短期大学部保育科1年生Bクラス アドバイザー（2014年4月1日～2015年3月31日） ・2015年度新入生対象「春休みの事前対策ピアノレッスン」 講師（2015年3月2日～3月19日）